

中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書14

島根県飯石郡三刀屋町

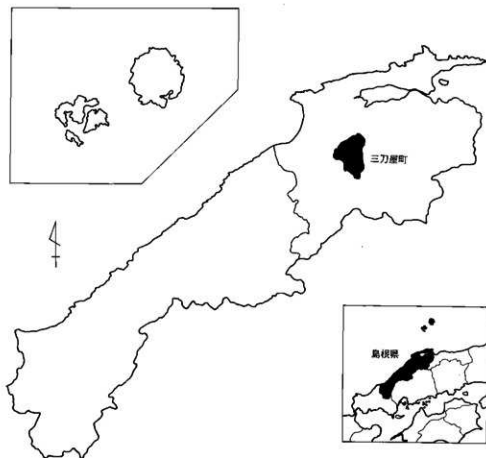
馬場遺跡発掘調査報告書

2001年12月

日本道路公団中国支社
島根県教育委員会

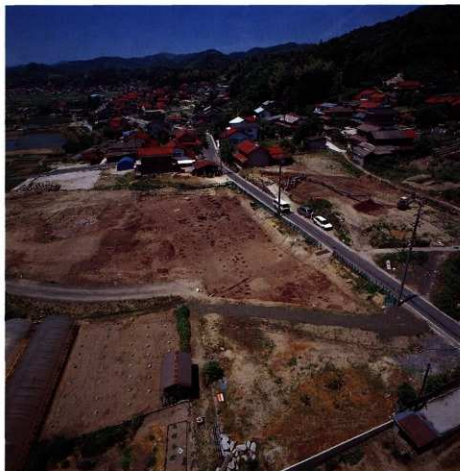
島根県飯石郡三刀屋町

馬場遺跡発掘調査報告書



日本道路公団中国支社
島根県教育委員会

巻頭写真1



馬場遺跡
遠景（東から）

巻頭写真2



平安時代の墓



平安時代の墓
出土大刀



平安時代の墓
出土土器

序

中国横断自動車道尾道松江線は、「国土開発幹線自動車道法」に基づいて、均衡ある国土の発展に寄与する高速道路の一環として計画が進められ、このうち三刀屋～松江間につきましては、平成9年3月から鋭意建設を進めてまいりました。その過程で路線敷地内にある遺跡について鳥根県教育委員会と協議し、記録保存のための発掘調査を進めてまいりました。本書は松江T.事事務所担当区域である三刀屋町の馬場遺跡の発掘調査の記録であります。

この記録調査が、はるかな過去に生きた先祖の生活や文化様式を時代を超えて現代に蘇らせ、また、現代に生きる私どもの未来への道しるべとなるとともに今後の調査研究の資料として活用されることを期待するものであります。

なお、発掘調査および本書の編集は鳥根県教育委員会に委託して実施したものであり、ここに関係各位の御尽力に対し、深甚なる敬意を表すものであります。

平成13年12月

日本道路公団中国支社松江T.事事務所

所 長 村 出 一 廣

序

島根県教育委員会では、日本道路公団中国支社の委託を受けて、平成8年度より中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施してきておりますが、このほど報告書第14集を刊行する運びとなりました。

本報告書は、飯石郡三刀屋町に所在する馬場遺跡での調査成果を取りまとめたものです。馬場遺跡からは縄文時代と考えられる黒曜石の剥片が多数出土したほか、古代から近世に至るまでの集落跡や平安時代の墓を確認することが出来ました。平安時代の墓は調査例が少ないのですが、馬場遺跡の墓は規模や施設が傑出するとともに大刀や玉などの豊富な副葬品を持つもので、当時の都における風習に通じた有力者がこの地に存在したことがうかがわれます。馬場遺跡の調査によって、斐伊川中流域における集落の変遷や遺物の様相について新しい視野から検討することができる資料を提示したことになります。

本書はこれらの調査結果を記録として保存するためのものです。この貴重な記録が文化財にたいする認識と理解を深めるために、また教育及び学術研究のために広く活用されることを期待します。

なお、調査にあたりご協力いただきました地元のみなさまをはじめ日本道路公団中国支社、三刀屋町に厚くお礼申し上げます。

平成13年12月





島根県教育委員会

教育長 山崎悠雄

例 言

- 1 本書は日本道路公団の委託を受けて、鳥根県教育委員会（埋蔵文化財調査センター）が平成11年度と12年度に実施した、中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査を行った遺跡と地番は以下のとおりである。
馬場遺跡 飯石郡三刀屋町字給下543-2ほか
- 3 挿図中の方位は測量法による第Ⅲ系座標X軸の方向を指す。
- 4 現地調査及び報告書の作成に当たって下記の方々から御指導、御助言、御支援をいただいた。（敬称略：五十音順）
秋山浩三 石川智紀 板垣 旭 岩橋孝典 内田律雄 遠藤正樹 河野一隆 木立雅朗
小林義孝 榊原博英 坂本諭司 高橋照彦 竹内保登美 竹広文明 田中央生 西尾克己
林 健亮 東森 晋 広江耕史 古瀬 明 宮田健一 日次謙一 守岡正司 柳浦俊・
八峠 興 山根貞男 山根正吉
- 5 本報告書の写真のうち、巻頭写真3は牛嶋 茂（奈良国立文化財研究所、現独立行政法人奈良文化財研究所）、第5章写真1～4および写真図版80は（財）元興寺文化財研究所、巻頭写真1上および写真図版1・2はアジア航測株式会社にお願した。それ以外は中川、仁木が行った。
- 6 本報告書に掲載した第2図は国土地理院発行の1/25,000図の「木次」（平成11年）、「稗原」「掛谷」（ともに平成9年）、「湯村」（昭和62年）を使用した。また、第118図は陸軍測量部の1/50,000図「木次」（明治35年、大正10年）を使用した。
- 7 本報告書の執筆は他の調査員の協力を得て中川と仁木が協議して行った。また、第5章については（財）元興寺文化財研究所から原稿をいただいた。編集は文化財課および埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て中川が行った。
- 8 本報告書では出土した遺物の中の代表的なものに限って掲載したが、大量の非掲載遺物は整理し分類して埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33番地）に収蔵している。調査の写真やスライドとともに、広範な利用を期待する。

凡 例

- 1 本報告書における実測図は下記の縮尺で掲載した。
 - (1) 遺構図 1/10・1/20・1/40・1/80
 - (2) 遺物実測図 土器・土製品：1/2・1/3・1/4・1/6 金属器・石器・石製品：1/1・1/2・1/3
・1/4 木製品：1/4・1/6 古銭：1/1
- 2 遺物実測図のうち、須恵器は断面を黒塗りにし、それ以外の土器は白抜きであらわした。
- 3 遺物に用いたスクリーントーンはそれぞれ以下のものをあわす。
赤色物塗布： 炭化物付着： 漆付着：
磨面：
- 4 本文、挿図及び写真図版の遺物番号は一致する。
- 5 本報告書における土器の時期決定には主に以下の文献を参考にした。なお、引用、参照、解釈において誤りがあればその責任は全て中川にある。
『縄文土器大観』1～4 小学館 1988・1989
松本岩雄「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』pp.414～482 木耳社 1992
大谷晃二「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』11 pp.39～82 1994
柳浦俊一「歴史時代の須恵器蓋坏の形態と技法」『えとのす』16 pp.64～68 1981
広江耕史「島根県における中世土器について」『松江考古』第8号 pp.9～21 1992
八峠 興「山陰における中世土器の変遷について－供膳具・煮炊具を中心として－」
『中近世土器の基礎研究』XⅢ pp.83～113 1998
八峠 興「山陰における平安時代の土器・陶磁器について」『中近世土器の基礎研究』XⅤ
pp.151～181 2000

目 次

第1章 調査の経緯	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査組織と調査の経過	1
第2章 位置と歴史的環境	5
第3章 遺 構	11
第1節 縄紋時代の遺構	11
(1) 黒曜石の集中地点	11
(2) 河道	11
第2節 古代(飛鳥～平安時代)の遺構	11
(a) 飛鳥時代	11
(b) 奈良～平安時代	15
(1) 掘立柱建物	16
(2) 櫓	19
(3) 土塋	19
(4) 溝	20
(5) 墓	21
第3節 中世(平安時代末～室町時代)の遺構	21
(1) 掘立柱建物	21
(2) 櫓	26
(3) 溝	26
(4) 河道	27
(5) 土塋	28
(6) 土器溜	29
第4節 近世(江戸時代)の遺構	29
(1) 掘立柱建物	29
(2) 櫓	31
(3) 溝	32
(4) 土塋	32
第5節 時期不明の遺構	33
(1) 掘立柱建物	33
(2) 櫓	37
(3) 土塋	37
第4章 遺 物	39
第1節 土器の分類	39
第2節 土器の説明	43
(1) 縄紋土器・弥生土器・古墳時代の土器	44
(2) 古代・中世・近世の土器	45
(a) 遺構に伴う土器	45
(b) 遺構に伴わない土器	47
第3節 土製品	51
第4節 石器・石製品	52
第5節 平安時代の墓出土遺物	53
(1) 土器	53

(2) 下類	54
(3) 鉄製品	54
第6節 金属器	55
(1) 青銅製品	55
(2) 鉄製品	55
第7節 木製品	56
第8節 占銭	56
第5章 馬場遺跡出土土大刀の漆の鞣膜の 有無についての分析	57
第6章 ま と め	61
平安時代の墓について	64
《要約》	72
《参考文献》	73

表 目 次

表1 馬場遺跡と周辺の遺跡	7
表2 古代特殊遺物一覧表	63
表3 馬場遺跡出土遺物一覧表(1)	75.76
表4 馬場遺跡出土遺物一覧表(2)	77.78
表5 建物一覧表	79
表6 建物計測表	80
表7 土塋一覧表	93
表8 ビット一覧表	94
表9 土器観察表	96
表10 土製品観察表	105
表11 石器観察表	106
表12 鉄器観察表	107
表13 木製品観察表	109
表14 古銭観察表	109
表15 遺物数量表	110
表16 遺構出土土器数量表	111
表17 土器数量表	118
表18 土器数量表(縄紋～古墳)	121
表19 石器数量表	121
表20 土製品数量表	122
表21 土器数量表(陶磁器)	122
表22 中世土師器計測表	123
表23 石器計測表	128
表24 土鎌計測表	129
表25 鉄滓計測表	130
表26 黒曜石計測表	131
表27 その他の石材計測表	136
表28 炭化物付着土器数量表	136
表29 須忠質の幾分類表	136

挿 図 目 次

第1図	馬場遺跡調査区配置図	3
第2図	馬場遺跡の位置と周辺の遺跡	6
第3図	馬場遺跡遺構配置図(1)	12
第4図	馬場遺跡遺構配置図(2)	13
第5図	飛鳥時代の遺構(1)	14
第6図	飛鳥時代の遺構(2)	15
第7図	奈良～平安時代の遺構(1)	18
第8図	奈良～平安時代の遺構(2)	19
第9図	平安時代の墓 釘出土位置と推定される棺槨の構造	21
第10図	平安時代末の遺構(1)	22
第11図	平安時代末の遺構(2)	23
第12図	鎌倉時代の遺構	27
第13図	鎌倉～室町時代の遺構	28
第14図	江戸時代の遺構(1)	30
第15図	江戸時代の遺構(2)	31
第16図	時期不明の遺構(1)	34
第17図	時期不明の遺構(2)	35
第18図	馬場遺跡出土土器分類図(1)	40
第19図	馬場遺跡出土土器分類図(2)	42
第20図	馬場遺跡出土土器分類図(3)	43
第21図	平安時代～平安時代末の墓(1)	65
第22図	平安時代～平安時代末の墓(2)	66
第23図	平安時代～平安時代末の墓出土遺物一覧	67・68
第24図	平安時代の墓復元図	69
第25図	A区石器・黒曜石・縄紋土器出土状況(1)	挿図図版1
第26図	A区石器・黒曜石・縄紋土器出土状況(2)	2
第27図	B区石器・黒曜石・縄紋土器出土状況	3
第28図	A区全体図(1)	5
第29図	A区全体図(2)	6
第30図	A区全体図(3)	7
第31図	A区全体図(4)	8
第32図	A区全体図(5)	9
第33図	A区全体図(6)	10
第34図	A区全体図(7)	11
第35図	C区全体図(1)	12
第36図	C区全体図(2)	13
第37図	C区全体図(3)	14
第38図	飛鳥時代の建物	15
第39図	奈良～平安時代の建物(1)	16
第40図	奈良～平安時代の建物(2)	17
第41図	奈良～平安時代の建物(3)	18
第42図	奈良～平安時代の建物(4)	19
第43図	奈良～平安時代の建物(5)	20
第44図	奈良～平安時代の建物(6)	21
第45図	平安～平安時代末の建物	22
第46図	奈良～平安時代の権・土塼(1)	23
第47図	奈良～平安時代の土塼(2)	24
第48図	平安時代の墓(1)	25
第49図	平安時代の墓(2)	26
第50図	平安時代末の建物(1)	27
第51図	平安時代末の建物(2)	28
第52図	平安時代末の建物(3)	29
第53図	平安時代末の建物(4)	30
第54図	平安時代末の建物(5)	31
第55図	平安時代末の建物(6)	32
第56図	平安時代末の溝(1)	33
第57図	平安時代末の溝(2)	34
第58図	平安時代末の溝(3)	35
第59図	平安時代末の溝(4)	36
第60図	平安時代末の溝(5)	37

第61図	土塼9～13・22・32～34	38
第62図	河道2・3	39
第63図	C区南側掘削・杭列	40
第64図	B区・C区上層図	41
第65図	鎌倉時代の建物	42
第66図	鎌倉・室町時代の建物(1)	43
第67図	鎌倉・室町時代の建物(2)	44
第68図	江戸時代の建物(1)	45
第69図	江戸時代の建物(2)	46
第70図	江戸時代の建物(3)	47
第71図	江戸時代の建物(4)	48
第72図	江戸時代の建物(5)	49
第73図	江戸時代の欄	50
第74図	江戸時代の欄復元案	51
第75図	江戸時代の溝・土塼(1)	52
第76図	江戸時代の土塼	53
第77図	時期不明の建物(1)	54
第78図	時期不明の建物(2)	55
第79図	時期不明の建物(3)	56
第80図	時期不明の建物(4)	57
第81図	時期不明の建物(5)	58
第82図	時期不明の権・土塼	59
第83図	遺構に伴わない遺物 縄紋土器(1)・弥生土器・土師器	60
第84図	縄紋土器(2)・弥生土器・土師器	61
第85図	遺構出土土器(1)	62
第86図	遺構出土土器(2)	63
第87図	古墳時代末～平安時代の須恵器(1)	64
第88図	古墳時代末～平安時代の須恵器(2)	65
第89図	古墳時代末～平安時代の須恵器(3)	66
第90図	古墳時代末～平安時代の須恵器(4)	67
第91図	古墳時代末～平安時代の土師器(赤彩土師器)	68
第92図	奈良～平安時代の土師器(甕)	69
第93図	平安時代～平安時代末の黒色土器・緑釉陶器・中世土師器	70
第94図	平安時代末の中世土師器(溝2・3)	71
第95図	平安時代末の中世土師器(溝4・河道2・3)・中世の磁器(白磁・青白磁・青磁)	72
第96図	平安時代の墓出土土器	73
第97図	古代末～中世の須恵質の甕	74
第98図	中世の陶器(播鉢・こね鉢)	75
第99図	近世の陶磁器	76
第100図	土製品・製塩土器	77
第101図	土製品	78
第102図	石器(1)・磨石	79
第103図	石器(2)・石斧・石鏃	80
第104図	石器(3)・砥石・硯・玉未成品	81
第105図	石器(4)・スクレーパー	82
第106図	石器(5)・ユーズドフレック	83
第107図	石器(6)・石鏃	84
第108図	石器(7)・石鏃未成品・楔形石器	85
第109図	平安時代の墓出土玉類	86
第110図	平安時代の墓出土鉄器 A区出土金銅器(青銅製品・鉄器)	87
第111図	平安時代の墓出土釘(1)	88
第112図	平安時代の墓出土釘(2)	89
第113図	平安時代の墓出土釘(3) 及びA区出土鉄釘	90
第114図	C区出土鉄製品(1)	91
第115図	C区出土鉄製品(2)	92
第116図	木製品・柱頭・杭	93
第117図	土銭	94
第118図	明治・大正時代の馬場遺跡の位置	95
第119図	馬場遺跡遺構配置図	96

写真図版目次

巻頭写真	1	馬場遺跡遠景 (東から)
	2	平安時代の墓
	3	平安時代の墓出土大刀
	4	平安時代の墓出土土器
図版 1	1	馬場遺跡A区北側 (南から)
	2	馬場遺跡遠景 (西から)
	2	A区北側空撮
	2	C区北東側空撮
	3	1 調査前遠景 (南から) (1999年4月14日)
	2	調査前近景 (南から) (1999年4月30日)
	4	1 C区調査前 (北から) (2000年4月5日)
	2	河道1 (南から)
	5	1 建物1 (東から)
	2	建物2 検出 (北から)
	6	1 建物2 完掘 (北から)
	2	建物5 (南から)
	7	1 建物9 (東から)
	2	建物12 (北から)
	8	1 建物14、15、34 (南から)
	2	土壌2 (南東から)
	9	1 土壌3 (南から)
	2	土壌4 検出 (西から)
	3	土壌8 (西から)
	10	1 溝1 (南から)
	2	溝1 (北から)
	3	溝1 十層 (第58図QR)
	4	溝1 土層 (第58図ST)
	11	1 平安時代の墓検出 (西から)
	2	遺物出土 (西から)
	12	1 遺物出土 (北西から)
	2	石敷 (西から)
	13	1 平安時代の墓完掘
	2	斜面の石敷 (北から)
	14	1 石敷 (北西から)
	2	石敷 (北東から)
	15	1 西端 (東から)
	2	東端 (西から)
	16	1 建物19P1 (南から)
	2	建物19P4 検出 (南から)
	3	建物20 (東から)
	17	1 建物22 (西から)
	2	建物28 (南から)
	18	1 溝2 検出 (南から)
	2	溝2 完掘 (南から)
	19	1 溝2 (北から)
	2	溝1と溝2の交差部 (南から)
	20	1 溝3 (南から)
	2	溝3 石列 (東から)
	21	1 溝4 西側 (東から)
	2	溝4 東側 (東から)
	22	1 溝2 十層 (第58図CD)
	2	溝2 十層 (第58図EF)
	3	溝3 十層 (第58図KL)
	23	1 溝4 上層 (第60図AB)
	2	溝4 上層 (第60図EF)
	3	溝4 土層 (第60図HG)
	24	1 溝4 土層 (第60図KL)
	2	土器溜1 (東から)
	3	土器溜2 (西から)
	25	1 土壌9 (南東から)
	2	土壌11 (南から)
	3	土壌12 (南から)
	26	1 河道2、河道3 (東から)
	2	河道2 土層 (第64図CD)

27	1	河道2 枕列 (北東から)
	2	建物30P1 2 (北東から)
	3	建物30P4 (東から)
	28	1 建物33付近 (東から)
	2	建物33 (西から)
	29	1 建物37、38 (北から)
	2	建物39、41 (西から)
	30	1 建物40 (東から)
	2	構7 (東から)
	31	1 溝5 検出 (南西から)
	2	溝5、石列 (南から)
	3	溝5、石列 (東から)
	32	1 土壌16、19 (北東から)
	2	土壌20 (南東から)
	33	1 土壌21 (北西から)
	2	建物44 (北西から)
	34	1 建物50 (東から)
	2	建物56P10 (西から)
	3	土壌23 (東から)
	35	1 土壌24検出 (西から)
	2	土壌26 (南西から)
	3	土壌31 検出 (南から)
	4	土壌31 (南から)
	5	土壌34 検出 (北から)
	36	1 A区 (1区) 完掘 (東から)
	2	A区 (2区) 完掘 (南から)
	37	1 A区 (4区) 完掘 (南東から)
	2	A区 (3B区) 完掘 (北から)
	38	1 C区完掘 (南から)
	2	C区完掘 (北から)
	39	1 縄紋土器 (1)
	2	縄紋土器 (2)
	40	1 縄紋土器 (3)
	2	縄紋土器 (4)
	41	1 縄紋土器 (5)
	2	弥生土器・古墳時代の土師器
	3	縄紋土器 (底部)
	42	1 縄紋土器 (胴部の調整)
	2	遺構出土土器 (1)
	43	遺構出土土器 (2)
	44	1 遺構出土土器 (3)
	2	遺構出土土器 (4)
	45	土器溜1・2
	46	古墳時代末~平安時代の須恵器 (1) (蓋)
	47	古墳時代末~平安時代の須恵器 (2) (蓋・高坪・坏)
	48	古墳時代末~平安時代の須恵器 (3) (坏・皿・壺)
	49	古墳時代末~平安時代の須恵器 (4) (壺)
	50	1 古墳時代末~平安時代の須恵器 (5) (蓋・坏)
	2	古墳時代末~平安時代の須恵器 (6) (皿・坏)
	51	古墳時代末~平安時代の須恵器 (7) (蓋・壺)
	52	1 古墳時代末~平安時代の須恵器 (8) (壺)
	2	古墳時代末~平安時代の須恵器 (9) (蓋・表面)
	53	古墳時代末~平安時代の須恵器 (10) (裏・表面)
	54	奈良~平安時代の土師器 (1) (甕)
	55	奈良~平安時代の土師器 (2) (甕)
	56	赤彩土師器 (1) (坏・碗・皿)
	57	赤彩土師器 (2) (坏・皿・碗)
	58	中世土師器 (1) (坏・高台付坏)
	59	1 中世土師器 (2) (皿・高台付皿)
	2	中世土師器 (3) (坏・高台付坏・鉢)
	60	中世土師器 (4) (坏・高台付坏・皿)
	61	中世土師器 (5) (溝2: 坏)
	61	中世土師器 (7) (溝2: 坏・皿・高台付皿)

62	中世上師器 (8) (溝 2・溝 3: 坏・皿・高台付皿)
63	中世土師器 (9) (溝 3: 坏・高台付坏・皿・高台付皿)
64	中世上師器 (10) (溝 4・河道 2: 坏・高台付坏・皿・高台付皿)
65	中世土師器 (11) (溝 4・河道 2: 皿)
66	中世土師器 (12) (河道 3: 坏)
67	中世土師器 (13) (非掲載: 皿) 土製品 (1) (硯)・須忠質の甕 (1)・ 中世陶器
68-1	須忠質の甕 (2)
2	須忠質の甕 (3) (裏面)
69-1	須忠質の甕 (4)
2	須忠質の甕 (5) (裏面)
70-1	播鉢 (1)
2	播鉢 (2)
71	土製品 (2) (瓦・羽口)
72	土製品 (3) (製塩土器・甕・移動式竈・土製支脚)
73	土製品 (4) (土製支脚・紡錘車・硯) 石器 (1) (石皿)
74	石器 (2) (砥石・硯・スクレーパー・ ユーズドフレイク・石鏃・楔形石器) 石器 (3) (石皿・磨石・砥石・石斧・ 石錘・硯)
75	土錘 (1)
76-1	土錘 (2)
2	

77	平安時代の墓出土土器 (1)
78	平安時代の墓出土土器 (2)
79	平安時代の墓副葬品 A区出土青銅製品・鉄器
80	大刀細部写真
81	鉄製品X線写真
82-1	平安時代の墓出土鉄釘 (1: 大形)
2	平安時代の墓出土鉄釘 (2: 小形)
83-1	平安時代の墓出土鉄釘 (3: 小形)
2	A区出土鉄釘
84-1	鉄釘・鉄鏃・環状鉄製品
2	鉄刀・刀子
85	木製品・柱楔
86	鉄鏃・鉄製紡錘車・刀子・占錢
87-1	鉄滓 (1)
2	鉄滓 (2)
88-1	緑釉陶器・黒色土器
2	白磁
89	白磁・青磁・肥前系磁器
90	土器・貯蔵具・鉢
91	李朝白磁・肥前系陶器・肥前系磁器
92	肥前系陶器・青花・唐津・片口・播鉢・ 焙烙
93-1	志野焼・瀬戸焼・青花・唐津
2	肥前系磁器
94-1	陶胎染付・鉄釉・その他の陶器
2	肥前系甕・播鉢



第1章 調査の経緯

本書に掲載する馬場遺跡は島根県飯石郡三刀屋町に位置している。三刀屋町の北東部、峯寺弥山南麓の三刀屋川によって形成されたゆるやかな河岸段丘上に位置しており、標高は約35～47mである。調査前は畑地と宅地であった。

(1) 調査にいたる経緯

中国横断自動車道尾道松江線にともなう埋蔵文化財の発掘調査については、平成4年1月に建設省道路建設局から日本道路公団に対して松江・三刀屋間について調査開始の指示があり、その一環として同年4月17日付けで島根県教育委員会に埋蔵文化財の分布調査の依頼があった。そして、平成4年11月には日本道路公団に対して施行命令があり、平成5年9月には工事実施計画が認可された。平成6年3月に三刀屋町内を含む分布調査を実施し、全体の9割あまりを踏査した。

この調査結果をふまえ同年の6月と8月に道路公団と調査の打ち合わせを行った。この打ち合わせでは、今回の分布調査が500m幅を対象に踏査しているのでルート確定後再度調査対象地を把握する必要があることや、調査事業の円滑化を図るために用地買収、立木伐採等環境整備の充実を要望した。残りの分布調査は平成7年4月に完了し、4月28日付けで公団へ回答した。

同年4月には日本道路公団、県教育委員会、県土木部からなる埋蔵文化財調査連絡会が発足し、8月3日に第1回の連絡会を開催した。この会議では平成8年度から発掘調査に入ることを前提に用地買収や立木伐採、進入路、排土排水処理等の調査環境整備について協議を行った。この問題については、その後2回連絡会を行って調整し、宍道下倉～弘長寺の4.6kmに存在する遺跡について平成8年度から調査を実施することが決定した。

これを受けて調査を円滑に進めるため、作業員の確保、発掘現場における物件の確保、測量、掘削工事等の調査補助業務を社団法人中国建設弘済会島根県支部に委託するため、日本道路公団、社団法人中国建設弘済会、島根県教育委員会の三者による埋蔵文化財発掘調査覚え書きを平成8年3月26日に交わし、本格的に調査の準備に入ることとなった。

その後、玉湯町～宍道インター間について再踏査を行い、この区間に48余りの遺跡が存在していることが分かった。これらの遺跡の調査は平成8年度～10年度にかけて、平成8年度は宍道町下倉～弘長寺間の20余りの遺跡、平成9年度は玉湯町湯町～林村の8遺跡と宍道町内の残り遺跡11余りの調査を行った。また、この調査と並行して宍道インターから国道につなぐ連絡道、及び松江道路から中国横断自動車道につながる連結部についても調査を行った。

平成11年度には宍道インター～三刀原間の調査を中心に行い、宍道町内のインターチェンジ以西4遺跡、茂茂町内7遺跡、三刀屋町と木次町で馬場遺跡を含め4遺跡の調査を行った。また、この間に松江道路から中国横断自動車道につながる連結部の調査も行った。平成12年度は三刀屋町の馬場遺跡の調査を継続して行った。

なお、馬場遺跡は平成6年3月の分布調査で遺物を採集したことにより遺跡として確認された。

(2) 調査組織と調査の経過

[平成11年度] (現地調査)

[事務局]

埋蔵文化財センター所長 宍道正年
 総務課長 秋山 実
 調査課長 松本岩雄
 主幹・調査第1係長 川原和人
 企画調整係長 今岡 宏

[平成12年度] (現地調査・報告書作成)

[事務局]

埋蔵文化財センター所長 宍道正年
 総務課長 内田 融
 調査課長 松本岩雄
 主幹・調査第1係長 川原和人
 総務係長 今岡 宏

[平成13年度] (報告書作成)

[事務局]

埋蔵文化財センター所長 宍道正年
 総務課長 内田 融
 調査第2課長 川原和人
 主幹・総務係長 今岡 宏

[調査員]

調査第1係主事 中川 寧
 同(兼)文化財保護主事 古藤浩夫
 同調査補助員 田中強志

[調査員]

調査第1係主事 中川 寧
 同主事 仁木 聡
 同(兼)文化財保護主事 古藤浩夫
 同(兼)文化財保護主事 赤木 努
 同(兼)主事 勝部喜代志
 同調査補助員 田中強志

[調査員]

調査第3係主事 中川 寧
 同(兼)文化財保護主事 赤木 努
 同調査補助員 田中強志

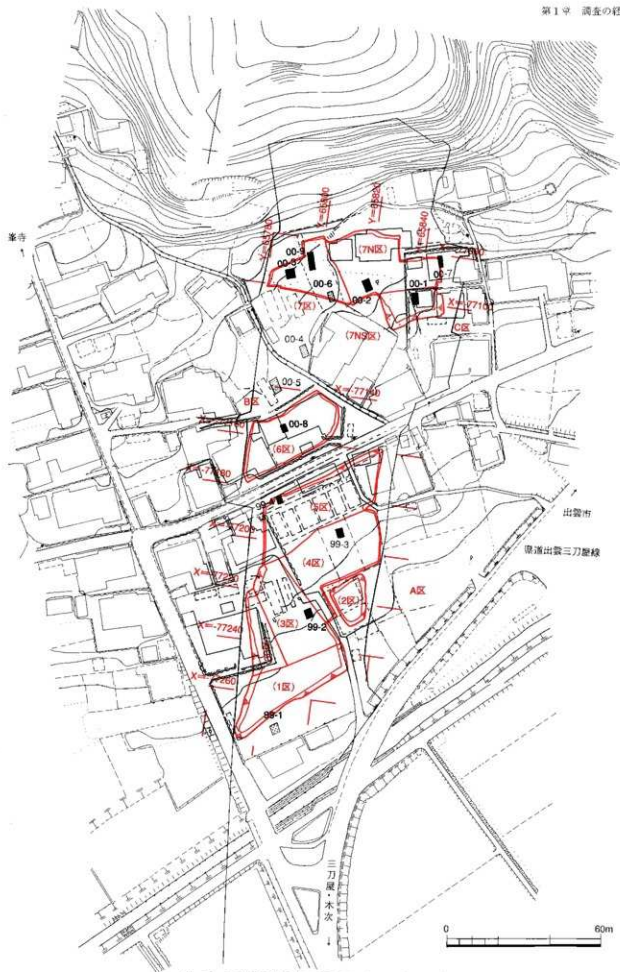
なお、発掘作業員の雇用などの現地での発掘作業については、鳥根県教育委員会から(社)中国建設弘済会へ委託して実施した。担当者は以下の通りである。

社団法人中国建設弘済会鳥根県支部

現場事務所長	布村幹夫	技術員	藤 俊治
技術員	永原正寛	同	栃木 忍
同	欠野秀夫	事務員	馬庭明美

下記の方々に発掘作業員、室内整理作業員として従事していただいた。

明山 治 吾郷弘子 朝山節子 安部キヨ子 飯塚イキ子 飯塚健一 飯塚幸雄
 石飛唯雄 石飛千代子 石飛陽司 磯川愛子 一村春春 大石剛稔 岡田清子 岡田喜代美
 岡田幹子 奥井久夫 奥井美代子 奥井良蔵 小沢キミヨ 小川草潔 落部・男 落部・美
 影山重蔵 勝部 宏 加藤 修 加藤良江 神田芳江 木村良雄 桐原利江 佐藤キヨ子
 塩田アイ子 清水幸徳 白石みどり 白築 登 水津サミ子 杉原 伸 高尾益一 田中明子
 田中季久子 田辺君江 中井喜美 名原久美江 名原正美 西村ミチ子 日野豊美 広戸 操
 広戸八重子 福島ヤヨエ 藤井悦子 藤井ヨシコ 藤原利徳 藤村弘長 堀江一徳 保科芳徳
 堀江利子 堀江登美子 目黒雅夫 森山 勉 八沢益枝 柳原豊子 矢割ヨシコ 若槻光子
 和田一良 渡辺厚司 渡部保次 和田浪子 和田政男 和田三代子
 後藤アキミ 高尾怜子 高橋幸江 田中路子 西村ひろみ 羽島ひとみ 藤原須美子 古田典子
 渡部恵子



第1図 馬場遺跡調査区位置図 (S=1/1,500)

黒塗りは遺物・遺構の見つかったトレンチ。
 □は見つからなかったトレンチ

平成11年度の馬場遺跡の調査は5月17日から開始し、トレンチ99-1～3を設定した。そのうち99-2及び3から土師器や須恵器が出土し、奈良・平安時代の遺跡であることが予想された。本調査は5月31日から開始したが、排土置き場が工事用地内でしか確保できないため、やむなく調査区を小割りにしてその都度排土を置き換えるという調査方法を探ったので、遺跡の面的な把握ができず、同一の遺構を二度に分けて掘るといった事態もあり、苦慮した。調査は便宜的に調査区を1区、2区、3区、3B区、4区の五つに分けて行った。3区の調査ではほぼ南北に延びる平安時代末の溝を検出し、土師器など多数の遺物が出土したので、3区の調査の終わりを迎えた9月25日に現地説明会を行い、地元の方々を中心に約60名の参加があった。

4区の調査中の11月18日に平安時代の墓が検出されたので、記者発表を行うとともに再度現地説明会を企画し、12月12日に2回目の現地説明会を行った。新聞で大きく報道されたこともあり、遠くは広島県などから約200名の参加があり、大盛況であった。その後は平安時代の墓の精査や3B区の調査を行い、12月14日にいったん調査を終了した。また、調査に平行して、馬場遺跡の調査成果を地元の方へ知ってもらう機会として、11月21日には一宮公民館の文化祭に遺物や写真パネルを展示した。また、2月8日には馬場遺跡を含めた三刀屋町内の調査成果を三刀屋町老人クラブ連合会有志の前で発表した。

平成12年度の調査は4月11日より開始した。調査は平成11年度の調査区の北側に隣接する5区から行うとともに、遺跡が当初考えていたよりもさらに北側へ広がる可能性があるため、道路公園と協議を行い、北側の部分にもトレンチを設定した。9か所設定したトレンチ00-1～9の内、4～6を除く6か所から遺物が出土したので、北側の部分を7区として調査を開始した。5区の調査が終わりを迎えた6月24日には3回目の現地説明会を行い、地元の方々を中心に約80名の参加があった。また、前年の報道や現地説明会を受けて、6月28日には三刀屋町議会議員、8月1日には飯石郡の社会科の教員の有志の見学があり、調査員は調査と平行してこれらの見学者の対応を行った。7区の調査は調査の順番に従って7区・7区N・7区NS（N南）と便宜的に三分し第1図にその範囲を記した。7区の調査と平行して5区、引き続き6区の調査を行い、全体の調査は9月13日に終了した。

整理作業は調査と平行して現地事務所で行っていたが、調査終了後は埋蔵文化財調査センターで行い、平成13年5月までに遺構・遺物の整理を、8月までに原稿執筆を終了した。

調査時の呼称	調査期間	調査面積 (㎡)	本報告書での呼称
1区	19990517-0722	650	A区
2区	19990722-0803	200	
3区	19990728-1007	740	
4区	19991006-1201	630	
3B区	19991122-1214	260	
5区	20000411-0630	1,130	B区
6区	20000526-0810	740	
7区	20000411-0913	1,780	
			C区

第2章 位置と歴史的環境

縄紋時代

旧石器時代の遺跡は三刀屋町内では確認されていない。三刀屋町内における縄紋時代の遺跡は三刀屋川流域の乙加宮地区、飯石川流域の粟谷地区や多久和地区において河岸段丘上に遺跡が確認されている。

このうち乙加宮地区には、宮内遺跡（200）、浜遺跡（202）、横原遺跡（210）がある。宮内遺跡、横原遺跡で出土した土器は中期から後期が中心だが、浜遺跡では早期後葉の土器も数多く出土している。多久和地区には宮田遺跡（113）、古殿遺跡（120）、京殿遺跡（122）、森谷川遺跡（117）がある。宮田遺跡では後期末から晩期の大型の土器を逆さにした埋甕が見つかり、乳幼児の埋葬に用いたと考えられる。埋甕の周りには埋甕を取り囲むようにピットや立石が見つかり、その他、貯蔵穴が5つ検出され、後期から晩期を中心とした多量の土器、磨石、石斧、石鏃、石錘等が出土している。また六重地区の子安観音堂に出土地は不明であるが磨石、石斧、石棒が奉納されている。

弥生時代

三刀屋町内では熊谷遺跡（2）、要害遺跡（3）、宮内遺跡、浜遺跡、宮田遺跡などが弥生時代の遺跡として知られている。このうち要害遺跡では丘陵先端に稜線に直交するかたちで断面V字形の溝が検出され、前期末～中期中葉の土器や多数の円礫が出土した。縄紋時代の遺跡に比べると数が少なく、要害遺跡を除けば遺構が検出された例も無い。なお、雲南地域では、仁多郡横田町の横田八幡宮に伝えられた銅剣（中細形銅剣c）、木次町内から出土したと言われる銅鐸（外縁付鈕I式）が注目される。

古墳時代

斐伊川中流域は、出雲地方でも比較的早くから古墳の築造を始めた地域である。三刀屋町給下の松本1号墳（57）は全長約50mの前方後方墳である。埋葬施設として後方に粘土槨が2基、前方部からは土器蓋土壇が1基検出された。副葬品は斜縁神獸鏡（直径13cm）の他に鉄剣、刀子、鉄針、ガラス小玉などがある。出土した土器は土師器の壺や高坏がある。前期中葉の築造と考えられる。松本3号墳（56）は地形測量が行われたのみだが全長52mの前方後方墳である。1号墳とは異なり前方部がバチ形に開いているので1号墳に先行するものと考えられる。

また、木次町斐伊中山1号墳（145）は試掘と地形測量が行われたのみだが全長約50mの前方後円墳である可能性がある。斐伊中山2号墳は中心となる埋葬施設に排水施設を持ち、割竹形木棺には細線式鳥文鏡や鉄製武器が副葬されていた。斐伊中山3号墳、13～16号墳は前期の小規模な古墳である。

中期の古墳では、三刀屋町三刀屋の地王磐跡（9）からは古墳時代前期から中期のものと考えられる鉄製品（鏃、鎌、手斧）が出土している。この丘陵上に築かれていた古墳の副葬品だった可能性がある。また、三刀屋熊谷1号墳（2）からは鉄鎌と鉄鍬が、2号墳からは重圓文鏡、瑪瑙製勾玉、鉄鎌が出土した。これらの古墳は溝で区画したり地山を整形した低い墳丘を持つ古墳である。



第2図 馬場遺跡の位置と周辺の遺跡 (S=1/50,000)

この地域で確認されている古墳のほとんどが後期に属する。このうち、松本4号墳(56)と三刀屋町上熊谷の岩広古墳(134)は横穴式石室である。松本4号墳には陶甎などが、岩広古墳には馬具などが副葬されていた。横穴墓も数多く存在し、三刀屋町では20群を数えることができる。その形態のほとんどは玄室の平面形が縦長長方形、断面が三角形のテント形、妻入りであり斐伊川中・上流域に広く分布する形態である。副葬品として三刀屋町殿河内の太田横穴群(87)の2号穴に馬具が、三刀屋町中野の東下谷横穴群(176)の4、5号穴には大刀が目される。その他町内では粟谷横穴群(93)、森谷横穴群(115)、神代横穴(161)などがあげられる。

これに対して集落遺跡は少なく、殿河内遺跡(85)、城ノ尾下ノ段遺跡(94)からは前期の土師器が、浜遺跡からは須恵器が見つっている。

奈良・平安時代

この時代の遺跡は、前出の浜遺跡、宮内遺跡、粟谷遺跡で遺物が採集されている。また、平成2～3(1990～91)年に行われた出雲考古学研究会の分布調査では、松本古墳群周辺の河岸段丘上からは10か所以上の地点で遺物が採集されており、馬場遺跡の西約150mの大門口遺跡(11)からも土師器が採集されている。馬場遺跡から西の三刀屋川沿いの河岸段丘上に集落が存在していた可能性をうかがわせる。

松本古墳群のごく近くには『風土記』に御門神社、『延喜式』に三屋神社と記載される三屋神社がある。前述の分布調査の際には三屋神社のすぐそばの龍玉遺跡や上給下遺跡から土器が採集されている。三屋神社の一角が三屋郷で、三屋郷には正倉が置かれていたとある。また、多久和地区にある飯石神社は祭神が天降ったとされる巨石をそのまま御神体とするなど、非常に古い時代の信仰の形態をそのまま現代に伝える神社である。飯石郡や飯石郷という地名の由来になった神社であり『風土記』や『延喜式』にも記載のある古社である。

三刀屋町給下の峯寺弥山には峯寺(真言宗御室派)があり、寺伝によれば斉明天皇4年(658)、修験道の開祖である役小角の開基という。また三刀屋町乙加宮の鍋山には、天平年間(729～749)行基の開山で、聖武天皇の勅願寺との寺伝をもつ禪定寺(天台宗)がある。『風土記』にはこれらの寺院についての記載はないが、峯寺弥山は「伊我山」、鍋山は「奈倍山」として登場する。

「城名礎山」に隣接する木次町妙見山遺跡(147)からは、尾根の頂部より、9～12世紀の堀立柱建物跡が計6棟検出された。この遺跡からは仏具など祭祀に直接つながる遺物は確認されなかったが、穿孔土器や灯明皿、あるいは飾り釘等が出土したことから、奈良時代後期から平安時代の山岳信仰にかかわる祭祀遺跡の可能性が高い。その他、殿河内遺跡からは平安時代の可能性を持つ堀立柱建物が見つっている。

鎌倉・室町時代

承久3年(1221)、承久の乱の戦功を賞されて、越後国(新潟県)の住人諏訪部助長(扶永)が三刀屋郷地頭職に補任された。因みに「ミトヤ」に「三刀屋」の文字があてられたのはこの時の関東下知状(三刀屋家文書)が初見である。

諏訪部氏は清和源氏の一族で、信濃国を中心に伊豆、甲斐、遠江などに勢力をもつ豪族であり、地名をとって三刀屋氏を名乗るようになる。その本拠は当初後谷の元屋敷城址(45)に置かれたよ

うである。その構造は後にじゃ山城が築かれる山塊から東に伸びる尾根を深い掘切で切断し、先端に3段の削平段を設けたものである。最下段の削平面は特に広く、そこには居館が設けられていた可能性がある。

その後、三刀屋氏は、親店の擾乱に際して既ぬ足利直義・直冬側に従って行動するが、その中で観応2年(1351)9月、諏訪部信忠が三刀屋郷内石丸城に立て籠もって挙兵した記録がある。石丸城はじゃ山城の別称と考えられ、元屋敷城に代わる三刀屋氏の根城としての機能を果たした。じゃ山城(38)は標高242.5mの「じゃ山」に設けた4つの郭を掘切、堅堀、土塁等で囲み、二つの天水池を設けている。周囲には大谷砦や中山砦、元屋敷城や後の尾崎城等が配され、じゃ山城の主要な砦群を構成していたと思われる。西の尾根を切断する掘切に見られる隙子堀は、出雲地区での確認例は数例しかない。じゃ山城跡の出土遺物は中国製青磁碗や備前の甕・播鉢、天目茶碗など15世紀前半のものが中心である。また、三刀屋町多久和の古殿遺跡では、建物の礎石と思われる自然石が多数出土し、同時に南宋伝来の青磁碗や白磁碗、銅製の飾金具などの遺物が出土した。鎌倉時代後半から南北朝期のものと推定され、付近の多久和城主の多久和氏(目黒氏)との関係が注目される。

六重の策置山遺跡(172)や中野の広ノ下荒神塚遺跡(213)からは石鉢や土師器の皿、古銭や鉄器などが出土した。15世紀頃のものと考えられる。また、少し時代が下るが堰河内の清水荒神塚遺跡(83)からは鉄鍋、鉄刀3本、和鏡のほか土師器の皿が十数枚重なった状態で出土した。土師器から16世紀頃と考えられる。これらの遺跡はいずれも比較的急な斜面に位置しており、地鎮に関連する祭祀遺跡ではないかと考えられる。

戦国・江戸時代

戦国時代になると、三刀屋氏は根城をじゃ山城から三刀屋川に臨んだ尾崎城(66)に移す。三刀屋氏は初め尼子氏に従って出雲十旗の一つに数えられるが、永禄5年(1562)、毛利氏による尼子氏総攻撃の直前に沢尻らとともに毛利方に転じる。出雲国の支配者は尼子氏から毛利氏、堀尾氏と変遷し、その中で三刀屋氏も天正16年(1588)頃に領地を改易されたが、尾崎城の重要性に変化は生じず、特に堀尾氏はここを出雲西部の要と考え大改修を施した。尾崎城は結局元和元年(1615)、一国一城令の発令によって廃城となったが、このような経緯から尾崎城の基本的な縄張りや戦国時代末に由来するが、出雲地方に散見される山城とは異なり石垣を多く用いること、本丸に築かれた櫓の構築法、居館を城郭内部に設けるなど、近世的色彩を併せ持っている。天神郭からは廃城直後と考えられる墓が2基見つかり、唐津の碗や皿、褐釉陶器、灯明皿など、17世紀初頭の上器が出土した。なお、尾崎城には、「殿井手」と呼ばれる総延長6.4kmに及ぶ水路が主郭近くまで引かれており、これも大きな特徴である。また、尾崎城の周辺には16世紀後半～17世紀前半の古墓が点在する。

この地域では「嵐土記」に「飯石小川…鐵あり」と記されるなど、古来より製鉄を盛んに行ってきたと思われる。製鉄遺跡の中には三刀屋町中野の六重峠鉄跡(168)など中世に遡る可能性があるものも見られるが、その多くが近世のものである。六重の金蔵鉄跡(173)は近世の大規模な製鉄遺跡として知られる。

【第2章の参考文献】

- 「三刀屋・神代横穴」〔鳥根県埋蔵文化財調査報告書〕第1集 鳥根県教育委員会 1969
- 「京殿遺跡－調査の概報－」 三刀屋町教育委員会 1979
- 「太田横穴群発掘調査報告書」 三刀屋町教育委員会 1982
- 「三刀屋城跡発掘調査報告書Ⅰ」 三刀屋町教育委員会 1982
- 「三刀屋城跡発掘調査報告書Ⅱ」 三刀屋町教育委員会 1983
- 「三刀屋城跡発掘調査報告書Ⅲ」 三刀屋町教育委員会 1984
- 「東下谷横穴群発掘調査報告書」 三刀屋町教育委員会 1984
- 三宅博士「土師質土器を伴う石鉢について」〔鳥根考古学会誌〕第2集 pp.117～135 1985
- 「殿河内遺跡発掘調査報告書」 三刀屋町教育委員会 1987
- 「三刀屋町の遺跡Ⅰ 三刀屋・宮地区」 三刀屋町教育委員会 1988
- 「三刀屋町の遺跡Ⅱ 飯石・中野地区」 三刀屋町教育委員会 1989
- 「三刀屋町の遺跡Ⅲ 鍋山地区」 三刀屋町教育委員会 1990
- 「三刀屋町の遺跡Ⅳ 鍋山地区（禪定寺周辺）」 三刀屋町教育委員会 1991
- 「要害の首塚・地王砦跡発掘調査報告書」 三刀屋町教育委員会 1989
- 「平成元年度予防治山事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－三刀屋尾崎城跡－」
三刀屋町教育委員会 1990
- 「古代の出雲を考える7 松本古墳群」 出雲考古学研究会 1991
- 「斐伊中山古墳群－西支群－」 木次町教育委員会 1993
- 「神代下廻横穴発掘調査報告書」 三刀屋町教育委員会 1995
- 「妙見山遺跡発掘調査報告書」 木次町教育委員会 1995
- 「熊谷遺跡・要害遺跡」中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書13
鳥根県教育委員会 2001

第3章 遺 構

馬場遺跡では遺跡全体を右のように4層に大別して調査を行った。1層は機械により掘削し、2層以下を人力で掘削した。2層は淡褐色で砂質が3層よりも強かった。3層は茶褐色～暗茶褐色でやや粘質があった。4層は暗褐色～暗茶褐色で拳大の角礫を多く含んでいた。馬場遺跡から検出された遺構は、掘立柱建物56、土城34、溝8、溝5、河道3、土器溜2、ピット多数である。なお、掘立柱建物には図上で復元したものを含む。

1層（表土）
2層 （縄紋～近世の包含層）
3層 （縄紋～中世の包含層）
4層 （黒曜石、縄紋土器出土）

第1節 縄紋時代の遺構

(1) 黒曜石の集中地点（第25～27図）

馬場遺跡では古代～近世の遺構の検出の際に多数の黒曜石が出土した。特にA区北側（5区）からの出土が目立ったので、5区の北西側の約120㎡、B区の約150㎡の範囲を遺構の検出面から20～30cm地山と考えた4層を少しずつ精査して下げた。その結果約900点余りの黒曜石が見つかった。特に多く見つかったのは5区の掘り下げた部分（第26図）であるが、あまり集中する部分はなく、ほぼ均等に出土するようである。B区はA区ほど多くは出土しなかったが、南西部分にやや密集する部分がある。C区からは数点しか出土しなかった。黒曜石が含まれていた4層は礫を含む層であり、原位置を保っていないと判断したが、調査区のごく近くに石器の製作場があったと考えられる。表26に出土した黒曜石の一覧を掲載した。ほとんどが0.1g以下の剥片であり、重量の合計は404.31gであった。第107、108図には黒曜石と一緒に出土した石鏃や石鏃未成品を掲載した。また、わずかではあるが縄紋時代中期末～後期前葉の土器が出土した。A区からは他に前期や晩期の土器も出土しており黒曜石の集中地点の時期を明確にするのは難しいが、全体の土器の景から考えるとこれらの黒曜石は縄紋時代中期末～後期に属する可能性が高いと思われる。

(2) 河道

河道1（第57図）

A区の西側に位置する。調査の際は北側と南側をそれぞれ別の調査区として掘削も別々に行ったため、一部遺構がつかない部分がある。現状の長さ約20m、幅1.2～1.8m、深さ0.8mである。途中で二つに分かれ、さらに一方はだいに河道の肩が不明瞭になる。断面形は緩やかなU字形である。埋土は砂礫層であったので、溝ではなく河道と考えた。埋土から縄紋土器が数点出土し、他の時代の土器を含まなかったため縄紋時代の河道であると判断した。

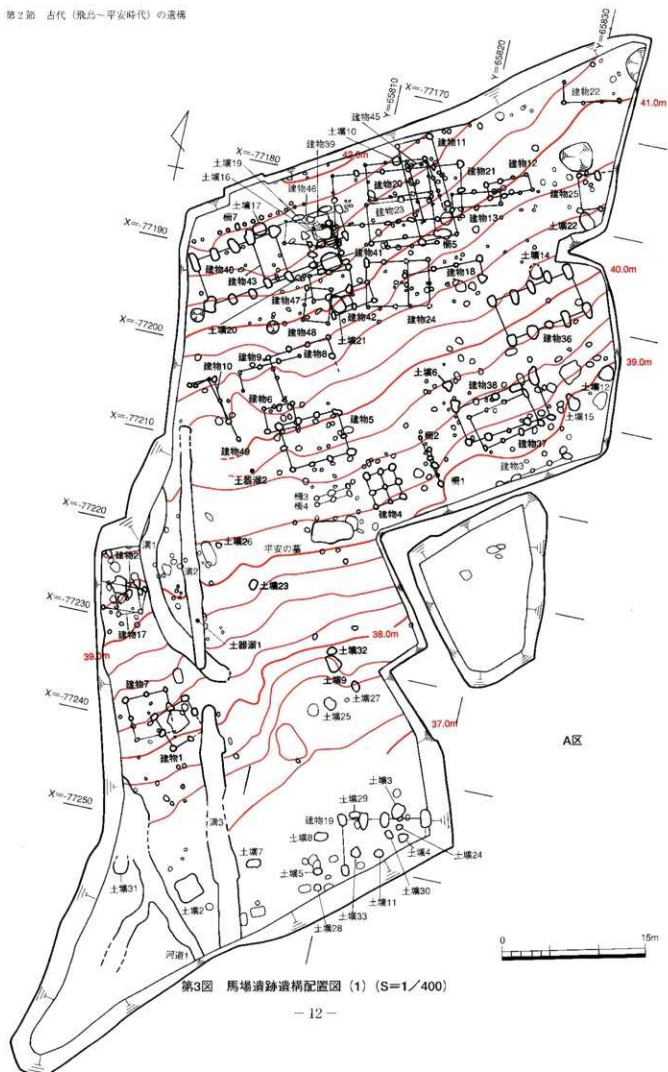
第2節 古代（飛鳥～平安時代）の遺構

本報告では便宜的に「飛鳥～平安時代」を「古代」と呼ぶことにした。実年代としては7世紀から10～11世紀を対象にしている。「飛鳥時代」と「奈良～平安時代」の二つに分けて記述する。

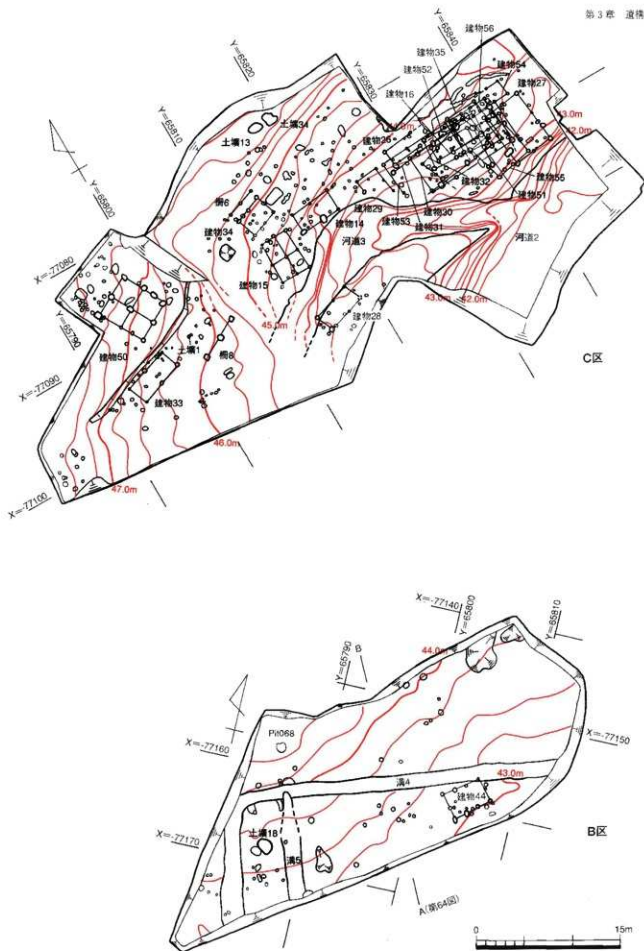
(a) 飛鳥時代

(1) 掘立柱建物

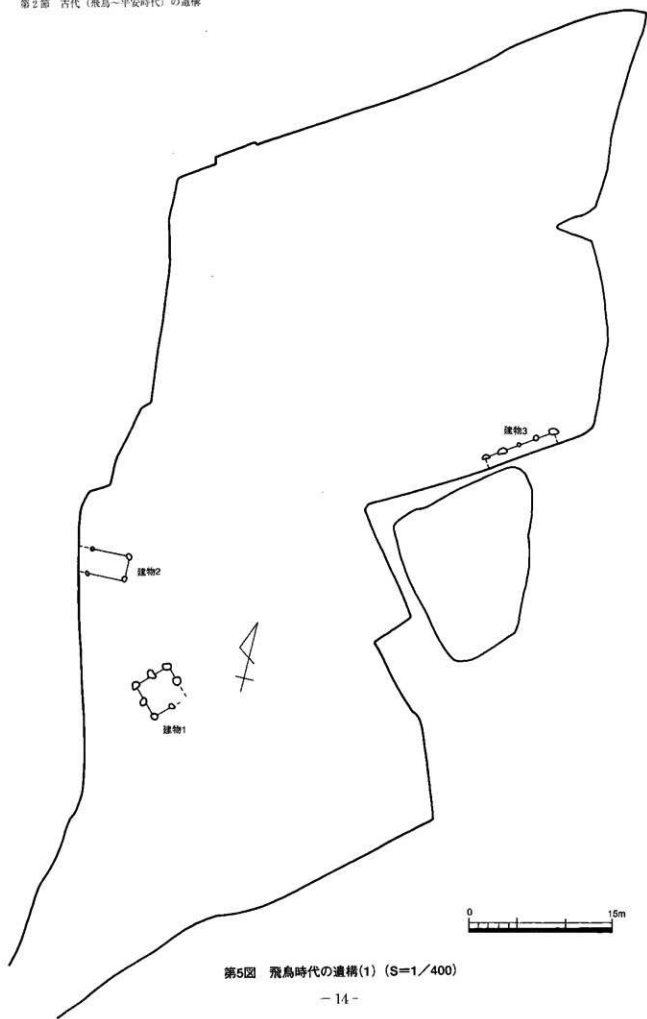
建物1（第38図）



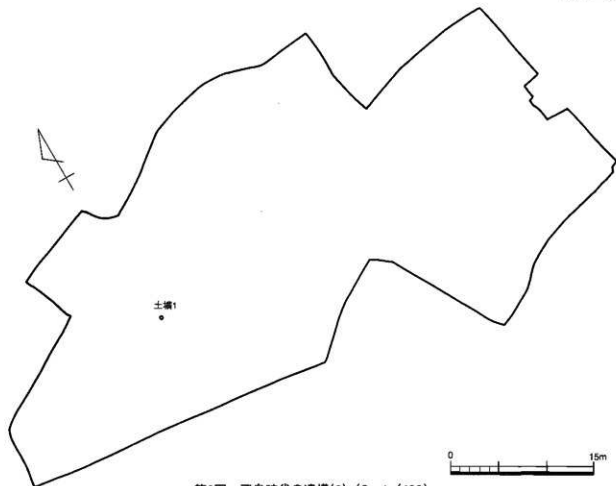
第3図 馬場遺跡遺構配置図(1) (S=1/400)



第4図 馬場遺跡遺構配置図(2) (S=1/400)



第5図 飛鳥時代の遺構(1) (S=1/400)



第6図 飛鳥時代の遺構(2) (S=1/400)

A区の西側に位置する。桁行き2間(3.9m)、梁行き2間(3.8m)で、平面形はほぼ正方形である。柱間は6尺を指向していると思われる。一番東側の柱穴は後述する平安時代末の溝3に切られている。柱穴はどれも径がほぼ0.8m前後である。柱穴より出土した土器から、建物1は飛鳥時代に属すると考えられる。

建物2 (第38図)

A区の西端に位置する。調査区の西側へ広がる可能性を持つが、現存で桁行き1間(4.0m)、梁行き1間(2.6m)であり、平面形は長方形である。柱間は桁行きが13尺、梁行きが8尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器から、建物2は飛鳥時代に属すると考えられる。

建物3 (第38図)

A区の東側に位置する。調査時の不注意により柱穴を掘り過ぎた段階で柱穴に気づいた。調査区の境に位置しているため、桁行きし分からないが、現存で1間(7.4m)である。柱間は6尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器から、建物3は飛鳥時代に属すると考えられる。

(2) 土壌

土壌1 (第47図)

C区の中央やや北西よりの部分で検出した。建物が復元できなかったので、土壌とした。直径0.3~0.4mの楕円形の土壌である。中から須恵器の坏身が完形で出土した(第85図8)。この土器から、土壌1は飛鳥時代に属すると考えられる。

(b) 奈良~平安時代

建物13棟を検出した。建物の軸はA区はN27°W～N34°WとN54°E～N72°E、C区はほぼ方位に揃う傾向がある。

建物4（第39図）

A区のほぼ中央に位置する。桁行き2間（3.3m）、梁行き2間（3.0m）の総柱建物である。平面形はほぼ正方形である。柱間は5尺を指向していると思われる。P1の土層図から、柱の太さは約15cmと考えられる。図示しなかったが、P2から土師器の甕が出土したことから、奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物5（第39図）

A区のほぼ中央、建物4の北西に位置する。建物6とは切り合い関係にあるが、先後は不明である。桁行き3間（6.3m）、梁行き2間（4.8m）である。平面形は長方形である。柱間は桁間が7尺、梁行きが8尺を指向していると思われる。P1～4やP10の周辺にはピットがあるが、これは建て替えもしくは補助の柱ではないかと思われる。柱穴から出土した土器には飛鳥時代の土器が出土しているが、出土土器の下限から奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物6（第40図）

A区の中央西よりに位置する。建物5とは切り合い関係にあるが、先後は不明である。桁行き1間（3.2m）、梁行き1間（2.7m）である。平面形は長方形である。柱間は桁間が10尺、梁間が8尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器から、奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物7（第40図）

A区の西端に位置する。桁行き、梁行きとも2間（4.3m×4.3m）である。平面形はほぼ正方形である。柱間は7尺を指向していると思われる。東端の柱穴は溝3により削平されており検出することが出来なかった。このことから溝3以前の時期である奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物8（第40図）

A区の中央やや北より、建物5の北側に位置する。建物9とは切り合い関係にあるが、先後は不明である。東側の柱穴が検出できなかったが、現状で桁行き3間（6.6m）、梁行き2間（4.8m）である。平面形は長方形である。柱間は桁間が7尺、梁行きが8尺を指向していると思われる。建物5と同規模がほぼ同様であり、先後は不明であるが、建物5と8は関係が深いと思われる。柱穴より出土した土器から、奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物9（第41図）

A区の中央やや西側に位置する。建物8とは切り合い関係にあるが、先後は不明である。東側や南側の柱穴を検出することが出来なかったが、現状では桁行き3間（6.4m）、梁行き1間（2.0m）である。柱間は桁間、梁間とも7尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器から、奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物10（第41図）

A区の西端に位置する。調査区の西側へと続く可能性が強く、平面形も不明であるが、現状では1間×2間（2.7m×4.7m）に復元することができる。柱間は8尺を指向していると思われる。柱穴から土製支脚片が出土したことより、奈良～平安時代に属すると考えられる。

なお、P3～P7から別の建物を復元することができるが、建物10との先後は不明であることから、建物10とは別の建物49として後述する。

建物11 (第42図)

A区中央北端に位置する。調査区の更に北側へ広がる可能性を持つが、現状で桁行き3間(10.5m)、梁行き1間(3.7m)である。平面形は長方形であるが、建物5などとは異なり、南北に長い。柱間は桁間、梁間とも12尺であるが、南側の桁間は10尺を指向していると思われる。柱穴の形は大小あり、そろっていない。柱穴より出土した土器から、奈良～平安時代に属すると考えられる。後述する建物13とは距離が近すぎるので、同時期ではないと考えられるが、先後は不明である。

建物12 (第43図)

A区の北東側に位置する。建物13とは切り合い関係にあるが、先後は不明である。桁行き3間(4.5m)、梁行き1間(1.6m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間、梁間とも5尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器から、奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物13 (第43図)

A区の北東側に位置する。建物12とは切り合い関係にあるが、先後は不明である。桁行き2間(5.0m)、梁行き1間(1.5m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が8尺、梁間が5尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器から、奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物14 (第43図)

C区のほぼ中央に位置する。桁行き2間(4.5m)、梁行き1間(2.4m)である。平面形は長方形である。柱穴の位置が桁行きの北側と南側では異なるようである。柱間は桁間が6尺と9尺、梁間が8尺を指向していると思われる。柱穴の大きさは大小あり、揃っていない。P1は柱穴の南西隅が一段低くなっている。柱穴からは土器は出土していないが、後述する建物16とともに主軸がほぼ北を向くので、奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物15 (第44図)

C区のほぼ中央、建物14の西側に位置する。桁行き2間(4.5m)、梁行き2間(3.0m)の総柱建物である。平面形は長方形であるが、南北に長い。柱間は桁間が7尺と8尺、梁間が5尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器に加え、後述する建物16と共に主軸がほぼ北を向くので、奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物16 (第44図)

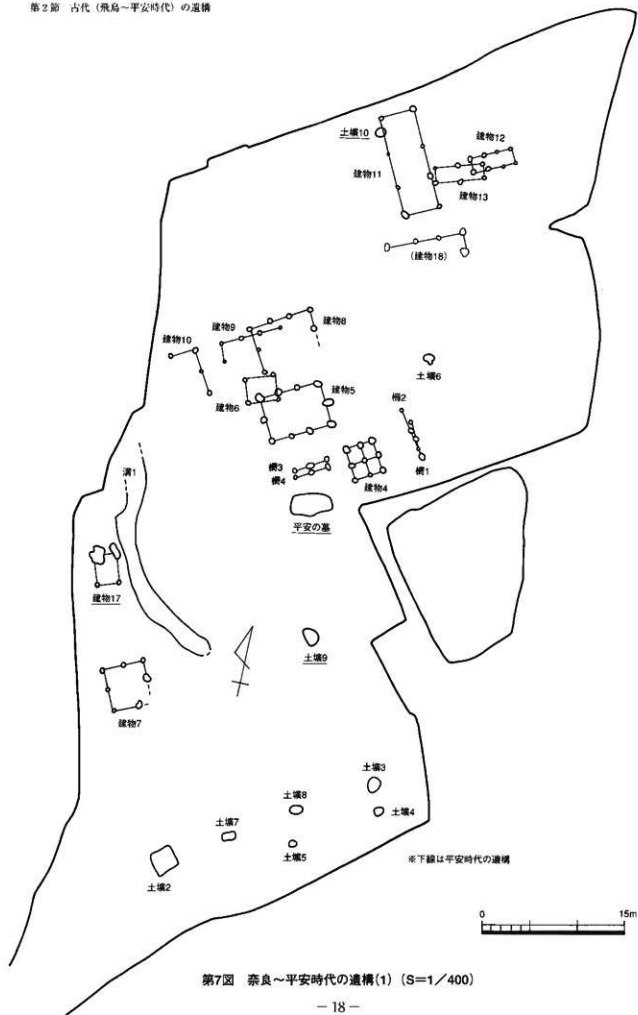
C区の東側に位置する。桁行き2間(4.2m)、梁行き1間(1.5m)である。平面形は長方形である。柱間は梁間が5尺であるが、桁間が北側と南側では異なり、北側が7尺、南側が6尺と8尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器から、奈良～平安時代に属すると考えられる。

建物17 (第45図)

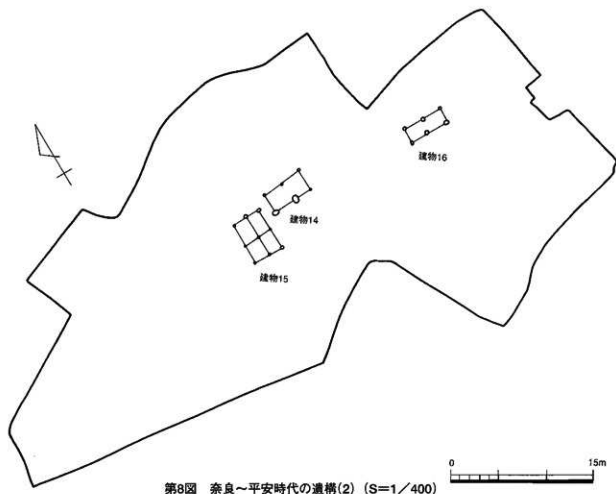
A区の西端に位置する。建物2と切り合い関係にある。調査区の更に西側へ伸びると思われる。現状で桁行き1間以上(2.3m)、梁行き1間(3.3m)である。柱間は桁間が8尺、梁間が11尺を指向していると思われる。P4はやや大きい。柱穴より出土した土器に奈良時代までさかのぼるものが見られないことから、他の建物よりもやや新しく、平安時代に属すると考えられる。

建物18 (第45図)

A区の中央やや東側に位置する。建物の一部分しか検出できなかったが、現状で桁行き3間(7.9m)、梁行き1間以上(2.2m)である。柱間は8尺を指向していると思われるが、桁行きの西側の部分では10尺と思われる。図示した土器は次節で述べる平安時代末の土器であるが、柱穴より



第7図 奈良～平安時代の遺構(1) (S=1/400)



第8図 奈良～平安時代の遺構(2) (S=1/400)

出土した土器には平安時代の土器があった他、主軸も平安時代の建物とはやや異なるので、建物の時期は平安時代～平安時代末と幅を持たせて考えたい。

(2) 櫓

櫓 1、2 (第46図)

A区のほぼ中央、建物4の東側に位置する。建物4と軸が合うものを櫓1、そうでないものを櫓2とした。ともに柱間は2間で、櫓1の柱間は6尺(1.8m)、櫓2では7尺(2.1m)を指向していると思われる。櫓2 P1から出土した土師器の甕より、櫓2は奈良～平安時代に属すると考えられる。また、櫓1は建物4と軸が一致するので、奈良～平安時代に属すると考えられる。切り合い関係がないので、先後は不明である。

櫓 3、4 (第46図)

A区のほぼ中央、建物5の南側に位置する。ともに柱間は2間で、6尺(1.8m)を指向していると思われる。軸を合わせて復元したが、櫓3と4が同時に存在したかどうかは不明である。櫓3 P1、P2、櫓4 P2より出土した土器から、奈良～平安時代に属すると考えられる。

(3) 土壇

土壇は平面形が円形・楕円形のものと同方形・正方形のものがある。大きな土壇は主にA区から検出された。

土壇 2 (第46図)

A区の南側で検出した。平面形はほぼ正方形である。埋土は4層に分かれる。土壇の中には楕円

形の小さな土塚が1つ見つかった。図示しなかったが土塚内より出土した土器から奈良～平安時代に属すると考えられる。性格は不明である。

土塚3（第47図）

A区の南側で検出した。平面形は楕円形である。中には拳大～人頭大の石が詰まっており、土塚の壁には火を受けた痕が見られた。図示しなかったが土塚内より出土した土器から奈良～平安時代に属すると考えられる。性格は不明であるが、墓の可能性はある。

土塚4（第47図）

A区の南側で検出した。平面形は楕円形である。埋土は2層に分かれる。中には拳大～人頭大の石があった。図示しなかったが土塚内より出土した土器から奈良～平安時代に属すると考えられる。

土塚5（第47図）

A区の南側で検出した。平面形は楕円形である。3つの土塚が切り合っているが掘っているときには気づかず、土塚5のみ土層を記録できた。埋土は2層に分かれる。中には拳大～人頭大の石があった。図示した土器以外に土塚内より出土した土器から奈良～平安時代に属すると考えられる。

土塚6（第47図）

A区の中央で検出した。平面形はいびつな形である。埋土は2層に分かれる。中には拳大～人頭大の石があった。図示しなかったが土塚内より出土した土器から奈良～平安時代に属すると考えられる。

土塚7（第47図）

A区の南側で検出した。平面形は長方形である。埋土は3層に分かれる。土塚の上面の東西に一つずつ拳大の石が置かれていた。図示しなかったが土塚内より出土した土器から奈良～平安時代に属すると考えられる。

土塚8（第47図）

A区の南側で検出した。平面形は楕円形である。拳大～人頭大の角礫が土塚内のやや西よりのところにあった。深さは1mを越え、他の土塚に比べて倍以上の深さがある。図示しなかったが土塚内より出土した土器から奈良～平安時代に属すると考えられる。

土塚9（第61図）

A区の中央やや南側で検出した。平面形は楕円形である。埋土は1層である。土塚内からは土器とともに炭が出土した。他の土塚に比べて遺物が多く出土し、特に赤彩土師器が多く出土した。第85図52や53から平安時代に属すると考えられる。

土塚10（第61図）

A区の中央北端で検出した。平面形は円形である。中には拳大～人頭大の角礫があった。図示しなかったが土塚内より出土した土器から平安時代に属すると考えられる。

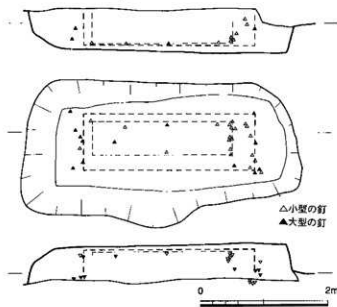
(4) 溝

溝1（第56・58図）

A区の北西端に位置する。西へ凸に曲がっており、溝2に切られる。南端の部分がはっきりしなかったので精査の際には注意したが、これ以上南へは伸びないようである。長さは現状で約21m、幅約1.5～2m、深さ約0.4～0.6mである。埋土から出土した土器には飛鳥時代にさかのぼるものがあるが、埋没したのは奈良～平安時代に属すると考えられる。

(5) 墓 (第48・49図)

A区のはほぼ中央に位置する。長さ約4.2m、幅約2.1m、深さ約0.7mである。平面形は隅の丸い長方形である。調査時には一抱えもあるような石が多数検出されていたが、4層に礫を多く含んでいることから、これらの石も4層に含まれる石であると誤認して粗掘りの際にどんどん取り上げてしまった。石の間から土器や釘とともに炭が見つかり始めて、これを遺構であると感じたときには既に十層図を作るほど土が残ってはいなかったので上層図を作成することが出来なかった。掘り下げていくと東隅には須恵器の壺が2個体見つかったほか、合計11点の



第9図 平安時代の墓 釘出土位置と推定される棺槨の構造 (S=1/60)

土器が出土した。土器は須恵器の壺のように東隅に集中するものと中程に位置するもの(第96図5)、墓壇上面付近にあったと考えられるもの(同6)がある。

副葬品として、墓壇の北西側に大刀一振り(第110図1)、その少し離れた東側には刀子1点(同4)、東隅に毛抜き、鉄、火打ち金(同2、3、5)や玉類22点(第109図)が出土した。

土器や副葬品を全て取り上げると、墓壇の床面と南側の壁に石が敷かれているのを確認した。床面に敷かれている石は長方形の掌人の平たい石が中心で、一重だけ敷かれていた。南側の石は石敷の床面から約20~30cmの高さまで斜面に置かれており、平たい石に加えて地山の石と区別が難しい拳大の石もあった。墓壇の東側にはピンポン玉大の小さな角礫が多く見られたが地山の石との区別が難しかった。確認のため敷かれていた石を取り上げたが下には特に墓のための施設は見られず、遺物も出土しなかった。墓壇の床面の規模は長さ約3.6m、幅約1.5m、石敷の範囲は長さ約3.0m、幅約1.0mである。

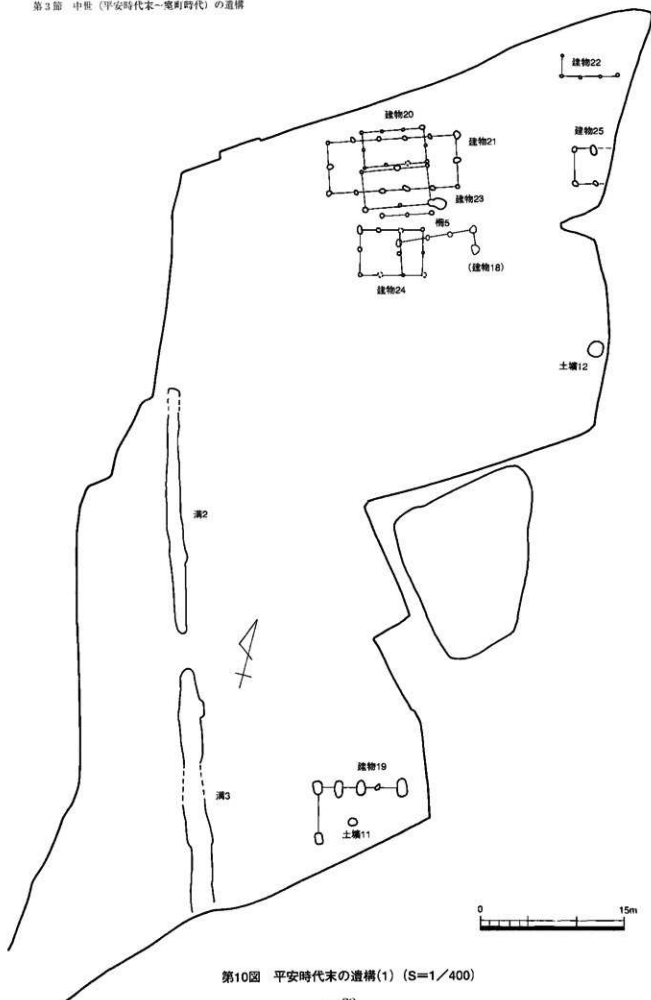
釘の出土位置から棺を固定する際に釘が用いられたと考えられるが、釘は壺の位置の外側だけではなく内側からも見つかったことから、壺の位置の内側にも棺が用いられたと考えることができるので、棺だけではなく外側に柩があったのではないかと考えられる。また、炭が多く見つかったことから、棺と柩の間や柩の周りには土だけでなく炭で充填されていたと考えられ、木柩木棺墓であったとする仮説を更に補強する。なお、当初は墓壇の上面には石が積まれており、ある程度の高さまで石が積まれていたことが想像される(写真図版11上)。

第3節 中世(平安時代末~室町時代)の遺構

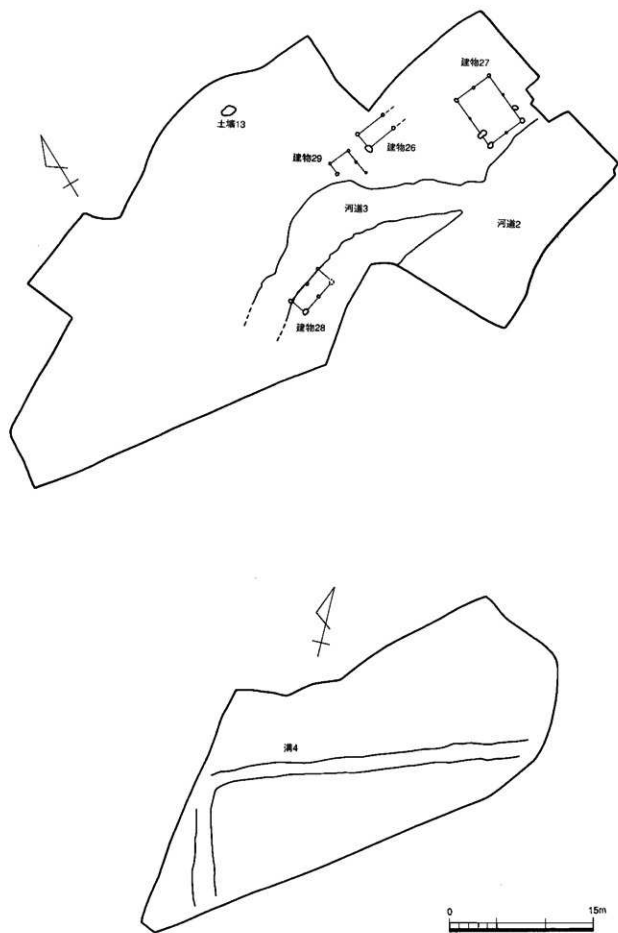
この節では平安時代末から便宜的に「中世」と呼ぶが、これは様相がそれ以後の時代と共通する要素が大きいと判断したことによる。年代は12世紀~16世紀代と想定している。

(1) 掘立柱建物

建物19(第50図)



第10図 平安時代末の遺構(1) (S=1/400)



第11図 平安時代末の遺構(2) (S=1/400)

A区の南側に位置する。現状で桁行き4間（8.7m）、梁間1間（5.5m）であるが、調査区のさらに東南側へ広がる可能性を持つ。柱間は桁間が7尺（東側）と8尺（西側）、梁間が18尺を指向していると思われる。柱穴からは華人の礎が多数出土した。また、P1の底には平たい石を数個置いており、柱の根石に使った可能性がある。後述する溝3と軸が合うことや図示した土器から平安時代末に属すると考えたが、柱穴の掘り方が長楕円形をしていることや梁間が長いことから江戸時代にまで下る可能性がある。

建物20（第50図）

A区の北側に位置する。桁行き3間（6.4m）、梁行き2間（3.7m）である。建物21および23と切り合い関係にある。平面形は長方形である。柱間は桁間は7尺、梁間は6尺を指向していると思われる。P7とP8の間の柱穴は検出することが出来なかった。柱穴より出土した土器から平安時代末に属すると考えられる。

建物21（第51図）

A区の北側に位置する。桁行き5間（13.6m）、梁行き2間（5.4m）である。建物20および23と切り合い関係にある。平面形は長方形である。柱間は共に9尺を指向していると思われる。馬場遺跡の建物の中で最も大きい建物である。柱穴から出土した土器は多く、これらの土器から平安時代末に属すると考えられる。

建物22（第52図）

A区の北西隅に位置する。現状で、桁行き3間（5.9m）、梁行き1間（2.2m）である。柱間は桁間が6尺、梁間が7尺を指向していると思われる。建物の軸が後述する溝2と合うことと柱穴より出土した土器から平安時代末の可能性があると判断した。

建物23（第52図）

A区の北側に位置する。建物20および21と切り合い関係にある。桁行き2間（6.9m）、梁行き1間（4.0m）である。平面形は長方形である。柱間は桁間が11尺（東側）と12尺（西側）、梁間が13尺を指向していると思われる。P6は2つのピットがつながったような形をしているが、中から土器が出土した。柱穴より出土した土器から平安時代末に属すると考えられる。なお、南側には後述する溝5がある。軸がほぼ一致することから溝5は建物23に伴うと考えられる。

建物24（第53図）

A区の北側中央に位置する。一部検出できなかった柱穴があるが、桁行き3間（6.5m）、梁行き2間（4.6m）と考えられる。平面形は長方形である。柱間は桁間が6尺と8尺、梁間が8尺を指向していると思われる。P7があることから、建物の中に梁を支える柱があったと考えられる。柱穴より出土した土器から平安時代末に属すると考えられる。

建物25（第53図）

A区の北東隅に位置する。調査区の更に東側へ続くが、現状で桁行き1間（2.0m）以上、梁行き1間（3.6m）である。平面形は長方形であると思われる。柱間は桁間が7尺、梁間が12尺を指向していると思われる。柱穴からは遺物が出土しなかったが、建物の軸が後述する溝2・3とは合うことから、平安時代末に属すると考えられる。

建物26（第54図）

C区の中央に位置する。現状で桁行き1間（3.3m）以上、梁行き1間（1.8m）である。平面形

は長方形の可能性はある。柱間は桁間が11尺、梁間が6尺を指向していると思われる。後述する建物27と軸が合うことや柱穴より出土した土器から平安時代末に属すると考えられる。

建物27 (第54図)

C区の東側に位置する。桁行き3間(6.0m)、梁行き2間(4.2m)である。平面形は南北に長い長方形である。柱間は桁間が6尺と8尺、梁間が7尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器から平安時代末に属すると考えられる。

建物28 (第55図)

C区の西側に位置する。現状で桁行き2間(4.2m)以上、梁行き1間(2.1m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が北と南で若干柱の位置が異なるが6尺、8尺、9尺、梁間は7尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器から平安時代末に属すると考えられる。

建物29 (第55図)

C区の中央やや東よりに位置する。現状で桁行き2間(3.0m)以上、梁行き1間(2.4m)である。平面形は南北に長い長方形である。柱間は桁間が5尺、梁間が8尺を指向していると思われる。柱穴より出土した土器や建物27と軸が合うことから平安時代末に属すると考えられる。

建物30 (第65図)

C区の中央東よりに位置する。桁行き4間(9.9m)、梁行き1間(4.2m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が東から7、7、10、9尺と揃っていない可能性があり、梁間が14尺を指向していると思われる。後述する建物31とは切り合い関係にあるが、先後は不明である。柱穴より出土した土器から鎌倉時代に属すると考えられる。

建物31 (第66図)

C区の中央東よりに位置する。一部検出できない柱穴があったが、現状で桁行き3間(9.9m)以上、梁行き1間(4.2m)である。平面形は長方形である。建物30と切り合い関係にある。柱間は桁間が11尺、梁間が14尺である。建物30とは梁間が一致することから、建物30と31は先後は不明であるが建て替えのある一つの建物ではないかと思われる。柱穴より出土した土器から鎌倉時代に属すると考えられる。

建物32 (第66図)

C区の東よりに位置する。現状で3間(6.0m)×1間(2.4m)以上であるが、南側へ広がると思われる。柱間は4尺と8尺を指向していると思われる。P2とP3の両が他の柱間の半分(4尺)であることから、東側に土間または庇が付く建物の可能性がある。建物35と切り合い関係にあるが、先後は不明である。P3が建物30のP4を切っていることから、建物30よりも新しいが柱穴が長楕円形ではないことから、江戸時代までは下る可能性が低いと考えたので、室町時代の可能性を持つと考えた。

建物33 (第66図)

C区の西側に位置する。桁行き2間(5.1m)、梁行き1間(2.1m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が8尺と9尺、梁間が7尺を指向していると考えられるが、柱間の間隔は北側と南側で長い部分が逆になっている。柱穴から土器は出土しなかったが、建物32と軸がほぼ同じなので、建物32と同時期の室町時代の可能性を持つ。

建物34 (第67図)

C区の北西側に位置する。桁行き2間（3.0m）、梁行き1間（2.1m）のやや小規模である。平面形は長方形である。柱間は桁間が5尺、梁間が7尺を指向していると思われる。西側の梁と軸を合わせるように櫓6があるので、建物34と櫓6はほぼ同時期の可能性がある。柱穴から土器は出土しなかったが、建物32と軸がほぼ同じなので室町時代の可能性を持つ。

建物35（第67図）

C区の東側に位置する。桁行き2間（4.8m）、梁行き1間（3.6m）である。平面形は南北に長い長方形である。柱間は桁間が8尺、梁間が12尺を指向していると思われる。建物32と切り合い関係にある。柱穴から第98図17の同一個体の可能性のある陶器の壺が出土したことから、室町時代に属すると考えられる。

(2) 櫓

櫓5（第52図）

A区の中央北側に位置する。建物23の南側にあり、長さは2間（5.4m）である。柱間は9尺を指向している可能性がある。建物23に伴うことや柱穴より出土した土器から平安時代末に属すると思われる。

櫓6（第67図）

C区の北西側に位置する。建物34の北側にあり、長さは2間（3.3m）である。柱間は5尺半を指向している可能性がある。柱穴から土器は出土しなかったが建物34に伴うことから室町時代の可能性を持つ。

(3) 溝

溝2（第56、58図）

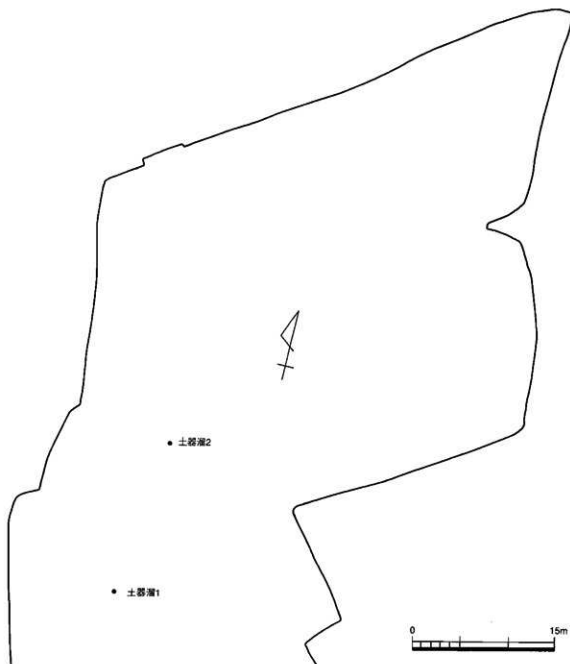
A区の中央やや西よりに位置し、北北西に延びる溝である。長さ約25m、最大幅約1.5m、最大の深さ約0.9mである。溝の断面形はじ字形である。溝の埋土には拳大の礫を含む。溝3との間には陸橋状の部分がある。第1層（暗茶褐色土）を中心に多くの土器が出土した。

溝3（第57、58図）

A区の南側に位置し、溝2同様に北北西に延びる溝である。長さ約25m、最大幅2.3m、最大の深さ約1mである。溝の断面形は浅いU字形であるが、溝2よりも二段になる部分が多い。北よりの部分には長さ約1.5mにわたって約0.4mほど東側へ張り出す部分がある。何度も精査したり断ち割りを行ったが、溝2との間は約3.8mほど切れている。南よりの部分には溝の東端に平たい石を列状に置いてある部分があった（第57図M-N、第58図）。目的や用途は不明である。細長い石を中心に置いている。溝の断面を見ると、特にG-H部分では顕著であるが、溝がある程度埋まった後に再掘削され、その後第1層（濁茶褐色土）が堆積した可能性がある。溝2同様、第1層から多くの土器が出土した。

溝4（第59、60図）

B区の中央に位置する。B区の北西端で東へ弧を描きながら屈曲し、北北東の方向へ延びる。総延長は約45m、最大幅約2.3m、最大の深さ約1mである。B区の南端の部分では西側に段を持ち、この部分ではやや幅が広がる。溝の底のレベルは、屈曲部が最も高く、南、東ほど低くなる。溝2、3とは異なり、調査の際には湧水が見られ、常時電動ポンプで排水を行わなければ調査に支障を来すほどであった。東端の上層部（第59図K-L、第60図）では、第6、7層を切り込んで第5



第12図 縄倉時代の遺構 (S=1/400)

層 (A-B~I-J までの第1層) が堆積しており、溝3同様に再掘削された可能性を持つ。土器は溝2、3ほど多くはなかった。

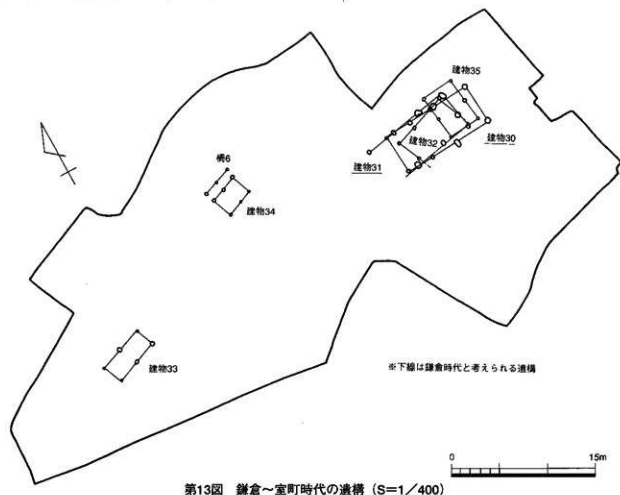
(4) 河道

河道2、3 (第62~64区)

C区の中央から南側に位置する。埋土が砂礫で構成されており、一抱えもあるような礫が多数含まれていることから溝ではなく河道であると判断した。第24区E~Fでは、河道2の第8層を河道3の第25層が切っている。

河道2はC区の南端を西から東へ流れていたと考えられる。埋土は粗砂~砂礫である。北側の岸のみ確認することが出来た。検出した部分は長さ約20m、幅約10mである。わずかではあるが東が低くなっていた。河2からは大量の土器が出土した。

河道3はC区の中央から南東にかけて位置する。西の端は不明瞭であったが、調査区の西へ続く



第13図 鎌倉～室町時代の遺構 (S=1/400)

と考えられる。河道2を切り込んで南東へ流れていた。検出した部分は長さ約20m、幅約3～6mである。傾斜は比較的急である。遺物は河道2より少なかった。埋土の上層からは瓦質の火鉢や摺鉢、こね鉢、唐津の碗や陶胎染付が出土したことから、河道3は最終的には近世に埋まったと考えられる。河道2を完掘した後、調査区の南側で杭1～6を検出した（第63図）。これは河道2の西壁の土層から見ると（第64図）、第24層の堆積によって折られたと考えられるので、河道2の北岸に打ち込まれたものであると考えられる。杭はそれぞれ0.7～0.8mおきに打たれていた。また、杭6から約3mほど南東に杭7を検出した。周囲に他の杭は見つからなかったため、杭7は単独で存在した可能性がある。

(5) 土壌

土壌11（第61図）

A区の南側で検出した。平面形は円形である。埋土は1層である。図示しなかったが、土壌内より古代の須恵器や中世土師器が出土した。古代の須恵器があることから、平安時代～幅を持たせて平安時代末に属すると考えられる。

土壌12（第61図）

A区の中央東よりで検出した。平面形はほぼ円形である。埋土は1層である。中より拳大～人頭大の角礫が多く見つかった。土壌内より中世土師器が出土したことから平安時代末に属すると考えられる。

土壌13（第61図）

C区の北端で検出した。平面形は楕円形である。浅いが二段掘りである。埋土は1層である。土城内より中世上師器が出土したことから平安時代末に属すると思われる。

(6) 土器溜

土器溜1 (第56、86図)

溝2の検出の際に検出した。溝2の南側の部分に土師器の皿を重ねて、北から南へ倒れたような形で検出した。合計で皿は28点である。南側の部分(重ねた皿の上の部分)には皿A類が、北側(下の部分)には皿B類が多いようである。溝2の検出面から見つかったことから、溝2が埋まった後に何らかの目的で皿が重ねられて、それが倒れたと考えられる。平安時代末の溝である溝2が埋まった後に土器溜1が形成されたので、鎌倉時代に属すると考えられる。

土器溜2 (第29、86図)

A区の中央やや北側、建物5の南西側で検出した。土器溜1のように重ねて置いたのかもしれないが、土圧などにより不規則に倒れたと考えられる。土師器の皿が合計15点出土した。完形の個体は土器溜2の方が多い。土器の形がほぼ同じなので、土器溜1同様鎌倉時代に属すると考えられる。

第4節 近世(江戸時代)の遺構

近世の遺物は全ての調査区から出土したが、遺構はA区の中央より北側で検出した。

(1) 掘立柱建物

建物36 (第68図)

A区の東側に位置する。桁行き4間(8.5m)、梁行き1間(4.7m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が7尺、梁間が16尺を指向していると思われる。柱穴の中には拳大の礫が詰まっているものが多かった。P9の周辺は柱穴に気づかなかったので掘りすぎてしまった。また、柱穴は長軸が1~1.5mの比較的大きな楕円形または隅丸長方形で、梁間が長い。これらの特徴は以下で述べる馬場遺跡の近世の建物に多いので、柱穴からは近世の遺物はわずかしか出土しなかったが、近世の可能性が強いと考えた。

建物37 (第69図)

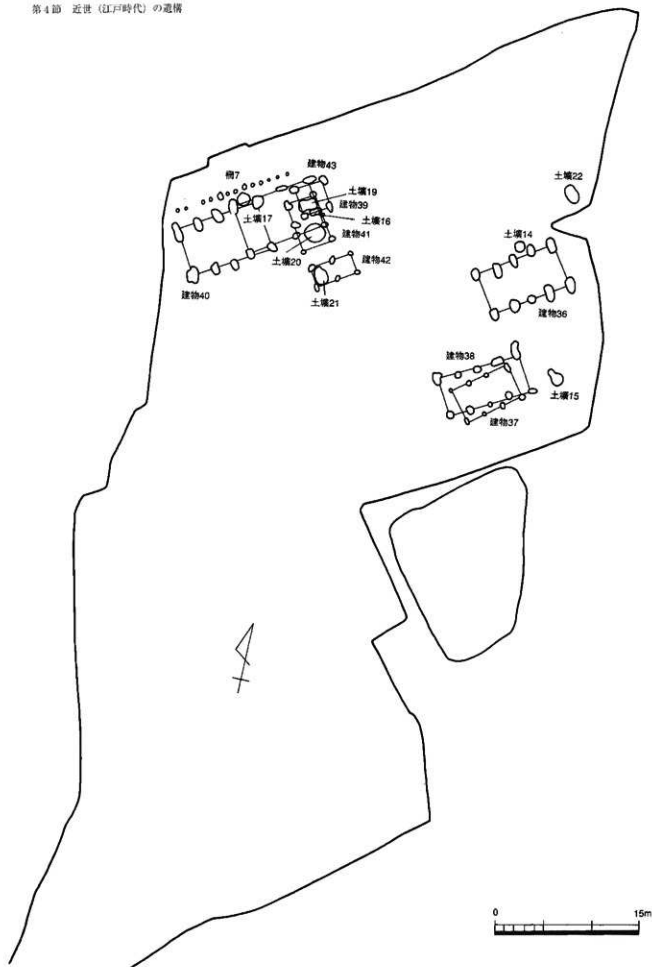
A区の東側、建物36の南側に位置する。桁行き3間(6.4m)、梁行き1間(3.7m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が7尺、梁間が12尺を指向していると考えられる。柱穴はP1とP5が長楕円形、それ以外はほぼ円形である。柱穴より出土した土器から江戸時代(17世紀代)に属すると考えられる。後述する建物38と重複するが、先後は不明である。

建物38 (第69図)

A区の東側、建物36の南側に位置する。桁行き4間(8.8m)、梁行き1間(4.1m)である。平面形は長方形である。建物37と重複する。柱間は桁間が7尺、梁間が13尺を指向していると考えられる。建物38も柱穴の内P1とP5が長楕円形で、それ以外はほぼ円形である。柱穴の中には拳大の礫が詰まっているものが多かった。柱穴より出土した土器から江戸時代(17世紀代)に属すると考えられる。

建物39 (第70図)

A区の北西側に位置する。桁行き、梁行きともに1間である(3.3m×3.1m)。平面形は正方形に近い。柱間は共に10尺を指向していると思われる。P4からは約15cmほどの柱痕が検出された。図



第14図 江戸時代の遺構(1) (S=1/400)

がしなかったが、柱穴より出土した土器から江戸時代に属すると考えられる。

建物40 (第70図)

A区の北西隅に位置する。桁行き4間(8.9m)、梁行き1間(5.3m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が7尺で一番東の桁間は8尺、梁間は18尺を指向していると考えられる。柱穴はほとんどが長楕円形か隅丸長方形であり、P1とP6は特に大きい。また、P5とP9の中には中途に一抱えもある門礫を置いており、柱を受けるのに使った可能性がある。P2とP8の中には拳大の礫が多く詰まっていた。柱穴より出土した土器から江戸時代(18世紀代)に属すると考えられる。

建物41 (第71図)

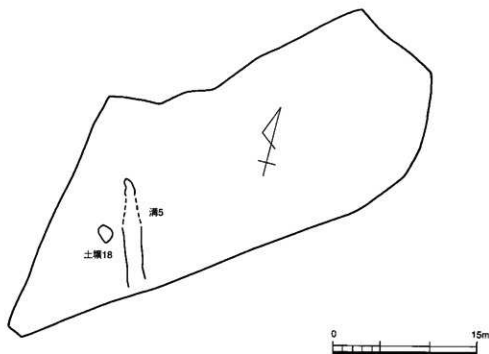
A区の北側やや西よりに位置する。桁行き2間(4.5m)、梁行き1間(3.0m)である。平面形は南北に長い長方形である。柱間は桁間が8尺、梁間が10尺を指向していると思われる。建物39と重複するが、先後は不明である。柱穴の大きさや形は揃っていない。柱穴からは土器が出土しなかったが、建物40と軸が合うことから江戸時代に属する可能性があると判断した。

建物42 (第71図)

A区の北側やや西より、建物41のすぐ南側に位置する。桁行き2間(4.5m)、梁行き1間(2.1m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間、梁間ともに7尺を指向していると思われる。柱穴の大きさや形は揃っていない。柱穴の深さがやや浅いように見えるが、これは精査の際に調査員の不注意により深めに削ってしまったことによる。柱穴からは土器が出土しなかったが、建物40と軸が合うことから江戸時代に属する可能性があると判断した。

建物43 (第72図)

A区の北西隅に位置する。桁行き3間(8.1m)、梁行き1間(5.2m)である。平面形は長方形である。建物39、40と重複するが、先後は不明である。柱間は桁間が西側のみが8尺でほかは10尺、



第15図 江戸時代の遺構(2) (S=1/400)

梁間が17尺を指向していると思われる。柱穴は長楕円形のものが多い。P1とP2は長楕円形であるが、桁間に平行する方に長軸のある長楕円形の柱穴である。柱穴からは土器が出土しなかったが、建物40と軸が合い、柱穴を一部共有することから江戸時代に属する可能性があると判断した。

(2) 櫓

櫓7（第73図）

A区の北西隅に位置する。直径約0.5～0.8mのほぼ円形の穴が約1mおきに検出された。深さはやや浅く、0.2m程度であった。全部で12の穴を検出したが、これらの穴は一つの櫓と言うよりも、三つの建物群の変遷に伴う三つの櫓であると解釈した。先後は不明であるが、便宜的にA～Cの三つに分ける（第74図）。

①櫓7A 4間（10.8m）の櫓。柱間は9尺を指向すると考えられる。櫓7のP1が建物39の西壁（P2-P3）の線上に位置し、建物39の北壁と建物40の北側の梁行きがほぼ線上に位置するので、建物39、40、櫓7Aが一つのまとまりにあると解釈した。

②櫓7B 4間（10.8m）の櫓。柱間は9尺を指向すると考えられる。建物41の西側の桁行きと建物42の西側の梁行きが線上にあり、その延長線上に櫓7のP2が位置することから、建物41、42、櫓7Bが一つのまとまりにあると解釈した。ただ、建物41、42の軸と櫓7Bの軸は一致しない。

③櫓7C 2間（5.4m）の櫓。柱間は9尺を指向すると考えられる。建物43に伴う可能性がある。

(3) 溝

溝5（第75図）

B区の西側に検出した。現状で長さ約5.6m、幅約1m、深さは浅く約0.2mである。埋土は淡黄灰色砂質土である。B区の南へ伸びるがA区では検出できなかった。溝のほぼ中央に人頭大の角礫を一列に並べているのが検出された。この石列は東側の面を描えるようにしており、もともとは何段にも積まれた石垣のような施設であったのかもしれない。B区の包含層の中から掘り込まれていたこと、および肥前系磁器の碗や陶胎染付の碗が出土したことから江戸時代（18世紀代）に属すると考えられる。

(4) 土壌

土壌14（第75図）

A区の東側、建物36のP3とP4の間で検出した。平面形は楕円形である。埋土は1層である。土壌内には拳大の石が数個落ち込んでいた。土壌内より肥前系陶器の皿が出土したので江戸時代（18世紀代）に属すると思われる。石があることとやや深い（約0.75m）ことから墓の可能性がある。

土壌15（第75図）

A区の東側で検出した。平面形は楕円形である。南側の部分が一段深くなっている。埋土は2層である。図示しなかったが土壌内より陶胎染付の碗の破片が出土していることから江戸時代に属すると思われる。

土壌16（第75図）

A区の中央北側で検出した。平面形は隅の丸い長方形である。図示しなかったが土壌内より出土した土器から江戸時代に属すると思われる。

土壌17（第75図）

A区の北西隅、建物40のP1とP2の間で検出した。平面形は楕円形である。当初は攪乱と考慮して掘っていたため土層を測らなかつた。土壌の北側が一段深くなっている。土壌内より八角鉢や筒茶碗、肥前系の甕などが出土したので江戸時代（18世紀代）に属すると考えられる。

土壌18（第75図）

B区の南西側で検出した。平面形は楕円形である。埋土は2層である。底まで掘り下げると水が湧いてきた。比較的上面から確認できたことや埋土がB区の他の土壌と異なつたことから江戸時代に属すると考えられる。

土壌19（第76図）

A区の北側中央で検出した。平面形は隅の丸い長方形である。埋土は4層である。建物41に囲まれていることから江戸時代に属する可能性がある。

土壌20（第76図）

A区の北側中央、土壌19の南東で検出した。平面形はほぼ円形である。埋土は3層で全体的に粘質であった。南側には段が付いている。土壌内より磁器の皿や焙烙などが出土したことから江戸時代に属すると考えられる。土壌19、20は建物41に囲まれていることから一連の遺構の可能性がある。

土壌21（第76図）

A区の中央北側、土壌20の更に南で検出した。建物42に囲まれる。平面形は長楕円形である。埋土は3層である。土壌の中程から拳大～子供の頭大の石を検出した。東側が一段深くなっている。図示しなかつたが近世の陶磁器の破片が出土したことから江戸時代に属すると考えられる。

土壌17、18、20は平面形が楕円形で深さが約0.7～0.8mと共通していることから、性格は不明であるが用途を同じくしていた可能性が高いと思われる。

土壌22（第61図）

A区の北西側で検出した。平面形は長楕円形である。調査時に掘りすぎてしまったので埋土を確認することは出来なかつた。図示しなかつたが土壌内より近世の陶磁器の破片が出土したことから江戸時代に属すると考えられる。

第5節 時期不明の遺構

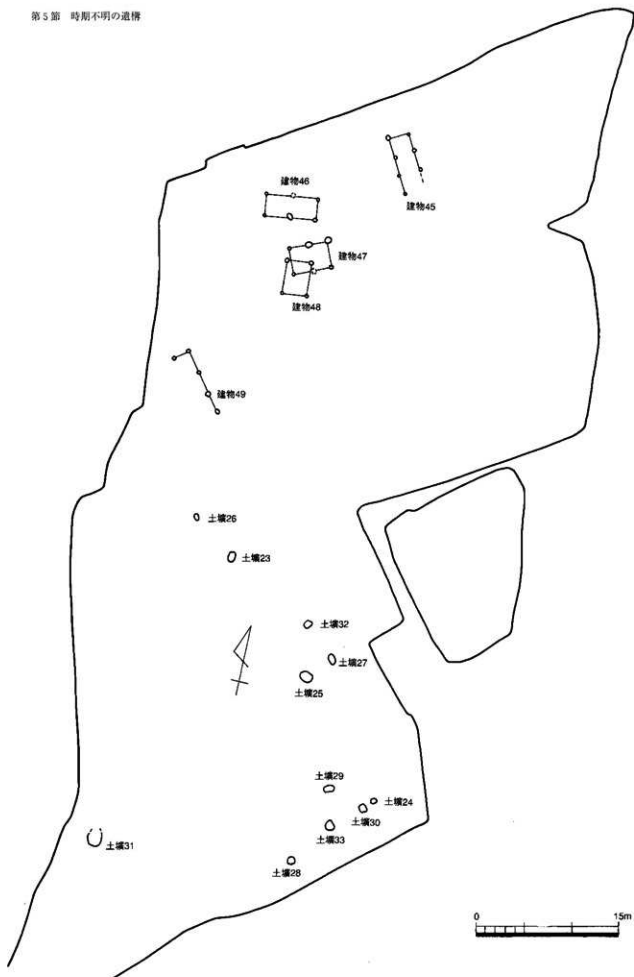
(1) 掘立柱建物

建物44（第77図）

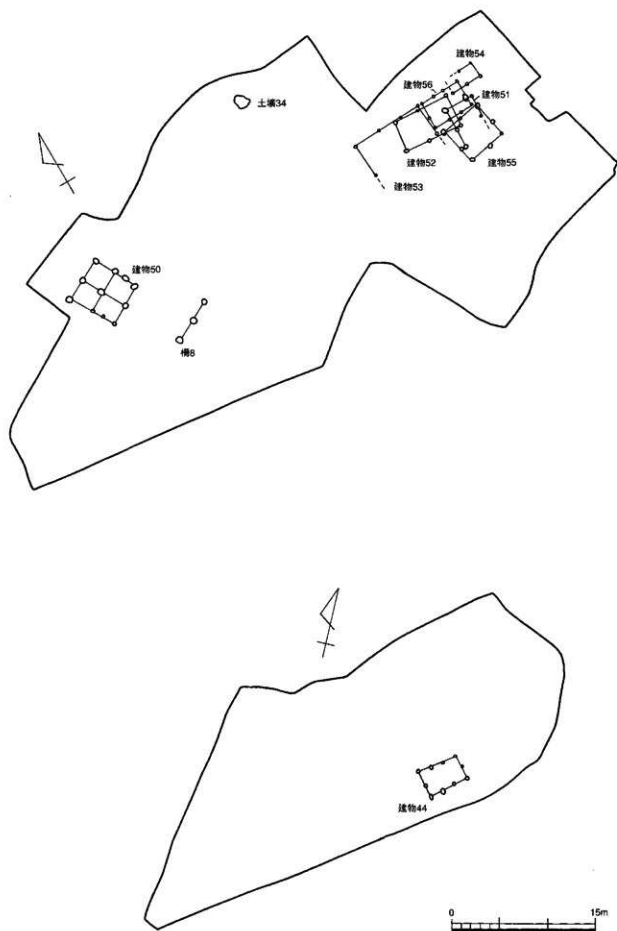
B区の中央やや南側に位置する。桁行き3間（4.2m）、梁行き2間（3.0m）である。平面形は長方形である。柱間は桁間、梁間共に4.5尺を指向していると思われる。P1は溝4の中にあるが、溝4との先後関係は分からなかつた。柱穴からは須恵器や土師器の小片が出土したが、柱間が4.5尺を指向している可能性があることや土軸がむしろ江戸時代の建物と近いことから、時期を決定することを保留し時期不明の遺構と判断した。

建物45（第77図）

A区の中央北側に位置する。現状で桁行き3間（6.0m）、梁行き1間（2.2m）である。平面形は南北に長い長方形である。柱間は桁間、梁間ともに7尺であるが、桁間の北側の部分は6尺を指向していると思われる。建物11と重複するが、先後は不明である。柱穴から遺物が出土しなかつたので時期は不明である。



第16図 時期不明の遺構(1) (S=1/400)



第17図 時期不明の遺構(1) (S=1/400)

建物46 (第78図)

A区の北側に位置する。桁行き2間(5.4m)、梁行き1間(2.4m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が9尺、梁間が8尺を指向していると思われる。建物39と重複するが先後は不明である。柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明である。

建物47 (第78図)

A区の北側、建物46の南に位置する。桁行き2間(4.1m)、梁行き1間(2.9m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が7尺、梁間が9尺を指向していると思われる。後述する建物48と重複する。柱穴の一つが土壁21に切られているので江戸時代以前と考えられるが、柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明である。

建物48 (第78図)

A区の北側、建物46の南に位置する。桁行き、梁行きともに1間である(3.5m×2.6m)。平面形は南北に長い長方形である。柱間は8尺と12尺を指向していると思われる。建物46と軸が一致する。柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明である。

建物49 (第41図)

A区の西端に位置する。一部の柱穴しか検出できていないが現状では1間(1.6m)×3間(7.1m)である。調査区の更に西側へと続くと思われる。柱間は5尺と8尺を指向していると思われる。建物10と重複し一部の柱穴を共有するが、建物10との先後は不明である。柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明である。

建物50 (第79図)

C区の北西隅に位置する。桁行き、梁行きともに2間×2間(4.8m×4.8m)の総柱建物である。平面形は正方形である。柱間は8尺を指向していると思われるが、P4とP6、P8とP10の間にはそれぞれP5、P9が柱間の中間に位置しているので、この部分は4尺と思われる。柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明であるが、平面が正方形の総柱建物であることから奈良～平安時代の可能性がある。

建物51 (第79図)

C区の東側に位置する。一部の柱穴しか検出できなかったが、現状で桁行き2間(4.8m)以上、梁行き1間(3.0m)である。建物52、55、56と重複するが先後は不明である。平面形は南北に長い長方形である。柱間は桁間が8尺、梁間が10尺を指向していると思われる。柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明である。

建物52 (第80図)

C区の東側に位置する。桁行き2間(6.0m)、梁行き1間(3.3m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が8尺と12尺、梁間が11尺を指向していると思われる。P1とP6は2段掘りになっている。柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明である。

建物53 (第80図)

C区の東側に位置する。一部の柱穴しか検出できなかったが、現状で1間(3.6m)以上×3間(7.8m)である。柱間は12尺×10尺、9尺、7尺(西から)を指向していると考えられる。柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明である。

建物54 (第80図)

C区の東側に位置する。一部の柱穴しか検出できなかったが、現状で桁行き2間(3.3m)以上、梁行き1間(1.8m)である。平面形は長方形である。柱間は桁間が5尺と6尺、梁間が6尺を指向していると思われる。P1とP2は二段掘りである。柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明である。

建物55 (第81図)

C区の東側に位置する。桁行き、梁行きともに2間(4.6m×3.9m)である。ほぼ正方形の建物であるが僅かに長い方を桁行きとすると、柱間は桁間が7.5尺、梁間が5尺と8尺を指向していると思われる。P1には柱根が残っていた。柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明である。

建物56 (第81図)

C区の東側に位置する。桁行き3間(4.5m)、梁行き2間(3.0m)である。平面形は長方形である。柱間は変則的で、桁間が西から5尺、4尺、6尺、梁間は4尺と6尺を指向していると思われる。柱穴から遺物が出土しなかったので時期は不明である。

(2) 欄

欄8 (第82図)

C区の北西に位置する。2間(4.8m)である。柱間は8尺を指向していると思われる。土器が出土しなかったので時期は不明である。

(3) 土壌

土壌23 (第82図)

A区のほぼ中央で検出した。平面形は長方形である。底に平たい石を置いている。検出面から浅いので削平された可能性がある。土器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌24 (第82図)

A区の南東隅で検出した。平面形は楕円形である。埋土は1層である。土壌の中や周囲からは拳大〜人頭大の石が見つかった。土器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌25 (第82図)

A区の中央南側で検出した。平面形は楕円形である。土壌内から拳大の石が検出された。検出面から浅いので上面が削平された可能性がある。土器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌26 (第82図)

A区の中央西側で検出した。平面形は楕円形である。埋土は2層である。底には平たく大きな石を置いていた。土器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌27 (第82図)

A区の南側で検出した。平面形は楕円形である。調査時の不注意で西側の下場を掘りとばしてしまった。埋土は2層である。土器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌28 (第82図)

A区の南端付近で検出した。平面形は隅の丸い正方形である。土器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌29 (第82図)

A区の南東隅付近で検出した。建物19のP4と重複しているが、建物の検出時に土壌29が確認できていなかったため、先後は不明である。平面形は楕円形と思われる。中程が深くなっている。土

器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌30 (第82図)

A区の南端で検出した。平面形は楕円形である。土器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌31 (第82図)

A区の南西隅で検出した。検出時は土壌の北側に調査区の壁があったため、北側を確認することが出来なかった。河道1を切っているので、縄紋時代よりは新しいと考えられる。埋土は6層である。土器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌32 (第61図)

A区の中央やや南側で検出した。土壌9に隣接する。平面形は楕円形である。埋土は1層である。検出面付近に平たく大きな石を検出した。土器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌33 (第61図)

A区の南側で検出した。平面形は楕円形である。土壌内や周辺から拳大の石を検出した。土器が出土しなかったので時期は不明である。

土壌23～26、33は規模の大小はあるがいずれも拳大～人頭大の石を伴うので、墓の可能性はある。

土壌34 (第61図)

C区の北側で検出した。土壌13の東側に位置する。平面形はいびつな楕円形である。埋土は2層である。土壌の中段は二段に掘り込まれている。土器が出土しなかったので時期は不明である。

第4章 遺物

第1節 土器の分類

馬場遺跡からは縄紋土器から近世陶磁器までコンテナ合計約250箱の上器が出土した。遺構に伴うものは少なく、包含層出土のものが多かった。この報告では、時間と労力の関係で分類と出土点数の数量の算出を中心に行った。そのため掲載した土器は代表的なものに限っている。出土した土器の点数は表15～18、21に表している。

(1) 縄紋土器・弥生土器・古墳時代の土師器

縄紋土器は点数自体が少なくかつ時期や部位が分かるものが少なかったため、時期の分かるものについては前期・中期・後期・晩期と大別し、そうでないものは調整によって分類した。弥生土器や古墳時代の土師器も点数が少なかったため弥生中期・後期・古墳前期に大別し、さらに器種や形態の特徴によって細分した。

(2) 古代の土器（古墳時代末～平安時代）

(a) 須恵器

古墳時代末の蓋 ハラケズリを天井部の周辺のみ行うハラケズリを省略する。

奈良・平安時代のもものは口縁部の形態で三分した。

蓋Ⅰ類 口縁部の内側にかえりを持つ。

蓋Ⅱ類 口縁部が下方に折れ曲がる。

蓋Ⅲ類 口縁部付近で緩やかに屈曲し、端部はⅡ類のように折れ曲がらない。

高坏 脚部は緩やかに開き、透かしを二方向に開ける。坏部の形態が分かるものは少ない。

古墳時代末の坏 口縁の立ち上がりが短い。

奈良・平安時代の坏は高台の有無で大別し、体部の形態で細分した。底部は回転糸切りがほとんどである。

坏Ⅰa類 高台を持ち、体部は緩やかに屈曲する。高台は比較的高い。

坏Ⅰb類 高台を持ち、体部は直線的に口縁部へ至る。高台は低く、体部と底部の境のやや内側に付ける。

坏Ⅱa類 高台を持たず、体部は直線的に口縁部へ至る。

坏Ⅱb類 高台を持たず、体部は緩やかに屈曲して口縁部へ至る。口縁端部は丸いものよりアクセントを持つものが多い。

皿 高台を持つものと持たないものがある。どちらも体部は短く直線的に口縁部へ至る。底部は回転糸切りがほとんどである。

壺 頸部の形態で長頸壺、短頸壺など大別した。底部は高台を持つものと持たないものがある。点数は少ないが、小形の壺や平瓶、横瓶などがある。

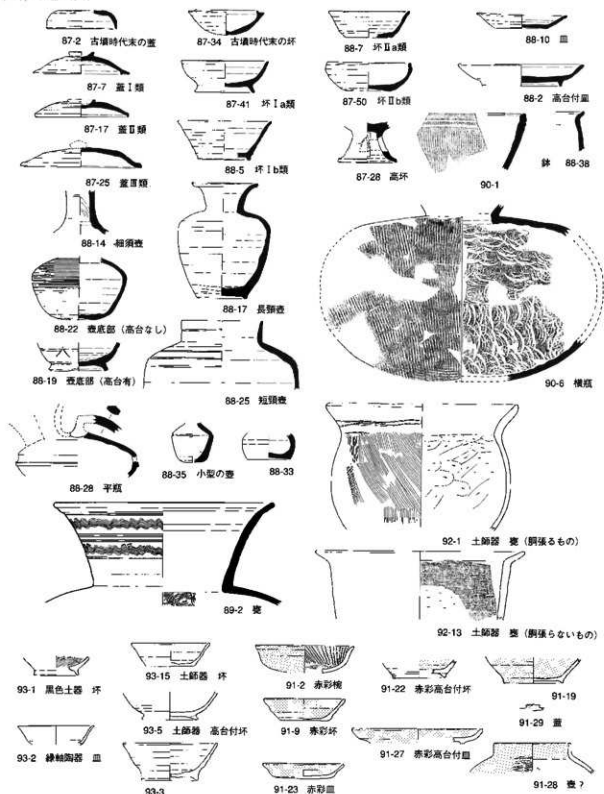
甕 破片は多かったが個体数としては少ないと思われる。

鉢 形の分かるものは少ない。大型のものや小型のものがある。

(b) 土師器

甕 胴が張り口径と胴径がほぼ同じものと、胴が張らずに口径が最も大きいものがある。いずれも炭化物が厚く付着しているので煮炊具として用いられたと考えられる。

第1節 土器の分類



第18図 馬場遺跡出土土器分類図(1) (S=1/6)

平底で体部が直線的なものを坏と呼ぶ。高台を持つものと持たないものがある。

高台付坏 口径は比較的大きく、体部は直線的かわずかに丸みを帯びる。高台は低く断面が三角形のものが多い。

坏 平底で体部は直線的である。底部の調整はハケヤナデである。

(c) 赤彩土師器 土器の内外面に赤色物を塗った土師器である。土師器の坏と比べて精製された

胎土を用いる。形態により碗、坏、皿に大別し、高台の有無で細分した。

赤彩碗 底部と体部の境が曲線的で、底部がやや突出気味のを碗とした。内面にヘラミガキによる暗文を持つものがある。

赤彩坏 土師器の坏同様平底で体部が直線的のを坏とした。土師器の坏と形態がほぼ同じである。底部の調整も同様ハケやナデである。高台を持つものは体部の形がよくわからなかった。

赤彩皿 碗や坏と比べて器高の低いものを皿とした。高台を持つものと持たないものがあるが、高台を持つものは底部と体部の境が曲線的である。高台を持たないものは平底である。

その他 点数は少ないが壺や蓋のつまみ部と考えられるものがある。

(3) 中世の土器 (平安時代末～室町時代)

(a) (中世) 土師器

馬場遺跡で最も出土点数の多かったのがこの時代の土師器、特に平安時代末(12世紀代)の土師器である。形態により坏、皿に大別し、更に高台の有無によって分けた。

坏 口径約15cm、器高、底部径ともに約5～6cmのものが中心である。底部はほとんどが回転糸切りである。外面は轆轤成形の痕が明瞭に残る。形態の特徴を表現するために底部の形や口径端部に着目して分類した。

A類 体部が緩やかに湾曲する。

B類 体部が直線的である。

a類 底部が突出しない。

b類 底部が突出する。

1類 口径端部を丸くおさめる。

2類 口径端部が先細りで尖り気味である。

3類 口径端部が外側へ折れる。

4類 口径端部が内側に肥厚する。

形態の特徴を記述すると煩雑なので、便宜的に「A a 1」「B b 1」のように表現した。

高台付坏 口径や体部の特徴は坏とほぼ同じである。高台は直線的で高いものと低いものがある。

皿 口径約8～9cm、器高約2cm、底径約4cmのものが中心である。底部はほとんどが回転糸切りである。形態の特徴に着目して分類した。

A類 体部が曲線的なもの。

A 1類 厚手で底径がやや大きい。

A 2類 A 1類に比べてやや薄手で口径部が先細りか尖る。

A 3類 底部が高台状に立ち上がる。

B類 体部が直線的なもの。

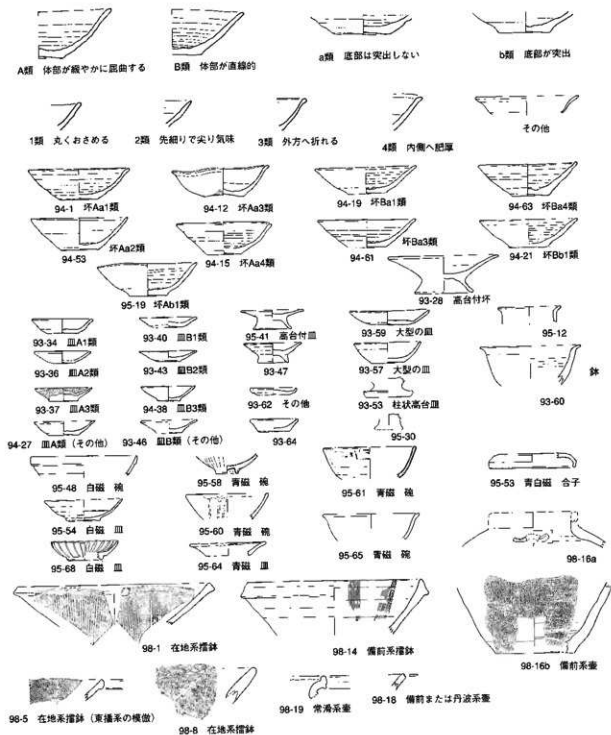
B 1類 厚手のもの。

B 2類 薄手のもの。

B 3類 薄手で底部が高台状に立ち上がる。

大型の皿 皿よりも大きく、口径約11cm、器高約3～4cm、底径約5cmのものが中心である。体部は曲線的である。

高台付皿 皿に比べてやや受け部が浅く、高台は比較的高い。

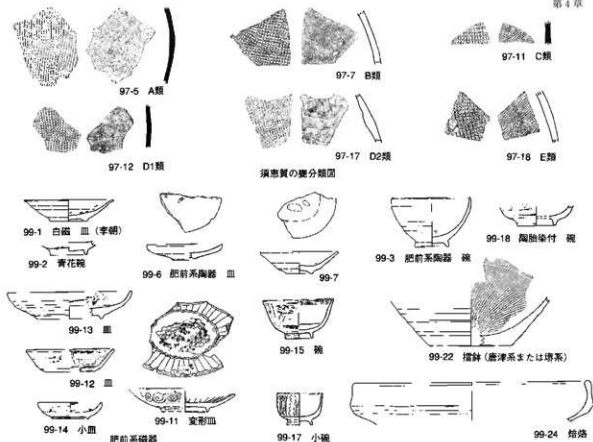


第19図 馬場遺跡出土土器分類図(2) (S=1/6)

柱状高台の皿 皿に比べて量は非常に少ない。底部は回転糸切りである。坏部は通常の皿と区別できなかったので不明である。

鉢 口径が大きく口縁部で屈曲する。点数は非常に少ない。

なお、坏や皿には上記の分類に当てはまらないものが存在する。それらは「その他」と記した。また、色調はおおまかに淡灰褐色系、橙褐色系、暗灰色系の三つに分かれるが、色調や胎土による作りわけは見られなかった。



近世陶磁器分類図
第20図 馬場遺跡出土土器分類図(3) (S=1/6)

(b) 磁器

白磁・青磁 碗と皿に大別し、特徴によって細分した。

(c) 陶器

播鉢・こね鉢 胎土と形態の特徴により備前系と在在地系に大別した。さらに後者は口縁部の特徴から東播系の影響を受けたものや備前系の影響を受けたものなどに細分した。

貯蔵具 胎土と形態の特徴により備前系と常滑系などに大別した。なお、須恵質の貯蔵具(甕)の破片が出土したので、表29のようにA～F 2類に分類した。

その他 火鉢がある。

(4) 近世の土器 (江戸時代)

近世の土器はまず磁器と陶器に大別し次に器種によって細分した。なお、器種の名称は通常用いられるものに従った。磁器は肥前系と考えられるもののほかに僅かではあるが輸入磁器や同産の青磁、白磁がある。碗には筒茶碗、広東碗などがある。陶器は肥前系がほとんどであると思われる。ほかにはわずかではあるが陶胎染付や肥前系の播鉢や甕がある。

第2節 土器の説明

この節では代表的な土器の特徴について述べるが、表9 (観察表) や表15～18, 21 (数値表) と合わせて読まれることを希望する。なお、土器の点数は各形態の特徴を持った土器の点数であり、個体の点数や破片点数ではないことを了解されたい。

(1) 縄紋土器・弥生土器・古墳時代の土器（第83、84図）

土器の破片点数は表18のとおりである。これらはいずれも包含層中から出土したが、83-6、8-12、17、34、35はA区の黒曜石を検出する際に出土した。

第83図及び第84図1～14、19は縄紋土器である。1～3は前期の土器である。1は口縁端部に粘土を貼り付けて肥厚帯とし、その上に刺突文を施す。2は部位は不明であるがC字形の刺突を2列以上施す。ともに前期前葉の西川津式と考えられる。3は横方向の沈線の上に縦に刺突を施す。刺突があるので前期と考えた。4～12は中期の土器である。4は口縁端部に円形の刺突を施し、刻目を持つ降帯が斜行する。また、口縁内面には縄紋を施すので船元Ⅱ式と考えられる。5は沈線による円形の区画の中に刺突を施すので北白川C式の可能性がある。6～12は地文が燃糸文なので里木Ⅱ式の可能性がある。12はわずかに上げ底である。13～26は後期の有文土器である。このうち13～24は後期前葉の土器である。いずれも沈線による区画の中に縄紋を施す。14、15は深鉢の突起付近である。22は浅鉢の可能性がある。16、18、22は渦巻き「J」字文と斜行または水平の連繫帯縄紋の部分であることから福田K2式または島式¹⁾に相当すると考えられる。24は双耳壺の取っ手部分である。無文である。25、26は後期後葉の土器である。25は沈線による区画の中は無文である。26は胴部に2条の沈線の上に巻貝を扇形に回転させた文様を持つ。宮滝式と考えられる。27～84-2は後～晩期の粗製深鉢である。このうち27～32は口縁部であるが、丸くおさめるもの(29～32)の他に尖るもの(27)や肥厚するもの(28)がある。胴部の調整もケズリ、条痕、燃糸文などがある。底部は平底(37)や上げ底(38)に加えて丸底がある。84-1、2は端部に刻目を持ちやや肩部で屈曲する。胴部の調整は巻貝条痕の可能性を持つ。3～7、19は晩期の土器である。3は内面から半截竹管状の工具で刺突する。19は頸部がくびれて外面はケズリ調整なので滋賀Ⅲ式と考えられる。4～7は刻目突帯文土器である。6、7は口縁端部と突帯の上を刻み、4、5は突帯の上のみを刻むので前者は突帯文Ⅰ期²⁾、後者はⅡ期に属する。8～13は後～晩期の浅鉢である。9は口縁内面に沈線を持つ。10、11は肩部で屈曲し口縁は短い。12はリボン状突起を持つ。13は方形波状口縁浅鉢である。14は竹管状の工具で刺突を巡らせる。胎土が縄紋土器に近いので縄紋土器と考えたが弥生土器の可能性もある。時期や器種は不明である。

84-20～28は弥生土器と古墳時代の土器である。20～22は弥生中期の土器である。20は凹線文を外面に施し、短頸壺の口縁の可能性もある。21は高坏または器台の脚部である。脚部外面には凹線文を施す。中期後葉(出雲隠岐Ⅳ-1～2様式)と考えられる。23～26は後期の土器である。23～25は壺、26は鼓形器台の下下部である。いずれも貝殻直線文を口縁外面に施す。後期後葉(同Ⅴ-3様式)と考えられる。27は胎土や厚さは23～26と同様であるが文様を持たない。後期末(Ⅴ-4様式)と考えられる。28は古墳時代の土器である。器壁が薄く口縁部は直線的に伸びて端部は外向きに丸くおさめる。后部の文様は摩滅しており不明である。古墳時代前期初頭と考えら

註1 柳浦俊一「山陰地方縄文時代後期初頭～中葉の上器編年—中津・福田K2式土器群、緑帯文土器群の地域編年—」『島根考古学会誌』第17集 pp.169～196 2000。

註2 濱田竜彦「因幡・伯耆の突帯文土器と遠賀川式土器」『突帯文と遠賀川』pp.349～380
土器持寄会論文集刊行会 2000

れる。なお、図示しなかったが単純口縁の甕も出土している。

(2) 古代・中世・近世の土器

(a) 遺構に伴う土器 (第85、86図)

(1) 飛鳥時代の遺構

建物1

1は甕の口縁部の可能性がある。2は二方透かしである。

建物2

3は外面全体にカキメが施されている。壺の口縁部の可能性がある。4は蓋Ⅰ類である。5は土師器の甕である。

建物3

6は蓋であるが型式は不明である。

土壇1

8は蓋A8型に伴うと考えられる坏身である。完形で出土した。

(2) 奈良～平安時代の遺構

建物5

9は混入の可能性がある。A6～7型と考えられる。10、11は坏Ⅱb類の口縁と考えられる。12は壺の肩部である。13～15は赤彩土師器である。

建物6

17は坏Ⅱb類の口縁部と考えられる。16、18は混入の可能性がある。

建物8

19は薄手の口縁部である。坏と思われる。

建物11

21は蓋Ⅰ類である。22は赤彩土師器の坏である。

建物12

20は蓋Ⅰ類である。

建物13

37は土師器の甕である。肩部をわずかに上方へつまみ上げる。

建物16

23は壺の胴部である。丁寧な回転ケズリが施されている。

建物17

40は須志器の坏Ⅱ類の底部である。41～44は土師器の坏である。42はやや口径が小さい。44は底部にナデを施す。

建物18

45は中世土師器の坏である。底部a類である。46は同じく皿である。底部は突出しない。45、46はともに器面が荒れている。

構2

26は土師器の甕である。胴が張り、口縁部は先が尖り気味である。

橢3

25は土師器の甕である。胴が張る器形である。

溝1

27は蓋Ⅰ類である。つまみを持たない蓋である。天井部は平坦である。28はA7型に伴う坏である。29は長頸壺である。30は坏Ⅰ類の高台部である。

土壘5

34は高坏の脚部である。三角形の二方透かしである。

土壘9

47～51は須恵器である。48は口縁部付近で屈曲し、端部は内面に面を持って肥厚する。坏と判断した。49は長頸壺の頸部である。50は坏Ⅰ類、51は坏Ⅱ類のそれぞれ底部である。52～55は土師器である。52は坏である。片口を持つ。53は高台付坏である。54、55は甕である。54は口縁部が厚めに作ってある。54に比べて55は胴が張るようである。

その他の遺構に伴う土器

31は坏Ⅰ類の高台部である。33は高坏である。坏部外面には斜めにヘラによる痕がある。38は赤彩土師器の坏である。39は小形の土師器の甕である。胴部にヘラ状工具の痕がある。56は蓋Ⅱ類である。57は土師器の坏である。

(3) 中世（平安時代末～鎌倉時代）の遺構

建物19

1は坏の口縁部Ⅰ類である。

建物20

2は坏の口縁部Ⅰ類である。

建物21

3、4は底部a類である。4は内面に炭化物が付着している。5、6はともに皿B2類である。

建物23

7は高台付坏である。8は皿B2類である。

建物26

9は坏である。口径がやや小さい。

建物29

10は坏の口縁部Ⅰ類である。体部が直線的に伸びて口縁部がやや外へ開く。

建物30

19は皿である。体部が曲線的で口径が小さい。

建物31

18は青磁の碗の底部である。龍泉窯系碗のA類²¹と思われる。

橢5

11は坏Aa4類である。

註1 上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2 pp.55～70 1982

土壇12

15は坏の口縁部1類である。

土器溜1

21～48は土器溜1から出土した土師器の皿である。A類が多い。21～36はA1類である。この内21～27はやや底部径が大きい。37、38はA2類である。ともにやや厚手である。39は底部が突出するのでA3類である。やや厚手である。40～46はB1類である。他の皿に比べてやや器高が高い。47はB2類である。48は底部である。突出しない。

土器溜2

49～63は土器溜2から出土した土師器の皿である。B類に比べA類が多い。49～52はA1類である。49はわずかに底部が突出する。53～56はA3類である。いずれも厚手である。57～59はB1類である。60はB2類である。61、62はB3類である。底部は柱状に高さを持つ。63は高台付皿である。坏部と高台部の高さがほぼ同じである。体部は曲線的である。

その他の遺構に伴う土器

12はやや器高が低い。坏Aa2類である。13は坏Aa1類である。14は高台付坏である。坏部はゆるやかに広がる。底部は静止糸切りである。高台部の端部には浅のようなものの圧痕が見られる。16はI縁が大きく歪む。わずかに底部が突出するのでAb2類である。17は底部が厚く柱状に突出する。底部b類である。20は青磁の碗である。体部が直線的である。龍泉窯系碗のE類と思われる。

(b) 遺構に伴わない土器（第87～93回）

第87回1～26は蓋である。1～3は古墳時代末～飛鳥時代の蓋である。2は回転ヘラケズリを一部残す。5～8は器形に分かる蓋I類である。9～12は蓋I類の天井部、13～15は口縁部である。8の天井部にはヘラ記号が一部残っている。4はつまみを持たないが蓋I類と思われる。I縁部内面に「×」形のヘラ記号がある。16はつまみを持たない蓋である。17～23は蓋II類である。17～20のつまみは天井部との境が明瞭である。24～26は蓋III類である。24、25は焼きが悪く、天井部は回転糸切りである。馬場遺跡では蓋I類が最も多く、II類へと続き、蓋III類は少なかった。

27～33は高坏である。29は長脚、27、28、30～32は短脚の無蓋高坏である。31、32は透かしを持たないようである。33は脚部径が広い。

34～55は坏である。34～39は古墳時代末～飛鳥時代の坏である。35は見込みの部分に直線ヘラ記号がある。40は5とセットになるような小型の坏である。41～43は坏Ia類、44～49はその高台部である。46は底部に「○」と直線によるヘラ記号がある。50～55は坏IIb類である。

第88回1～4は高台付の皿である。2、4は焼きが悪く軟質である。5は坏Ib類、7はIIa類である。6は高台が底部の端まできている。8～10は皿である。いずれも器高が低い。

12～35は壺である。12は壺の口縁部と思われる。14、15は細頸壺の頸部である。13、16は長頸壺の頸部である。17は長頸壺である。底部付近にヘラケズリが残る。18～24は壺の底部で、18～21は高台を持つもの、22～24は高台を持たないものである。このうち19は胴部外面にヘラ記号がある。25は短頸で直口の壺である。26は胴部に突帯を持つ大型の壺である。28、29は平瓶である。合計3点出土した。30は壺の取っ手の部分である。断面は四角である。31は盥の可能性を持つ。32、33は小形の壺である。34は小型の鉢のような器形である。35は32や33とは形の異なる壺である。36は35

と特徴がほぼ同じであるが土師器である。37は蓋を持つ鉢の一種と思われる。38は大型の鉢の破片である。

第89図は人甕である。1、2ともに口縁外面に2～3条の櫛歯波状文を持つ。3～7は特徴のあるタタキや当て具のものである。3、4はタタキが太く粗い。5は当て具に刻みを持つものである。6は横瓶の可能性があり、当て具に放射状の文様を持つ。7 a～cは同一個体と考えられるが格子状のタタキを持つ。後述する格子目タタキを持つ須恵質の甕（第97図）に続くのかもしれない。8は底部付近である。

第90図1は大型の鉢の口縁部である。2は壺または横瓶の口縁部と考えられる。3は甕の下半である。4は提瓶、5、6は横瓶である。

第91図は赤彩土師器である。1～7は赤彩碗である。1～3は内面に斜行するヘラミガキを暗文風に持つ。8～18は赤彩杯である。8、11は底部にハケの痕をとどめているが9、12～17はナデで仕上げている。内外面ともに赤彩を行うが10は外面のみ赤彩のようである。19～22は赤彩高台付杯である。19、20の高台は21、22に比べて低い。また、21、22は内面のみ赤彩のようである。23～26は赤彩皿、27は赤彩高台付皿である。高台の長さは不明である。28は短頸の壺である。外面と頸部内面を赤彩する。29は蓋のつまみ部である。

第92図は土師器の甕である。いずれも炭化物を外面に残すので煮炊具として使用したと考えられる。甕には胴が張り口径と胴径が同じか胴径が最大径になるものと胴が張らず口径が最大径になるものがある。1～4、6、8、11、12は前者で13～16は後者である。5は口縁端部を上方へ伸ばす。11は他の甕に比べて頸部の屈曲が弱いのて移動式甕の口縁部の可能性がある。13の内面のヘラケズリは他のヘラケズリとは異なり、引っかいたようで特徴的である。15の外面はヘラナデのようである。17は外面にタタキが見られる。

第93図は包含層から出土した古代後半～中世後半の土器である。1は黒色土器である。内面は黒色でヘラミガキを施す。馬場遺跡ではB区から5点、C区から2点の合計7点の黒色土器が出土した。1点を除いて高台が比較的高いものばかりである。2は緑釉陶器の杯である。器壁が荒れているうえ体部しか残っていないが体部の中で椀を持って屈曲して口縁部へ至る。胎土は土師質やや軟質であり、素地が灰色になることから防長産の緑釉陶器である。高橋氏の分類に従えば皿C-1類、9世紀後半～10世紀前半に属すると思われる²¹。島根県内において防長産緑釉陶器は石見を中心に出土する。3～9は高台付杯である。中世前半のものに比べて高台が低く細いのでそれらよりも古いと判断した。5は高台は三角形で体部は丸みを帯びる。8は高台が太く直立気味である。10～16は杯である。赤彩杯と形態はほぼ同一であるが赤彩されていない。底部はハケ調整（12）とナデ調整（13、15）のものがある点も同一である。16は大型の杯のようである。内面には漆状の物質が付着している。

17～54は中世前半の土師器である。このうち17～27は杯である。17～22はA a 1、23はA a 4、24は底部を欠くが器形はA類、口縁端部は2類である。25、26はB a 1である。28～33は高台付杯

註1 高橋照彦「防長産緑釉陶器の基礎的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第50集 1993 pp.195～237を参考にした。また、高橋氏に実見していただき、教示を得た。

である。28、31～33に比べて29、30は高台が短く細いが器壁の厚さから皿ではなく坏と考えた。33は底部を内面から穿孔している。34～46は皿である。37は内外に炭化物が付着する。38、39は体部はA類で口縁端部を水平方向に引き出している。45も体部はB類であるが口縁端部は同様である。44は口縁端部が肥厚する。46は体部が内湾気味に口縁部へ至る。47～52は高台付皿である。高台部は47、48のように直線的なものや49のように細く長いもの、51、52のように逆「ハ」字のものがあるが、体部の特徴はほぼ一緒である。53、54は柱状高台皿である。馬場遺跡では柱状高台の皿は合計4点しか出土しなかった。53は底部が大きい54はやや小ぶりである。ともに底部は回転糸切りである。55～58は大型の皿である。いずれも体部は曲線的である。59も皿であるが器高は低い。55～59も底部は回転糸切りである。60、61は口縁端部が屈曲し体部は坏よりも高い。外面に炭化物が付いたり黒変している。一種の鉢なのかもしれない。62～65は皿である。いずれも底部は回転糸切りである。62、63は器高が低く体部は丸みを帯びながら立ち上がるだけである。64、65は底径がやや大きく体部は厚手で直線的である。中世前半よりも新しい時代のものである。

第94、95図は第93図と一部記述する時期が重なる部分があるが、主に溝や河道出土の土器を中心に掲載した。遺構ごとに記述する。

第94図1～43は溝2出土の土器である。1～22は坏である。A類がB類よりも多く、最も多いのがA a 1類である。1～7がA a 1類、8～10がA a 2類、11、12がA a 3類、13～17がA a 4類である。4の内面には炭化物が付着している。18、19がB a 1類、20がB a 3類である。21は底部がやや突出するのでB b 1類に含めた。22は底部が厚く21よりも突出する。23～42は皿である。皿はA類よりもB類が多い。27、41、42はいずれも口縁部が水平方向に伸びる。40は小ぶりで器高が低い。43は高台付皿である。高台部は長い。

第94図44～第95図12は溝3出土の土器である。44～63は坏である。溝3もA類がB類よりも多い。47は他に比べて厚手である。48は底部外面に、54は坏部内面に炭化物が付着する。また、60は外面に漆状の物質が付着する。63は底部が回転糸切りではなくヘラオコシ後ナデである。64は高台付坏である。1～11は皿である。溝3でも皿はA類よりもB類が多い。5は体部がわずかに内側へすぼまり、口縁端部が尖る。口径もやや大きい。10は底部が剥落しているがB 3類の可能性を持つ。11は高台付皿であるが第94図43とは異なり高台部は短く屈曲する。12は第93図60、61と器形が似ているので鉢の一種かもしれない。

13～30は溝4出土の土器である。13～20は坏である。14は底部外面に炭化物が付着する。21は高台付坏である。22～29は皿である。25は口縁端部を水平方向に引き出す。29は口縁端部で肥厚する。30は柱状高台の皿であるが皿部を欠損する。あまり高台部は高くはなく台形状に広がる。

31～41は河道2出土の土器である。河道2からは前述したように大量の土器が出土したが坏は破片が多く、皿を中心に実測・掲載した。31から33は大型の皿である。34～40は皿である。35、36は口縁端部を水平方向に引き出す。41は高台付皿である。皿部は平坦で浅い。

42～46は河道3出土の土器である。42は内外面に炭化物が付着している。45は体部が一度屈曲してから外方に開く。坏の体部の可能性がある。46は高台付皿である。皿部の底の形が左右非対称である。

土師器の坏や皿には内外面に炭化物が付着したものがある。図示したものの他には表29で示したように合計71点に炭化物が付着していた。皿よりもむしろ坏に多く見られ、内面か外面のどちらかに付着するものが多い。表15及び表17と比較すると全体の1%未満である。

なお、表22には遺構や包含層から出土した中世土師器の坏と皿の計測値を掲載している。

47～68は白磁・青磁である。このうち47～53は溝2、3、4から出土した。47は玉縁が小さい。48、49は碗Ⅳ類である。50は皿の体部下半であるが内面に一条の沈線を持つ。53は青白磁の台子の蓋である。54～68は遺構に伴わない白磁・青磁である。54は白磁の皿Ⅱ類である。55、56は51、52同様白磁碗の底部である。57～67は青磁である。57は破片であるが線描きの粗略な蓮弁を持つ碗である。58、60は小さな線描きの蓮弁を持つ碗である。59も同様に線描きの蓮弁を持つ皿である。61は折文帯を持つ碗である。62、63はその底部で見込みに印花文を施す。64は口縁部が波を打つ皿で、内面に文様を施す。13世紀末～14世紀前半代と考えられる。65～67は端反りの碗及びその底部である。57は青磁碗B2類、58、60は碗B4類、61～63は碗C2類、65～67は碗D類に相当すると思われる、14世紀後半～15世紀代と考えられる。68は白磁の菊皿である。口縁が波を打つ。白磁皿E4類に相当すると思われる¹⁾。中世～近世の陶磁器は表21を参照していただきたい。

第97図は須恵質や土師質の貯蔵具(甕)の破片である。破片をタタキの幅や深さ、内面の調整、焼成によって分類し、表29のようにA～F2類のようにまとめた。このうち須恵器のように焼成の良いものは実測図の断面を黒塗りし、焼成の悪いものは器形や特徴が同じでも白抜きに表現した。これらの貯蔵具はA区やB区では少なく、多くがC区から出土した。

1、2はこれらの口縁部である。ともに焼成は軟質である。1は口縁を拡張せずにおさめる。3～6はA類、7～10はB類、11はC類、12はD1類、13～17はD2類、18はE類である。F1、F2類は写真のみ掲載した。15は内面はハケであるがタタキの特徴からD2類に含めた。17は内面のハケをナデ消している。これらのうち6は河道2、3と7は河道3から出土した。馬場遺跡からは焼成の良いA類やC類よりも焼成の悪く土師質のB類やD2類が多く出土した。これらの須恵質の甕は「亀山系」「勝間出系」と称されたものであり、平安時代末～鎌倉時代と考えられる²⁾。

第98図は中世の播鉢、こね鉢、貯蔵具などである。1～4は口縁端部に面を持ったり拡張しているものである。焼成は須恵質の焼きの良いもの(1、2)と土師質のもの(3、4)がある。5、6は口縁端部のみ出土であるが、端部が外面に向けて肥厚し、玉縁状になっている。焼成はやや悪く5はすり目を持つので東播系播鉢の模倣品であると考えられる。7はその体部と考えられる。8、9は土師器のような焼成である。10も同様の胎土であるがすり目がないのでこね鉢と考えられる。11は口縁の下に沈線を1条施す。こね鉢かもしれない。12は須恵質の播鉢で薄手である。これらの播鉢やこね鉢は鎌倉時代後半～室町時代に属すると思われる。13、14は備前焼の播鉢である。口縁を上下に拡張するので、備前焼Ⅳ期に相当すると思われる³⁾。15～17は備前焼の壺である。

注1 横田賢次郎・森田 勉 「太宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究紀要』4 pp.1～26 1978

森田 勉 「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 pp.47～54 1982

上田秀夫 「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2 pp.55～70 1982

横田 一郎 「中世後期の貿易陶磁器」pp.486、487 中世上器研究会編『概説 中世の上器・陶磁器』1995

注2 広江耕史・片岡詩子 「鳥根原における古代末～中世にかけての須恵器について」

『中近世土器の基礎研究』Ⅳ pp.157～171 1988

注3 『古備前図録』岡山市教育委員会 pp.80～86 1984

15の内面はよくみがかれているのでこね鉢に転用したと考えられる。16は三耳壺か四耳壺である。17は玉縁状の口縁が垂れ下がったような形なので備前焼Ⅳ期に相当すると思われる。18は丹波焼もしくは越前焼の可能性を持つ。端部に沈線を施す。19は常滑焼の甕である。口縁は上下に拡張して複合口縁である。20は瓦質の火鉢の可能性ある。外面に印花文を施す。21も瓦質で鉢状の形である。香炉の可能性ある。外面には印花文と沈線を施す。

第99図は近世陶磁器である。掲載したものは主なものとどめたので、表21を参照していただきたい。1は李朝の白磁の皿である。胎十目は四方向である。16世紀代。2は青花の碗の高台部である。高台の内面には軸が掛かっている。陶胎で中国の南方の可能性を持つ。17世紀前半。3～10は肥前系陶器の碗や皿である。3、5は胎十目、6、7は砂目である。8、10は見込みの釉を剥ぐ。なお、5は肥前系ではない可能性を持つ。これらの内4、7、9は17世紀代、8、10は18世紀代と考えられる。11～14は肥前系磁器の皿、15～17は碗である。11は変形皿で、高台の内側に「□下元右衛門」と描かれている。12は蛇ノ目形高台である。火を受けて変質している。14は厚手J字高台皿である。渦福字銘を持ち、高台内に「松□郎」と朱字で描かれている。15は端反りの碗である。外面は柳と二重格子文、口縁内面に格子文、見込みに斜格子文を描く。波佐見焼の可能性を持つ。19世紀代。碗が最も点数が多かった。他に実測はしていないが、瀬戸焼や志野焼の小片（表21には記載せず）、刷毛目碗や筒茶碗、広東碗や八角鉢が出土している（写真図版93、94参照）。18は陶胎染付の碗である。19、20は片口である。19は肥前系、20は萩焼の可能性ある。21は瓦質のこね鉢である。22は肥前系または堺系の播鉢である。底部は回転糸切りである。23～25は焙烙である。いずれも口縁部のみの上出である。なお、これらのうち9、21は建物37、4、7は建物38、8、24は建物40、10は土壌14、17は土壌17から出土した。

第3節 土製品（第100、101図）

土製品は破片がほとんどなので、種類を把握して数を数えることを優先し、実測は最低限にとどめた。表20と合わせて見ていただきたい。

(1) 瓦

第100図1は平瓦の破片である。焼成は軟質である。馬場遺跡からは合計3点出土した。

(2) 硯

2は圓脚円面硯である。ほぼ完形である。口縁の下は丸く突帯状で、八方向に長方形の透かしを持つ。透かしの幅は1.4～2.5cmと一定ではない。透かしの間には縦の沈線を入れる。第101図11は台形の突帯を持つ須志質の土製品である。風字硯の可能性ある。

(3) 羽口

第100図4～6は羽口である。いずれも送風口付近は酸化し茶褐色で、外側は還元されて暗青灰色である。6は先端付近である。羽口はC区を中心に合計8点出土した。

(4) 埴塼

7、8は埴塼と考えられる厚手の土製品である。8は内面に金属の滓のような物質が付着する。

(5) 製塩土器

9～17は製塩土器である。調査区の全体から出土した。外面に火を受けて器壁が変質しており、触ると手に粉が付くようなきめの細かい胎土を用いる軟質のものが多く、13のように土師器のよ

うに胎土がやや粗いものも見られる。断面は青灰色のものがほとんどである。9、10、12、13のように口径が最大径になるものと11のように肩が張るもの、14のように体部が立つものがある。18～21はいずれも胎土は製塩土器とほぼ一緒である。18～20はいずれも体部ないしは口縁に穿孔を持つ。21はやや厚手で体部には縄目が付く。

(6) 土鍾

馬場遺跡からは合計63点が出土した。写真図版76に全点を載せている。表24に計測値を載せている。第101図1～3はやや膨らみがあり紡錘形のもの、4～6は膨らみが少なく筒状のもの、7、8はわずかな膨らみを持つもの。9は大型で膨らみを持つものである。重さは6～20g弱の範囲に取まるものがほとんどであるが、9は他の土鍾に比べて2.5～6倍も重く、40gを越える。この大型で膨らみのある土鍾はB区からのみ出土した。

(7) 土製紡錘車

10は土製紡錘車である。頂部には孔を囲むように「井」の字に線を一本加えた形で線が描かれている。また、体部の外面にも山形の文様とその間を埋めるように山形の文様を互い違いに描いている。やや斜めに孔が貫通する。

(8) 移動式竈

第100図3は移動式竈の突帯の接合部である。接合面にヘラで凹凸を付けて接合を容易にしている。破片は多いが個体数は6個体程度であると判断した。

(9) 甌

第101図12～15は甌の取っ手である。14は他に比べてやや取っ手が細い。馬場遺跡全体で取っ手は51点出土している。

(10) 土製支脚

16～20は土製支脚である。脚部は16のように細身のもの、17、19のように大きいものがある。馬場遺跡全体では脚部が33点出土している。

第4節 石器・石製品 (第102～108図)

馬場遺跡から出土した石器は表19のとおりである。石器は土製品とは方針を変え、実測可能なものを優先して実測した。

(1) 磨石

第102図は磨石である。1は一面のみ使用している。2は瓦面を磨り面として使用しているが使用痕は顕著ではない。3は偏球形で一面のみを使用している。6も偏球形である。5は石皿と考えられる。両面とも使用している。遺跡全体では13点出土した。

(2) 石斧

第103図1～4は石斧である。1、2は両刃石斧で刃部は比較的鋭い。3は未成品ないしは石斧の基部と思われる。4は扁平なので加工用の斧と思われる。遺跡全体では5点出土した。

(3) 石錘

5～10は石錘である。5、9、10は上下を打ち欠く。6は片側の辺を打ち欠くが上下の加工は顕著ではない。7は一方のみ打ち欠く。8は扁平なので石錘の破損品と考えた。遺跡全体では7点出土した。

(4) スクレーパー

第105図はスクレーパーである。1、3は安山岩系、他は黒曜石である。

(5) ユーズドフレイク

第106図はユーズドフレイクである。いずれも黒曜石である。1～3gのものが多く、1と11は大型の剥片を使用している。2、4～6、8～10は使用痕のついている範囲が狭いので、ユーズドフレイクではない可能性がある。

(6) 石鏃

第107図は石鏃である。石材は安山岩系が2点の他はすべて黒曜石であった。石鏃の形態に基づいて米子市古市遺跡群の報告書にしたがって次のように分類した。基部の形態から、抉りの深いものを1類、抉りの浅いものを2類、平基式を3類とし、全体の形状が正三角形に近いものをa類、二等辺三角形のものをb類とした^{※1}。1～3は1-a類、4～8は1-b類、9～13は2-a類、14～16は2-b類、17は3-a類、18～20は3-b類である。19、20は安山岩系の石材である。この内A区の北西側の調査部分で出土したのは1、3、5～7、12である。

21～23、第108図1～7は石鏃未成品である。いずれも黒曜石である。3、7、10、17、19はA区の北西側から、第107図22、第108図1、4はB区から出土した。

(7) 楔形石器

8～19は楔形石器である。いずれも黒曜石である。8～13は大形、14～19は小形である。

(8) 砥石

第104図1、2は砥石である。1は大型の砥石で二面を利用している。土壌29より出土した。2は一面だけが残っているが、よく使用されている。

(9) 硯

3～5は石製の硯である。近世のものと考えられる。3、5は硯の端に切れ目を入れて墨が流れるのを防いでいる。4は両面ともに研磨の痕があるが砥石には薄すぎると考えて硯にした。

(10) 玉未成品

6、7は平玉である。6は縞模様のある濃緑色の石材を用いている。よく研磨されている。7は碧玉製で調整の痕を顕著に残す。8、9は碧玉の剥片、10は瑪瑙の剥片である。8は自然面を残す。8、9は紡錘形である。10は角柱状である。

第5節 平安時代の墓出土遺物（第96、109～113図）

(1) 土器

第96図2と4が須恵器、その他は土師器である。2、4は平底でやや肩が張り、肩部と胴部の境に突帯を持ち、口縁部が短く立ち上がる葉壺形の壺である。ともにほぼ同様の形態であるが、4には高台が付く。2の底部はヘラオコシ後ナデである。2は自然釉が掛かっており不明であるが、4は肩部にカキメとヘラによる圧痕がついている。また、4の胴部外面下半と肩部の内面には煤のよ

註1 濱降造「米子平野周辺における縄文時代の石器利用について」『古市遺跡群1』

(財)鳥取県教育文化財団 pp.193～198

うな炭化物が付着している。2の胴部外面下半にも付着しているが4ほど顕著ではない。検出した際には2はほぼそのままの形で、4は土圧により傾いて割れていた。ともに土が詰まっており、丁寧に上を取り除いたが、中には上や鏃、土器の小片しか認めることが出来なかった。

1は2と4の間から出土したが、3は破片の一つが4の中から出土したことに加えて1と3は逆にするとそれぞれの壺に合わないことから、1、3はそれぞれ2、4に特注された蓋であると判断した。ともに蓋の頂部は静止糸切りである。頂部の中程は凹む。全体に厚手である。胎土は粗製に近い。

5は高台付杯である。高台はやや短く、体部は直線的に伸びる。見込みにはヘラで「黒田」と刻まれている。「黒」は1画足りない。内面はやや摩滅が進んでいるが内外ともに回転ナデである。胎土は粗製に近い。6は大型の台付き杯である。全体に厚手であるが高台部は裾が開き高さがある。体部はゆるやかに湾曲する。脚部にはタタキが施されている。7、8は耳皿である。7は坏部の側面を二か所ずつ指で押して屈曲部を作っている。底部は高台状に高く作り出す。静止糸切りである。8は耳皿の破片である。4の中から出土した。7は完形なので耳皿は合計2個体である。

9～15は坏である。いずれも高台状の高さのある底部を持ち、体部はゆるやかに屈曲しながら口縁部へ至る。口縁端部は外方へ折り曲げるように屈曲する。この口縁端部の屈曲は他の馬場遺跡の土器では見られない。外面には回転ナデの痕を明瞭に残す。底部は回転糸切りである。いずれの土器も胎土は粗製に近い。

これらの土器を出土位置から考えると、6は棺内の破片と墓壙上面の破片が接合することから、元々は墓壙上面にあったと思われる。1～4、9～11、13は出土位置から考えて棺と柩の間、7は4の下から出土した。8は4の中から出土したが元々の位置は不明である。5は墓壙の中央なので被葬者の胸の位置あたりから、12、14、15は墓壙の東側なので頭の位置あたりに相当するが、いずれも床面からは浮いて出土したので、棺または柩の上面にあったと想定される。

これらの土器は須恵器の壺がやや古い特徴を示すが、須恵器は壺のみであり坏が土師器であることや5や9～15の特徴より平安時代（10世紀後半～11世紀初頭）に属すると考えられる。

(2) 玉類

合計22点出土した。第109図19のみが丸下で他はいずれも平玉である。1～12は白色の石、13～17は黒色の石、18は緑色の石を用いている。径は1.3～1.8cm、厚さ0.6～0.9cmの円形で、表面はよく研磨されている。重量は1.6～3g前後である。白色の石は透明感がないので石英ではないかと思われる。また、緑色の石は碧玉と思われる。黒色の石の材質は不明である。19は透明感のある水晶製の丸玉である。20～22は他の平玉とは異なり、濁灰色やくすんだ灰色をしており、やや扁平な形なので平玉ではない可能性をもつが墓壙内から出土したので平玉として扱った。1が墓壙中央北端、18と21が墓壙の中央で出土した他はいずれも墓壙の東側、頭と考えられる位置から出土した。目的は不明であるが棺内の被葬者の頭の周囲にばらまくように置いたと考えられる。

(3) 鉄製品

第110図1～5は墓壙から出土した鉄製品である。

1は大刀である。墓壙の北西隅で切っ先を西に向けて、足金具を墓壙の内側に向けて出土した。取り上げの際に折れて四つになってしまった。柄の部分を一部欠き、現存する長さは75.9cmである。鐔と足金具がよく残っている。鐔には透かしを持つ。足金具は二つ認められほぼ同じ形である。足

金具同士の間は約16cmである。先端の部分には鞘の木質が残っており、身の中程には何かの膜が残っているように見える。柄の部分には二本一組の糸で巻いているのを確認できる。

2はU字形をしており片側のみ先端が残る。先端は平坦でやや尖る。毛抜きと考えられる。3は基部のみが出上した。断面が円形の棒状の鉄をねじっている。鉄と考えられる。4は刀子である。身と柄の付け根の部分に欠く。5は板状の鉄製品で、X線撮影の結果火打ち金であると分かった。「山」に似た形で中央と左右の端に孔を持つ。4は墓壙の中央やや北側で、2、3、5は墓壙の東側、玉や土器が出土したのと同様の位置から出土した。高さは玉や土器と異ならないので、大刀は被葬者の足下に、刀子は腰あたりに、火打ち金などは頭のあたりに置かれていたと考えられる。

第111、112、113図1～18は墓壙から出土した釘である。実測できるものはほとんど掲載した。現状で33～34本確認できるので、破片から推定して約40本が木柶や木棺に用いられたと考えられる。

第111図は大型の釘を掲載している。長さ約14～15cm、厚さ1.0cm前後である。いずれも断面は四角形である。頭部はL字に折れ曲がる。9は他に比べて長さが約21cmと長い。墓壙の西側の検出面付近から出土した。

第112図は小形の釘である。長さ約10～11cm、厚さ約0.6～0.7cmである。1、2のように頭部がL字形になるものと3～16のように頭部がわずかに膨らむ程度のものである。19～26、第113図1～4は小形の釘の先端である。第113図9は錆でくっついていて厚みがないので釘ではないかもしれない。

釘の出土位置からは大型の釘が柶と考えられる部分の四隅を中心に出土し、その内側からは主に小形の釘が出土した。「木柶」とするにはやや釘の点数が少ないかもしれないが、前述したように釘の出土位置から「木柶木棺墓」と判断した。

第6節 金属器

この節では平安の墓以外の遺構や包含層から出土した金属器について述べる。

(1) 青銅製品 (第110図)

第110図7は銅製の鈿帯金具(鉈尾)の表金具である。A区の橋1のすぐ東側から出土した。長さ4.6cm、幅3.8cm、高さ0.9cmである。側縁の一部にヤスリと思われる調整の痕が残っている。裏面に本来あった突起は失われている。表金具のみの出土であるが、銅製の鉈尾は鳥根県では出雲市三川谷I遺跡、鳥取県では羽合町長瀬高浜遺跡から出土している。大きさからは正七位に相当すると考えられる¹⁾。

8は鏡の破片である。A区の包含層から出土し、整理中に判明した。復元径は7.7cmである。外区外縁に櫛歯文を持つ。重四文鏡の可能性もある。9は不明青銅品である。これも8と同様にA区包含層から出土し、整理中に判明した。両面に3条の弧文を描く。弧文の内側がわずかに厚みもっているが、器種は不明である。

(2) 鉄製品

第113図は主にA区、第114、115図は主にC区の鉄製品を掲載している。

註1 町田 章編 『平城宮発掘調査報告書Ⅵ、奈良国立文化財研究所 pp.154～161 1976

第113図19～27、第114図1～7は釘である。19、20は平安の墓のそばの遺構から出土したので、元々は平安の墓に伴う可能性を持つ。厚さから小形の釘と考えられる。24は溝2から出土したが細身である。27は大型の釘が錆でくっついている。第114図5は厚さが約1.0cmであるが長さはやや短い。第114図8～10は断面が円形なので釘ではない可能性がある。

第110図6は土壙12より出土した板状の鉄製品である。やや湾曲している。刃部はないようである。第114図12は板状の鉄製品である。側面から見ると「コ」字形をしている。17は板状の鉄製品である。細長く、全体に湾曲している。

11は断面が長方形の棒状の鉄製品である。13、14は環状の鉄製品である。13に比べて14のほうが大きい。15、16は鉄鎌である。15は先端が菱形で平根式と思われる。16は先端が細い三角形である。茎が長い。

第115図1は平面が左右対称なので鉄剣または鉄槍と判断した。関が切っ先に向けて挟り込む。2は鉄刀である。1、2ともに錆びているがほぼ残っている。4～6は鉄刀の刃部片である。3はやや細身なので刀子と思われる。H釘孔が認められる。

7、8は鉄鍋である。共に河道2から出土した。遺存状態が悪く、体部の上半と1/3縁部を欠く。底部と体部の境の後は不明瞭である。9、10は鉄製紡錘車である。9は溝2から、10は土壙9から出土した。ともに軸は折れており、錆で曲がっている。11は刀子片である。B区から出土した。

なお、鉄滓がA～C区から出土した。遺構に伴うものは平安時代のものがあるが、包含層のものは時期が特定できない。表25には磁着するものを掲載した。合計3775.5gである。

第7節 木製品

第116図は木製品、柱根、杭である。いずれもC区から出土した。

1は円盤状の木製品である。わずかに凸状になっており、凸状の面と側面には加工痕が面を持って残っている。曲げ物の底あるいは蓋の可能性を持つが、加工痕が残ることから未成品と考えられる。2、4、6は建物30、3は建物53、5は建物55の柱根である。残りが悪く軟質のものが多いが5は硬質である。2、5、6は断面が丸い柱であるが4は断面が四角形で先端には加工痕がある。3は先端を尖らせて杭のような形である。7～12は河道2の中にあつた杭である。いずれも軟質である。径は4～7cmである。二～五方向から加工を行う。先端は尖る。

第8節 古銭¹¹⁾

馬場遺跡からは合計15枚の古銭が出土した。包含層からのものが多い。1～4は北宋銭である。判別できたもので铸造年代が最も古いものは第117図1、2の熙寧元宝である。3は建物7のP2付近から出土したが建物7に伴うものではない。5、6は明銭である。5は裏に「浙」の字があるので浙江省杭州の铸造である。6は6枚くっついて出土した。7～10は江戸時代の古銭である。7、8は新寛永通宝である。9、10は寛永通宝の四文銭である。

註1 古銭については永井久男編「中世の出土銭—出土銭の調査と分類—」兵庫歴史研究会 1994を参考にした

第5章 馬場遺跡出土大刀の漆の鞘膜の有無についての分析

1. 調査対象箇所

大刀(写真1)の鞘を観察し、比較的平らな褐色系の膜様付着物がみられた黄金具付近の①、②、足金物・二ノ足付近の③、④、一ノ足付近の⑤、⑥から採取した付着物について材質の分析を行った(写真2)。

また、マイクロレンズを用いて、柄(写真3)の表皮および巻かれた繊維の撮影を行った(写真4)。

2. 使用機器及び測定条件

・フーリエ変換型赤外分光光度計 (FT-IR) (日本電子製 JIR-6000)

試料に赤外線を照射し、そこから得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定する。

測定条件: KBr錠剤法* 分解能 4 cm^{-1} 、検出器 TGS

(*試料をKBr(臭化カリウム)と混合、圧縮し錠剤を作製して行う分析法)

3. 方法および結果

①~⑥で採取したごく微量の褐色系付着物をFT-IRで分析した。

その結果、いずれもサビや土壌成分の吸収ピークはみられたが、漆の特徴となる吸収はみられなかった。

今回の分析では漆膜は確認できなかったが、鞘に塗布されていた漆がすべて剥落している可能性もあると考えられた。



写真1 No.1 大刀

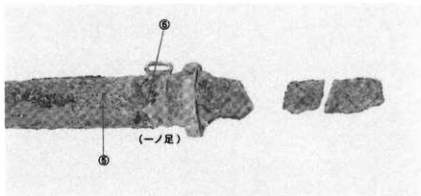
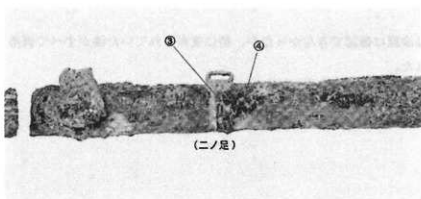
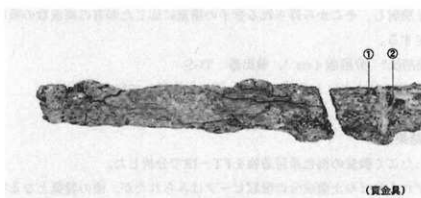
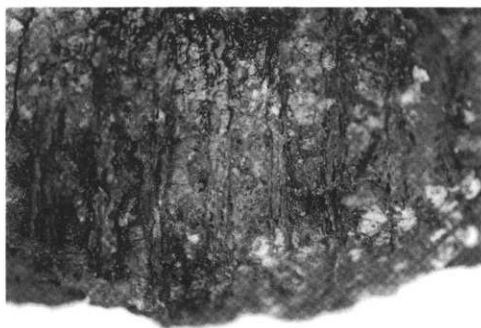


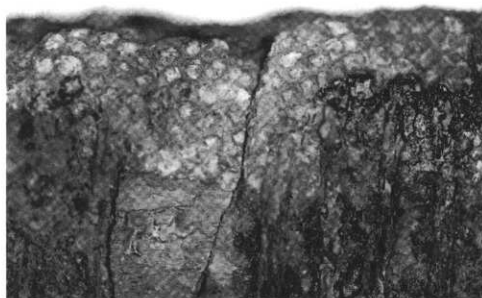
写真2 鞘付着物の分析箇所



写真3 No.1 第刀の柄部分



×4



×4

写真4 柄に巻かれた繊維と鱗皮

第6章 まとめ

縄紋時代

縄紋時代の遺構は河道1に加えて石器製作跡の可能性のある黒曜石の集中地点を確認した。馬場遺跡全体では900点を越える黒曜石の剥片の他、石鎌や磨石、石鎌などが出土した。最も古い時代の土器は前期前葉の西川津式が出土している。中期もわずかながら出土した。量が目立って多くなるのは後期前葉（中津式～福田K2式）の土器である。それ以後晩期後葉の穴帯文土器まで量は少ない。黒曜石の剥片や石器はA区に多く、次いでB区から出土したが、C区からはわずかしか出土しなかった。C区は最も山ざわであるので、A区のような山ざわより少し離れた河岸段丘上の開けた場所に生活域があったのかもしれない。馬場遺跡では縄紋時代の住居址を確認することはできなかったが、三刀屋町内では河岸段丘上に縄紋時代の遺跡が多く見つかったので、河岸段丘上の開けた土地に住居域があった可能性が高い。

弥生・古墳時代

馬場遺跡では遺構を確認することは出来ず、遺物のみが出土した。弥生時代は中期中葉と考えられる土器がわずかではあるが出土した。中期後葉の土器も点数はわずかではあるが主にC区から出土した。弥生後期の土器は後期後葉（出雲隠岐V-3様式）の土器が主にA区から出土した。古墳時代の土器はわずかであるが、重岡文鏡と考えられる鏡の破片が出土した。周囲に古墳が存在した可能性を持つ。縄紋時代に比べて弥生・古墳時代の遺物の出土量が少ないが、これは縄紋時代と弥生・古墳時代では遺跡の立地が異なることを示していると思われ、自然堤防上よりも低い川に近いところもしくは丘陵斜面や低丘陵上に遺跡が存在すると考えられる。一例を挙げれば三刀屋川をはさんで馬場遺跡の対岸の山に位置する要害遺跡では標高約92mの尾根上に弥生時代前期末～中期中葉の溝が検出され、隣接する熊谷遺跡は標高75～80mの丘陵上に位置しており、明確な遺構は存在しないものの中期中葉～後葉の土器が出土している。

古代（飛鳥時代～平安時代）

再び馬場遺跡が栄えるのが飛鳥時代からである。この時代の遺構はA区に建物があり、互いに距離を置いて存在する。奈良時代にはいと遺物や遺構は多くなる。特にA区では重複するものを含めて10棟の建物を確認した。建物の形態は建物4や15のような2×2間の総柱建物や建物5のような2×3間、建物11～14、16のような1×2～3間の長方形の建物がある。建物の主軸からは建物4、5、7、8、10、11、12および櫓1、3、4という一群と建物6、9、13の一群に分けることができる。また、A区の南側には土壌群が存在する。

土器では釜I類、坏I a類などの須恵器がA区やB区から多く出土し、遺構の多さと対応する。金属器では鈔帯金具（鉤尾）の出土が注目される。製塩土器や円面硯も出土しており、表2で比較するとこの時期の馬場遺跡は単なる集落ではない可能性を持つが、建物の配置に規則性が見られないことから、郡衙などの役所関係の遺跡ではないと思われる。

平安時代の遺構は奈良時代より少なくなるが、須恵器の坏II b類や赤彩土師器、平安時代の土師器の坏や土師器の甕はA区やB区よりもC区から多く出土したので、馬場遺跡の主たる部分が北側に移ったことを示す可能性がある。遺構ではA区のほぼ中央に墓が築かれる。この墓は規模や施設、副葬品や出土土器の点で極めて特徴的である。そう考えると、調査区の関係から平安時代の

墓が周辺に築かれていた可能性は否定できないものの、当時の馬場遺跡の周縁部にあたるA区に墓が単独で築かれたと考えられる。

中世（平安時代末～室町時代）

平安時代末の溝2、3、4で区画された範囲は南北約100m、東西約30mである。調査区のさらに南には現在給下川が流れているが、地図を見る限り明治時代から給下川の流路はあまり変わっていないようであり（第118网上段）、給下川が南限と推定される。東は大坊谷川と調査区の東側で合流していた可能性を持つ。面積約3,000㎡以上の区画の中からは重複を含め7棟の建物や櫓列を確認した。区画の中の建物は南と北の二群に分かれる可能性を持つが、特に建物21は桁行きが約13.6m、床面積が約73.4㎡と大型の建物であり、この時期の中心的な建物であると考えられる。さらに区画の北側のC区にも合計4棟の建物を確認した。建物の規模は区画の内側に比べて小ぶりである。溝2と3の間、溝3と4の間は少なくとも二か所陸橋状に途切れており、前者の幅は約3.8mである。後者の幅は調査区の東側に位置するので不明である。なお、区画の北側にも建物があることから北側に別の区画があった可能性がある。

この時代の土器が馬場遺跡では最も多い。A区やB区の包含層や溝から多くの土器が出土しているほか、C区の河道2から大量の土器が出土している。河道2は同じC区NSの部分と比べて平安時代末をさかのぼる時期の土器をほとんど含まない。これは溝2～4も同様で、特に白磁が碗を中心にわずかながら出土するのに対して、青磁はこれらの溝や河道2からは出土しない。このことから、溝2～4は平安時代末に埋まっていたと考えられる。なお、河道2は溝2や3と比べて破片数や皿は多いものの全形が分かる坏が少ない。このことから河道2から出土した土器は上流にあった遺跡から上流流のように激しく流されてきたと考えられる。河道2はほぼ西から東へと流れていたことがうかがえるが、馬場遺跡の北西には大門口遺跡があり、さらにそこから北へは緩やかではないものの斜面が緩んでいる。あるいは平安時代末の馬場遺跡の範囲は調査区の西側や北西側へも広がっていた可能性がある。

これに対して河道3は遺物量がやや少なく、皿A類（その他）を他の遺構より多く含み、また、わずかではあるが近世の遺物を含む。現在の大坊谷川に平行するように流れていたのかもしれない。また、溝2～4から出土した土器の皿はB類が多いが、溝2の埋まった後の遺構である土器溜1ではA類が多い。これは土器溜2も同様である。中世土器の皿に関していえば、時期とともに形態の主流がB類からA類へゆるやかに移行するのかもしれない。

鎌倉～室町時代の遺構はC区でのみ確認しており、遺物もC区が多い。A区やB区では遺物は出土するものの量は少ない。遺跡の中心が北側へ移ったと思われる。このうち鎌倉時代の建物30と31は、桁行きは異なるが梁間が同じ1間（4.2m）であることから建て替えの可能性を持つ。建物30にのみ柱根が残っていた。室町時代の建物は建物32は規模が不明であるが、建物33～35は1×2間のやや小ぶりの建物である。

近世（江戸時代）

江戸時代の遺構はA区とB区から確認されている。肥前系磁器や陶胎染付が多いので17～18世紀が中心になると考えられる。建物は合計8棟確認した。A区の遺構は建物36～38と建物39～43の二つの群に分かれるようである。この時期の建物の特徴として、本文中でも述べたが柱の掘り方が長楕円形～長方形になること、また、梁間には間に遺構として残るような柱の掘り方を持たないので、

結果として梁間が1間になることが挙げられる。確認した土墳には長方形のもの(土墳16、19、22)と円形～楕円形のもの(土墳14、17、18、20、21)がある。このうち後者は掘削時に水が湧いて乾くことが少なかったため、単なる土墳やごみ穴ではなく茶掘りの井戸であったのかもしれない。また、溝5から検出された石列は建物の敷地を区画する石垣の基底部の可能性がある。

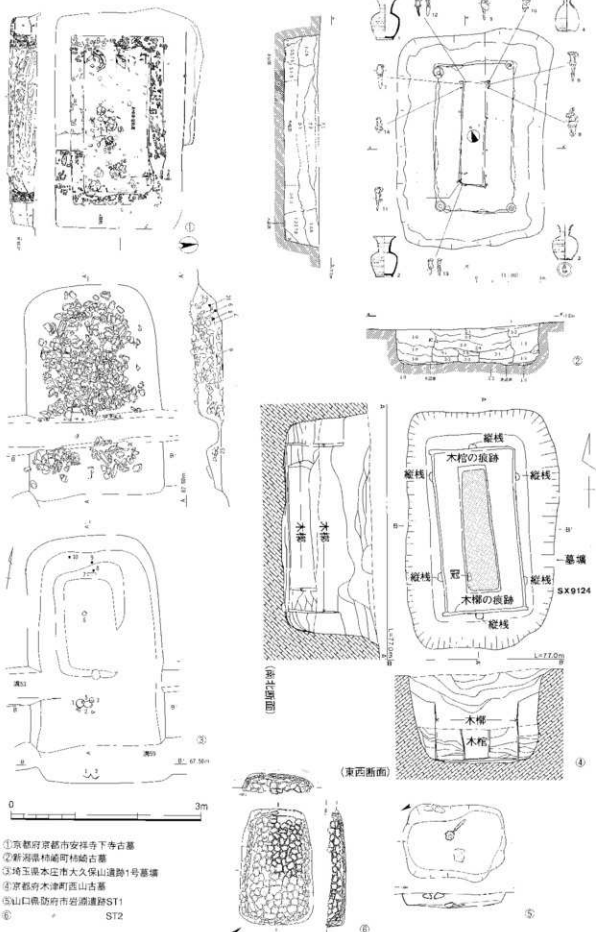
平安時代の墓について

馬場遺跡で検出された平安時代の墓の位置づけを鳥根県内外の例と比較することによって考えてみたい。第21図は平安時代～平安時代末(9世紀末から12世紀代)の鳥根県内の土葬による墓である。①松江市長峯遺跡SK01は比較的規模が大きく、2.2m×1.1mである。釘が6本以上出土したことから木棺の使用が推測される。さらに礫や転石が特に棺の両小口に相当する場所より多数出土したことから、木棺のドヤ周囲に詰めて棺を固定したものと考えられる。炭も確認されており、これらの点で馬場遺跡と共通する。頭位は不明であるが須恵器の壺と坏が遺構の南側から底よりも浮いて出土した。木棺の上面にあったと推定される。SK01は尾根の稜線上に単独で位置するようであるが、南約0.5kmには中竹矢遺跡が位置することから、中竹矢遺跡に関係する有力者の墓と考えられる。長峯遺跡以外で礫を用いるものは無い。②安来市門牛黒谷Ⅱ遺跡SX01は丘陵斜面に単独で位置する。土層から木棺の使用が推定されるが炭や釘は出土しなかった。頭付近から土師器の鉢、足元の棺上から籬古窯産の緑釉陶器や土師器の坏が出土した。③東出雲町浜山池遺跡SK33は丘陵緩斜面に位置し、周囲には同時期の集落や須恵器窯が存在する。木棺墓と考えられ、墓塚の北西側から須恵器の壺が出土した。④東出雲町勝負遺跡SK06は丘陵斜面に位置する。周囲に同時期の遺構は散見される程度である。木棺墓と考えられ、土器は出土しなかったが八稜鏡と鉄製紡錘車出土した。八稜鏡は紙で包まれて墓塚の北側から出土した。②～④は釘を欠くので組み合わせ式の木棺を用いたと考えられる。また、③、④は墓塚の平面形が隅丸長方形である。⑥浜田市横路遺跡(土器土地区)SK4は隅丸長方形で1.4m×0.6mとやや小ぶりである。墓塚の中央付近より土師器の皿5点に加えて鉄刀(長さ約29cm)、和鏡(直径約10cm)が出土した。埋土には炭の粒を含み、石(12cm×5cm)も出土した。遺物は全て床面から浮いて出土していることから、棺上に置かれたと推定される。横路遺跡はこの地域(下府川下流域)の拠点的な遺跡であり、貿易陶磁が大量に出土する。SK4は横路遺跡の有力者の墓であると考えられる。⑦斐川町西石橋遺跡は低丘陵上に単独で位置しており、2.05m×0.55mである。墓塚の平面形は長方形で木棺墓と考えられるが鉄釘は出土しなかった。土塚内からは土師器の坏6点、皿23点、鉄刀1点(長さ約37cm)、鎌1点(長さ約22cm)、不明鉄製品1点(長さ約13cm)が出土した。土器は墓塚の中央南側を中心に密集して、鉄製品は東側から出土した。鉄刀や土師器が墓塚内から出土する点では⑤馬場遺跡や⑥と共通する。⑧⑨松江市小無田Ⅱ遺跡は丘陵の斜面に位置しており、SX01は1.4m×0.5m、SX02は1.75m×0.75mである。共に隅丸長方形で鉄釘の破片が出土したことから木棺墓と考えられる。SX01から鉄製紡錘車、SX02から刀子が出土した。SX01は木棺の使用が推定され、埋土には炭が混じっていた。SX01から出土した遺物は床面から浮いているように土層図を見ることが出来、棺上に置かれていた可能性を示唆させるが、SX02の遺物の一部は床面に接しているものがあるようである。小無田Ⅱ遺跡は意宇平野の西端にあたり、出雲国造館跡や黒田館跡、黒田畦遺跡などが周囲にあることからこれらの有力者の墓と考えられる。








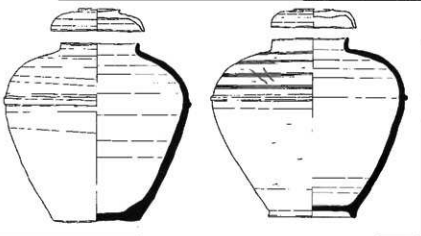
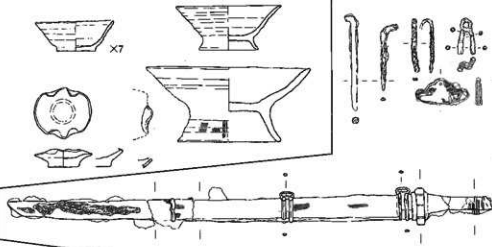





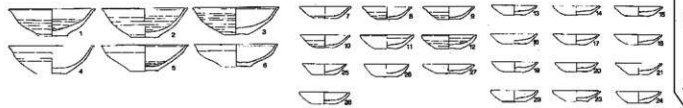
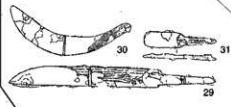







*各報告を一部改変

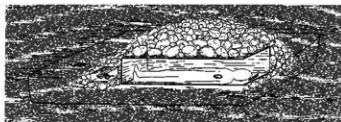
第21図 平安時代～平安時代末の墓(1) (島根県内) (S=1/60)



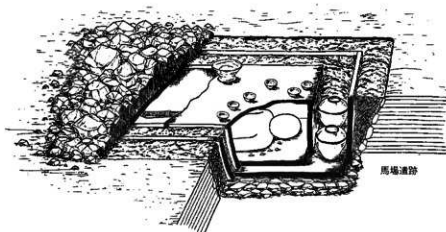
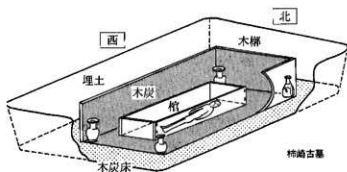
第22図 平安時代～平安時代末の墓(2) (S=1/60)

<p>①長峯遺跡SK01 (9世紀後半～10世紀初)</p>				
<p>②門生黒谷Ⅱ遺跡SX01 (10世紀中頃～11世紀前半)</p>	<p>緑釉陶器</p> 	<p>須恵器</p> 	<p>鉄製品</p>	<p>銅鏡 玉類</p>
<p>③渋山池遺跡SK33 (11世紀代)</p>		<p>土師器</p> 		
<p>④勝負遺跡SK06 (10世紀後半～11世紀代)</p>				
<p>⑤馬場遺跡 (10世紀後半～11世紀初)</p>				
<p>⑥横路遺跡SK4 (11世紀前半)</p>				
<p>⑦西石橋遺跡 (12世紀代)</p>				
<p>⑧小無田Ⅱ遺跡SX01 (12世紀代)</p>				
<p>⑨小無田Ⅱ遺跡SX02 (12世紀代)</p>				

第23図 平安時代～平安時代末の墓出土遺物一覧（玉以外はS=1/6、玉は1/2）



大久保山



第24図 平安時代の墓復元図
(大久保山、柿崎古墓は各報告書より)

これら島根県の他の例と馬場遺跡を比べると、須恵器を持つ点では①や③と共通する。一方、上師器の坏や皿を多く持ち、さらに鉄刀などの鉄製品を持つ点では⑥～⑨と共通する要素を持つ。このように考えると、馬場遺跡の例はそれまでの墓に見られた要素とその後の墓に見られる要素を持つ「過渡的」な性格を持つと思われる。しかし、規模や石敷の施設、多数の下類などの副葬品を持つ点で他の県内の例と異なるので、単なる過渡的要素のみを指摘することは適当ではないと考えられる。

そこで、規模や内容が傑出する平安時代～平安時代末の墓を取り上げて比較する(第22図)。

①京都市安祥寺下寺跡1は、墓壇の規模は約3.4m×約2.0m、柵の規模は外側で約2.65m×1.45mの木炭木柵墓である。木柵の周りには木炭を巡らせる。釘は大小合わせて約81本あまりが出土している。墓の周囲には区画や小規模な封土があった可能性が強い。墓からは銅鏡片、不明乾漆製品2種類、富寿神寶(818年初鋳)、土師器碗5点、坏2点、皿2点、不明鉄器が出土している。時期は9世紀後半と考えられる。被葬者は安祥寺に関わる人物を想定しているが、銅鏡片や不明乾漆製品が

出土したことや広い面積を墓域として想定できることから、被葬者は「首都に生活の場を持っていた最上位層に属するものの墳墓」(小林1999a p.505)と考えることができる。②新潟県柿崎町の柿崎古墓は墓域の規模が3.4m×2.4m、柩の規模が2.4m×1.3mの木炭木柩墓である。小マウンドを持つ可能性がある。柩の四隅には須恵器の長頸壺や灰釉の長頸壺と瓶が置かれていた。灰釉長頸壺の底には墨書で「石神」と記されていた。柩内からは水晶製平玉が1点出土した。このような埋葬方法は少なくとも畿内の風習を知っており、それを実現できる人物であり、被葬者については刀剣類・帯飾り類がないことから女性の可能性が強いと考えられる。具体的には都で婚姻関係を結び、最終的に故郷である柿崎の地に葬られた可能性を指摘している。時期は9世紀第3四半期と考えられる。マウンドを持つ点、柩には釘が約30本余り用いられていたが柩には釘を用いていないと思われる点や規格性のある建物に隣接して墓が築かれる点が注目される。③本庄市大久保山遺跡1号遺構は独立丘陵上に築かれる古墳時代から平安時代にかけての集落であるが、集落の中から3基の墓が見つっている。そのうちの1基、1号墓域は規模が約3.4m以上×2.1m、木柩の規模は推定で1.7m×1.1mである。副葬品として八稜鏡と短冊状鉄製品(鉄板)が柩の中から出土した。柩の外側、被葬者の足元付近に銅腕1点と土師器高台付坏3点が出土した。釘が出土している。墓域内に礫が詰まっていたことから、積石塚状に礫が地上に露出していたと推測される。時期は10世紀中葉と考えられており、馬場遺跡と時期が最も近い。礫を積む点も類似する。④京都府木津町西山古墓は墓域の規模3.7m×2.3mの木柩墓で、木柩の規模は内法で2.7m×1.3m、木柩の規模は1.85m×0.45~0.5mである。柩は6か所の縦棧で固定されている。柩内からは袋状漆塗製品(冠)、鉄釘が62点出土した。墓域から約2m離れた土壇からは鉄板が出土した。土器が出土しなかったが、他の類例から8世紀後半~9世紀前半と想定されている。⑤⑥山口県防府市岩淵遺跡からは2基の墓が見つっている。そのうちST1は1.8m×1.3mの土壇墓で、底に接して土師器腕と鉄刀(長さ約32cm)を1点ずつ副葬していた。ST2は1.8m×1.2mの土壇の中に拳大の扁平な円礫を敷き、土壇の壁の部分では貼石状になる。礫は火を受けており、部分的に木炭が認められた。土師器の坏4点、皿5点、瓦質土器羽釜片2点が底からは浮いて出土した。元々は墓の上にあったと考えられる。礫を敷く点や炭が認められた点が馬場遺跡に似るが、ST2から釘や人骨などが認められなかったことから、報告書では火葬墓または火葬施設と判断している。時期はST1が13世紀代、ST2が13~14世紀と考えられている。

馬場遺跡の墓は①安祥寺下寺や④西山古墓に次ぐ副葬品や規模であり、②柿崎古墓や③大久保山遺跡と規模において遜色のないものであることがうかがえる。当時の都以外の地方におけるきわめて上位の墓であるということが出来る。大久保山遺跡や岩淵遺跡ST2のように礫を積んだり墓域内に石を用いる例が存在することから、馬場遺跡の石敷は「棺を厳重に覆う」という点で木柩や木炭柩と同様の思想ではないかと思われる。

馬場遺跡の被葬者は平玉に加えて鉄、毛抜きを持つ。その一方、装飾豊かな金具を持つ人刀を持つので、後者を重視して男性の可能性があり、かつ柿崎古墓のように畿内の風習を知っており、それを実現できる社会または経済的な地位の高い人物を想定したい⁴¹⁾。

【第21～23図の引用文献】

- 長峯遺跡：岡崎雄二郎「中竹矢後1号墳 長峯遺跡」 松江市教育委員会 1986
- 門生黒谷Ⅱ遺跡：池淵俊・羽野裕「門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡」
鳥根県教育委員会 1998
- 洪山池遺跡：椿 真治ほか「洪山池遺跡・原の前遺跡」 鳥根県教育委員会 1997
- 勝負遺跡：深出 浩「勝負遺跡・堂床古墳」 鳥根県教育委員会 1997
- 横路遺跡：榊原博英「横路遺跡（土器土地区）」 浜田市教育委員会 1997
- 西石橋遺跡：川原和人・桑原真治「鳥根県斐川町西石橋遺跡の中世墓」『古文化談叢』第18集
pp.187～194 1987
- 小無田Ⅱ遺跡：瀬古諒子ほか「小無田Ⅱ遺跡発掘調査概報」『松江市文化財調査報告書』第75集
松江市教育委員会・（財）松江市教育文化振興事業団 1997
- 安祥寺下寺跡：高 正龍・平方幸雄「安祥寺下寺1」『平成5年度京都市埋蔵文化財調査概要』
（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996
- 柿崎古墓：石川智紀ほか「岡宮ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡」『新潟
県埋蔵文化財調査報告書』第103集 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査
事業団 2001
- 大久保山遺跡：荒川正夫編『大久保山Ⅶ』 早稲田大学本庄校地文化財調査室 1999
- 西山古墓：伊賀高弘「木津地区所在遺跡平成3年度発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第51冊
（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1992
- 岩淵遺跡：大村秀則ほか「岩淵遺跡」『山口県埋蔵文化財センター調査報告』第24集
（財）山口県教育文化財団 2001

註1 馬場遺跡の墓は規模や副葬品を持つ土葬墓が全国的に少なくなる時期に相当しているが、厚葬の気風が残存した可能性を考えたい。今回の報告では火葬墓や土器植墓などについては力量不足のため言及することが出来ず、当時の墓制の一面しか見ることが出来なかった。

要 約

1. 馬場遺跡は鳥根県飯石郡三刀屋町宇給下に位置する。三刀屋町の北東部、峯寺弥山南麓の三刀屋川によって形成されたゆるやかな河岸段丘上に位置しており、標高は約35～47mである。調査前は畑地と宅地であった。
2. 調査は中国横断自動車道尾道松江線建設に伴って、平成11・12年度の2か年にわたって実施した。調査面積は6,130㎡である。
3. 調査の結果、縄紋時代から江戸時代の遺構や遺物を発見した。その中で主体は縄紋時代・奈良～平安時代、平安時代末である。検出した遺構は掘立柱建物56、土城34、柵8、溝5、河道3、土器溜2、ピット多数である。
4. 縄紋時代は前期～晩期の土器が出土し、なかでも後期～晩期が多かった。また、石鏃や石斧などの石器も出土したほか、黒曜石の剥片が900点以上出土した。石器製作跡の可能性はある。
5. 奈良～平安時代は掘立柱建物を中心とする集落で、重複を含め10棟を検出した。遺物は7世紀後半～8世紀前半が多く、鈔帯金具、円面鏡、製塩土器、土錘などがある。建物に規則性が見られないことから役所などの公的な施設の可能性は低いと考えられる。平安時代の遺物としては防長系緑釉陶器や黒色土器が出土した。
6. 平安時代の墓は長さ4mを越す規模や石敷に加えて、大刀や平玉などの副葬品、「黒田」のヘラ描き土器など破格の内容を持つ。土器の年代から10世紀後半～11世紀初頭に造営されたと考えられる。被葬者は社会または経済的な地位の高い男性の可能性があり、集落の周縁部に相当する場所に単独で築かれたと思われる。
7. 平安時代末には南北約100m、東西約30m以上の範囲を溝で区画し、掘立柱建物を重複を含めその中に7棟、遺跡全体では11棟検出した。溝からは中世土師器の坏や皿が大量に出土した。また、この時期の遺物を大量に含む河道を検出した。河道の方向から遺跡の範囲がさらに広がる可能性が強い。
8. 鎌倉～室町時代は遺跡の北側（C区）でやや小規模な掘立柱建物を検出した。
9. 江戸時代はA区を中心に掘立柱建物を8棟検出した。建物は二つの群に分かれる可能性がある。遺物から17～18世紀が中心になると考えられる。

【参考文献】《発行年順》

(鳥根県以外)

黒崎 直 「近畿における8・9世紀の墳墓」『研究論集』VI 奈良国立文化財研究所 pp.89~126
1980

広江耕史・片岡詩子「鳥根県における古代末~中世にかけての須恵器について」

『中近世土器の基礎研究IV』 pp.157~171 1988

狹川真・「墳墓にみる供獻形態の変遷とその背景」『貿易陶磁研究』13 pp.1~20 1993

中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社 1995

地村邦夫「大阪府における古代・中世の木棺墓について」『大阪府埋蔵文化財協会研究紀要』3
pp.215~233 1995

五十川伸矢「古代・中世の京都の墓」『国立歴史民俗博物館研究報告』第68集 pp.51~75 1996

山陰考古学研究会「第26回山陰考古学研究会 山陰における中世前期の貿易陶磁器」 1998

奈良国立文化財研究所「古代家族居宅の構造と類型」 1998

『鈔帯をめぐる諸問題』 2000

秋山浩三「奈良・平安時代における墳墓と珠玉(上)」『古代文化』第49巻第12号 pp.16~25 1998

「奈良・平安時代における墳墓と珠玉(下)」『古代文化』第50巻第1号 pp.31~39 1999 a

「古代の男性墓・女性墓」『古代文化』第51巻第12号 pp.22~33 1999 b

小林義孝「古代の個人墓と集団墓地」『瓦衣千年 森 郁夫先生還暦記念論文集』pp.498~512 1999 a

「古代墳墓研究の分析視角」『古代文化』第51巻第12号 pp.2~12 1999 b

「仏教導入以後の副葬行為 古代」『季刊考古学』70 pp.68~72 2000

九州近世陶磁学会編『九州陶磁の編年』 2000

八峠 興「因幡・伯耆の製埴土器に関する一考察」『古文化談叢』第44集 pp.115~129 2000

石川智紀ほか「国営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡」

『新潟県埋蔵文化財調査報告書』第103集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 2001
(鳥根県の報告書)

町田 章編『出雲国庁跡発掘調査概報』 松江市教育委員会 1970

三宅博士ほか編『史跡出雲国山代郷正倉跡』 鳥根県教育委員会 1981

鳥根県教育委員会編『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』IV

鳥根県教育委員会 1983

蓮岡法璋「仁多・カネツキ免遺跡」『鳥根県埋蔵文化財調査報告書』第XI集 鳥根県教育委員会
1985

広江耕史ほか「天満谷遺跡」『北松江幹線新設工事・松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘
調査報告書』 鳥根県教育委員会 1987

岡崎雄二郎ほか『蕨沢A遺跡・蕨沢B遺跡・別所遺跡』 松江市教育委員会 1988

足立克己・丹羽野裕「古曾志遺跡群発掘調査報告書」 鳥根県教育委員会 1989

岡崎雄二郎ほか編『芝原遺跡』 松江市教育委員会 1989

広江耕史ほか「一般国道9号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書X(中竹矢遺跡)」
鳥根県教育委員会 1992

- 今岡 三ほか「一般国道9号安来道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ（高田南遺跡）」
島根県教育委員会 1992
- 萩 雅人ほか「一般国道9号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅠ（オノ峠遺跡）」
島根県教育委員会 1993
- 丹羽野裕ほか「陽徳遺跡・平ラⅠ遺跡」 島根県教育委員会 1995
- 丹羽野裕ほか「オノ神遺跡・普請場遺跡・烏出黒谷Ⅰ遺跡」 島根県教育委員会 1995
- 瀬古諒子「寺の前遺跡発掘調査報告書」〔松江市文化財調査報告書〕62
松江市教育委員会・（財）松江市教育文化振興事業団 1995
- 瀬古諒子「黒田畦遺跡発掘調査報告書」〔松江市文化財調査報告書〕65
松江市教育委員会・（財）松江市教育文化振興事業団 1995
- 内田律雄「門遺跡」 島根県教育委員会 1996
- 宍道年弘編「後谷Ⅴ遺跡」〔斐川町文化財調査報告〕15 斐川町教育委員会 1996
- 三原一将「小山遺跡」 出雲市教育委員会 1996
- 湯村 功ほか「上長浜貝塚」出雲市教育委員会 1996
- 岩橋孝典ほか「徳見津遺跡・目廻遺跡・陽徳寺遺跡」 島根県教育委員会 1996
- 勝瀬利栄「四ツ廻Ⅱ遺跡・林廻り遺跡・受馬遺跡」 島根県教育委員会 1996
- 柳浦俊一「福富Ⅰ遺跡・屋形1号墳」 島根県教育委員会 1997
- 椿 真治ほか「洪山地遺跡・原の前遺跡」 島根県教育委員会 1997
- 原田敏照ほか「鳥田池遺跡・鶴賞遺跡」 島根県教育委員会 1997
- 宍道年弘「後谷遺跡第5次発掘調査概報」〔斐川町文化財調査報告〕17 斐川町教育委員会 1997
- 池淵俊一・丹羽野裕「門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡」島根県教育委員会 1998
- 岸 道三「藤ヶ森遺跡（Ⅰ地点・Ⅱ地点）発掘調査報告書」 出雲市教育委員会 1998
- 川上 稔ほか「出雲市埋蔵文化財調査報告書」第8集 出雲市教育委員会 1998
- 西尾克己ほか「出土品からみた萩田遺跡の性格」〔宍道町歴史叢書〕3 宍道町教育委員会 1998
pp.15～26
- 宍道年弘「後谷遺跡第6次発掘調査概報」〔斐川町文化財調査報告〕20 斐川町教育委員会 1998
- 藤永照隆「高浜Ⅱ遺跡」 出雲市教育委員会 1999
- 平石 充ほか「古志本郷遺跡Ⅰ」 島根県教育委員会 1999
- 今岡一三ほか「三田谷Ⅰ遺跡（Vol.1）」 島根県教育委員会 1999
- 片岡詩子編「蛇喰遺跡」 玉湯町教育委員会 1999
- 東森 晋ほか「神主城跡・室崎商店裏遺跡・古八幡付近遺跡・横路古墓」島根県教育委員会 2000
- 熱田貴保編「三田谷Ⅰ遺跡（Vol.2）」 島根県教育委員会 2000
- 鳥谷芳雄編「三田谷Ⅰ遺跡（Vol.3）」 島根県教育委員会 2000
- 勝部智明「古志本郷遺跡Ⅱ」 島根県教育委員会 2001
- 内田律雄編「蟹谷遺跡・上沢Ⅲ遺跡・古志本郷遺跡Ⅲ」 島根県教育委員会 2001
- 林 健亮ほか「熊谷遺跡・要害遺跡」
中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書13 島根県教育委員会 2001

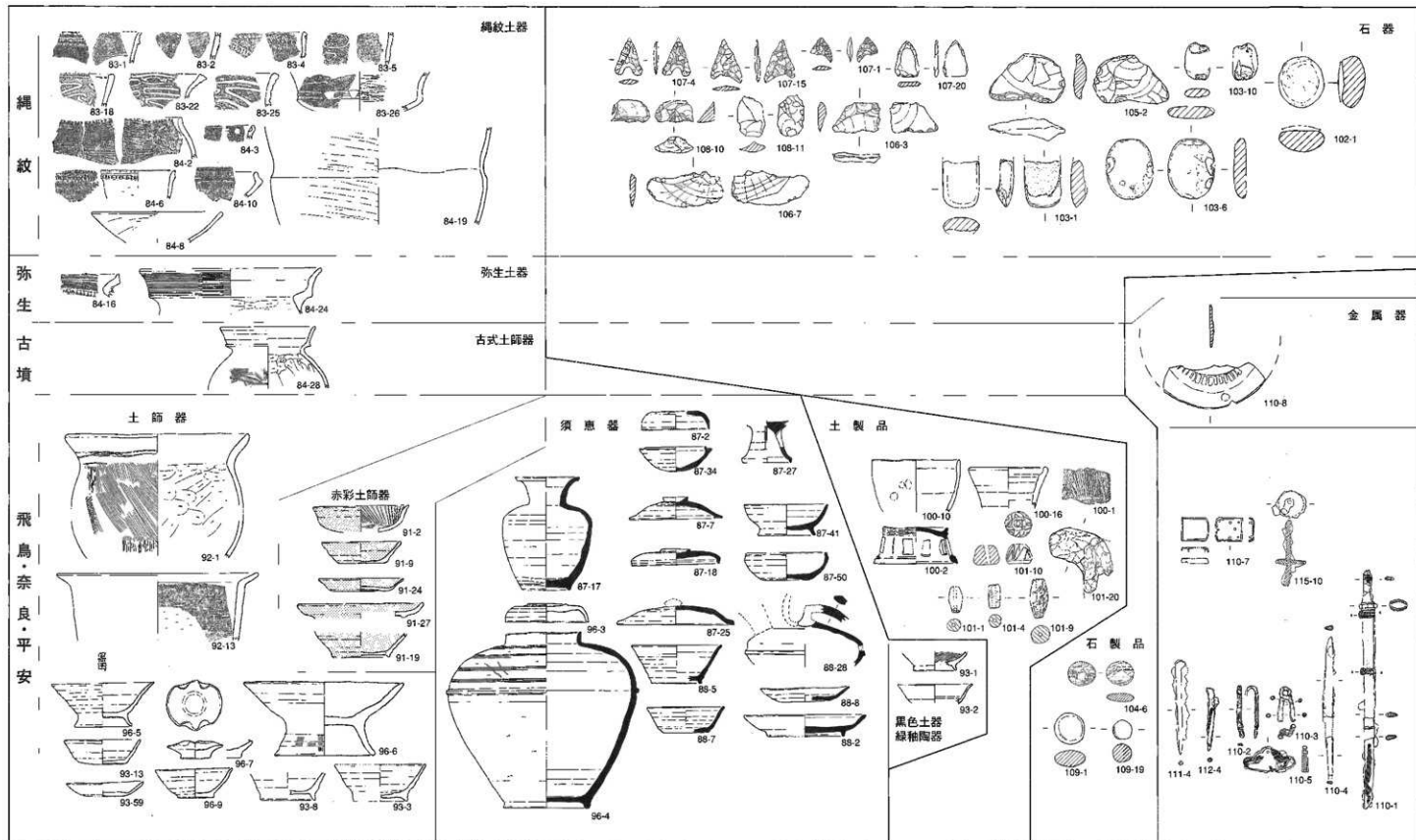


表3 馬場遺跡出土遺物一覽表 (1)

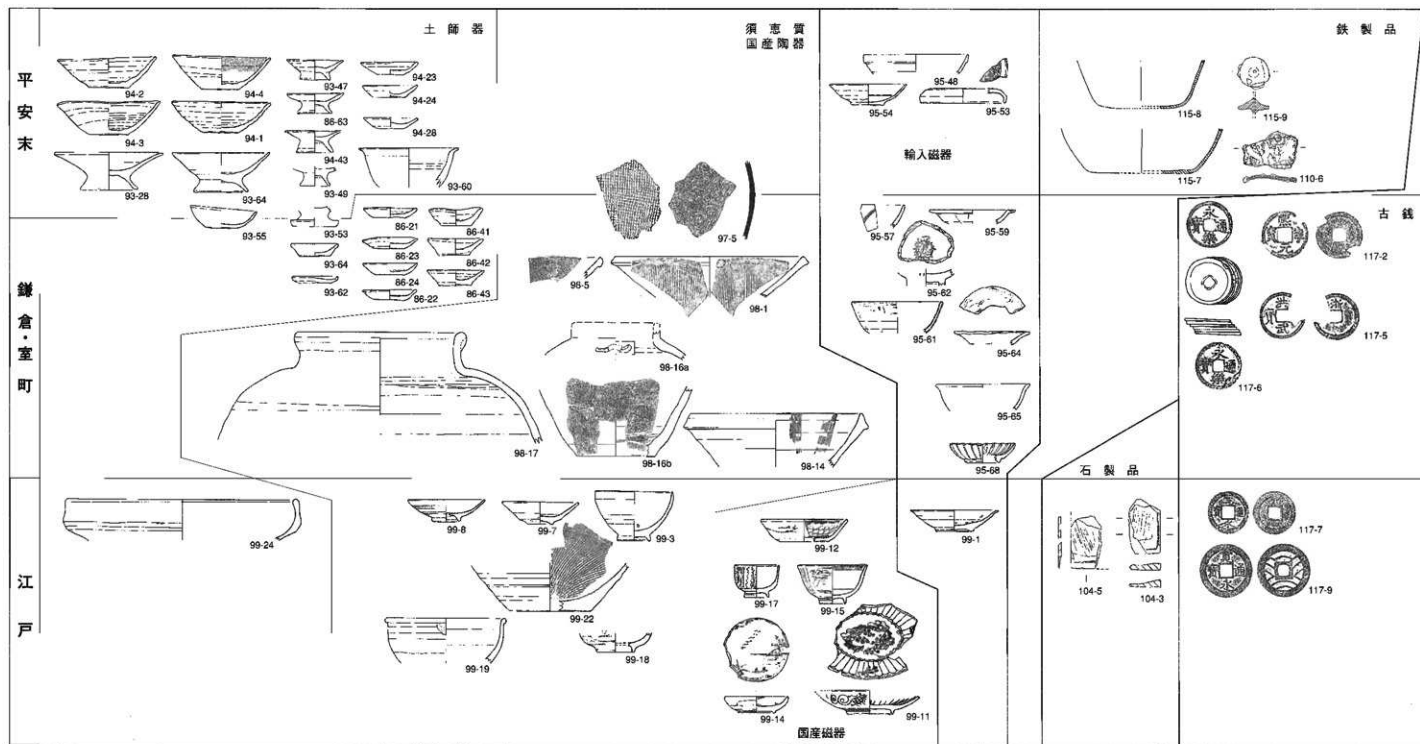


表4 馬場遺跡出土遺物一覽表(2)

表5 建物一覧表

建物	坪数	写真図版	柱間	奥行(m)	桁行(m)	梁間(尺)※	桁間(尺)※	面積(m ²)	備考	主軸	時代
1	第38回	5	2間×2間	3.8	3.9	6	6	14.8		N45° E	飛鳥
2	第38回	5・6	1間×(1間)	2.6	4.0	8	13	(10.4)		N88° E	飛鳥
3	第38回	—	?×4間	?	7.4	?	6	?		N57° E	飛鳥
4	第39回	—	2間×2間	3.0	3.3	5	5	9.9	総柱	N34° W	奈良～平安
5	第39回	6	2間×3間	4.8	6.3	8	7	30.2		N54° E	奈良～平安
6	第40回	—	1間×1間	2.7	3.2	8	10	8.6		N71° E	奈良～平安
7	第40回	—	2間×2間	4.3	4.3	7	7	18.5		N60° E	奈良～平安
8	第40回	—	(2間)×3間	4.8	6.6	8	7	(31.7)		N59° E	奈良～平安
9	第41回	7	(1間)×3間	2.0	6.4	7	7	(12.8)		N65° E	奈良～平安
10	第41回	—	(1間)×2間	2.7	4.7	8	8	(12.7)		N26° W	奈良～平安
11	第42回	—	1間×3間	3.7	10.5	12	10,12	(38.9)		N27° W	奈良～平安
12	第43回	7	1間×3間	1.6	4.5	5	5	7.2		N61° E	奈良～平安
13	第43回	—	1間×2間	1.5	5.0	5	8	7.5		N72° E	奈良～平安
14	第43回	8	1間×2間	2.4	4.5	8	6,9	10.8		N90° W	奈良～平安
15	第44回	8	2間×2間	3.0	4.5	5	7,8	13.5	総柱	N 1° W	奈良～平安
16	第44回	—	1間×2間	1.5	4.2	5	6,7,8	6.3		N89° E	奈良～平安
17	第45回	—	1間×(1間)	3.3	2.3	11	8	(7.6)		N66° E	平安
18	第45回	—	(1間)×3間	2.2	7.9	8	8,10	(17.4)		N67° E	平安～平安末
19	第50回	—	(1間)×4間	5.5	8.7	18	7,9	(47.9)		N77° E	平安末
20	第50回	16	2間×3間	3.7	6.4	6	7	23.7		N72° E	平安末
21	第51回	—	2間×5間	5.4	13.6	9	9	73.4		N75° E	平安末
22	第52回	17	(1間)×3間	2.2	5.9	7	6	(12.9)		N77° E	平安末
23	第52回	—	1間×2間	4.0	6.9	13	11,12	27.6		N69° E	平安末
24	第53回	—	2間×3間	4.6	6.5	8	6,8	29.9		N74° E	平安末
25	第53回	—	1間×(1間)	3.6	2.0	12	7	(7.2)		N73° E	平安末
26	第54回	—	1間×(1間)	1.8	3.3	6	11	(5.9)		N83° E	平安末
27	第54回	—	2間×3間	4.2	6.0	7	6,8	25.2		N 6° W	平安末
28	第55回	17	1間×2間	2.1	4.2	7	6,8,9	(6.8)		N74° E	平安末
29	第55回	—	1間×(2間)	2.4	3.0	8	5	(7.2)		N 8° W	平安末
30	第55回	—	1間×4間	4.2	9.9	14	7,9,10	41.6		N87° E	鎌倉
31	第66回	—	1間×(3間)	4.2	9.9	14	11	(41.6)		N86° E	鎌倉
32	第66回	—	(1間)×3間	2.4	6.0	8	4,8	(14.4)		N70° E	室町
33	第66回	28	1間×2間	2.1	5.1	7	8,9	10.7		N69° E	室町
34	第67回	8	1間×2間	2.1	3.0	7	5	6.3		N67° E	室町
35	第67回	—	1間×2間	3.6	4.8	12	8	17.3		N 7° W	室町
36	第68回	—	1間×4間	4.7	8.5	16	7	40.0		N53° E	江戸
37	第69回	29	1間×3間	3.7	6.4	12	7	23.7		N51° E	江戸
38	第69回	29	1間×4間	4.1	8.8	13	7	36.1		N58° E	江戸
39	第70回	29	1間×1間	3.1	3.3	10	10	10.2		N32° W	江戸
40	第70回	30	1間×4間	5.3	8.9	18	7,8	47.2		N56° E	江戸
41	第71回	29	1間×2間	3.0	4.5	10	8	13.5		N35° W	江戸
42	第71回	—	1間×2間	2.1	4.5	7	7	9.5		N54° E	江戸
43	第72回	—	1間×3間	5.2	8.1	17	8,10	42.1		N56° E	江戸
44	第77回	33	2間×3間	3.0	4.2	4.5	4.5	12.6		N52° E	時期不明
45	第77回	—	1間×(3間)	2.2	6.0	7	6,7	(13.2)		N33° W	時期不明
46	第78回	—	1間×2間	2.4	5.4	8	9	13.0		N82° E	時期不明
47	第78回	—	1間×2間	2.9	4.1	9	7	11.9		N69° E	時期不明
48	第78回	—	1間×1間	2.6	3.5	8	12	9.1		N 8° W	時期不明
49	第41回	—	(1間)×3間	1.6	7.1	5	8	(11.4)		N37° W	時期不明
50	第79回	34	2間×2間	4.8	4.8	4.8	4.8	23.0	総柱	N29° W	時期不明
51	第79回	—	1間×(2間)	3.0	4.8	10	8	(14.4)		N 5° E	時期不明
52	第80回	—	1間×2間	3.3	6.0	11	8,12	19.8		N86° W	時期不明
53	第80回	—	(1間)×3間	3.6	7.8	12	7,9,10	(28.1)		N87° E	時期不明
54	第80回	—	1間×(2間)	1.8	3.3	6	5,6	(5.9)		N87° E	時期不明
55	第81回	—	2間×2間	3.9	4.6	5.8	7.5	17.9		N88° E	時期不明
56	第81回	—	2間×2間	3.0	4.5	4.6	4.5,6	13.5		N87° E	時期不明

※尺は30cmと仮定して計算した。
()は現存の規模を示す。

表6 建物計測表

建物1計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き		
		2間 (3.8m)				2間 (3.9m)		
主 軸		N 4 5° E						
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
	上面径 (cm)	85×71	93×66	102×74	96×64	76×64	76×60	100×76
	底の標高 (m)	37.76	37.80	37.92	37.95	37.43	37.70	37.80
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P7-P1	
		1.9	2.0	1.8	2.0	1.8	1.8	

建物2計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き		
		1間 (2.6m)				1間 (4.0m) 以上		
主 軸		N 8 8° E						
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4			
	上面径 (cm)	66×46	43×40	59×43	64×44			
	底の標高 (m)	38.88	39.28	38.88	38.80			
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P1			
		4.0	2.6	3.9	2.4			

建物3計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き		
		?間 (?)				4間 (7.4m)		
主 軸		N 5 7° E						
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5		
	上面径 (cm)	105×70	60×55	42×40	105×60	80×(70)		
	底の標高 (m)	38.30	38.45	38.45	38.40	38.35		
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5			
		2.0	1.8	1.8	1.8			

建物4計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
		2間 (3.0m)				2間 (3.3m)			
主 軸		N 3 4° W							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	91×82	68×60	86×69	82×59	65×58	56×41	78×68	76×63
	底の標高 (m)	39.00	39.15	39.15	39.10	38.97	39.08	38.94	39.00
	番 号	P9							
柱 穴 (cm)	上面径 (cm)	62×50							
	底の標高 (m)	39.14							
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9
		1.3	1.7	1.7	1.6	1.6	1.4	1.7	1.5
		P1-P8	P2-P9	P4-P9	P6-P9				
		1.5	1.6	1.5	1.6				

建物5計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		2間 (4.8 m)				3間 (6.3 m)			
		N54°E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	70×61	74×61	92×71	99×82	72×56	68×54	66×52	83×66
	底の標高 (m)	39.62	39.60	39.54	39.48	39.40	39.28	39.25	39.30
柱 間 距 離 (m)	番 号	P9	P10						
	上面径 (cm)	101×89	134×48						
	底の標高 (m)	39.15	39.58						
		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9
		1.9	2.0	2.0	2.4	2.4	2.1	2.0	2.2
		P9-P10	P10-P1						
		2.2	2.3						

建物6計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.7 m)				1間 (3.2 m)			
		N71°E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4				
	上面径 (cm)	50×44	44×40	67×52	86×42				
	底の標高 (m)	40.15	39.98	39.76	39.68				
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P1				
		3.0	2.4	3.2	2.7				

建物7計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		2間 (4.3 m)				2間 (4.3 m)			
		N60°E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	
	上面径 (cm)	60×44	51×48	68×53	48×46	54×38	40×35	90×84	
	底の標高 (m)	38.00	38.06	37.92	37.90	37.85	37.90	37.80	
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P7-P1		
		2.1	2.2	2.0	2.3	2.4	2.0		

建物8計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		2間 (4.8 m) 以上				3間 (6.6 m)			
		N59°E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	
	上面径 (cm)	68×55	60×56	58×52	68×60	63×53	45×30	54×44	
	底の標高 (m)	40.40	40.53	40.60	40.50	40.39	40.30	40.28	
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7		
		2.0	2.3	2.0	2.3	2.3	2.5		

建物9計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.0 m) 以上				3間 (6.4 m)			
		N65°E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径 (cm)	42×38	57×40	52×49	45×33	34×28			
	底の標高 (m)	40.43	40.45	40.44	40.40	40.20			
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5				
		2.2	2.0	2.2	2.0				

建物計測表

建物10計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.7m) 以上				2間 (4.7m) 以上			
		N 2 8' W							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4				
	上面径 (cm)	58×50	79×57	45×35	63×60				
	底の標高 (m)	40.27	40.33	40.06	40.03				
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4					
		2.7	2.3	2.4					

建物11計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (3.7m)				3間 (10.5m)			
		N 2 7' W							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	77×60	50×45	25×22	50×42	92×75	58×43	72×57	40×35
	底の標高 (m)	41.40	41.55	41.40	41.00	40.85	40.77	40.90	41.30
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P1
		3.5	3.8	3.7	3.0	3.7	3.3	3.3	3.9

建物12計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (1.6m)				3間 (4.5m)			
		N 5 1' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	45×40	42×39	50×50	65×45	62×52	62×50	44×33	37×35
	底の標高 (m)	40.76	40.68	40.76	40.76	40.91	40.61	40.70	40.67
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P1
		1.5	1.4	1.5	1.4	1.6	1.6	1.3	1.6

建物13計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (1.5m)				2間 (5.0m)			
		N 7 2' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径 (cm)	55×40	58×53	30×25	65×55	75×40	52×40		
	底の標高 (m)	40.75	41.05	41.05	40.95	40.75	40.75		
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P1		
		2.5	2.3	1.5	2.5	2.5	1.4		

建物14計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.4m)				2間 (4.5m)			
		N 9 0' W							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径 (cm)	33×28	23×17	30×25	82×53	87×65	28×25		
	底の標高 (m)	44.23	44.26	44.52	44.20	44.16	44.05		
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P1		
		2.7	1.8	2.4	2.7	1.8	2.4		

建物15計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		2間 (3.0m)				2間 (4.5m)			
		N1' W							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	46×32	45×40	28×28	23×20	28×25	28×23	35×35	22×22
	底の標高 (m)	44.45	44.57	44.53	44.47	44.30	44.23	44.12	44.25
柱 間 距 離 (m)	番 号	P9							
	上面径 (cm)	33×33							
	底の標高 (m)	44.35							
		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9
		1.5	1.5	2.4	2.1	1.5	1.5	2.1	1.5
		P8-P1	P2-9P	P4-9P	P6-P9				
		2.4	2.4	1.5	2.1				

建物16計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (1.5m)				2間 (4.2m)			
		N8 9' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径 (cm)	33×30	51×36	45×36	52×32	47×47	54×54		
	底の標高 (m)	43.23	43.33	45.50	43.37	43.32	43.37		
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P1		
		2.1	2.1	1.5	1.8	2.4	1.5		

建物17計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (3.3m)				1間 (2.3m) 以上			
		N6 6' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4				
	上面径 (cm)	56×48	62×42	170×65	190×170				
	底の標高 (m)	39.00	38.90	38.82	38.72				
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4					
		2.3	3.3	2.3					

建物18計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.2m) 以上				3間 (7.9m) 以上			
		N6 7' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径 (cm)	100×95	85×70	53×45	55×45	85×45			
	底の標高 (m)	40.10	40.40	40.28	40.40	40.43			
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5				
		2.2	2.5	2.4	3.0				

建物19計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (5.5m) 以上				4間 (8.7m) 以上			
		N7 7' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径 (cm)	190×100	70×60	157×86	182×86	135×88	120×81		
	底の標高 (m)	35.48	36.00	35.85	35.48	35.80	35.40		
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6			
		2.0	2.3	2.2	2.2	5.5			

建物20計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き				
主 軸		2間 (3.7m)				3間 (6.4m)				
主 軸		N 7 2 ° E								
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
	上面径 (cm)	60×50	40×33	32×29	32×30	33×25	32×30	40×28	44×38	27×25
	底の標高 (m)	41.42	41.50	41.58	41.54	41.50	41.42	41.30	41.13	41.41
柱 間 距 離 (m)	P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9	P9-P1	
		2.0	2.3	2.1	1.9	1.8	2.2	4.2	1.7	2.0

建物21計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		2間 (5.4m)				5間 (13.6m)			
主 軸		N 7 5 ° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	55×40	79×50	79×70	66×40	60×45	52×40	66×43	37×30
	底の標高 (m)	40.92	40.98	41.08	41.10	41.21	41.37	41.53	41.73
柱 穴 (cm)	番 号	P9	P10	P11	P12	P13	P14		
	上面径 (cm)	70×57	59×51	51×45	76×48	88×45	68×58		
	底の標高 (m)	41.46	41.06	41.27	41.09	40.85	40.80		
柱 間 距 離 (m)	P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9	
		2.7	2.7	2.9	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6
	P9-P10	P10-P11	P11-P12	P12-P13	P13-P14	P14-P1			
	2.8	2.9	2.7	2.6	2.7	2.6			

建物22計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.2m) 以上				3間 (5.9m) 以上			
主 軸		N 7 7 ° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径 (cm)	35×29	50×32	45×36	33×32	54×42			
	底の標高 (m)	41.20	41.05	40.91	40.83	40.75			
柱 間 距 離 (m)	P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5					
		2.2	2.0	2.0	1.9				

建物23計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (4.0m)				2間 (6.9m)			
主 軸		N 6 9 ° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径 (cm)	53×48	70×70	44×33	65×58	49×36	85×61		
	底の標高 (m)	41.11	41.36	41.38	40.75	40.84	40.51		
柱 間 距 離 (m)	P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P1			
		3.2	3.7	4.0	3.5	3.3	3.9		

建物24計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		2間 (4.6m)				3間 (6.5m)			
主 軸		N 7 4 ° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	
	上面径 (cm)	50×45	50×46	100×47	45×40	40×35	20×18	48×45	
	底の標高 (m)	40.68	40.75	40.78	40.70	40.40	40.50	40.65	
柱 間 距 離 (m)	P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P7	P6-P1			
		4.6	1.9	4.6	4.3	2.4	2.4		

建物25計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (3.6 m)				1間 (2.0 m) 以上			
		N 7 3° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P 1	P 2	P 3	P 4				
	上面径 (cm)	108×60	65×50	72×55	65×43				
	底の標高 (m)	40.40	40.40	40.45	40.20				
柱 間 距 離 (m)		P 1-P 2	P 2-P 3	P 3-P 4					
		2.0	3.6	2.0					

建物26計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (1.8 m)				1間 (3.3 m) 以上			
		N 8 3° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P 1	P 2	P 3	P 4				
	上面径 (cm)	35×22	50×40	80×63	42×35				
	底の標高 (m)	43.63	43.87	43.52	43.46				
柱 間 距 離 (m)		P 1-P 2	P 2-P 3	P 3-P 4					
		3.3	1.8	3.3					

建物27計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		2間 (4.2 m)				3間 (6.0 m)			
		N 6° W							
柱 穴 (cm)	番 号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
	上面径 (cm)	47×30	33×33	50×38	18×15	104×63	72×56	36×30	60×48
	底の標高 (m)	43.10	43.17	43.22	43.42	42.72	42.66	42.69	42.47
	番 号	P 9	P 1 0						
	上面径 (cm)	73×46	21						
柱 間 距 離 (m)		P 1-P 2	P 2-P 3	P 3-P 4	P 4-P 5	P 5-P 6	P 6-P 7	P 7-P 8	P 8-P 9
		2.1	2.1	2.4	1.8	1.8	2.1	2.1	1.8
		P 9-P 10	P 10-P 1						
		1.8	2.4						

建物28計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.1 m)				2間 (4.2 m) 以上			
		N 7 4° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5			
	上面径 (cm)	30×30	17×17	47×38	73×52	28×28			
	底の標高 (m)	43.30	43.67	43.55	43.32	43.48			
柱 間 距 離 (m)		P 1-P 2	P 2-P 3	P 3-P 4	P 4-P 5				
		1.8	2.4	2.1	2.7				

建物29計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.4 m)				2間 (3.0 m) 以上			
		N 8° W							
柱 穴 (cm)	番 号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5			
	上面径 (cm)	21×21	25×20	30×25	29×29	40×40			
	底の標高 (m)	43.48	43.63	43.75	44.02	43.47			
柱 間 距 離 (m)		P 1-P 2	P 2-P 3	P 3-P 4	P 4-P 5				
		1.5	1.5	2.4	1.5				

建物30計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
		1間 (4.2m)				4間 (9.9m)			
主 軸		N 8 7 ° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	68×58	72×58	34×20	73×73	54×50	37×30	48×48	46×46
	底の標高 (m)	42.74	42.97	43.52	43.10	43.35	43.42	43.10	43.05
	底の標高 (m)	43.22	43.14						
柱 間 距 離 (m)	番 号	P9	P10						
	上面径 (cm)	98×52	20						
	底の標高 (m)	43.22	43.14						
		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9
		4.2	2.1	2.1	3.0	2.7	4.2	2.7	3.0
		P9-P10	P10-P11						
		2.1	2.1						

建物31計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き		
		1間 (4.2m)				3間 (9.9m) 以上		
主 軸		N 8 6 ° E						
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
	上面径 (cm)	72×58	61×52	52×43	103×80	75×55	55×43	58×55
	底の標高 (m)	43.21	43.29	43.08	43.35	43.37	43.49	43.38
柱 間 距 離 (m)	番 号	P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	
		3.3	3.3	4.2	3.3	3.3	3.3	

建物32計画表

規 模		(梁 行 き)				(桁 行 き)		
		1間 (2.4m) 以上				3間 (6.0m)		
主 軸		N 7 0 ° E						
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	
	上面径 (cm)	73×62	63×46	50×50	45×38	35×35	46×37	
	底の標高 (m)	43.15	43.36	43.43	43.40	43.42	43.25	
柱 間 距 離 (m)	番 号	P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6		
		2.4	1.2	2.4	2.4	2.4		

建物33計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き		
		1間 (2.1m)				2間 (5.1m)		
主 軸		N 6 9 ° E						
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	
	上面径 (cm)	27×23	50×47	23×23	27×27	54×38	48×48	
	底の標高 (m)	46.23	46.20	46.42	46.23	45.73	45.90	
柱 間 距 離 (m)	番 号	P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P1	
		2.7	2.4	2.1	2.4	2.7	2.1	

建物34計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き		
		1間 (2.1m)				2間 (3.0m)		
主 軸		N 6 7 ° E						
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	
	上面径 (cm)	48×48	42×42	50×50	40×32	32×24	28×28	
	底の標高 (m)	44.80	44.78	44.87	44.72	44.72	44.86	
柱 間 距 離 (m)	番 号	P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P1	
		1.5	1.5	2.1	1.5	1.5	2.1	

建物35計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き		
主 軸		1間 (3.6 m)				2間 (4.8 m)		
		N 7 ° W						
柱 穴 (cm)	番 号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	
	上面径 (cm)	40×30	49×32	31×26	40×40	23×23	50×44	
	底の標高 (m)	43.32	43.52	43.35	43.20	43.30	43.30	
柱 間 距 離 (m)		P 1-P 2	P 2-P 3	P 3-P 4	P 4-P 5	P 5-P 6	P 6-P 1	
		3.6	2.4	2.4	3.6	2.4	2.4	

建物36計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (4.7 m)				4間 (8.5 m)			
		N 5 3 ° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
	上面径 (cm)	177×82	164×91	131×78	152×71	153×80	120×90	118×90	142×121
	底の標高 (m)	39.30	39.50	39.60	39.48	39.46	39.60	39.50	39.40
	番 号	P 9	P 10						
	上面径 (cm)	96×78	188×78						
柱 間 距 離 (m)		P 1-P 2	P 2-P 3	P 3-P 4	P 4-P 5	P 5-P 6	P 6-P 7	P 7-P 8	P 8-P 9
		4.7	2.2	2.0	1.9	2.4	4.6	2.1	2.0
		P 9-P 10	P 10-P 1						
	1.9	2.3							

建物37計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (3.7 m)				3間 (6.4 m)			
		N 5 1 ° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
	上面径 (cm)	108×38	56×48	55×45	48×40	74×38	55×48	79×49	78×63
	底の標高 (m)	38.90	38.88	38.90	38.92	38.75	38.62	38.60	38.70
柱 間 距 離 (m)		P 1-P 2	P 2-P 3	P 3-P 4	P 4-P 5	P 5-P 6	P 6-P 7	P 7-P 8	P 8-P 1
		2.4	2.0	2.0	3.7	2.0	2.1	2.1	3.6

建物38計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (4.1 m)				4間 (8.8 m)			
		N 5 8 ° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
	上面径 (cm)	178×82	134×77	78×74	68×60	136×74	84×74	90×74	52×41
	底の標高 (m)	38.64	38.70	38.85	38.90	38.87	38.65	38.55	38.56
	番 号	P 9	P 10						
	上面径 (cm)	90×71	104×54						
柱 間 距 離 (m)		P 1-P 2	P 2-P 3	P 3-P 4	P 4-P 5	P 5-P 6	P 6-P 7	P 7-P 8	P 8-P 9
		2.0	2.4	2.0	2.3	3.8	2.1	2.2	2.1
		P 9-P 10	P 10-P 11						
	2.4	4.1							

建物計画表

建物39計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (3.1m)				1間 (3.3m)			
		N 3 2' W							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4				
	上面径 (cm)	98×68	214×75	79×72	110×55				
	底の標高 (m)	41.14	40.96	41.27	40.80				
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P1				
		3.3	3.0	2.8	3.1				

建物40計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (5.3m)				4間 (8.9m)			
		N 5 8' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	126×66	160×95	162×93	142×84	206×74	174×126	110×80	111×80
	底の標高 (m)	40.76	40.80	40.83	40.70	40.80	40.56	40.82	40.60
	番 号	P9	P10						
柱 穴 (cm)	上面径 (cm)	110×70	114×80						
	底の標高 (m)	40.71	40.90						
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9
		2.4	1.8	2.3	2.2	5.3	2.5	2.2	1.8
		P9-P10	P10-P11						
		2.4	5.1						

建物41計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (3.0m)				2間 (4.5m)			
		N 5 5' W							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径 (cm)	75×74	100×60	90×70	90×65	76×50	52×42		
	底の標高 (m)	40.95	41.24	40.92	40.85	40.89	41.12		
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P1		
		3.0	2.3	2.2	3.0	2.2	2.3		

建物42計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.1m)				2間 (4.5m)			
		N 5 4' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径 (cm)	55×50	94×61	80×60	83×55	80×45	65×55		
	底の標高 (m)	40.85	40.81	40.80	40.80	40.80	40.70		
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P1		
		2.1	2.4	2.1	2.4	2.1	2.1		

建物43計画表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (5.2m)				3間 (8.1m)			
		N 5 6' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	140×73	130×55	130×115	165×100	110×70	120×80	82×60	65×50
	底の標高 (m)	40.90	41.08	40.76	40.80	40.70	40.90	41.00	40.88
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P1
		2.7	2.8	2.5	5.2	2.4	2.7	3.0	5.0

建物44計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き				
主 軸		2間 (3.0m)				3間 (4.2m)				
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	
	上面径 (cm)	31×20	34×27	49×42	45×39	41×40	68×41	67×48	44×40	
	底の標高 (m)	42.83	42.92	42.88	42.90	42.96	42.68	42.64	42.75	
	番 号	P9	P10							
	上面径 (cm)	48×43	29×26							
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9	
		1.5	1.2	1.4	1.7	1.3	1.3	1.4	1.5	
		P9-P10	P10-P11							
		1.4	1.3							

建物45計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.2m)				3間 (6.0m) 以上			
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	
	上面径 (cm)	37×30	45×42	30×30	46×45	32×25	30×25	35×32	
	底の標高 (m)	41.10	41.28	41.40	41.50	41.32	41.10	41.00	
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7		
		2.0	1.8	2.2	2.0	2.0	2.0		

建物46計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.4m)				2間 (5.4m)			
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径 (cm)	40×30	30×25	40×30	78×50	55×50			
	底の標高 (m)	41.35	41.55	41.50	41.05	41.00			
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P1			
		5.4	2.4	2.7	2.6	2.3			

建物47計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.9m)				2間 (4.1m)			
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径 (cm)	75×70	70×57	50×35	50×32	47×43			
	底の標高 (m)	40.95	41.00	41.15	41.00	40.90			
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P1			
		2.1	2.0	2.8	4.0	2.9			

建物48計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (2.6m)				1間 (3.5m)			
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4				
	上面径 (cm)	53×45	70×45	40×35	45×27				
	底の標高 (m)	40.92	41.05	40.85	40.73				
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P1				
		2.6	3.5	2.6	3.5				

建物計測表

建物49計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き		
主 軸		1間 (1.6m)				3間 (7.1m)		
		N 3 7 ° W						
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
	上面径 (cm)	45×35	63×60	45×40	40×38	55×45		
	底の標高 (m)	40.06	40.03	40.30	40.20	39.90		
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P7	P5-P6	P6-P3	
		2.4	2.2	1.6	2.5			

建物50計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		2間 (4.8m)				2間 (4.8m)			
		N 2 9 ° W							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	83×53	68×68	93×72	41×41	47×35	50×50	72×62	84×70
	底の標高 (m)	46.91	47.03	46.87	46.92	46.81	46.75	46.72	46.58
	番 号	P9	P10	P11					
	上面径 (cm)	83×57	76×63	73×58					
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9
		2.4	2.4	2.4	1.2	1.2	2.4	2.4	1.2
		P9-P10	P10-P11	P2-P11	P4-P11	P7-P11	P10-P11		
	1.2	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4			

建物51計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (3.0m)				2間 (4.8m) 以上			
		N 5 ° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径 (cm)	35×25	50×29	77×65	47×47	65×55			
	底の標高 (m)	43.25	43.26	43.27	40.73	42.95			
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5				
		2.4	3.0	2.4	2.4				

建物52計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (3.3m)				2間 (6.0m)			
		N 8 6 ° W							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径 (cm)	51×40	30	50×46	63×42	51×42	49×37		
	底の標高 (m)	43.45	43.40	43.40	43.40	43.33	43.15		
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P1		
		3.6	2.4	3.3	2.4	3.6	3.3		

建物53計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (3.6m) 以上				3間 (7.8m)			
		N 8 7 ° E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径 (cm)	42×33	25	25	30	40×35	27		
	底の標高 (m)	43.30	43.53	43.55	43.63	43.45	43.15		
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6			
		3.6	2.1	2.7	3.0	3.6			

建物54計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		1間 (1.8 m)				2間 (3.3 m) 以上			
		N 8 7' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径 (cm)	32×27	43×35	37×32	22×22	26×22			
	底の標高 (m)	43.36	43.32	43.42	43.53	43.44			
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5				
		1.8	1.5	1.8	1.5				

建物55計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		2間 (3.9 m)				2間 (4.6 m)			
		N 8 8' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	53×37	33×24	66×52	43×38	67×33	25×25	38×38	46×50
	底の標高 (m)	43.04	43.40	43.38	43.13	42.85	42.78	42.80	42.83
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P1
		2.3	2.3	2.4	1.5	2.3	2.3	1.5	2.4

建物56計測表

規 模		梁 行 き				桁 行 き			
主 軸		2間 (3.0 m)				3間 (4.5 m)			
		N 8 7' E							
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径 (cm)	39×25	42×32	33×30	35×28	30×30	35×29	36×28	32×32
	底の標高 (m)	43.50	43.59	43.34	43.47	43.49	43.31	43.47	43.13
	番 号	P9	P10						
	上面径 (cm)	37.33	82×63						
	底の標高 (m)	43.20	43.23						
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9
		1.8	1.2	1.5	1.8	1.2	1.5	1.5	1.5
		P9-P10	P10-P11						
		1.2	1.8						

横1計測表

規 模		2間 (3.6 m)		
主 軸		N 3 2' W		
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3
	上面径 (cm)	86×66	82×57	56×49
	底の標高 (m)	38.36	38.32	39.02
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	
		1.8	1.8	

横2計測表

規 模		2間 (4.2 m)		
主 軸		N 3 5' W		
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3
	上面径 (cm)	51×35	69×48	42×33
	底の標高 (m)	39.38	38.93	38.85
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	
		2.1	2.1	

欄3計測表

規 模		2間 (3.6m)		
主 軸		N58°E		
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3
	上面径 (cm)	68×53	92×68	63
	底の標高 (m)	39.28	39.33	39.28
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	
		1.8	1.8	

欄4計測表

規 模		2間 (3.6m)		
主 軸		N58°E		
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3
	上面径 (cm)	81×52	67	58×48
	底の標高 (m)	39.25	39.28	39.22
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	
		1.8	1.8	

欄5計測表

規 模		2間 (5.4m)		
主 軸		N70°E		
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3
	上面径 (cm)	60×40	42	53×41
	底の標高 (m)	40.78	40.90	41.02
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	
		2.1	2.1	

欄6計測表

規 模		2間 (3.3m)		
主 軸		N70°E		
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3
	上面径 (cm)	32	42×32	46×42
	底の標高 (m)	44.96	45.03	45.02
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	
		1.65	1.65	

欄7-A計測表

規 模		4間 (10.8m)					
主 軸		N58°E					
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P4	P7	P10	P12	
	上面径 (cm)	36×32	46×42	50	46×40	38×32	
	底の標高 (m)	41.66	41.66	41.64	41.67	41.53	
柱 間 距 離 (m)		P1-P4	P4-P7	P7-P10	P10-P12		
		2.7	2.7	2.7	2.7		

欄7-B計測表

規 模		4間 (10.8m)			
主 軸		N58°E			
柱 穴 (cm)	番 号	P2	P5	P8	P11
	上面径 (cm)	38×32	50×41	48×46	42
	底の標高 (m)	41.63	41.66	41.66	41.66
柱 間 距 離 (m)		P2-P5	P5-P8	P8-P11	P11-P13
		2.7	2.7	2.7	2.7

欄7-C計測表

規 模		2間 (5.4m)		
主 軸		N55°E		
柱 穴 (cm)	番 号	P3	P6	P9
	上面径 (cm)	44×32	60×55	90×53
	底の標高 (m)	41.67	41.69	41.69
柱 間 距 離 (m)		P3-P6	P6-P9	
		2.7	2.7	

欄8計測表

規 模		2間 (4.8m)		
主 軸		N61°E		
柱 穴 (cm)	番 号	P1	P2	P3
	上面径 (cm)	40×32	80×75	83×78
	底の標高 (m)	45.06	45.88	46.01
柱 間 距 離 (m)		P1-P2	P2-P3	
		2.4	2.4	

表7 土庫一覽表

名稱	埵園	上面形		長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物	時代
		底面形	長軸 (cm)						
土庫1	第47園	橢円形	40	31	27	N 3 1° E	須惠器	飛鳥	
		橢円形	22	15					
土庫2	第46園	方形	256	236	34	N 4 2° E	須惠器・土師器 赤彩土師器	奈良・平安	
		長方形	235	180					
土庫3	第47園	橢円形	170	128	35	N 4° E	土師器・赤彩土師器	奈良・平安	
		橢円形	125	89					
土庫4	第47園	橢円形	114	89	43	N 5 4° E	土師器・赤彩土師器	奈良・平安	
		橢円形	88	56					
土庫5	第47園	橢円形	101	78	52	N 5 5° E	須惠器・土師器	奈良・平安	
		橢円形	54	26					
土庫6	第47園	不整形	120	98	43	N 5 8° E	土師器	奈良・平安	
		不整形	90	53					
土庫7	第47園	長方形	150	97	30	N 7 0° E	土師器	奈良・平安	
		長方形	134	68					
土庫8	第47園	橢円形	149	92	109	N 6 9° E	須惠器・土師器 赤彩土師器	奈良・平安	
		橢円形	73	45					
土庫9	第61園	橢円形	196	131	30	N 5 2° W	須惠器・土師器・赤彩土師器 土鏝・鉄滓・鉄製紡錘車	平安	
		橢円形	165	110					
土庫10	第61園	円形	105	97	35	—	土師器・赤彩土師器	平安	
		円形	84	77					
土庫11	第61園	円形	108	91	71	—	須惠器・赤彩土師器 中世土師器	平安～平安末	
		円形	57	47					
土庫12	第61園	円形	160	148	57	—	中世土師器・板状鉄製品	平安末	
		円形	100	91					
土庫13	第61園	橢円形	158	95	15	N 8 0° E	中世土師器	平安末	
		橢円形	104	65					
土庫14	第75園	橢円形	139	105	75	—	近世陶器	江戸	
		橢円形	125	90					
土庫15	第75園	橢円形	192	113	35	N 5 0° W	陶胎塗付	江戸	
		橢円形	113	107					
土庫16	第75園	長方形	142	58	33	N 5 4° E	近世陶磁器	江戸	
		長方形	120	35					
土庫17	第75園	橢円形	146	113	63	—	近世陶磁器	江戸	
		橢円形	111	71					
土庫18	第75園	橢円形	175	138	76	N 4 8° W	近世陶磁器	江戸	
		橢円形	114	88					
土庫19	第75園	長方形	225	115	35	N 5 3° E		江戸	
		不整形	190	111					
土庫20	第76園	円形	219	187	67	—	近世陶磁器	江戸	
		橢円形	163	119					
土庫21	第76園	橢円形	205	143	49	N 3 9° W	近世陶器	江戸	
		円形	101	85					
土庫22	第61園	橢円形	202	122	13	N 4 0° W		江戸	
		橢円形	166	79					
土庫23	第82園	長方形	111	75	12	N 1 3° E		時期不明	
		不整形	97	72					
土庫24	第82園	橢円形	75	62	26	N 6 1° E		時期不明	
		橢円形	65	57					

土坑一覽表
ピット一覽表

名称	挿入	上面形		長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物	時代
		底面形	長軸 (cm)						
土坑25	第82回	槽円形	137	120	20	N 6 1' W			時期不明
		槽円形	106	82					
土坑26	第82回	槽円形	66	55	22	N 3 3' W			時期不明
		槽円形	55	45 ?					
土坑27	第82回	槽円形	123	78	21	N 3 3' W			時期不明
		槽円形	107	70 ?					
土坑28	第82回	圓丸方形	93	90	14	—			時期不明
		圓丸方形	79	68					
土坑29	第82回	槽円形	(110)	63	62	N 8 2' E			時期不明
		槽円形	(76)	37					
土坑30	第82回	槽円形	100	83	33	N 4 2' W			時期不明
		槽円形	74	60					
土坑31	第82回	槽円形 ?	149	(134)	84 ?	—			時期不明
		槽円形 ?	(102)	98					
土坑32	第61回	槽円形	97	73	18	N 3 0' E			時期不明
		槽円形	74	58					
土坑33	第61回	槽円形	122	106	11	N 8 7' E			時期不明
		槽円形	108	90					
土坑35	第61回	槽円形	169	140	23	N 2 1' W			時期不明
		槽円形	68	52					

表 8 ピット一覽表

遺構	全体図	形跡	規模 (cm)				深さ	底面標高 (m)	出土遺物
			上端		下端				
			長軸	短軸	長軸	短軸			
P1001	第 3 1 回	不整形	120	93	106	75	26	39.04	
002	—	槽円形	118	60	70	33	28	39.07	
003	第 3 1 回	円形	49	47	38	37	21	39.19	青磁
004	第 3 0 回	槽円形	82	56	48	32	55	38.62	
005	第 2 8 回	円形	92	89	55	33	78	35.52	
006	第 2 8 回	(槽円形)	120	—	35	26	104	35.40	
007	第 2 8 回	長方形	115	76	73	50	79	35.71	陶器
008	—	槽円形	90	44	65	30	17	37.70	
009	—	長方形	75	48	47	32	29	37.82	
010	第 3 0 回	槽円形	164	140	158	122	34	38.57	
011	第 3 0 回	不整形	213	163	195	168	38	39.10	
012	第 3 0 回	槽円形	100	65	85	53	41	38.51	
013	第 3 0 回	槽円形	78	55	61	38	29	39.34	
014	—	槽円形	100	62	64	63	22	39.85	
015	第 2 9 回	不整形	80	68	65	50	20	39.36	
016	第 2 9 回	槽円形	176	133	164	116	19	39.16	土罐
017	第 3 1 回	槽円形	48	36	33	23	24	38.79	
018	第 3 1 回	槽円形	44	35	31	18	32	38.70	
019	第 3 1 回	槽円形	30	22	18	12	16	38.87	
020	第 3 1 回	槽円形	40	33	25	16	20	38.38	
021	第 3 0 回	円形	45	36	32	30	12	38.81	
022	第 3 0 回	槽円形	66	52	36	27	37	39.23	
023	第 3 0 回	円形	48	42	36	35	28	38.69	土製支脚
024	第 3 0 回	(槽円形)	—	42	—	32	17	39.24	
025	第 3 3 回	円形	44	38	34	28	10	40.31	
026	第 3 0 回	円形	72	64	58	54	32	39.63	
027	—	槽円形	55	42	35	25	11	39.72	
028	第29-32回	槽円形	52	46	25	15	59	39.94	
029	第 2 9 回	円形	53	48	36	32	25	39.01	

030	第29回	楕円形	57	38	48	35	21	29.11	
031	第29回	円形	48	43	34	30	16	39.61	
032	第29・32回	円形	62	54	23	20	39	39.89	
033	—	楕円形	70	60	55	44	18	38.81	磁種
034	第29回	楕円形	78	40	67	33	40	38.99	
035	第31回	楕円形	102	85	70	50	40	39.07	
036	第31回	楕円形	104	72	38	32	46	38.75	
037	—	円形	55	46	35	28	25	37.33	
038	第31回	不整形	88	-	54	-	36	39.12	
039	—	楕円形	65	45	45	23	22	37.99	毒片
040	第32回	円形	54	48	40	34	23	41.09	
041	第32・33回	楕円形	91	38	74	24	21	40.81	
042	第33・34回	楕円形	68	46	56	35	22	41.09	
043	第33・34回	不整形	164	113	50	41	46	40.14	
044	第34回	円形	61	54	48	34	25	40.74	
045	第34回	円形	34	30	22	21	13	40.62	
046	第34回	円形	33	30	20	18	38	40.17	
047	第32回	円形	37	33	24	23	17	40.09	翼
048	第33・34回	円形	44	43	33	25	19	41.29	
049	第33・34回	円形	49	42	38	32	21	41.28	
050	第34回	円形	49	44	32	28	32	40.77	
051	第33・34回	円形	54	-	43	40	14	41.27	
052	第34回	楕円形	57	39	43	24	21	40.61	磁種
053	—	楕円形	71	59	51	46	17	43.92	
054	—	円形	50	45	33	30	39	47.08	以下C区
055	第35回	楕円形	105	37	88	24	38	45.58	
056	第36回	円形	48	45	33	28	34	45.34	
057	第36回	円形	50	44	30	26	28	45.46	
058	第36回	楕円形	48	37	25	24	36	44.66	
059	第36回	円形	31	29	22	20	24	44.33	
060	第36回	楕円形	95	47	85	41	18	44.27	
061	第36回	楕円形	70	47	40	20	43	44.57	羽口片
062	第37回	(円形)	50	-	41	-	17	42.97	
063	第36回	円形	34	31	19	16	33	43.51	
064	第36回	円形	37	32	19	17	32	43.54	新造土器
065	第36回	円形	26	24	17	14	18	43.51	
066	第36回	楕円形	49	40	40	32	27	43.43	
067	第36回	円形	22	20	13	12	23	43.37	
068	—	不整形	105	95	85	80	12	44.37	古銭

表9 土器観察表

国誌年	年別	調査地	調査区	出土位置	種別	器種	口径(cm)	径(cm)	高さ(cm)	色調	所産地	内装の調査	内装の調査	形状・文様の特徴	
83	39	1	AIX	4区東側包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	薄青褐色	—	条痕	条痕	内形の斜突文3列、乱刻	
83	39	2	AIX	2区包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	薄青褐色	—	条痕	条痕	スー一様の斜突文2列、乱刻?	
83	39	3	AIX	4区東側包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	薄褐色	—	ナデ	ナデ	四方の沈線と斜突文、乱刻?	
83	39	4	AIX	4区Pht166	縄紋	深鉢	—	—	—	暗褐色	—	ナデ	ナデ	口縁部近く斜突文	
83	39	5	AIX	5区西側包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	内:淡茶褐色 外:褐色	—	ナデ	条痕	斜行する条痕に刻目、中期 内形の区画の中に斜突文 中縁は区画か? 中期末	
83	39	6	AIX	5区包倉庫PNo.729	縄紋	深鉢	—	—	—	淡褐色	—	条痕	ナデ	中期後半	
83	39	7	AIX	5区包倉庫PNo.749	縄紋	深鉢	—	—	—	淡褐色	—	条痕	ヨコナデ	中期後半	
83	39	8	AIX	5区包倉庫PNo.547	縄紋	深鉢	—	—	—	黄土褐色	—	ナデ	ナデ	中期後半	
83	39	9	AIX	5区包倉庫PNo.732	縄紋	深鉢	—	—	—	淡褐色	—	条痕	ナデ	中期後半	
83	39	10	AIX	5区包倉庫PNo.731	縄紋	深鉢	—	—	—	内:淡褐色 外:黒褐色	—	条痕	ナデ	中期後半	
83	39	11	AIX	5区包倉庫PNo.733	縄紋	深鉢	—	—	—	茶褐色	—	条痕	ナデ	中期後半	
83	39	12	AIX	4区西側包倉庫	縄紋	深鉢	—	(4.0)	(7.4)	赤褐色	40%	条痕	条痕	中縁後半	
83	39	13	AIX	2区内	縄紋	深鉢	—	—	—	黄灰褐色	—	ナデ	ナデ	上縁で縁状の臺台のような形状	
83	39	14	BIX	6区東側	縄紋	深鉢	—	—	—	暗茶褐色 ~赤褐色	—	ナデ	ヨコナデ	突起が楕円形	
83	39	15	AIX	3区包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	暗茶褐色	—	ナデ	ナデ	3色の沈線の間に縄紋、後期	
83	39	16	AIX	3区内	縄紋	浅鉢?	—	—	—	黄灰色	—	ナデ	ナデ	ハラミガキ 充満縄紋、後期	
83	39	17	AIX	5区包倉庫PNo.661	縄紋	深鉢	—	—	—	暗茶褐色	—	ナデ	ナデ	充満縄紋、後期	
83	39	18	AIX	3区包倉庫PNo.349	縄紋	深鉢	—	—	—	薄青灰色	—	条痕	条痕	口縁部、後期	
83	39	19	AIX	3区包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	淡褐色	—	ナデ	ナデ	充満縄紋、後期	
83	39	20	AIX	4区西側包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	薄茶褐色	—	ナデ	ナデ	沈線による薄条痕、後期	
83	39	21	AIX	河邊1	縄紋	深鉢	—	—	—	内:赤褐色 外:淡赤褐色	—	ナデ	ナデ	充満縄紋、後期	
83	39	22	AIX	3区Pht1	縄紋	浅鉢?	—	—	—	灰紫色	—	ミガキ	ミガキ?	充満縄紋、後期	
83	39	23	AIX	溝1内	縄紋	深鉢	—	—	—	赤褐色	—	ナデ	ナデ	充満縄紋、後期	
83	39	24	AIX	1区包倉庫	縄紋	短形鉢	—	—	—	淡青褐色	—	ナデ	ナデ	内形の孔、後期	
83	39	25	AIX	3区包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	淡茶褐色	—	ナデ	ナデ	凹縁、後期後半	
83	39	26	AIX	1区包倉庫	縄紋	浅鉢	—	(6.2)	不明	暗灰褐色	10%	不明	ハラミガキ	凹縁2、後期後半	
83	39	27	AIX	3区包倉庫	縄紋	粗製深鉢	(23.6)	(6.0)	—	薄灰褐色	10%	条痕	条痕	条痕、口縁部先が尖る	
83	39	28	AIX	3区包倉庫PNo.346	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	暗茶褐色	—	条痕	条痕	口縁部内面に凹縁	
83	39	29	AIX	3区包倉庫	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	暗褐色	—	ケズリ	ケズリ	縁部平縁	
83	39	30	AIX	河邊1	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	赤茶褐色	—	ナデ	ナデ	口縁先が尖る	
83	39	31	AIX	溝1内	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	茶褐色	—	ケズリ	ケズリ	口縁先が尖る	
83	39	32	AIX	溝1内	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	黄灰褐色	—	ケズリ	ケズリ	口縁先が尖る	
83	39	33	CIX	河邊2内	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	淡青褐色	—	ケズリ	ケズリ	細い条痕	
83	39	34	AIX	5区包倉庫PNo.650	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	淡青褐色	—	条痕	条痕	—	
83	39	35	AIX	5区包倉庫PNo.650	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	茶褐色	—	ナデ	ナデ	凹縁ナデ	
83	39	36	AIX	溝3内	縄紋	深鉢	—	—	—	淡青褐色	—	ハラミガキケズリ	条痕	条痕	
83	40	37	AIX	3区包倉庫 PNo.351	縄紋	深鉢	—	(2.6)	9.0	茶褐色	—	条痕	ナデ	ナデ	平縁
83	40	38	AIX	2区包倉庫	縄紋	深鉢底部	—	—	—	淡青褐色	—	ナデ?	条痕?	丸底、内面条痕?	
84	39	1	AIX	4区包倉庫	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	明茶褐色	—	条痕	条痕	縁部に凹縁、後期後半~晚期	
84	39	2	AIX	4区包倉庫	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	黄灰褐色	—	条痕	条痕	縁部に刻目、後期後半~晚期	
84	40	3	AIX	4区西側包倉庫	縄紋	粗製深鉢	—	—	—	黄灰褐色	—	条痕	条痕	内面から斜突、晚期前半	
84	40	4	CIX	7区包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	内:茶褐色 外:淡青褐色	—	条痕	条痕	刻目は「0字」、晚期後半	
84	40	5	CIX	7区包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	内:黄灰褐色 外:淡青褐色	—	条痕	条痕	刻目は「0字」、晚期後半	
84	40	6	CIX	7区包倉庫	縄紋	深鉢	(11.8)	(4.6)	—	淡褐色	15%	ケズリ	ケズリ	口縁部に凹縁、後期後半	
84	40	7	BIX	6区東側包倉庫	縄紋	深鉢	—	—	—	淡黄褐色	—	条痕	ナデ	口縁部と突帯に刻目、晚期後半	
84	40	8	AIX	建物1 2 (P2)内	縄紋	浅鉢	(20.6)	(5.0)	—	内:淡茶褐色 外:淡黄褐色	35%	ケズリ	後ナデ	後期?	
84	40	9	BIX	6区西側包倉庫	縄紋	浅鉢	—	—	—	赤褐色 ~赤茶褐色 ~淡青褐色	—	ハラミガキ ナデ	ハラミガキ ナデ	口縁面に沈線、晚期	
84	40	10	AIX	5区東側包倉庫	縄紋	浅鉢	—	—	—	暗褐色	—	ナデ	ナデ	ハラミガキ	
84	40	11	BIX	6区東側包倉庫	縄紋	浅鉢	—	—	—	淡茶褐色	—	ハラミガキ	ハラミガキ	晚期	
84	40	12	BIX	6区東側包倉庫	縄紋	浅鉢	—	—	—	暗赤褐色	—	ハラミガキ	ハラミガキ	波状凹縁、晚期	
84	40	13	AIX	5区東側包倉庫	縄紋	浅鉢	—	—	—	赤褐色	—	ハラミガキ ハラケズリ	ハラミガキ	波状凹縁、晚期	
84	40	14	AIX	5区包倉庫PNo.58	縄紋?	不明	—	—	—	淡黄褐色	—	ナデ	ナデ	ヨコナデ 内形斜突文	
84	40	15	CIX	7区包倉庫	弥生	深鉢	—	—	—	淡黄褐色	—	ヨコナデ	ヨコナデ	突帯の上	
84	40	16	CIX	7区包倉庫	弥生	大型の罐	—	—	—	茶褐色	—	ヨコナデ	ヨコナデ	凹縁文3条、中期後半	
84	40	17	CIX	建物2 7 (P6)内	弥生	大型の罐?	—	—	—	淡褐色	—	ナデ	ナデ	凹縁文3条、中期後半	
84	40	18	CIX	7区包倉庫	弥生	深鉢	—	—	—	淡黄褐色	—	ナデ	ナデ	凹縁文3条、中期後半	
84	41	19	BIX	6区東側包倉庫 PNo.742	縄紋	深鉢	胴径	(15.7)	(35.8)	赤褐色	20%	ケズリ	ヨコナデ	凹縁に斜突文2列、中期	
84	41	20	AIX	3区包倉庫	弥生	壺	(12.0)	(2.2)	—	暗褐色	10%	ヨコナデ	ヨコナデ	凹縁文3条、中期後半、厚縁口器?	
84	41	21	AIX	3区包倉庫	弥生	壺	杯分	(3.7)	—	淡黄褐色	20%	ナデ	ナデ	貝殻沈線文	
84	41	22	AIX	溝3内	弥生	壺	—	(3.0)	(6.6)	赤褐色	20%	ナデ	ナデ	ハラミガキ	
84	41	23	AIX	溝3内	弥生	壺	—	(20.6)	(7.4)	淡黄褐色	25%	ヨコナデ	ヨコナデ	貝殻沈線文13条	
84	41	24	AIX	溝3内	弥生	壺	—	(20.0)	(8.0)	暗褐色	10%	ナデ	ナデ	ヨコナデ 貝殻沈線文15条	
84	41	25	AIX	1区包倉庫	弥生	壺	—	(16.6)	(5.1)	暗褐色	10%	ヨコナデ	ヨコナデ	貝殻沈線文10条	
84	41	26	AIX	溝3内	弥生	瓶形器	—	(4.1)	—	暗褐色	10%	ナデ?	ナデ?	ハラケズリ	
84	41	27	AIX	3区包倉庫	弥生	壺	—	(21.2)	—	淡黄褐色	—	ヨコナデ	ナデ	ハラミガキ	
84	41	28	CIX	7区T00-2	式土器	壺	—	(15.0)	(10.0)	黄褐色	15%	ヨコナデ	ハラケズリ	古墳前段階	

製品番号	品名	品番	地区	部品位置	部 品 名	材料	色 調	取付率	分装の仕様	内部の仕様	取付・文様の仕様		
85-43	1	A区	建物1(P3)	須磨器	環(身)	(8.9)	(2.6)	-	緑灰色	15%	回転ナデ	回転ナデ	沈黙1巻
85-43	2	A区	建物1(P2)PNo.465	須磨器	高付環	(1.2)	(6.2)	-	緑灰色	50%	回転ナデ	回転ナデ	二方透かし
85-43	3	A区	建物2(P1)	須磨器	環(蓋)	(9.2)	(4.7)	-	緑灰色	10%	ナデ	回転ナデ	
85-43	4	A区	建物2(P3)	須磨器	環(蓋)	(21.8)	(1.7)	-	灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	5	A区	建物2(P2)	土師器	環	-	-	-	淡青褐色	-	ナデ	ヘラズリ	
85-43	6	A区	建物3(P4)	須磨器	環(蓋)	-	(1.7)	-	淡青褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	7	A区	建物3(P2)	須磨器	環	-	-	-	淡青褐色	-	ナデ	ヘラズリ	
85-42	8	C区	土師器	須磨器	環(身)	9.3	3.7	-	緑灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	A型に付く環
85-43	9	A区	建物5(P9)	須磨器	環(蓋)	(13.6)	(3.6)	-	口縁濃灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	A6-A7型
85-43	10	A区	建物5(P3)	須磨器	環(身)	-	-	-	暗茶褐色	-	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	11	A区	建物5(P4)	須磨器	環(身)	-	-	-	内:赤褐色 外:緑灰色	-	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	12	A区	建物5(P10)PNo.A32	須磨器	蓋	-	(8.3)	-	淡青褐色	10%	ナデ	ナデ	
85-43	13	A区	建物5(P9)	須磨器	環(蓋)	(12.1)	(2.3)	-	赤茶色	10%	ヨコナデ	ヨコナデ	内外赤彩
85-43	14	A区	建物5(P4)	須磨器	環(蓋)	-	-	-	赤茶色	-	ヨコナデ	ヨコナデ	内外赤彩
85-43	15	A区	建物5(P9)	須磨器	環(蓋)	-	-	-	赤茶色	-	ヨコナデ	ヨコナデ	内外赤彩
85-43	16	A区	建物6(周辺)	土師器	高台付環	-	(1.5)	(6.8)	台座 淡青褐色	40%	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	17	A区	建物6(P3)	須磨器	環(身)	-	-	-	赤茶色	-	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	18	A区	建物6(P3)	土師器	環	-	-	-	淡青褐色	-	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	19	A区	建物6(P5)	須磨器	環	-	-	-	青灰褐色	-	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	20	A区	建物6(P5)	須磨器	環	-	-	-	淡青褐色	-	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	21	A区	建物11(P5)	須磨器	環	-	-	-	淡青褐色	-	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	22	A区	建物11(P1)	須磨器	環	(14.1)	(3.0)	-	淡青褐色	10%	ヨコナデ	ヨコナデ	内面赤彩
85-43	23	C区	建物16(P6) PNo.54	須磨器	蓋	(22.6)	(11.7)	-	淡青褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	24	A区	建物3(P1)	須磨器	環	-	-	-	赤茶色	-	ヨコナデ	ヨコナデ	内外赤彩
85-43	25	A区	建物3(P2)	土師器	環	-	-	-	淡青褐色	-	ナデ	ヘラズリ	
85-43	26	A区	建物2(P1)	土師器	環	(14.3)	(3.7)	-	赤茶色	10%	ナデ	ヘラズリ	
85-42	27	A区	溝1 PNo.468	須磨器	環(蓋)	10.8	1.9	-	内:淡灰色 外:灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	蓋1期
85-43	28	A区	溝1	須磨器	環(身)	(11.3)	3.9	-	灰褐色	15%	回転ナデ	回転ナデ	A7型に付く
85-43	29	A区	溝1	須磨器	環(蓋)	(5.1)	(6.3)	-	内:赤褐色 外:黄褐色	15%	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	30	A区	溝1	須磨器	高台付環	-	(1.7)	(12.2)	台座 淡青褐色	15%	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	31	A区	溝1 PNo.160	須磨器	高台付環	-	(2.5)	(7.8)	緑灰色	15%	回転ナデ	回転ナデ	底部内面回転ナデ
85-43	32	A区	溝1	土師器	環	(32.4)	(6.9)	-	淡青褐色	10%	ヨコナデ	ヘラズリ	
85-42	33	B区	6区高須P1 053	須磨器	高付環	(4.8)	(5.0)	-	緑灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	三角形二方透かし、外面ヘラの裏存在
85-43	34	A区	土師器 PNo.69	須磨器	環(蓋)	(3.8)	(4.2)	-	内:灰色 外:緑灰色	40%	回転ナデ	回転ナデ	三角形二方透かし
85-43	35	A区	3区P1 009	須磨器	環(蓋)	-	(1.3)	-	緑灰色	20%	回転ナデ	回転ナデ	
85-43	36	A区	3区P1 009	土師器	環	-	-	-	赤褐色	10%	ナデ	ナデ	内外赤彩
85-43	37	A区	建物13(P1)	土師器	環	-	-	-	淡青褐色	-	ナデ	ヘラズリ	
85-42	38	A区	5区P1048	土師器	環	-	(2.6)	(11.0)	淡褐色	20%	ナデ	回転ナデ	内外赤彩、底縁の銅線は不明
85-43	39	C区	7区P1 060	土師器	小ぶりな環	(11.3)	(8.6)	-	赤褐色	30%	ナデ	ヘラズリ	内面1巻きナデ、ヘラズリによる直
85-43	40	A区	建物17(P3)	須磨器	環	-	(1.5)	-	赤茶褐色	15%	ナデ	ナデ	底部回転ナデ
85-44	41	A区	建物17(P3)	土師器	環	(13.6)	(2.2)	-	赤褐色	10%	ナデ	ナデ	
85-44	42	A区	建物17(P4)	土師器	環	(11.0)	(2.8)	-	赤褐色	10%	ナデ	ナデ	
85-44	43	A区	建物17(P3)	土師器	環	-	-	-	淡青褐色	-	ナデ	ナデ	
85-44	44	A区	建物17(P3)	土師器	環	-	(1.7)	(6.2)	緑褐色	10%	ナデ	ナデ	底部回転ナデ
85-44	45	A区	建物18(P1)	土師器	環	-	(3.2)	(6.0)	淡青褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	底部回転ナデ、裏面
85-44	46	A区	建物18(P1)	土師器	環	(1.3)	4.0	-	淡青褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	底部回転ナデ、裏面
85-42	47	A区	土師器	須磨器	環(蓋)	71.0	(1.1)	-	淡青褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	底部回転ナデ
85-44	48	A区	土師器	須磨器	環	(14.8)	(2.6)	-	緑灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	
85-44	49	A区	土師器	須磨器	高須環	(7.0)	(4.0)	-	内:緑灰色 外:緑灰色	20%	回転ナデ	回転ナデ	
85-44	50	A区	土師器	須磨器	高台付環	-	(1.7)	-	内:淡褐色 外:黄褐色	25%	回転ナデ	回転ナデ	
85-44	51	A区	土師器	須磨器	環	-	(1.8)	(11.0)	淡褐色	20%	回転ナデ	回転ナデ	底部回転ナデ
85-44	52	A区	土師器 PNo.341	土師器	環	(12.6)	3.6	8.2	内:赤褐色 外:黄褐色	55%	ナデ	ナデ	片口を持つ 底部回転ナデ
85-44	53	A区	土師器	土師器	高台付環	-	(1.8)	(7.5)	赤褐色	15%	ナデ	ナデ	底部回転ナデ
85-44	54	A区	土師器 PNo.342	土師器	環	(16.1)	(4.6)	-	赤褐色	15%	ナデ	ナデ	ヘラズリ
85-44	55	A区	土師器 PNo.339	土師器	環	(33.0)	(6.6)	-	内:赤褐色 外:赤褐色	10%	ナデ	ヘラズリ	口縁内面はヘラズリ、ナデ
85-44	56	A区	30区 PNo.035	須磨器	蓋	(15.8)	(1.9)	-	緑灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	蓋1期
85-42	57	A区	30区 PNo.035	土師器	環	12.8	3.8	(7.0)	赤褐色	40%	ナデ	ナデ	底部は丁寧なナデ
85-44	1	A区	建物19(P4)	土師器	環	-	-	-	淡青褐色	-	回転ナデ	回転ナデ	口縁1期
85-44	2	A区	建物20(P8)	土師器	環	(13.8)	(3.6)	-	赤褐色	20%	回転ナデ	回転ナデ	口縁1期
85-42	3	A区	建物21(P14)	土師器	環	-	(2.6)	5.7	淡青褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	蓋部
85-42	4	A区	建物21(P5)	土師器	環	-	(2.1)	5.6	黄褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	蓋部
85-44	5	A区	建物21(P5)	土師器	環	(8.4)	2.3	(4.0)	淡褐色	20%	回転ナデ	回転ナデ	蓋部
85-44	6	A区	建物21(P5)	土師器	環	(9.1)	1.5	(3.6)	淡褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	蓋部
85-44	7	A区	建物23(P5)PNo.91	土師器	高台付環	-	(1.8)	-	淡褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	蓋部
85-42	8	A区	建物23(P5)PNo.91	土師器	環	8.9	2.3	3.8	淡青褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	蓋部
85-44	9	C区	建物26(P3)	土師器	環	(11.4)	(3.2)	-	淡褐色	35%	回転ナデ	回転ナデ	蓋部

土器観察表

観測番号	発掘層	発掘年	地区	出土位置	種別	器種	口径(mm)	高さ(mm)	底径(mm)	色調	保存率	外装の部類	内装の部類	形制・文様の特徴
86	44	10	C区	建物29(P4)	土師器	杯	(16.8)	(4.2)	-	肌焼褐色	35%	面転ナデ	面転ナデ	口縁1筋
86	42	11	A区	佛5(P1)	土師器	杯	(12.9)	4.8	(6.0)	赤褐色	60%	面転ナデ	面転ナデ	A84、底部回転糸切り
86	44	12	A区	3区P1017	土師器	杯	(13.9)	4.8	(6.4)	濃褐色	10%	面転ナデ	面転ナデ	A82、*
86	42	13	A区	4区P002 PNo.433	土師器	杯	(14.0)	4.3	(5.0)	白褐色	55%	面転ナデ	面転ナデ	A81、*
86	43	14	A区	5区P051	土師器	盃付杯	-	(4.8)	7.9	橙褐色	2割弱	面転ナデ	面転ナデ	口縁1筋・内面へら記号ナデ、高台部縁に注意
86	44	15	A区	4区土溝12	土師器	盃	-	-	-	淡褐色	-	面転ナデ	面転ナデ	口縁1筋
86	43	16	A区	52区P43 PNo.92	土師器	杯	(13.2)	4.1	4.0	淡黄褐色	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	A82、器面は荒れている。底部回転糸切り
86	43	17	C区	7N区 Pit 066	土師器	杯	-	3.2	5.7	淡黄褐色	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	底部縁、底部回転糸切り
86	89	18	A区	建物31(P6)	青磁	碗	-	(3.0)	(6.0)	淡黄褐色	15%	面転ナデ	面転ナデ	縁部葉形筋A類
86	44	19	C区	建物30(P8)	土師器	皿	(7.5)	(1.7)	-	淡褐色	15%	面転ナデ	面転ナデ	*
86	89	20	A区	3区P053	青磁	皿	(11.6)	(4.1)	-	黄緑色	10%	面転ナデ	面転ナデ	縁部葉形筋B類
86	45	21	A区	土師溝1	土師器	皿	8.2	1.6	5.1	淡灰青色	80%	面転ナデ	面転ナデ	A1、底部回転糸切り・縁二本のへら痕
86	45	22	A区	土師溝1	土師器	皿	8.2	1.7	5.0	淡灰青色	85%	面転ナデ	面転ナデ	A1、底部回転糸切り
86	45	23	A区	土師溝1	土師器	皿	8.7	1.8	4.7	淡黄灰色	80%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	24	A区	土師溝1	土師器	皿	8.5	1.9	4.6	淡褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	25	A区	土師溝1	土師器	皿	8.6	1.8	5.0	淡赤褐色	80%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	26	A区	土師溝1	土師器	皿	(8.1)	1.6	4.8	淡赤灰色	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	A1、* 10%
86	45	27	A区	土師溝1	土師器	皿	8.2	1.9	4.7	淡灰青色	65%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	28	A区	土師溝1	土師器	皿	8.4	2.4	4.0	淡黄灰色	完形	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	29	A区	土師溝1	土師器	皿	9.0	2.1	3.9	淡灰青色	完形	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	30	A区	土師溝1	土師器	皿	8.5	2.1	4.0	淡黄灰色	85%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	31	A区	土師溝1	土師器	皿	8.6	1.7	4.1	淡褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	32	A区	土師溝1	土師器	皿	8.2	2.2	4.0	淡褐色	80%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	33	A区	土師溝1	土師器	皿	(8.2)	1.9	(4.4)	淡赤灰色	40%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	34	A区	土師溝1	土師器	皿	7.7	2.0	4.0	淡黄色	50%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	35	A区	土師溝1	土師器	皿	(8.0)	1.7	4.1	赤褐色	60%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	36	A区	土師溝1	土師器	皿	(8.9)	1.6	(4.0)	淡褐色	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	A1、* 20%
86	45	37	A区	土師溝1	土師器	皿	8.8	2.2	4.0	淡褐色	60%	面転ナデ	面転ナデ	A2、*
86	45	38	A区	土師溝1	土師器	皿	8.5	2.0	4.3	淡赤褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	A2、*
86	45	39	A区	土師溝1	土師器	皿	(8.6)	2.2	3.6	淡赤褐色	40%	面転ナデ	面転ナデ	A2、*
86	45	40	A区	土師溝1	土師器	皿	8.9	2.1	5.6	淡褐色	80%	面転ナデ	面転ナデ	B1、*
86	45	41	A区	土師溝1	土師器	皿	8.7	3.0	5.1	淡赤褐色	80%	面転ナデ	面転ナデ	B1、*
86	45	42	A区	土師溝1	土師器	皿	8.6	2.6	4.8	淡灰青色	60%	面転ナデ	面転ナデ	B1、*
86	45	43	A区	土師溝1	土師器	皿	9.0	2.5	5.0	赤褐色	60%	面転ナデ	面転ナデ	B1、*
86	45	44	A区	土師溝1	土師器	皿	7.8	2.8	3.7	淡褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	B1、*
86	45	45	A区	土師溝1	土師器	皿	7.4	2.0	4.0	淡褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	B1、*
86	45	46	A区	土師溝1	土師器	皿	(8.4)	2.5	4.4	淡褐色	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	B1、* 25%
86	45	47	A区	土師溝1	土師器	皿	8.7	2.2	3.8	淡灰青色	70%	面転ナデ	面転ナデ	B2、*
86	45	48	A区	土師溝1	土師器	皿	-	(1.4)	(4.0)	淡赤褐色	60%	面転ナデ	面転ナデ	*
86	45	49	A区	土師溝2	土師器	皿	8.3	2.3	3.8	赤褐色	90%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	50	A区	土師溝2	土師器	皿	8.3	1.9	3.4	赤褐色	90%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	51	A区	土師溝2	土師器	皿	8.5	2.1	3.9	赤褐色	90%	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	52	A区	土師溝2	土師器	皿	8.0	1.9	4.5	黄褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	A1、*
86	45	53	A区	土師溝2	土師器	皿	8.5	2.9	3.8	淡黄褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	A3、*
86	45	54	A区	土師溝2	土師器	皿	8.1	2.3	3.4	赤褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	A3、*
86	45	55	A区	土師溝2	土師器	皿	8.6	2.2	3.7	赤褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	A3、*
86	45	56	A区	土師溝2	土師器	皿	(8.6)	2.1	3.8	赤褐色	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	A3、* 30%
86	45	57	A区	土師溝2	土師器	皿	8.7	2.2	4.2	赤褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	B1、*
86	45	58	A区	土師溝2	土師器	皿	(8.4)	2.0	4.2	赤褐色	40%	面転ナデ	面転ナデ	B1、*
86	45	59	A区	土師溝2	土師器	皿	(8.8)	2.2	3.9	赤褐色	50%	面転ナデ	面転ナデ	B1、*
86	45	60	A区	土師溝2	土師器	皿	(8.2)	1.6	3.6	淡黄灰色	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	B2、*
86	45	61	A区	土師溝2	土師器	皿	(8.0)	2.0	3.4	淡灰青色	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	B3、* 40%
86	45	62	A区	土師溝2	土師器	皿	8.4	2.3	(3.6)	淡赤褐色	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	B3、* 45%
86	45	63	A区	土師溝2	土師器	盃付皿	8.8	3.2	5.2	淡黄褐色	完形	面転ナデ	面転ナデ	*
87	50	1	A区	3区区溝3	滑石器	杯	(1.9)	-	-	灰色	-	面転ナデ	面転ナデ	天井部へら切り・縁ナデ
87	50	2	A区	3区区溝3	滑石器	杯	(10.9)	2.9	-	暗褐色	15%	面転ナデ	面転ナデ	A型製、天井部縁へらケズリ
87	50	3	A区	3区区溝3	滑石器	杯	(10.4)	(3.0)	-	淡褐色	15%	面転ナデ	面転ナデ	A型製
87	46	4	A区	3区区溝3	滑石器	杯	8.4	2.2	-	灰色	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	内面にへら記号(X)? 15% 天井部縁へらケズリ
87	46	5	A区	3区区溝3	滑石器	杯	(9.7)	3.5	2.9	暗灰色	2割弱	面転ナデ	面転ナデ	蓋1筋 30% 天井部縁へらケズリ
87	46	6	A区	3区区溝3	滑石器	杯	10.5	2.4	-	内: 淡灰色 外: 黄灰色	60%	面転ナデ	面転ナデ	蓋1筋
87	46	7	A区	3区PNo.347	滑石器	杯	(12.4)	3.5	2.5	2.8: 淡黄灰色 4.0	25%	面転ナデ	面転ナデ	蓋1筋 天井部縁へらケズリ
87	46	8	A区	4区区溝3	滑石器	杯	(17.4)	3.9	3.6	2.8: 淡灰色 3.6	15%	面転ナデ	面転ナデ	つらみ内面にへら記号(X)の一筋有り 蓋1筋
87	46	9	A区	3区区溝3 PNo.206	滑石器	杯	-	(2.7)	2.8: 淡灰色 3.2	完形	面転ナデ	面転ナデ	*	
87	46	10	A区	3区区溝3	滑石器	杯	-	(1.4)	2.8: 淡灰色 3.6	8割弱	面転ナデ	面転ナデ	蓋1筋? 20%	
87	46	11	A区	3区溝2	滑石器	杯	-	(1.4)	2.8: 内: 淡黄褐色 外: 淡灰色 4.8	90%	面転ナデ	面転ナデ	蓋1筋? 天井部縁へらケズリ	
87	46	12	A区	3区区溝3	滑石器	杯	-	(2.1)	2.8: 淡灰色 5.2	50%	面転ナデ	面転ナデ	蓋1筋? 天井部縁へらケズリ	
87	50	13	A区	3区区溝3	滑石器	杯	(11.8)	(1.7)	-	内: 淡灰色 外: 黄灰色	15%	面転ナデ	面転ナデ	蓋1筋

調査区	発掘層	調査層	出土位置	種類	形状	口縁径	底径	高さ	色	生産地	内装・内底	内装・内底	形・文様の特徴
87	50	14	A区	3区溝2	須恵器 坏 (蓋)	(12.6)	(2.6)	-	内:灰色 外:淡黄灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅰ類
87	46	15	A区	4区包舍層	須恵器 坏 (蓋)	17.6	(2.4)	-	灰色	25%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅰ類、外周自然釉
87	46	16	B区	6区東側包舍層	須恵器 坏 (蓋)	-	(2.0)	-	内:灰褐色 外:灰褐色	60%	回転ナデ	回転ナデ	
87	46	17	B区	6区東側包舍層	須恵器 坏 (蓋)	(14.5)	2.8	2.8	2.8 2.8 4.0	25%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	46	18	A区	4区包舍層 PNo.387	須恵器 坏 (蓋)	(14.2)	2.6	2.6	2.6 4.4	40%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	46	19	A区	4区PNo.384	須恵器 坏 (蓋)	(15.7)	2.9	2.9	2.9 5.4	25%	回転ナデ	回転ナデ	天井部回転ヘラケズリ Ⅱ類
87	46	20	A区	4区西側包舍層	須恵器 坏 (蓋)	-	(2.2)	-	2.8 (6.1)	70%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	50	21	A区	4区西側包舍層	須恵器 坏 (蓋)	(15.0)	(2.3)	-	内:灰褐色 外:緑灰色	15%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類 天井部回転ヘラケズリ
87	50	22	A区	1区溝3	須恵器 坏 (蓋)	14.8	(1.8)	-	淡黄灰色	15%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	50	23	A区	4区西側包舍層	須恵器 坏 (蓋)	(13.8)	(2.3)	-	褐色	15%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	47	24	A区	5区PNo.39	須恵器 坏 (蓋)	(18.6)	(3.0)	-	淡黄灰色	70%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	47	25	C区	7NS区	須恵器 坏 (蓋)	18.8	(3.0)	-	褐色	70%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	47	26	B区	6区東側包舍層	須恵器 坏 (蓋)	14.0	(2.0)	-	淡黄灰色	40%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	47	27	A区	5区PNo.20	須恵器 高杯	-	(6.6)	-	褐色 緑灰色	30%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	47	28	A区	3区PNo.210	須恵器 高杯	-	(6.3)	-	(8.8) 淡黄灰色	60%	回転ナデ	回転ナデ	A5型、三角形二方造かし
87	47	29	A区	3区包舍層 PNo.209	須恵器 高杯	-	(4.9)	-	褐色 内:灰褐色 (3.6) 外:緑灰色	60%	回転ナデ	回転ナデ	A5型、長脚細頸、B6型 二方向上→2 傾造かし
87	47	30	A区	3区PNo.120	須恵器 高杯	-	(7.1)	-	褐色 緑灰色 (5.0)	30%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類 長方形二方造かし
87	47	31	A区	4区PNo.439	須恵器 高杯	-	(5.8)	-	灰褐色	35%	回転ナデ	回転ナデ	A7型
87	47	32	A区	3区PNo.129	須恵器 高杯	-	(5.2)	-	内:灰褐色 外:緑灰色	60%	回転ナデ	回転ナデ	A7型?
87	47	33	A区	4区PNo.437	須恵器 高杯	-	(4.0)	-	(11.3) 淡黄灰色	20%	回転ナデ	回転ナデ	
87	47	34	A区	3区包舍層	須恵器 坏 (身)	(9.4)	3.9	-	内:灰褐色 外:緑灰色	25%	回転ナデ	回転ナデ	外周自然釉、A8型に準ず
87	47	35	A区	4区包舍層	須恵器 坏 (身)	8.7	3.0	-	淡黄灰色	50%	回転ナデ	回転ナデ	A8型に準ず?
87	47	36	A区	4区西側包舍層	須恵器 坏 (身)	(6.4)	3.1	5.4	淡黄灰色	25%	回転ナデ	回転ナデ	A8型に準ず?
87	50	37	A区	1区溝3	須恵器 坏 (身)	(12.0)	(2.3)	-	淡黄灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	A4~A5型に準ず?
87	50	38	A区	1区溝3	須恵器 坏 (身)	(10.3)	(1.9)	-	灰褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	A7型に準ず?
87	50	39	A区	3区溝2	須恵器 坏 (身)	(10.0)	(2.5)	-	内:淡黄灰色 外:緑灰色	15%	回転ナデ	回転ナデ	A7型に準ず?
87	47	40	A区	3区包舍層	須恵器 坏 (身)	-	(3.7)	-	淡黄灰色	40%	回転ナデ	回転ナデ	C2型に準ず?、へらこし痕
87	47	41	A区	4区3T包舍層	須恵器 高台付坏	(13.4)	5.0	9.0	黄灰色	65%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅰ類
87	50	42	A区	5区包舍層	須恵器 高台付坏	(11.1)	(3.8)	-	内:淡黄灰色 外:緑灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅰ類
87	50	43	B区	6区西側包舍層	須恵器 坏	(15.7)	(3.2)	-	黄灰色	25%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅰ類
87	47	44	A区	3区PNo.127	須恵器 高台付坏	-	(2.3)	-	8.0 淡黄灰色	50%	回転ナデ	回転ナデ	
87	47	45	A区	5区東側包舍層	須恵器 高台付坏	-	(2.7)	-	(6.4) 淡黄灰色	25%	回転ナデ	回転ナデ	
87	48	46	A区	4区PNo.358	須恵器 高台付坏	-	(3.2)	-	(7.0) 淡黄灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	底部にへら記号
87	48	47	A区	3区溝3 PNo.304	須恵器 高台付坏	-	(3.1)	-	9.2 黄灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切りナデ
87	48	48	A区	3区包舍層	須恵器 高台付坏	-	(2.6)	-	(8.0) 黄灰色	75%	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切りナデ
87	48	49	A区	4区包舍層	須恵器 高台付坏	-	(2.6)	-	(8.4) 黄灰色	20%	回転ナデ	回転ナデ	
87	48	50	A区	3区PNo.119	須恵器 坏 (身)	(13.4)	4.4	7.0	淡黄灰色	25%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	48	51	A区	4区PNo.420	須恵器 坏 (身)	(12.6)	4.3	(7.8) 淡黄灰色	35%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類	
87	48	52	A区	1区溝3 PNo.30	須恵器 坏 (身)	(13.1)	3.2	(8.0) 黄灰色	50%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類	
87	48	53	A区	1区溝3	須恵器 坏 (身)	(13.2)	(4.5)	-	淡黄灰色	20%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	50	54	A区	1区溝3	須恵器 坏 (身)	(13.5)	(3.2)	-	黄灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
87	50	55	A区	3区包舍層	須恵器 坏 (身)	-	(4.8)	-	褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
88	50	1	A区	4区西側包舍層	須恵器 高台付坏	(17.6)	2.8	(13.4) 淡黄灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類	
88	48	2	C区	7NS区 PNo.85	須恵器 高台付坏	19.3	3.8	12.3	淡黄灰色	55%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
88	50	3	C区	7NS区 包舍層	須恵器 高台付坏	(20.0)	3.0	(15.4) 黄灰色	15%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類	
88	50	4	B区	6区東側包舍層	須恵器 高台付坏	-	(2.1)	-	(16.0) 内:淡黄灰色 外:緑灰色	15%	回転ナデ	回転ナデ	焼成不良
88	50	5	A区	4区西側包舍層	須恵器 高台付坏	(14.3)	6.1	(8.2) 緑灰色	30%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類	
88	50	6	A区	3区溝3	須恵器 高台付坏	-	(2.3)	-	(13.0) 淡黄灰色	15%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
88	48	7	C区	7NS区 包舍層	須恵器 坏	(12.2)	4.1	6.9	緑灰色	40%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
88	48	8	C区	7NS区 包舍層	須恵器 坏	(14.4)	2.3	(7.8) 灰褐色	40%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類	
88	50	9	B区	6区東側包舍層	須恵器 坏	(14.4)	2.5	(10.0) 淡黄灰色	15%	回転ナデ	回転ナデ		
88	48	10	C区	7NS区包舍層	須恵器 坏	-	13.8	2.4	8.2 黄灰色	60%	回転ナデ	回転ナデ	
88	48	11	B区	6区西側包舍層	須恵器 坏	-	(1.8)	-	7.0 淡黄灰色	75%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
88	50	12	A区	1区包舍層	須恵器 坏	-	(8.6)	-	(3.2) 淡黄灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
88	48	13	A区	4区PNo.437	須恵器 長頸瓶	-	(6.2)	-	黄褐色 淡灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
88	49	14	A区	3区包舍層	須恵器 緑頸瓶	-	(6.9)	-	黄褐色 内:淡黄灰色 4.4 外:緑灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	
88	49	15	A区	1区溝3 PNo.17	須恵器 緑頸瓶	-	(4.9)	-	黄褐色 内:淡黄灰色 6.1 外:淡黄灰色	70%	回転ナデ	回転ナデ	
88	49	16	A区	3区PNo.220	須恵器 黄頸瓶	-	(10.5)	-	黄褐色 黄灰色	10%	回転ナデ	回転ナデ	
88	49	17	C区	7NS区河溝2	須恵器 高台付坏	(10.2)	18.1	7.8	7.8 黄褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類
88	50	18	A区	4区PNo.364	須恵器 高台付坏	-	(3.8)	-	淡黄灰色	10%	カキモ	当て具痕	Ⅱ類
88	49	19	A区	4区PNo.364	須恵器 高台付坏	-	(4.5)	-	8.3 黄灰色	90%	回転ナデ	回転ナデ	Ⅱ類

土器調査表

調査年度	調査地	調査区	土器位置	種類	器種	Ch(m)	層位(層)	使用期	色澤	形状	内面の装飾	外面の装飾	形制・文様の特徴
88	50	20	A区 3区包含層	須恵器	高台付盃	-	(4.5)	(8.2)	淡灰褐色	20%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	50	21	A区 3区包含層	須恵器	高台付盃	-	(4.0)	11.3	赤灰色	15%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	49	22	B区 6区西側包含層	須恵器	盃	-	(9.6)	5.2	淡褐色	20%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	49	23	A区 3区包含層	須恵器	盃	-	(3.6)	-	暗灰色	45%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	50	24	A区 3区包含層	須恵器	盃	-	(2.9)	-	内:淡灰色 外:濃灰色	15%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	49	25	A区 4区PNo.393	須恵器	煎餅(横切手)	(12.2)	(10.7)	10.0	淡黄灰色	30%	内面無装飾	無装飾	外面に凹線3条
88	51	26	A区 3区 3区 3区	須恵器	盃	-	(7.6)	-	内:灰褐色 外:淡灰色	10%	内面無装飾	無装飾	表面「M」字形の突帯
88	49	27	C区 7NS区包含層	須恵器	高台付盃	-	(16.0)	13.4	淡灰色	50%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	51	28	C区 7NS区包含層	須恵器	平皿	-	-	-	内:灰褐色 外:明灰色	10%	内面無装飾	無装飾	胴部に突帯
88	51	29	A区 3区 3区 3区	須恵器	平皿(取っ手)	-	-	-	暗灰色	-	内面無装飾	無装飾	ナデ
88	51	30	C区 7N区西側包含層	須恵器	盃の取っ手	-	-	-	灰褐色	-	内面無装飾	無装飾	ヨコナデ
88	51	31	A区 4区東側包含層	須恵器	盃?	-	(5.2)	(6.2)	淡灰色	25%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	51	32	A区 1区 3区	須恵器	小盃	-	(2.7)	(7.0)	黄灰色	20%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	51	33	A区 1区 3区	須恵器	小盃	-	(4.1)	(6.6)	暗灰色	60%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	51	34	C区 7NS区 PNo.74	須恵器	鉢	(10.2)	4.9	6.0	灰褐色	50%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	49	35	A区 30区包含層	須恵器	小盃	-	(6.2)	(6.2)	淡黄灰色	25%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	49	36	B区 6区西側 4	土師器	小盃	-	(3.9)	(4.2)	淡黄褐色	10%	内面無装飾	無装飾	土師器
88	51	37	A区 4区西側包含層	須恵器	鉢	(11.4)	(4.1)	-	内:淡灰色 外:濃褐色	10%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	51	38	C区 7NS区包含層	須恵器	鉢	-	(5.8)	-	黄灰色	-	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	51	39	C区 7NS区河溝 2	須恵器	盃	(53.0)	(17.0)	-	内:淡灰色 外:暗灰色	15%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	53	2	A区 4区包含層PNo.366 366,369,400	須恵器	盃	(33.8)	(16.3)	-	淡灰色	40%	内面無装飾	無装飾	四角ナデ
88	52	3	A区 3区包含層 3区 3区 3区 3区 3区 3区	須恵器	盃	-	-	-	内:灰褐色 外:淡灰色	-	内面無装飾	無装飾	タタキ
88	52	4	C区 7NS区河溝 2	須恵器	盃	-	(6.5)	-	淡黄灰色	-	内面無装飾	無装飾	平打タタキ
88	52	5	B区 6区西側 4	須恵器	盃	-	-	-	淡灰色	-	内面無装飾	無装飾	タタキ
88	52	6	C区 7NS区包含層 7NS区包含層	須恵器	盃	-	-	-	黄灰色	-	内面無装飾	無装飾	平打タタキ
88	52	7a	A区 4区西側包含層	須恵器	盃	-	-	-	暗灰色	-	内面無装飾	無装飾	底平タタキ
88	52	7b	A区 30区包含層	須恵器	盃	-	-	-	内:灰褐色 外:淡灰色	-	内面無装飾	無装飾	底平タタキ
88	52	7c	A区 30区包含層	須恵器	盃	-	-	-	淡黄褐色	-	内面無装飾	無装飾	底平タタキ
88	53	8	A区 4区包含層	須恵器	盃	-	-	-	内:淡灰色 外:濃褐色	-	内面無装飾	無装飾	底平タタキ
90	53	1	A区 3区包含層	須恵器	鉢	-	-	-	淡黄褐色	-	内面無装飾	無装飾	タタキ
90	53	2	B区 6区西側包含層	須恵器	盃	(11.0)	(6.4)	-	暗灰色	10%	内面無装飾	無装飾	平打タタキ
90	53	3	B区 6区東側包含層 PNo.744	須恵器	盃	-	-	-	内:淡灰色 外:濃褐色	-	内面無装飾	無装飾	同心円
90	53	4	A区 30区包含層	須恵器	盃	-	-	-	淡褐色	-	内面無装飾	無装飾	底平タタキ
90	53	5	A区 4区包含層 PNo.422	須恵器	鉢	-	-	-	内:淡褐色 外:濃褐色	-	内面無装飾	無装飾	タタキ
90	53	6	C区 7NS区包含層	須恵器	鉢	-	-	-	黄褐色	-	内面無装飾	無装飾	平打タタキ
91	56	1	A区 3区包含層	須恵器	盃	(17.3)	(4.0)	-	赤褐色	15%	内面無装飾	無装飾	内面ニ方寸による凸文
91	55	2	A区 3区包含層PNo.311	須恵器	盃	(15.0)	(4.3)	-	赤灰色	30%	内面無装飾	無装飾	ナデ
91	56	3	A区 3区包含層PNo.407	須恵器	盃	(13.0)	(3.8)	-	赤褐色	15%	内面無装飾	無装飾	ナデ
91	55	4	A区 4区西側包含層 PNo.407	須恵器	盃	(10.5)	4.8	-	赤褐色	30%	不明	不明	内外磨滅
91	56	5	A区 4区西側包含層	須恵器	盃	(15.1)	(3.4)	-	赤褐色	10%	ナデ	ナデ	ナデ
91	56	6	A区 6区西側 4 PNo.504	須恵器	盃	(12.6)	(4.0)	-	赤褐色	30%	ナデ	ナデ	ナデ
91	56	7	A区 3区包含層	須恵器	盃	(14.1)	(3.4)	-	赤褐色	10%	ナデ	ナデ	ナデ
91	55	8	C区 7NS区包含層	須恵器	盃	(14.6)	4.1	6.0	赤褐色	30%	ナデ	ナデ	底面へう切り線ハケ
91	55	9	C区 7NS区包含層PNo.50	須恵器	盃	12.4	3.5	7.6	赤褐色	30%	ナデ	ナデ	底面へう切り線ナデ
91	55	10	C区 7NS PNo.47	須恵器	盃	12.0	4.0	6.9	淡黄褐色	10%	ナデ	ナデ	底面無装飾
91	56	11	C区 7NS区包含層	須恵器	盃	(10.7)	3.3	(7.0)	赤褐色	20%	ナデ	ナデ	底面無装飾
91	56	12	C区 7NS区包含層	須恵器	盃	(11.8)	3.8	(8.6)	淡褐色	20%	ナデ	ナデ	底面へう切り線ナデ
91	56	13	C区 7NS区包含層	須恵器	盃	(10.6)	3.3	(7.4)	淡褐色	15%	ナデ	ナデ	底面ナデ
91	55	14	B区 6区東側包含層	須恵器	盃	(11.0)	2.9	(8.6)	淡褐色	25%	ナデ	ナデ	底面ナデ
91	55	15	C区 7NS区包含層	須恵器	盃	(11.8)	3.5	(6.4)	赤黄褐色	15%	ナデ	ナデ	やや胎土粗い、底面ナデ
91	55	16	C区 7NS区包含層	須恵器	盃	(11.0)	3.7	(5.7)	淡褐色	40%	ナデ	ナデ	底面ナデ
91	56	17	A区 4区西側包含層	須恵器	盃	(12.6)	3.6	(8.0)	黄褐色	10%	ナデ	ナデ	ナデ
91	56	18	A区 3区包含層	須恵器	盃	(15.8)	4.1	-	淡褐色	15%	ナデ	ナデ	ナデ
91	55	19	C区 7NS区包含層	須恵器	高台付盃	-	(4.0)	(9.0)	赤褐色	25%	ナデ	ナデ	粗い凸台、底面ナデ
91	55	20	C区 7NS区包含層	須恵器	高台付盃	-	(2.1)	(12.4)	淡褐色	40%	ナデ	ナデ	底面ナデ
91	55	21	A区 4区西側包含層	須恵器	高台付盃	-	(1.6)	7.6	淡褐色	90%	ナデ	ナデ	内面無装飾、底面ナデ
91	55	22	A区 4区包含層	須恵器	高台付盃	-	(2.6)	(8.2)	淡褐色	25%	ナデ	ナデ	内面無装飾
91	56	23	C区 7NS区包含層	須恵器	盃	(12.5)	2.5	(8.0)	赤褐色	20%	ナデ	ナデ	底面ナデ
91	56	24	C区 7NS区包含層	須恵器	盃	(13.2)	2.0	(8.6)	赤褐色	15%	ナデ	ナデ	底面ナデ
91	56	25	C区 7NS区包含層	須恵器	盃	(13.0)	2.9	(7.8)	淡褐色	30%	ナデ	ナデ	底面ナデ
91	56	26	B区 6区東側包含層	須恵器	盃	(17.2)	(3.2)	-	赤褐色	20%	ナデ	ナデ	ナデ
91	56	27	A区 3区包含層	須恵器	高台付盃	(19.5)	(2.3)	-	赤褐色	10%	ナデ	ナデ	ナデ
91	56	28	A区 4区西側包含層	須恵器	盃	(12.1)	(4.3)	-	淡黄褐色	10%	ナデ	ナデ	ナデ
91	56	29	A区 4区西側包含層	須恵器	盃	7.2	(1.0)	-	赤褐色	ツマミ	ナデ	ナデ	外面と縁部内面赤彩
92	53	1	C区 河溝 2 PNo.62	土師器	盃	(29.8)	(19.8)	-	茶褐色	40%	ハケ	ハケ	内面ニ凹溝状外面に灰化粉付凸帯、頸部にへう切り線ナデ
92	54	2	B区 溝 4 PNo.551	土師器	盃	(18.0)	(18.1)	-	黄褐色	25%	ハケ	ハケ	外表面底面は赤彩
92	54	3	A区 5区中央PNo.64	土師器	盃	(27.6)	(4.7)	-	赤黄褐色	10%	ヨコナデ	ヨコナデ	ハケナシ

編年	層位	発掘時期	地区	出土位置	種別	形状	口径	底径	高さ	色	胎土	内装	内面	外面	特徴・文様
92	54	4	AE	4区包含層PNo.369	土師器	壺	(22.0)	(7.7)	-	淡褐色	10%	ヨコナデ	ヘラケズリ	縁部に強いナデ	
92	54	5	CE	7NS区包含層	土師器	壺	(32.4)	(6.0)	-	淡褐色	30%	ヨコナデ	ヘラケズリ		
92	54	6	CE	7NK区包含層	土師器	壺	(20.8)	(4.7)	-	茶褐色	25%	ハケ	ヘラケズリ		
92	54	7	AE	4区包含層PNo.359	土師器	壺	(23.2)	(7.3)	-	橙褐色	10%	ナデ	ヘラケズリ		
92	54	8	CE	7NS区包含層	土師器	壺	(20.2)	(6.5)	-	赤褐色	15%	ハケ	ヘラケズリ		
92	54	9	CE	7NS区包含層	土師器	壺	(20.2)	(4.8)	-	赤褐色	10%	ハケ	ヘラケズリ		
92	54	10	AE	3区包含層PNo.119	土師器	壺	(22.6)	(3.6)	-	暗褐色	15%	ハケ	ヘラケズリ		
92	54	11	AE	3区包含層PNo.144	土師器	壺	(20.6)	(6.8)	-	淡褐色	10%	ナデ	ヘラケズリ	移動式カマドの口縁の可能性	
92	54	12	CE	7NK区包含層	土師器	壺	(23.6)	(10.5)	-	赤褐色	15%	ハケ	ヨコナデ	外面に炭化物付着	
92	54	13	CE	7NS区PNo.75	土師器	壺	(18.0)	(10.7)	-	内:赤褐色 外:淡褐色	15%	ナデ	ヘラケズリ	内面のケズリ痕に特徴	
92	54	14	AE	3区包含層	土師器	壺	(26.4)	(8.5)	-	内:赤褐色 外:淡褐色	15%	ナデ	ヘラケズリ	外面に炭化物付着	
92	54	15	CE	7NS区包含層	土師器	壺	(33.8)	(9.6)	-	褐色	10%	ナデ	ヘラケズリ	外面はケズリ状の調整	
92	54	16	CE	7NS区包含層	土師器	壺	(29.6)	(7.8)	-	暗褐色	10%	ナデ	ヘラケズリ	外面に炭化物付着	
92	54	17	CE	7NS区包含層 PNo.70	土師器	壺	-	-	-	内:淡褐色 外:淡褐色	-	タタキ	ナデ		
93	59	1	CE	7NK区包含層	褐色土器	杯	-	(3.1)	(6.8)	内:褐色 外:淡褐色	25%	ナデ	ヘラケズリ	内面黒色	
93	59	2	AE	5区包含層 PNo.63	黒陶器	椀	(11.8)	(3.0)	-	淡褐色	20%	ナデ	ナデ	筋長形の縁椀	
93	59	3	CE	7NS区包含層	土師器	高台付杯	(14.2)	5.9	8.6	赤褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	見込みにハケ	
93	59	4	CE	7NS区包含層	土師器	高台付杯	(15.4)	5.9	8.0	赤褐色	20%	高台付杯	高台付杯		
93	59	5	CE	7NK区包含層	土師器	高台付杯	-	(4.5)	8.0	内:暗褐色 外:淡褐色	25%	高台付杯	高台付杯	底部回転糸切り	
93	59	6	CE	7NS区包含層	土師器	高台付杯	(16.2)	4.3	(8.0)	内:赤彩 外:淡褐色	20%	高台付杯	高台付杯		
93	59	7	AE	5区包含層PNo.16	土師器	高台付杯	-	(2.0)	(8.5)	淡褐色	25%	高台付杯	高台付杯		
93	59	8	CE	7NS区包含層	土師器	高台付杯	-	(4.4)	(8.6)	赤褐色	30%	高台付杯	高台付杯	底部ナデ	
93	59	9	AE	5区包含層PNo.88	土師器	高台付杯	-	(3.1)	-	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	内面にうしろし付着	
93	59	10	AE	5区包含層PNo.63	土師器	高台付杯	(12.4)	3.9	6.4	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	底部回転糸切り	
93	59	11	AE	4区包含層	土師器	杯	(11.8)	3.3	(6.2)	明黄灰色	20%	高台付杯	高台付杯		
93	59	12	CE	7NS区包含層	土師器	杯	(13.8)	(4.4)	8.2	内:赤褐色 外:淡褐色	15%	高台付杯	高台付杯	底部ナデ	
93	59	13	CE	7NS区包含層 7NK区包含層	土師器	杯	(12.3)	4.0	7.5	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	底部ナデ	
93	59	14	CE	7NS区包含層	土師器	杯	(11.9)	3.5	(7.0)	淡褐色	20%	高台付杯	高台付杯		
93	59	15	CE	7NS区包含層	土師器	杯	(12.0)	4.7	(7.6)	赤褐色	20%	高台付杯	高台付杯	底部ハケ	
93	59	16	AE	8区包含層	土師器	杯	-	(4.2)	(8.0)	淡褐色	15%	高台付杯	高台付杯	内面にうしろし付着	
93	59	17	CE	7NK区 PNo.90	土師器	杯	(15.2)	4.9	8.0	淡褐色	85%	高台付杯	高台付杯	底部回転糸切り	
93	59	18	CE	7NS区包含層PNo.80	土師器	杯	15.2	5.2	5.6	淡黄灰色	約80%	高台付杯	高台付杯	A1。	
93	59	19	AE	4区包含層PNo.362	土師器	杯	15.0	4.4	5.8	橙褐色	95%	高台付杯	高台付杯	A1。	
93	59	20	CE	7NK区 PNo.40	土師器	杯	14.8	4.7	6.0	淡褐色	50%	高台付杯	高台付杯	A1。	
93	59	21	AE	5区 PNo.34	土師器	杯	15.3	5.0	6.4	淡褐色	55%	高台付杯	高台付杯	A1。	
93	59	22	CE	7NK区 PNo.39	土師器	杯	16.0	5.5	5.6	淡褐色	75%	高台付杯	高台付杯	A1。	
93	59	23	AE	4区包含層PNo.383	土師器	杯	14.7	5.7	5.3	暗褐色	60%	高台付杯	高台付杯	A4。	
93	59	24	AE	3区包含層PNo.130	土師器	杯	(14.8)	(4.6)	-	淡黄灰色	35%	高台付杯	高台付杯	A2	
93	59	25	AE	3区包含層PNo.116	土師器	杯	14.6	4.2	5.8	暗褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	A1。	
93	59	26	AE	3区包含層	土師器	杯	15.5	4.5	5.6	淡褐色	40%	高台付杯	高台付杯	A1。	
93	59	27	AE	5区包含層PNo.19	土師器	杯	-	(2.9)	(5.6)	赤褐色	45%	高台付杯	高台付杯	底部調整	
93	59	28	BE	6区西側包含層 PNo.310	土師器	高台付杯	(16.6)	5.0	8.6	黄褐色	45%	高台付杯	高台付杯		
93	59	29	CE	7NS区包含層	土師器	高台付杯	-	(2.9)	6.2	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	高台は大きい	
93	59	30	CE	7NS区	土師器	高台付杯	-	(2.7)	6.9	淡黄褐色	95%	高台付杯	高台付杯	高台は大きく尖り気味	
93	59	31	AE	4区西側包含層	土師器	高台付杯	-	(4.0)	(9.8)	淡褐色	30%	高台付杯	高台付杯	高台は大きく大きい	
93	59	32	AE	5区西側包含層PNo.88	土師器	高台付杯	-	(2.7)	9.3	淡褐色	80%	高台付杯	高台付杯	高台は大きく大きい	
93	59	33	CE	7NS区包含層	土師器	高台付杯	-	(3.6)	(6.5)	淡褐色	15%	高台付杯	高台付杯	内面にうしろし付着	
93	59	34	AE	5区	土師器	皿	(9.2)	2.2	5.0	淡褐色	40%	高台付杯	高台付杯	A1。	
93	59	35	CE	7NK区埋土	土師器	皿	(7.4)	1.9	3.0	赤褐色	10%	高台付杯	高台付杯	A2。	
93	59	36	AE	5区 PNo.72	土師器	皿	8.6	1.9	3.4	黄褐色	97%	高台付杯	高台付杯	A2。	
93	59	37	CE	7区 PNo.3	土師器	皿	(9.0)	2.1	4.4	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	A3。	
93	59	38	CE	7NS区包含層	土師器	皿	(9.5)	1.9	(3.7)	淡黄灰色	15%	高台付杯	高台付杯	A(その他)。	
93	59	39	CE	7NK区 PNo.61	土師器	皿	8.3	2.1	3.8	赤褐色	90%	高台付杯	高台付杯	A(その他)。	
93	59	40	AE	3区包含層PNo.268	土師器	皿	8.6	2.1	4.2	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	B1。	
93	59	41	CE	7NK区 PNo.39	土師器	皿	9.0	2.1	4.0	橙褐色	95%	高台付杯	高台付杯	B1。	
93	59	42	CE	7NS区包含層PNo.79	土師器	皿	9.6	2.8	4.0	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	B1。	
93	59	43	CE	7NK区 PNo.40	土師器	皿	8.7	1.8	3.7	淡褐色	95%	高台付杯	高台付杯	B2。	
93	59	44	CE	7NS区包含層	土師器	皿	(9.2)	1.8	(5.2)	淡褐色	20%	高台付杯	高台付杯	B(その他)。	
93	59	45	CE	7NS区包含層	土師器	皿	(7.4)	1.9	(3.0)	橙褐色	20%	高台付杯	高台付杯	B(その他)。	
93	59	46	AE	5区西側PNo.83	土師器	皿	8.3	2.0	4.0	赤黄褐色	80%	高台付杯	高台付杯	B(その他)。	
93	59	47	AE	3区包含層PNo.350	土師器	高台付皿	(8.7)	3.1	(4.9)	暗褐色	95%	高台付杯	高台付杯		
93	59	48	CE	7NS区包含層	土師器	高台付皿	(6.5)	2.6	4.9	淡褐色	45%	高台付杯	高台付杯		
93	59	49	CE	7NS区	土師器	高台付皿	-	(3.0)	4.8	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	高台高い	
93	59	50	BE	6区西側包含層	土師器	高台付皿	9.5	2.6	5.7	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯		
93	59	51	CE	7NS区包含層	土師器	高台付皿	-	(2.0)	5.4	赤褐色	55%	高台付杯	高台付杯		
93	59	52	CE	7NS区PNo.43	土師器	高台付皿	(8.8)	3.1	5.9	淡黄灰色	90%	高台付杯	高台付杯		
93	59	53	CE	7NS区包含層	土師器	高台付皿	(3.2)	6.8	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯			
93	59	54	BE	6区東側包含層	土師器	高台付皿	-	(3.6)	4.7	淡褐色	約80%	高台付杯	高台付杯	底部回転糸切り	
93	59	55	CE	7NS区包含層	土師器	大皿	(10.4)	(3.5)	5.0	淡黄灰色	40%	高台付杯	高台付杯		
93	59	56	CE	7NS区包含層	土師器	大皿	(10.8)	3.2	(5.0)	淡褐色	35%	高台付杯	高台付杯		
93	59	57	CE	7NS区 PNo.175	土師器	大皿	(10.1)	3.2	(5.0)	淡褐色	45%	高台付杯	高台付杯		

調査年	地区	遺構	土器	形状	口径	底径	高さ	重量	色	表面	内面	取付	特徴	
95	63	8	A区	土師器	皿	8.7	2.1	5.1	淡黄褐色	定形	面転ナデ	面転ナデ	B1?、	
95	63	9	A区	土師器	皿	8.5	1.7	4.1	赤褐色	95%	面転ナデ	面転ナデ	B2、	
95	63	10	A区	土師器	皿	8.7	2.0	4.1	淡黄褐色	112%	面転ナデ	面転ナデ	その他(B3に近い?)	
95	63	11	A区	土師器	高台付皿	(2.3)	5.4	淡黄褐色	75%	面転ナデ	面転ナデ			
95	64	12	A区	土師器	不明(鉢?)	(9.7)	(2.6)	-	灰白色	10%	不明	不明		
95	64	13	B区	土師器	坪	15.6	4.9	5.8	淡褐色	90%	面転ナデ	面転ナデ	Aa1、底部面転赤切り	
95	64	14	B区	土師器	坪	(15.4)	4.4	5.6	内:淡褐色 外:淡褐色	面転ナデ	面転ナデ	Aa1、底部に炭化物付着、		
95	64	15	B区	土師器	坪	(15.8)	5.1	6.1	淡褐色	20%	面転ナデ	面転ナデ	Aa1、	
95	64	16	B区	土師器	坪	(15.5)	5.1	6.4	淡褐色	40%	面転ナデ	面転ナデ	Aa1、	
95	64	17	B区	土師器	坪	(14.8)	4.2	5.5	淡褐色	40%	面転ナデ	面転ナデ	Aa3、	
95	64	18	B区	土師器	坪	(14.9)	5.7	(6.2)	淡褐色 淡黄褐色	40%	面転ナデ	面転ナデ	Aa4、	
95	64	19	B区	土師器	坪	(15.5)	5.5	5.9	淡黄褐色	40%	面転ナデ	面転ナデ	Aa1、	
95	64	20	B区	土師器	坪	14.8	5.0	5.6	淡黄褐色	75%	面転ナデ	面転ナデ	Ba1、	
95	64	21	B区	土師器	高台付坪	15.7	6.3	7.5	赤褐色	60%	面転ナデ	面転ナデ		
95	65	22	B区	土師器	皿	9.0	1.8	4.3	淡褐色	60%	面転ナデ	面転ナデ	A1、底部面転赤切り	
95	65	23	B区	土師器	皿	7.8	1.9	3.6	淡黄色	70%	面転ナデ	面転ナデ	A1、	
95	65	24	B区	土師器	皿	(8.7)	2.6	(4.6)	赤褐色	35%	面転ナデ	面転ナデ	A3、	
95	65	25	B区	土師器	皿	(8.6)	(1.7)	(3.4)	淡褐色	3%	面転ナデ	面転ナデ	A(その他)、口縁部を焼く引き出す、	
95	65	26	B区	土師器	皿	(9.0)	2.2	4.6	赤褐色	60%	面転ナデ	面転ナデ	B1、	
95	65	27	B区	土師器	皿	(9.2)	1.8	4.2	淡褐色 淡黄色	2%	面転ナデ	面転ナデ	B2、	
95	65	28	B区	土師器	皿	(8.0)	1.7	4.2	淡黄褐色	面転ナデ	面転ナデ	B2、		
95	65	29	B区	土師器	皿	(9.0)	2.1	3.9	淡褐色 外:淡黄色	10%	面転ナデ	面転ナデ	その他、口縁部付近で肥厚	
95	64	30	B区	土師器	高台付皿	(2.3)	3.7	淡褐色	面転ナデ	面転ナデ				
95	65	31	C区	土師器	大型の皿	11.1	3.2	4.9	褐色	70%	面転ナデ	面転ナデ	大型、	
95	65	32	C区	土師器	大型の皿	(10.6)	3.7	4.7	淡黄褐色	面転ナデ	面転ナデ	大型、		
95	65	33	C区	土師器	大型の皿	11.0	3.0	5.0	淡褐色	95%	面転ナデ	面転ナデ	大型、	
95	64	34	C区	土師器	皿	(9.4)	1.8	3.9	赤褐色	15%	面転ナデ	面転ナデ	A2、	
95	64	35	C区	土師器	皿	9.1	1.8	4.3	淡黄褐色	70%	面転ナデ	面転ナデ	A(その他)、口縁部を焼く引き出す、	
95	64	36	C区	土師器	皿	9.3	2.3	4.1	淡褐色	70%	面転ナデ	面転ナデ	A(その他)、口縁部を焼く引き出す、 底部はニヤニヤに厚い	
95	65	37	C区	土師器	皿	9.3	2.5	4.9	淡褐色	90%	面転ナデ	面転ナデ	B1、	
95	65	38	C区	土師器	皿	9.6	1.9	3.9	淡褐色	85%	面転ナデ	面転ナデ	B2、	
95	65	39	C区	土師器	皿	9.3	2.3	4.0	淡褐色	65%	面転ナデ	面転ナデ	B2、	
95	65	40	C区	土師器	皿	(9.6)	1.8	4.0	淡褐色	10%	面転ナデ	面転ナデ	B3、	
95	64	41	C区	土師器	高台付皿	9.4	3.0	5.8	淡黄褐色	95%	面転ナデ	面転ナデ		
95	65	42	C区	土師器	坪	15.0	4.7	6.4	赤褐色	85%	面転ナデ	面転ナデ	Aa1、内外に炭化物付着 底部部赤切り、	
95	66	43	C区	土師器	坪	(15.2)	6.0	5.7	褐色	20%	面転ナデ	面転ナデ	Ba1、	
95	66	44	C区	土師器	高台付坪	16.8	(5.3)	-	淡褐色	55%	面転ナデ	面転ナデ		
95	66	45	C区	土師器	坪	(15.9)	(2.8)	-	淡黄褐色	10%	面転ナデ	面転ナデ	体部は磨面、口縁(その他)	
95	66	46	C区	土師器	高台付皿	(8.7)	3.7	5.2	黄土褐色	50%	面転ナデ	面転ナデ		
95	89	47	A区	白磁	碗	(15.8)	(5.6)	-	淡白褐色	20%			玉縁が小さい	
95	89	48	A区	白磁	碗	(16.3)	(3.1)	-	乳白色	10%			IV類	
95	89	49	B区	白磁	碗	(15.8)	(4.0)	-	乳白色	10%			IV類	
95	89	50	B区	白磁	皿	(2.1)	3.1	乳白色	面転ナデ				見込みに沈積1条	
95	89	51	B区	白磁	碗	(3.4)	(6.4)	淡灰色	25%					
95	89	52	B区	白磁	碗	(2.7)	5.8	淡白褐色	60%					
95	89	53	A区	青白磁	合子	(13.1)	2.3	-	淡緑白色	10%				
95	89	54	C区	白磁	皿	11.8	3.4	4.3	内:白色				目録	
95	89	55	A区	3区包含層	白磁	(2.4)	5.5	外:淡灰色	面転ナデ				目録または目録	
95	89	56	A区	3区包含層	白磁	(3.4)	6.2	乳白色	面転ナデ					
95	89	57	A区	1区包含層	青磁	(3.7)	-	淡緑色	10%				上段分類B2類	
95	89	58	C区	7NS区包含層	青磁	(3.1)	(3.4)	青緑色	20%				B4類	
95	89	59	C区	7NS区包含層	青磁	(13.6)	(2.3)	-	淡緑灰色	10%			皿目類	
95	89	60	C区	7NS区包含層	青磁	(12.8)	(4.0)	-	淡緑色	10%			B4類	
95	89	61	B区	62層包含層	青磁	(14.0)	(4.1)	-	淡緑色	25%			文庫等類、C2類	
95	89	62	A区	3区包含層	青磁	(2.3)	(5.7)	-	淡緑色	35%			文庫等類、C2類	
95	89	63	A区	3区包含層	青磁	(2.4)	-	-	淡緑色	70%			文庫等類、C2類	
95	89	64	A区	3区包含層	青磁	(11.4)	(2.1)	-	灰緑色	30%				
95	89	65	A区	3区包含層	青磁	(14.6)	(4.2)	-	灰緑色	20%			層反り、D類	
95	89	66	C区	7NS区包含層	青磁	(2.6)	(6.2)	淡黄緑色	20%				層反り碗の底部、D類	
95	89	67	C区	7NS区包含層	青磁	(15.2)	(3.0)	-	淡黄緑色	15%			層反り碗、D類	
95	89	68	A区	3区包含層PNo.348	白磁	(10.4)	3.0	5.6	淡緑白色	20%			赤田E群	
96	77	1	A区	平安時代の墓	土師器	14.4	3.5	6.2	灰青褐色	面転ナデ	面転ナデ	面転ナデ	面転赤赤切り	
96	77	2	A区	平安時代の墓	土師器	12.0	28.3	13.5	灰青色	定形	面転ナデ	面転ナデ	面転ナデ	面転赤赤切り、 胴部29.4cm、底部ヘラコシ様ナデ
96	77	3	A区	平安時代の墓	土師器	13.2	3.0	6.0	褐色	定形	面転ナデ	面転ナデ	面転ナデ	外壁の一部と内面の一部に炭化物付着
96	77	4	A区	平安時代の墓	土師器	11.8	28.3	13.3	黄褐色	3区	面転ナデ	面転ナデ	面転ナデ	胴部29.9cm、胴部にヘラの痕
96	78	5	A区	平安時代の墓	土師器	高台付坪	16.3	7.0	9.2	黄褐色	90%	面転ナデ	面転ナデ	見込みにヘラで「黒田」 底部赤赤切り
96	77	6	A区	平安時代の墓	土師器	大型付坪	25.3	11.9	15.8	赤褐色	90%	面転ナデ	面転ナデ	台座タタキ
96	78	7	A区	平安時代の墓	土師器	耳皿	10.8	2.8	4.6	黄褐色	定形	面転ナデ	面転ナデ	2ヶ所をつまむ、底部赤赤切り
96	78	8	A区	平安時代の墓	土師器	耳皿	-	-	-	黄褐色	-	-	-	ナデ? ナデ?

土器調査表

調査区	発見	調査者	地区	出土位置	種別	器種	Ch(cm)	輪径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色調	残存率	外装の装飾	内装の装飾	特徴・文様の種類
96	77	9	ASZ	平安時代の墓	土師器	杯	12.3	4.8	5.6		黄褐色	劣形	回転ナデ	回転ナデ	表面凹凸(平切)
96	78	10	ASZ	平安時代の墓	土師器	杯	12.0	4.8	6.0		黄褐色	劣形	回転ナデ	回転ナデ	
96	79	11	ASZ	平安時代の墓	土師器	杯	11.7	4.5	5.8		黄褐色	劣形	回転ナデ	回転ナデ	
96	79	12	ASZ	平安時代の墓	土師器	杯	13.1	5.3	5.5		黄褐色	劣形	回転ナデ	回転ナデ	
96	78	13	ASZ	平安時代の墓	土師器	杯	12.3	4.4	6.0		黄褐色	劣形	回転ナデ	回転ナデ	
96	78	14	ASZ	平安時代の墓	土師器	杯	12.2	5.1	5.7		黄褐色	劣形	回転ナデ	回転ナデ	
96	78	15	ASZ	平安時代の墓	土師器	杯	(11.8)	4.7	6.0		黄褐色	劣形	回転ナデ	回転ナデ	
97	68	1	CSZ	7NS区包含層	土師器	甕	-	-	-	-	暗黒灰色	-	-	-	回転ナデ不明
97	67	2	CSZ	7NS区包含層	土師器	甕	-	(8.7)	-	-	淡灰色	10%	隆行ナデ	隆行ナデ	
97	68	3	CSZ	河湾3	須恵質	甕	-	-	-	-	淡灰色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	A
97	68	4	CSZ	7N区包含層	須恵質	甕	-	-	-	-	淡灰色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	A
97	68	5	CSZ	7NS区包含層	須恵質	甕	-	-	-	-	灰色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	A
97	68	6	CSZ	河湾2	須恵質	甕	-	-	-	-	淡褐色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	B
97	68	7	CSZ	河湾3	土師器	甕	-	-	-	-	暗灰色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	A
97	68	8	CSZ	7NS区包含層	土師器	甕	-	-	-	-	内:黄褐色 外:淡褐色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	B
97	68	9	CSZ	7NS区包含層	土師器	甕	-	-	-	-	内:淡褐色 外:淡褐色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	B
97	68	10	CSZ	7NS区包含層	土師器	甕	-	-	-	-	黄褐色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	B
97	68	11	CSZ	7区包含層	須恵質	甕	-	-	-	-	灰色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	C
97	68	12	CSZ	7区包含層	須恵質	甕	-	-	-	-	内:黄褐色 外:黄褐色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	D1
97	68	13	BSZ	6区東側包含層	土師器	甕	-	-	-	-	内:淡褐色 外:淡褐色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	D2
97	68	14	CSZ	7N区包含層	土師器	甕	-	-	-	-	黄褐色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	D2
97	68	15	CSZ	7NS区包含層	土師器	甕	-	-	-	-	黄褐色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	D2
97	68	16	BSZ	6区西側包含層	土師器	甕	-	-	-	-	淡黄褐色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	D2
97	68	17	CSZ	7N区包含層	土師器	甕	-	-	-	-	淡灰白色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	D2
97	68	18	CSZ	7N区包含層	土師器	甕	-	-	-	-	内:黄褐色 外:淡褐色	-	隆行ナデ	隆行ナデ	E
98	70	1	CSZ	7N区包含層	瓦質	撞鉢	(29.6)	(6.5)	-	-	内:淡褐色 外:淡褐色	10%	タテハケナデ	-	撞目9条
98	70	2	CSZ	7区PNo.10	須恵質	撞鉢	(26.2)	(5.1)	-	-	淡灰色	10%	回転ナデ	ナデ	外周ナデ、撞目10条
98	70	3	CSZ	7NSZ	瓦質	撞鉢	-	-	-	-	淡黄褐色	-	回転ナデ	ナデ	外周ナデ、撞目10条
98	70	4	CSZ	7NSZ包含層	瓦質	撞鉢	-	-	-	-	淡黄褐色	-	回転ナデ	ナデ	撞目の広い撞目
98	70	5	CSZ	7NSZ包含層	須恵質	撞鉢	-	-	-	-	暗灰色	-	回転ナデ	ナデ	東隣系の模倣、斜行する撞目
98	70	6	CSZ	7NSZ包含層	瓦質	撞鉢	-	-	-	-	黄褐色	-	ナデ?	ナデ?	撞目の広い撞目
98	70	7	ASZ	1区包含層(PNo.51)	瓦質	撞鉢	-	-	-	-	淡灰色	-	ナデ	ナデ?	撞目6条
98	70	8	CSZ	河湾3	瓦質	撞鉢	-	-	-	-	淡黄褐色	-	ナデ	ナデ?	
98	70	9	CSZ	7NSZ包含層	瓦質	撞鉢	-	-	-	-	淡褐色	-	ナデ?	ナデ?	
98	70	10	CSZ	7NSZ包含層	瓦質	こね鉢	-	-	-	-	黄褐色	-	ナデ?	ナデ?	
98	70	11	CSZ	7NSZ包含層	瓦質	こね鉢	-	-	-	-	黄褐色	-	ナデ?	ナデ?	外周に沈線
98	70	12	CSZ	7区PNo.6	須恵質	撞鉢	-	-	-	-	黄褐色	-	ナデ?	ナデ?	
98	70	13	CSZ	7NSZ包含層	須恵質	撞鉢	-	-	-	-	黄褐色	-	ハケ	ナデ?	
98	70	14	CSZ	7NSZ包含層	須恵質	撞鉢	(27.0)	(8.5)	-	-	内:淡褐色 外:淡褐色	25%	ナデ	ナデ	撞目12条
98	67	15	CSZ	7NSZ包含層	須恵質	こね鉢	(10.0)	10.0	-	-	内:淡褐色 外:黄褐色	75%	ナデ	ナデ	こね鉢に転用
98	67	16	ASZ	3区包含層	須恵質	四耳登か 三耳登	残破 (14.0)	-	-	-	黄褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	
98	67	17	CSZ	7NSZ包含層	須恵質	甕	(27.1)	(17.5)	-	-	赤褐色	10%	回転ナデ	回転ナデ	
98	67	18	CSZ	7NSZ包含層	須恵質	こね鉢?	-	-	-	-	暗褐色	-	ナデ	ナデ	縁面に沈線1条
98	67	19	CSZ	7NSZ包含層	常滑	甕	-	-	-	-	暗赤褐色	-	回転ナデ	回転ナデ	
98	67	20	CSZ	河湾3	瓦質	火鉢?	(35.0)	(4.8)	-	-	淡黄土褐色	10%	ナデ	ナデ	印花文
98	67	21	ASZ	3区包含層	瓦質	香炉?	(6.8)	(3.4)	-	-	赤褐色	10%	ナデ	ナデ	沈線4条、印花文
99	91	1	ASZ	3区包含層	白磁	皿	(13.6)	3.4	5.9		灰白色	25%	李朝、胎土目四方隅、16世紀代		
99	92	2	ASZ	3区包含層	青花	皿	-	(2.1)	5.6		明白色	40%	中瀬の南方の可能性、陶胎17世紀前半		
99	92	3	ASZ	3区包含層	陶器(肥前系)	碗	(12.0)	7.8	4.4		淡灰白色	30%	重部先存 胎土目三方		
99	91	4	ASZ	建物38(PNo.401)	陶器(肥前系)	碗	-	(4.3)	4.4		黄褐色	30%	重部先存 胎土目三方		
99	92	5	CSZ	7NSZ包含層	陶器(肥前系)	碗	(12.4)	5.2	4.6		明白色	30%	胎土目四方隅、17世紀代		
99	92	6	ASZ	3区包含層	陶器(肥前系)	皿	(11.6)	2.4	(3.8)		明白色	30%	高倉の形は不整形で撞目がいびつ 1590~1610年代		
99	92	7	ASZ	建物38(PNo.392)	陶器(肥前系)	皿	(11.7)	3.5	(4.2)		明白色	25%	砂目、17世紀代		
99	92	8	ASZ	建物40(PNo.93)	陶器(肥前系)	碗	(12.2)	3.5	(4.2)		灰白色	35%	胎土目鉢の自輪跡、10世紀代		
99	92	9	ASZ	建物37	陶器(肥前系)	皿	(14.4)	(2.9)	-		淡黄褐色	20%	17世紀代		
99	92	10	ASZ	土壌14	陶器(肥前系)	皿	(14.1)	(4.5)	4.8		淡灰白色	25%	足込み鉢の自輪跡、10世紀代		
99	91	11	ASZ	6区東側包含層	陶器(肥前系)	変形皿	-	3.7	7.1		灰白色	30%	重部先存 疊付無輪、「元右衛門」鉢		
99	91	12	BSZ	6区西側包含層	陶器(肥前系?)	碗	(13.7)	3.6	7.7		灰白色	70%	鉢の自形跡、10世紀代以降 火を穿けている、黄銅磁器の可能性		
99	91	13	ASZ	3区包含層	磁器(肥前系)	皿	(19.2)	4.3	(10.0)		灰白色	15%	18世紀代		
99	91	14	BSZ	6区西側包含層	磁器(肥前系)	厚手U字 高倉皿	10.1	2.7	5.6		灰白色	90%	湯渾子鉢、1700~1820年代 高倉内に集積する「鉢」の文字 漆性貝焼の可能性、1820~60年代		
99	89	15	BSZ	6区西側包含層	磁器(肥前系?)	碗	10.8	5.2	4.0		灰白色	50%	漆性貝焼の可能性、1820~60年代		
99	91	16	ASZ	3区包含層	磁器(肥前系)	碗	-	-	-		灰白色	15%	18世紀代		
99	89	17	ASZ	土壌17	磁器(肥前系)	小杯	6.9	5.2	3.4		灰白色	75%	1790~1860年代		
99	91	18	ASZ	3区包含層	陶胎附付	碗	-	(3.1)	(5.0)		黄褐色	15%	18世紀後半		
99	92	19	CSZ	7区T00-2	陶器(肥前系)	片口	(18.5)	(7.1)	-		黄褐色	15%	1610~1630年代		

調査号	調査区	調査点	地区	出土位置	種別	器種	口径(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	容量(l)	色	現存率	備考
99	92	20	B区	6区包倉庫	竊物?	片口	-	-	-	-	-	明黄褐色	-	18世紀後半～19世紀
99	92	21	A区	建物3(P)PNo.376	土師製	こね鉢	-	(4.5)	-	(11.6)	-	灰白色	10%	
99	92	22	C区	3区溝2	非発見土師製	埴鉢	-	(7.9)	-	(12.4)	-	灰白色	25%	直取御輪糸切り
99	92	23	A区	1区包倉庫PNo.12	土師製	埴鉢	(36.0)	(8.8)	-	-	-	淡黄褐色	10%	外面に炭化物付着
99	92	24	A区	建物4(P)4D	土師製	埴鉢	(36.0)	(8.4)	-	-	-	淡黄褐色	10%	外面に炭化物付着
99	92	25	A区	3B区包倉庫	土師製	埴鉢	(31.2)	(3.7)	-	-	-	淡黄褐色	10%	外面に炭化物付着

※口径および底径の()は復元の値

※高さの()は現存の高さの値

※現存率は特筆したものを除き基本的に口縁部での値を示す

表10 土製品観察表

調査号	調査区	調査点	地区	出土位置	種別	器種	口径(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	容量(l)	色	現存率	形状・文様の特徴
100	71	1	A区	3区包倉庫	土製品	平瓦	径:6.0	幅:7.9	厚:2.5	-	-	淡黄褐色	-	
100	71	2	C区	7NS区包倉庫	土製品	円面埴	10.3	5.9	13.0	-	-	褐色	85%	八方透かし。透かしの間に施す紋跡。
100	72	3	A区	建物2(P1)	土製品	移動式蓋	-	-	-	-	-	淡黄褐色	-	
100	72	4	C区	河溝2	土製品	砂口	(8.7)	-	-	-	-	内:褐色色 外:褐色色～ 茶褐色色	-	溝深部(1.0cm)
100	71	5	A区	3区包倉庫 PNo.85	土製品	羽口	(8.0)	-	-	-	-	黒灰色～ 淡黄褐色	20%	溝深部(3.0cm)
100	71	6	C区	河溝2	土製品	羽口	(8.4)	-	-	-	-	暗褐色	50%	溝深部(2.1cm)。外面に自然釉
100	71	7	C区	7NS区包倉庫	土製品	埴鉢?	(7.6)	(2.6)	-	-	-	淡黄褐色	25%	
100	71	8	C区	7NS区包倉庫	土製品	埴鉢?	(11.2)	(4.7)	-	-	-	淡黄褐色	15%	
100	72	9	A区	4区西側包倉庫	土製品	製磁土器	7.1	(6.9)	-	-	-	明黄褐色	15%	
100	72	10	A区	4区西側包倉庫	土製品	製磁土器	(13.8)	(8.4)	-	-	-	赤黄褐色	19%	
100	72	11	A区	3区包倉庫	土製品	製磁土器	(10.3)	(7.0)	-	-	-	淡黄褐色	10%	
100	72	12	C区	7NS区包倉庫	土製品	製磁土器	(10.6)	(6.4)	-	-	-	黄褐色	25%	
100	72	13	C区	7NS区包倉庫	土製品	製磁土器	(11)	(5.0)	-	-	-	淡灰色	20%	
100	72	14	C区	7NS区包倉庫 7区包倉庫	土製品	製磁土器	(8.8)	(9.0)	-	-	-	内:赤褐色 外:赤灰褐色	20%	
100	72	15	C区	7NS区包倉庫	土製品	製磁土器	-	(8.3)	-	-	-	暗褐色	40%	
100	72	16	A区	建物13(P1)	土製品	製磁土器	(11.8)	(6.6)	-	-	-	赤褐色	10%	体部に穿孔
100	72	17	B区	6区東側 PNo.601	土製品	製磁土器	(9.5)	(6.1)	-	-	-	赤褐色	10%	体部に穿孔
100	72	18	C区	7NS区包倉庫	土製品	製磁土器	-	-	-	-	-	淡褐色	-	体部に穿孔
100	72	19	C区	7区包倉庫	土製品	製磁土器	-	-	-	-	-	淡灰色	-	口縁部に穿孔
100	72	20	A区	3区包倉庫	土製品	製磁土器	-	-	-	-	-	褐色	-	口縁部に穿孔 外面に磨目

調査号	調査区	調査点	地区	出土位置	種別	器種	口径(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	容量(l)	色	現存率	形状・文様の特徴
101	76	1	A区	3区包倉庫	土製品	土罐	4.12	2.1	0.5	16.36	-	暗褐色	-	ふくらみがあり、鈴鐺形
101	76	2	A区	4区西側包倉庫	土製品	土罐	4.91	1.79	0.38	11.81	-	暗褐色	-	ふくらみがあり、鈴鐺形
101	76	3	A区	土溝9	土製品	土罐	3.6	1.57	0.5	6.9	-	暗褐色	-	ふくらみがあり、鈴鐺形
101	76	4	A区	溝2	土製品	土罐	3.67	1.96	0.67	16.43	-	赤褐色	-	ふくらみ少なく、筒状
101	76	5	A区	1区西側包倉庫	土製品	土罐	5.4	2.05	0.8	19.72	-	赤褐色	-	ふくらみ少なく、筒状
101	76	5	A区	4区包倉庫	土製品	土罐	6.2	1.66	0.65	15.7	-	暗褐色	-	ふくらみ少なく、筒状
101	76	7	A区	溝2	土製品	土罐	4.99	1.57	0.48	10.48	-	赤褐色	-	わずかなふくらみを持つ
101	76	8	A区	平安の墓(遺入)	土製品	土罐	4.4	1.57	0.45	8.84	-	黒褐色	-	わずかなふくらみを持つ、炭化物付着
101	76	9	B区	6区東側包倉庫	土製品	土罐	6.25	2.95	0.64	42.65	-	淡褐色	-	大型でふくらみを持つ
101	73	10	A区	3区包倉庫	土製品	紡錘車	3.1	4.2	-	59.95	-	淡黄色	-	
101	72	11	A区	4区包倉庫	土製品	磨り器	9.5	4.7	1.15	22.09	-	淡褐色	-	
101	72	12	A区	4区包倉庫	土製品	甌(取っ手)	-	-	-	-	-	淡黄褐色	-	
101	72	13	A区	4区包倉庫	土製品	甌(取っ手)	-	-	-	-	-	淡黄褐色	-	
101	72	14	A区	3区PNo.107	土製品	甌(取っ手)	-	-	-	-	-	淡黄褐色	-	
101	72	15	A区	溝2	土製品	甌(取っ手)	-	-	-	-	-	淡黄褐色	-	
101	72	16	A区	4区包倉庫PNo.355	土製品	土製支脚	現高	5.0	6.3	脚径75%	-	黄褐色	-	
101	72	17	C区	7区西サトレ 河溝2	土製品	土製支脚	現高	11.4	-	-	支脚部45%	茶褐色	-	
101	72	18	A区	3区包倉庫PNo.269	土製品	土製支脚	-	-	-	-	-	黄褐色	-	
101	73	19	A区	3区包倉庫PNo.219	土製品	土製支脚	現高	8.3	-	-	-	暗褐色	-	
101	73	20	A区	溝2 PNo.113	土製品	土製支脚	-	-	-	-	-	黄褐色	-	

表11 石器観察表

調査区	集落名	遺物番号	地区	出土位置	種別	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
102	73	1	A区	5区包舎層	磨石	---	10.90	9.70	4.60	774.94	
102	73	2	A区	3区包舎層	磨石	---	10.70	9.20	7.70	1105.20	
102	73	3	A区	3B区包舎層	磨石	---	9.50	8.80	7.00	815.98	
102	73	4	A区	3区包舎層	磨石か?	---	10.40	7.00	4.20	316.95	
102	73	5	A区	3B区P1035	石皿	---	18.20	11.80	4.90	1560.53	
102	73	6	A区	3区包舎層	磨石	---	12.00	10.00	5.00	900.16	
103	75	1	C区	7区PNo.14	両刃石斧	---	7.70	5.80	2.40	177.80	
103	75	2	A区	3B区包舎層	石斧	---	5.80	5.00	2.90	127.39	
103	75	3	A区	3B区包舎層	石斧?	---	9.80	6.20	3.00	221.24	
103	75	4	A区	4区西側包舎層	石斧	---	10.60	2.10	0.90	41.24	
103	75	5	B区	6区東側包舎層	石鏃	---	4.60	4.20	1.40	35.12	
103	75	6	A区	3B区包舎層	石鏃	---	9.50	7.50	2.00	210.28	
103	75	7	A区	3区包舎層	石鏃	---	10.80	5.80	2.15	227.23	
103	75	8	A区	3B区包舎層	石鏃	---	3.50	5.70	1.70	62.29	
103	75	9	A区	5区包舎層PNo.67	石鏃	---	10.70	7.40	3.60	245.78	
103	75	10	A区	5区南側包舎層	石鏃	---	5.90	4.00	1.40	48.95	
103	75	11	B区	6区西側包舎層	刀鏃	---	5.70	4.70	0.70	15.82	
104	75	1	A区	土壌29	礫石	---	17.00	9.70	7.20	2500.00	
104	74	2	B区	溝5	礫石	---	9.70	5.10	1.70	127.74	
104	74	3	A区	3区包舎層	礫	---	8.50	5.00	1.10	72.93	
104	74	4	A区	3区包舎層	礫	---	5.00	4.60	0.30	12.53	
104	74	5	A区	3区包舎層	礫	---	8.30	4.80	0.50	30.90	
104	90	6	B区	溝4	平玉未成品	---	2.15	1.90	0.70	3.92	縞模様のある濃緑の石材
104	90	7	A区	3区包舎層	平玉未成品	碧玉	1.90	-	0.90	4.14	
104	90	8	A区	溝3	碧玉片	碧玉	2.20	1.70	1.50	5.60	
104	90	9	A区	溝3	碧玉片	碧玉	2.60	1.80	0.70	3.84	
104	90	10	A区	溝物36(P5)	瑪瑙片	瑪瑙	2.90	1.00	1.10	3.89	
105	74	1	A区	3区包舎層	スクレーパー	安山岩系?	6.70	3.20	0.70	20.51	
105	74	2	A区	2区包舎層	スクレーパー	黒曜石	2.60	4.10	1.20	9.22	
105	74	3	A区	溝3	スクレーパー	安山岩	5.00	3.90	0.90	15.83	
105	74	4	A区	4区東側包舎層	スクレーパー	黒曜石	3.08	2.22	0.75	4.68	
105	74	5	A区	4区西側包舎層	石刃?	黒曜石	3.01	1.20	0.52	1.91	
105	74	6	A区	2区葬土中	ユーズドフレイク orスクレーパー	黒曜石	3.80	2.70	0.60	7.33	
105	74	7	C区	7N区包舎層	スクレーパー	黒曜石	2.96	2.67	1.03	8.24	
106	74	1	A区	1区包舎層	ユーズドフレイク	黒曜石	3.65	1.95	1.50	9.18	
106	74	2	A区	5区西側包舎層	ユーズドフレイク	黒曜石	2.34	1.58	0.50	1.36	薄片の可塑性(著しい調整)
106	74	3	A区	3区包舎層	ユーズドフレイク	黒曜石	2.62	1.78	0.48	2.26	
106	74	4	A区	建物8(P4)	ユーズドフレイク	黒曜石	3.10	1.47	0.55	1.67	
106	74	5		不明	ユーズドフレイク	黒曜石	2.55	1.46	0.46	1.94	
106	74	6	A区	溝3	ユーズドフレイク	黒曜石	2.51	1.30	0.48	1.68	
106	74	7	A区	2区包舎層	ユーズドフレイク	黒曜石	4.10	1.80	0.30	2.56	
106	74	8	A区	溝3	ユーズドフレイク	黒曜石	2.62	1.87	0.88	2.63	
106	74	9	A区	溝3	ユーズドフレイク	黒曜石	1.47	0.80	0.31	0.26	
106	74	10	A区	5区P1367	ユーズドフレイク	黒曜石	1.44	1.00	0.54	0.59	
106	74	11	C区	7N区包舎層PNo.91	ユーズドフレイク	黒曜石	6.10	5.10	1.90	62.66	
107	74	1	A区	5区PNo.634	石鏃	黒曜石	1.40	(1.09)	0.22	0.23	1-a
107	74	2	A区	5区西側包舎層	石鏃	黒曜石	(1.71)	(0.80)	(0.22)	0.26	1-a
107	74	3	A区	5区PNo.705	石鏃	黒曜石	(1.09)	1.16	0.20	0.19	1-a
107	74	4	A区	溝3	石鏃	黒曜石	(1.80)	1.50	0.30	0.80	1-b
107	74	5	A区	5区PNo.442	石鏃	黒曜石	1.50	1.17	0.21	0.25	1-b
107	74	6	A区	5区PNo.840	石鏃	黒曜石	(1.31)	0.92	0.21	0.19	1-b
107	74	7	A区	5区PNo.821	石鏃	黒曜石	(1.91)	(0.99)	0.21	0.33	1-b
107	74	8	A区	5区P11	石鏃	黒曜石	(1.18)	(1.15)	0.40	0.19	1-b
107	74	9	A区	5区SX207	石鏃	黒曜石	(1.36)	1.29	0.35	0.34	2-a
107	74	10	A区	1区SX05	石鏃	黒曜石	(1.05)	(1.07)	0.29	0.25	2-a
107	74	11	A区	4区包舎層	石鏃	黒曜石	1.50	1.40	0.20	0.40	2-a
107	74	12	A区	5区西側PNo.170	石鏃	黒曜石	0.73	(1.00)	0.30	0.30	2-a
107	74	13	B区	6区東側包舎層	石鏃	黒曜石	2.14	(1.22)	0.38	0.58	2-b
107	74	14	C区	7N5区N19PNo.87	石鏃	黒曜石	(1.50)	(1.40)	(0.40)	0.51	2-b
107	74	15	A区	土壌17	石鏃	黒曜石	2.35	(1.73)	0.41	0.83	2-b
107	74	16	A区	建物4(P3)	石鏃	黒曜石	(1.57)	(1.44)	0.35	0.65	2-b
107	74	17	A区	建物4(P1)	石鏃未成品	黒曜石	1.20	(1.03)	0.20	0.24	3-a?
107	74	18	B区	溝4	石鏃	黒曜石	(1.15)	1.12	0.24	0.40	3-b?
107	74	19	A区	3区包舎層	石鏃	安山岩	1.74	(0.97)	0.30	0.47	3-b
107	74	20	A区	3区包舎層	石鏃	安山岩系?	2.00	1.20	0.20	0.71	3-b
107	74	21	A区	5区西側包舎層	石鏃未成品	黒曜石	1.46	1.15	0.30	0.38	
107	74	22	B区	6区西側PNo.402	石鏃未成品	黒曜石	(1.67)	1.60	0.61	1.24	
107	74	23	A区	4区包舎層	石鏃未成品	黒曜石	1.80	1.70	0.30	0.95	
108	74	1	B区	6区西側PNo.488	石鏃未成品	黒曜石	2.35	1.88	0.59	2.09	
108	74	2	A区	3区包舎層	石鏃未成品?	黒曜石	(1.71)	(1.67)	(0.62)	1.96	

調査番号	調査年度	遺物番号	地区	出土位置	種別	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
108	74	3	A区	5区包含層PN10-00	石錐未成品?	黒曜石	(1.28)	1.25	0.27	0.46	
108	74	4	B区	6区西側PN0.451	石錐未成品	黒曜石	1.51	1.44	0.55	1.13	
108	74	5	A区	建物4 0 (P 2)	石錐未成品	黒曜石	1.90	1.47	0.59	1.68	
108	74	6	A区	4区西側3層	石錐未成品?	黒曜石	(1.58)	(1.51)	(0.47)	0.86	
108	74	7	A区	5区PN0.625	石錐未成品?	黒曜石	(1.79)	(0.95)	(0.32)	0.55	
108	74	8	A区	4区西側包含層	楔形石器?	黒曜石	(1.46)	(1.15)	(0.31)	0.43	
108	74	9	A区	5区北側部	楔形石器	黒曜石	(1.75)	(1.36)	(0.54)	1.23	
108	74	10	A区	5区PN0.446	楔形石器?	黒曜石	(1.98)	(1.37)	(0.89)	1.67	
108	74	11	A区	4区東側包含層	楔形石器?	黒曜石	(2.17)	(1.46)	(0.60)	1.73	
108	74	12	A区	3区包含層	楔形石器	黒曜石	(1.83)	(1.74)	(0.90)	2.77	
108	74	13	A区	2区包含層	楔形石器?	黒曜石	(1.59)	(1.17)	(0.54)	1.10	
108	74	14	A区	土壌21	楔形石器?	黒曜石	(1.20)	(1.00)	(0.32)	0.35	
108	74	15	A区	建物8 (P 5)	楔形石器?	黒曜石	(1.26)	(0.97)	(0.22)	0.27	
108	74	16	A区	建物4 0 (P 9)	楔形石器?	黒曜石	(0.96)	(0.74)	(0.14)	0.12	
108	74	17	A区	5区PN0.562	楔形石器	黒曜石	(0.95)	(0.97)	(0.24)	0.24	
108	74	18	A区	建物4 0 (P 4)	楔形石器?	黒曜石	(0.92)	(0.84)	(0.11)	0.05	
108	74	19	A区	5区PN0.668	楔形石器?	黒曜石	(1.58)	(0.75)	(0.32)	0.22	
109	90	1	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.59	1.82	0.88	3.45	白色
109	90	2	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.64	1.83	0.75	2.98	白色
109	90	3	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.60	1.82	0.77	3.07	白色
109	90	4	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.57	1.80	0.81	3.09	白色
109	90	5	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.59	1.59	0.76	3.06	白色
109	90	6	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.34	1.39	0.54	1.55	白色
109	90	7	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.33	1.33	0.68	1.83	白色
109	90	8	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.56	1.34	0.67	2.24	白色
109	90	9	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.70	1.43	0.60	2.42	白色
109	90	10	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.45	1.42	0.63	2.11	白色
109	90	11	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.52	1.56	0.80	2.91	白色
109	90	12	A区	平安時代の墓	平玉	石英	1.67	1.63	0.76	3.09	白色
109	90	13	A区	平安時代の墓	平玉	不明	1.83	1.60	0.80	3.12	紫色
109	90	14	A区	平安時代の墓	平玉	不明	1.80	1.72	0.62	2.91	紫色
109	90	15	A区	平安時代の墓	平玉	不明	1.43	1.46	0.72	2.20	紫色
109	90	16	A区	平安時代の墓	平玉	不明	1.72	1.70	0.73	3.13	紫色
109	90	17	A区	平安時代の墓	平玉	不明	1.48	1.82	0.60	2.56	紫色
109	90	18	A区	平安時代の墓	平玉	碧玉	1.41	1.40	0.61	1.94	緑色
109	90	19	A区	平安時代の墓	丸玉	水晶	1.00	1.10	1.00	1.72	透明感有り
109	90	20	A区	平安時代の墓	平玉?	不明	1.47	1.22	0.61	1.65	濁灰色
109	90	21	A区	平安時代の墓	平玉?	不明	1.80	1.56	0.61	2.90	くすんだ灰色
109	90	22	A区	平安時代の墓	平玉?	不明	1.47	1.20	0.60	1.68	灰色・紫色

表12 鉄器観察表

調査番号	調査年度	遺物番号	地区	出土位置	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
110	79.80	1	A区	平安時代の墓	大刀	(75.9)	4.0	1.4	刀身厚0.8 鍔金属長8.5、幅3.6、厚さ1.4
110	79	2	A区	平安時代の墓	毛掻き	(8.4)	—	(0.5)	
110	79	3	A区	平安時代の墓	鉄	(5.8)	—	(0.5)	
110	79	4	A区	平安時代の墓	刀子	(19.1)	1.6	0.8	
110	79.81	5	A区	平安時代の墓	火打金	3.6	8.1	0.7	
110	79.81	6	A区	土壌1 2	板状鉄製品	(5.7)	(8.2)	(3.0)	
110	79	7	A区	4区包含層PN0.391	鍔帯金具 (総尾)	4.6	3.9	0.9	黄青銅色。釘は欠損
110	79	8	A区	3区包含層	鍔片 (遺跡文様?)	(5.5)	(2.4)	(0.2)	残存率25%、復元径7.7cm
110	79	9	A区	3区包含層	不明鉄製品	(4.1)	(2.3)	(0.3)	両面に三糸の模文
111	82	1	A区	平安時代の墓	釘	(15.2)	0.9	0.9	
111	82	2	A区	平安時代の墓	釘	(15.2)	0.6	0.6	
111	82	3	A区	平安時代の墓	釘	(16.1)	(0.7)	(0.7)	
111	82	4	A区	平安時代の墓	釘	(14.7)	(0.6)	(0.6)	
111	82	5	A区	平安時代の墓	釘	(15.4)	0.8	0.8	
111	82	6	A区	平安時代の墓	釘	(14.5)	0.7	0.7	
111	82	7	A区	平安時代の墓	釘	(15.4)	1.0	1.0	
111	82	8	A区	平安時代の墓	釘	(15.2)	1.2	1.0	
111	81.82	9	A区	平安時代の墓	釘	(20.9)	0.8	0.8	
111	82	10	A区	平安時代の墓	釘	(14.8)	(1.4)	(1.4)	
111	82	11	A区	平安時代の墓	釘	—	0.9	0.9	
111	82	12	A区	平安時代の墓	釘	(13.2)	(0.6)	(0.6)	
111	82	13	A区	平安時代の墓	釘	(14.7)	0.8	0.8	
111	82	14	A区	平安時代の墓	釘	(12.0)	(1.2)	(1.1)	
111	81.82	15	A区	平安時代の墓	釘	(18.5)	0.9	0.9	

鉄器類附表

標記番号	平真図面	遺物番号	地区	出土位置	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備 考
111	82	16	A区	平安時代の墓	釘	(8.7)	1.1	1.1	
111	82	17	A区	平安時代の墓	釘	(5.5)	(0.8)	(0.8)	
111	82	18	A区	平安時代の墓	釘	(9.8)	1.0	1.0	
111	82	19	A区	平安時代の墓	釘	(7.6)	(0.8)	(0.8)	
112	82	1	A区	平安時代の墓	釘	10.4	0.8	0.3	
112	82	2	A区	平安時代の墓	釘	(12.7)	0.8	0.6	
112	82	3	A区	平安時代の墓	釘	(11.1)	0.7	0.7	
112	82	4	A区	平安時代の墓	釘	10.1	0.7	0.7	
112	82	5	A区	平安時代の墓	釘	10.7	(0.6)	(0.6)	
112	82	6	A区	平安時代の墓	釘	10.3	(0.7)	(0.7)	
112	82	7	A区	平安時代の墓	釘	(11.2)	(0.7)	(0.5)	
112	82	8	A区	平安時代の墓	釘	11.7	0.8	0.7	
112	82	9	A区	平安時代の墓	釘	(9.7)	(0.9)	(0.8)	
112	82	10	A区	平安時代の墓	釘	(11.0)	0.7	0.5	
112	82	11	A区	平安時代の墓	釘	(9.8)	0.7	0.7	
112	82	12	A区	平安時代の墓	釘	(8.9)	(0.8)	(0.7)	
112	82	13	A区	平安時代の墓	釘	(9.7)	(0.7)	(0.7)	
112	82	14	A区	平安時代の墓	釘	(8.8)	0.5	0.5	
112	82	15	A区	平安時代の墓	釘	(8.7)	0.5	0.5	
112	82	16	A区	平安時代の墓	釘	(6.8)	0.8	0.8	
112	82	17	A区	平安時代の墓	釘	(7.9)	0.7	0.6	
112	82	18	A区	平安時代の墓	釘	(7.7)	0.8	0.6	
112	82	19	A区	平安時代の墓	釘	(10.9)	0.8	0.8	
112	82	20	A区	平安時代の墓	釘	(11.0)	—	—	
112	82	21	A区	平安時代の墓	釘	(10.0)	(0.7)	(0.7)	
112	82	22	A区	平安時代の墓	釘	(9.7)	(0.7)	(0.7)	
112	82	23	A区	平安時代の墓	釘	(12.4)	0.7	0.7	
112	82	24	A区	平安時代の墓	釘	(5.2)	0.7	0.7	
112	82	25	A区	平安時代の墓	釘	(4.5)	0.8	0.8	
112	82	26	A区	平安時代の墓	釘	(13.2)	0.7	0.7	
113	83	1	A区	平安時代の墓	釘	(6.7)	0.7	0.6	
113	83	2	A区	平安時代の墓	釘	(6.9)	0.8	0.8	
113	83	3	A区	平安時代の墓	釘	(7.9)	0.9	0.8	
113	83	4	A区	平安時代の墓	釘	(8.1)	(1.2)	(1.2)	
113	83	5	A区	平安時代の墓	釘	(7.3)	1.0	0.8	
113	83	6	A区	平安時代の墓	釘	(7.9)	(0.8)	(0.8)	
113	83	7	A区	平安時代の墓	釘	(7.2)	0.7	0.6	
113	83	8	A区	平安時代の墓	釘	(8.4)	0.7	0.7	
113	83	9	A区	平安時代の墓	釘	A(5.8) B(4.4)	A0.7 B1.1	A0.6 B0.6	
113	83	10	A区	平安時代の墓	釘	(5.8)	0.7	0.7	
113	83	11	A区	平安時代の墓	釘	(6.8)	0.7	0.7	
113	83	12	A区	平安時代の墓	釘	(4.5)	0.9	0.5	
113	83	13	A区	平安時代の墓	釘	(4.7)	0.8	0.6	
113	83	14	A区	平安時代の墓	釘	(3.0)	0.5	0.4	
113	83	15	A区	平安時代の墓	釘	(4.5)	0.7	0.6	
113	83	16	A区	平安時代の墓	釘	(8.3)	0.7	0.7	
113	83	17	A区	平安時代の墓	釘	(2.7)	0.6	0.6	
113	83	18	A区	平安時代の墓	釘	(3.0)	0.7	0.7	
113	83	19	A区	4区Pr 016	釘	(11.2)	0.6	0.6	
113	83	20	A区	4区Pr 016	釘	(11.9)	1.0	1.0	
113	83	21	A区	溝2	釘	(11.1)	0.8	0.8	
113	83	22	C区	7区PNo.23	釘	(12.3)	(0.8)	(0.8)	
—	—	23	A区	土壌14	釘	(6.3)	0.6	0.6	
113	83	24	A区	溝2	釘	(9.9)	0.7	0.4	
113	83	25	A区	溝2	釘	(7.5)	0.9	0.9	
113	83	26	A区	建物36(P2)	釘	(6.2)	0.8	0.7	
113	83	27	A区	溝2	釘	(17.5)	(1.4)	(1.2)	
							(1.2)	(1.2)	
114	84	1	C区	7NSR PNo.71	釘	(17.0)	(2.6)	(0.8)	
114	84	2	C区	建物52(P2)	釘	(5.1)	(2.6)	(1.0)	
114	84	3	C区	7NS区包含層	釘	(9.3)	(1.3)	(0.7)	
114	84	4	C区	7NS区包含層	釘	(5.3)	1.3	1.0	
114	84	5	C区	7NS区包含層	釘	(10.3)	(1.0)	(1.0)	
114	84	6	C区	7NS区包含層	釘	(10.2)	1.8	1.2	
114	84	7	C区	7NS区包含層	釘	(7.8)	—	—	
114	84	8	C区	建物30(P4)	釘	(7.3)	(1.3)	(0.8)	断面が浅い
114	84	9	C区	7NS S包含層	釘	(7.7)	(2.1)	(1.4)	断面が浅い

検出番号	写真記録	遺物番号	地区	出土位置	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
114	84	10	C区	河溝2	釘?	(11.6)	2.1	1.8	断面が丸い
114	84	11	C区	7NS区包含層	棒状鉄製品	(10.2)	1.6	0.8	
114	84	12	C区	7NS区包含層	棒状鉄製品	(4.4)	(4.2)	(0.9)	
114	84	13	C区	7NS区包含層	環状鉄製品	(2.5x2.2)	(0.7)	(0.6)	
114	84	14	C区	7区PNo.12	環状鉄製品	(3.2x3.1)	(0.5)	(0.9)	
114	81,84	5	C区	7NS区包含層	鉄鍋	(8.6)	—	(0.2)	
114	84	16	C区	7NS区包含層	不明鉄製品(鉄器?)	(10.7)	—	—	
114	84	17	C区	7NS区包含層	棒状鉄製品	(7.4)	(2.4)	(0.4)	
115	84	1	C区	7区加工段PNo.29	鉄削(棒)	(36.3)	3.2	0.6	刃部長(25.1cm)、基部長11.2cm
115	84	2	C区	7区加工段PNo.28	鉄刀(磨刀)	34.6	2.7	0.5	刃部長24.5cm、基部長10.1cm
115	84	3	C区	河溝3	刀子	17.8	1.5	0.4	
115	81,84	4	C区	7NS区包含層PNo.55	鉄刀片	(17.3)	3.1	0.6	
115	81,84	5	C区	7区PNo.11	鉄刀片	(14.0)	2.9	0.5	
115	84	6	C区	7区PNo.24	鉄刀(磨刀)	24.5	2.5	0.6	刃部長20.9cm、基部長(3.6cm)
115	86	7	C区	河溝2	鉄鍋	—	—	直径15.0	残存率30%
115	86	8	C区	河溝2	鉄鍋	—	現高(7.5)	—	残存率30%
115	86	9	A区	溝2	鉄製紡車	直径4.8	高さ(2.3)	(1.2)	軸径0.4cm
115	86	10	A区	土溝9	鉄製紡車	直径(4.0)	高さ(10.4)	(0.6)	軸径(0.7cm)
115	86	11	B区	6区西側包含層	刀子	A(8.7) B(3.8)	A(2.9) B(0.9)	A1.3 B0.7	

表13 木製品観察表

検出番号	写真記録	遺物番号	地区	出土位置	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
116	85	1	C区	7NS区包含層PNo.76	箸、木製品か?	13.5	13.1	0.9	加工痕が残る
116	85	2	C区	建物30(P7)	柱棧	—	—	—	軟質
116	85	3	C区	建物55(P3)	柱棧	(21.7)	(6.7)	—	五方向から加工、軟質
116	85	4	C区	建物30(P4)	柱棧	(26.8)	長幅:11.2 幅幅:9.3	—	断面四角形、軟質
116	85	5	C区	建物55(P1)	柱棧	(37.0)	幅径:10.2	—	先端に面を持つ、軟質
116	85	6	C区	建物30(P2)	柱棧	—	—	—	やや軟質
116	85	7	C区	河溝2-杭1	杭	(25.6)	(6.5)	—	五方向から加工、軟質
116	85	8	C区	河溝2-杭1	杭	(23.4)	(5.1)	—	西方向から加工、軟質
116	85	9	C区	河溝2-杭2	杭	(15.2)	(6.1)	—	西方向から加工、軟質
116	85	10	C区	河溝2-杭4	杭	(21.4)	(7.0)	—	四方向から加工、軟質
116	85	11	C区	河溝2-杭5	杭	(24.3)	(4.7)	—	四方向から加工、軟質
116	85	12	C区	杭7	杭	(18.5)	(4.2)	—	二方向から加工、軟質

※表10～13の()は残存の値

表14 古銭観察表

検出番号	写真記録	遺物番号	地区	出土位置	名称	寸法 (mm)								重量 (g)	切痕年代
						a	b	c	d	e	f	厚さ			
117	86	1	C区	7区PNo.4	寧元寶	2.45	2.45	2.00	2.05	0.85	0.80	0.16	2.20	北宋(1068)	
117	86	2	C区	7NS区包含層	寧元寶	2.50	2.48	2.10	2.10	1.02	1.00	0.13	1.84	北宋(1068)	
117	86	3	A区	建物7(P2)内 (掘入7)	(並和通寶) (政和通寶) (宣和通寶) のどれか	-	-	-	-	-	-	0.12	(1.41)	(1054) (1111) (1119) いずれも北宋	
117	86	4	C区	7区PNo.5	大観通寶	-	2.46	-	2.20	-	-	0.88	0.16	1.62	北宋(1107)
117	86	5	A区	3区包含層	洪興永通寶	2.40	-	2.10	-	0.75	-	0.13	(2.08)	明(1368)	
117	86	6	B区	6区PNo.6	永楽通寶 (6枚並ね)	2.50	2.50	2.10	2.10	-	-	0.11	19.26	明(1408)	
		1枚目				2.50	2.50	2.10	2.05	-	-	0.14		(6枚)	
117	86	7	A区	1区T99-1	新寶永通寶	2.25	2.25	1.80	1.80	0.85	0.85	0.11	2.22	1697～1747 1767～1781	
117	86	8	A区	1区包含層PNo.9	新寶永通寶	2.30	2.30	1.80	1.80	0.90	0.92	0.10	2.61	1697～1747 1767～1781	
117	86	9	C区	7区包含層	寧永通寶(4文銭)	2.85	2.85	2.10	2.10	1.00	1.00	0.10	4.66		
117	86	10	C区	7NS区包含層	寧永通寶(4文銭)	2.84	2.82	2.15	2.13	0.90	0.90	0.13	4.65		

遺物数量表

表15 遺物数量表

		A区99'	溝2	溝3	A区07'	溝4	B区5区	河溝2	河溝3	C区3区	C区5区	C区6区	馬場遺構	合計
縄文土器		699			190	140				119				1148
弥生土器		46			1	5				29				81
土師器	古墳時代	3			2					1				6
土師器	環	35	3	1	6	15		4	2	51	5		9	131
	高台有				1	9			3	38				2
	高台無	10			37	6				66	3		20	142
	皿				2					4				1
	鉢									12	1			2
	その他	8												2
	甕	2			1	2								1
	甕	27	1		1	2	15			5				6
	新石器土器	51	2		11	4	33	9	3	120	15		2	290
	口縁	17			1	4	3							1
	土製支脚	1			1	4	3			1				1
合計	土師器	190	6	14	57	65		14	8	300	24		40	708
土製品	土師器	1			1					7				8
	須口	1			1									2
	平瓦				1	1								2
	土塊	16	5	1	3	1	14	2		10				33
合計	土製品	20	5	1	4	1	15	2		17				54
銅器					1									1
銅土器					1	5				2				7
遺器類	環状	40	2	4	3	25				1	3		5	83
	古代(遺)	119	24	21	10	37		2	9	2	1	17	236	
	古代(遺)	125	9	15	20	50		1	17	4	1	11	253	
	底面(高台有)	20		6	6	12		2	1	35	4	9	95	
	口縁・底部	191	19	23	15	60		4		23	5	17	357	
	皿	7			1					8			16	
	底面(高台有)	2			1					4			13	
	底面(高台無)	38	1	7	3	11				1	1	10	72	
	甕	27	2(1)	4	1	12			2	11	1	1	6	66(1)
	底面	43		2	10	15		3	2	12			1	2
	鉢	13			1	2					3			19
	大甕	14			1						2	1		20
	横鉢	1							1					2
	鉢	1								1				1(1)
	平皿		1		1					2				4
合計	銅器	641	58(1)	82	71	231		12	5	119	25	5	77(1)	1327(2)
新石器土器	環	12		1	2					20	5			2
	高台有	60	2	5	14	19		5		55	29		31	220
	高台無	30	5	9	8	21				15	4		5	87
	皿	30	1		7	9		3		22	3		8	81
	高台有	35	6	1	8	37		3	1	21	7		9	128
	高台無	1												1
	その他	1												1
合計	新石器土器	169	14	16	39		86	11	1	133	48		53	570
中世土師器	環	54	16	10	70	106	119	190	47	271	40	2	10	936
	高台有	506	266	317	336	390	422	1029	225	2096	65	24	87	5865
	高台無	32	7	7	29	60	91	252	49	333	30	4	7	901
	皿	527	208	223	233	271	250	1162	276	2049	67	32	110	5410
	高台有					1	2			1				4
	柱状高台													1
	鉢	3		1						1				5
合計	中世土師器	1224	497	596	666	631	664	2633	599	4751	202	62	214	13123
白磁		14	3	2		2	1	2	2	2				22
青磁		8			3			2		15				30
青白磁				1										1
青花	破片	(3)					(2)			(1)				(6)
唐津		10			4		2		1	5				23
肥前系	陶器	2					2			2				9
	磁器	19			27		17			6		1	10	62
	鉢	2					1			(1)				3(1)
	貯蔵具	1								1				3
備前系	鉢									3		4		7
	貯蔵具	1								1				2
常滑系	貯蔵具									3				3
在地系	鉢	7			9		2	1	1	14		5	1	40
その他の陶器		11			8		9			1				14
その他の磁器										4				5
瓦質土器		1								1				3
地焼		4			1		4			7				20
円筒状土製品										5				5
合計	陶磁器	80(3)	3	3	52	2	36(2)	3	6(1)	96(1)		10	43	336(7)
石器		137			662	174				23				997
鉄器		3	5				1	3	1	10	4	6	76	109
木製品								7						7
統計		2297(3)	588(1)	674	892	834	1345(2)	2685	621(1)	5430(1)	303	83	512(1)	18496(8)

※表15と表17は数えた部位が異なるので一致しない。

表16 遺構出土土器数表

遺構名	土器種別	遺物																				
		遺物1	遺物2	遺物3	遺物4	遺物5	遺物6	遺物7	遺物8	遺物9	遺物10	遺物11	遺物12	遺物13	遺物14	遺物15	遺物16	遺物17	遺物18	遺物19	遺物20	
遺構1	高杯	1																				
	白磁																					
	その他																					
遺構2	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構3	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構4	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構5	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構6	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構7	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構8	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構9	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構10	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構11	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構12	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構13	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構14	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構15	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構16	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構17	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構18	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構19	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
遺構20	高杯																					
	白磁																					
	その他																					
計																						

※欄外のみ出土

調査区	土器1	土器2	土器3	土器4	土器5	土器6	土器7	土器8	土器9	土器10	土器11	土器12	土器13	溝1	溝2	溝3	溝4	溝5	合計
調査区	1																		
土器																			
土器1	1																		
土器2																			
土器3																			
土器4																			
土器5																			
土器6																			
土器7																			
土器8																			
土器9																			
土器10																			
土器11																			
土器12																			
土器13																			
溝1																			
溝2																			
溝3																			
溝4																			
溝5																			
合計	1																		

調査区	土器1	土器2	土器3	土器4	土器5	土器6	土器7	土器8	土器9	土器10	土器11	土器12	土器13	土器14	土器15	土器16	土器17	土器18	土器19	土器20	土器21	土器22	溝5	合計	
調査区	1																								
土器																									
土器1	1																								
土器2																									
土器3																									
土器4																									
土器5																									
土器6																									
土器7																									
土器8																									
土器9																									
土器10																									
土器11																									
土器12																									
土器13																									
土器14																									
土器15																									
土器16																									
土器17																									
土器18																									
土器19																									
土器20																									
土器21																									
土器22																									
溝5																									
合計	1																								

流通部	品種名	UP	UP	P4001	P4002	P4003	P4004	P4005	P4006	P4007	P4008	合計
東巻部	古雑誌	1F										1
	雑誌分											4
	雑誌一平定											2
休	1冊											1
	2冊											1
	1冊											2
	1冊(不明)											3
	5冊											1
上巻部	雑誌											2
	古雑誌一平定											1
	雑誌											1
	雑誌											3
	雑誌											6
	雑誌											4
中巻部	雑誌											4
	雑誌											4
	雑誌											1
	雑誌											3
	雑誌											1
下巻部	雑誌											6
	雑誌											1
	雑誌											1
	雑誌											1
合計	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90
	雑誌											90

表17 土器数表

調査区	調査	1/2以上	1/2以下	A	第1	第2	第3	土器層1	土器層2	ASGD	層4	B区各	層5	C区各	層6	層7	層8	層9	層10	層11	層12	層13	層14	層15	層16	層17	層18	層19	層20		
遺構	壁	1/2以上	1/2以下	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24	
	床	1/2以上	1/2以下	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24	
	土器	1/2以上	1/2以下	23	1	3	3	3	2	10	44	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
		1/2以上	1/2以下	24	1	3	3	3	2	10	44	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
	土器	1/2以上	1/2以下	10	1	7	7	7	1	9	37	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	31	
		1/2以上	1/2以下	4	1	7	7	7	1	9	37	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	31	
		1/2以上	1/2以下	2	1	4	4	4	1	3	14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	
		1/2以上	1/2以下	69	21	15	15	15	4	15	64	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	
		1/2以上	1/2以下	42	3	6	6	6	2	11	44	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	
		土器	1/2以上	1/2以下	6	1	5	5	5	1	8	23	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23
			1/2以上	1/2以下	5	1	4	4	4	1	8	23	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23
			1/2以上	1/2以下	32	5	5	5	5	1	9	37	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	53
1/2以上			1/2以下	4	1	4	4	4	1	4	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
1/2以上			1/2以下	24	1	1	1	1	1	4	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	20
1/2以上			1/2以下	7	1	1	1	1	1	4	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	20
1/2以上			1/2以下	17	2	1	1	1	1	4	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	21
1/2以上	1/2以下		71	1	4	4	4	9	11	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	109	
1/2以上	1/2以下		9	1	1	1	1	1	10	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	20	
1/2以上	1/2以下		27	6	11	11	11	10	26	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	
1/2以上	1/2以下		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
土器	1/2以上		1/2以下	19	5	5	5	5	6	12	33	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	91	
	1/2以上	1/2以下	100	9	11	11	11	7	41	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	164		
	1/2以上	1/2以下	73	10	12	12	8	16	3	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	150		
	1/2以上	1/2以下	9	1	1	1	1	1	1	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	
	1/2以上	1/2以下	6	1	1	1	1	1	1	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14	
	1/2以上	1/2以下	2	1	1	1	1	1	1	3	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	
	1/2以上	1/2以下	6	1	1	1	1	1	5	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	
	1/2以上	1/2以下	3	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	
	1/2以上	1/2以下	12	(1)	2	2	2	2	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23	
	1/2以上	1/2以下	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
	1/2以上	1/2以下	22	1	1	1	1	3	9	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	40	
	1/2以上	1/2以下	2	1	1	1	1	7	3	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6	
土器	1/2以上	1/2以下	18	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	17	
	1/2以上	1/2以下	11	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	17	
	1/2以上	1/2以下	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	
	1/2以上	1/2以下	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	
	1/2以上	1/2以下	14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	20	

種別	1/2以上	1/2以下	3/4以上	3/4以下	4/5以上	4/5以下	5/6以上	5/6以下	6/7以上	6/7以下	7/8以上	7/8以下	8/9以上	8/9以下	9/10以上	9/10以下	その他	合計
種別	76	41	51	51	54	52	229	420	55	8	3	2	1037					
種別	361	105	120	120	279	304	182	573	1360	131	38	21	3727					
種別	4	1	4	4	1	2	1	5	7	1	1	1	23					
種別	1	1	1	1	1	2	2	1	4	1	1	1	15					
種別	154	43	41	41	46	37	65	144	7	2	1	54						
種別	2	1	2	2	4	3	22	25	12	1	1	615						
種別	4	1	2	2	11	10	4	26	33	5	1	96						
種別	10	1	2	2	5	4	18	18	1	1	1	48						
種別	35	9	2	2	17	19	6	2	10	5	1	16						
種別	5	6	8	8	11	10	15	14	25	1	3	68						
種別	5	2	5	5	2	3	12	6	14	1	1	48						
種別	7	4	1	1	3	2	1	1	12	1	1	22						
種別	4	4	1	1	2	1	1	1	1	1	3	11						
種別	2	2	1	1	2	1	1	1	2	1	1	16						
種別	3	2	1	1	1	1	4	2	2	1	1	14						
種別	10	10	19	19	2	8	12	24	10	4	1	81						
種別	8	9	19	19	2	8	2	39	20	2	9	150						
種別	7	18	2	1	3	3	1	25	3	1	9	90						
種別	7	3	1	1	6	4	1	19	27	7	5	100						
種別	5	7	1	1	1	1	2	3	3	2	2	7						
種別	3	3	1	1	1	1	2	3	2	2	2	12						
種別	13	13	4	4	1	1	4	1	1	1	1	6						
種別	171	96	90	90	29	19	299	384	34	16	5	11	1163					
種別	11	8	5	5	4	6	11	11	4	1	1	46						
種別	3	1	1	1	2	2	4	4	3	1	1	26						
種別	61	25	52	52	39	43	483	602	75	9	2	4	1452					
種別	201	91	97	97	125	151	162	436	950	110	19	5	2482					
種別	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	14					
種別	7	11	3	3	2	6	4	6	3	2	2	1	46					
種別	4	4	1	1	1	2	1	1	3	3	1	1	19					
種別	81	6	11	11	35	35	21	114	16	2	2	1	175					
種別	6	5	5	5	1	8	5	26	130	35	12	2	360					
種別	6	2	2	2	1	11	7	96	109	13	16	2	272					
種別	18	2	2	2	11	18	43	90	95	25	9	1	300					
種別	16	9	23	23	9	23	47	89	8	5	2	5	244					
種別	3	3	1	1	1	2	1	1	1	1	1	4	5					
種別	3040	1164	1162	1162	1068	950	3707	7300	773	446	87	487	21982					

表18 土器数量表 (縄紋～古墳)

		A'99	A'00	B区	C区	合計			
縄紋前期	銅部片	刺突文	2	1		3			
中期	船元目 船木目	口縁	1			1			
		底面	1			1			
後期前半	北白川C	浮鉢	1	1		2			
		口縁	17	4	1	1	23		
	浮鉢	口縁	17	4		3	24		
		銅部	4	1			5		
後期後半	凹線文系		6			6			
後期	双耳器		1			1			
後～晩期	輪郭浮鉢	銅部片	垂長条底	45	19	12	3	103	
			二枚長条底		14		10		
			ケワリ	161	23	45	41	270	
			ナデ	318	79	59	48	504	
			凹線文	23	22			45	
			その他		1	4	1	6	
			口縁	尖ら	9				9
				丸い	24	1	3		28
				肥厚・家	20				20
				刻み	2	1	1		4
	底面	上げ底	10	4			14		
		丸底	1				1		
		平底	19	1	2		22		
		不明	13	1	2	2	18		
		口縁	屈曲	1	7	1		9	
後～晩期	浮鉢	口縁	肥厚	1	1		2		
			方形波状口縁		1		1		
			内面沈線			1	1		
			リボン状突起			1	1		
			その他	1	2	4	2	9	
		晩期	浮鉢			1	1	2	
				谷底式				3	4
			刺突文系	口縁	1	1	1	3	
				口縁	1	1	1	4	6
		身生中期	盤		099	160	140	119	1148
盤	1						2		
	中凹中堂						2	2	
	中凹浅堂			4		3	1	8	
	高坪						5	5	
	[ネクタイ]						1	1	
後期	底面			盤	1			4	5
				盤	1				1
	銅部			銅部	26	1	1	2	30
				鉢A	4				4
		鉢形器台	6				6		
		刺突文				7	7		
		押引流				3	3		
		不明				2	2		
土師器	底面	底面	3		1		4		
		底	1				1		
	底	厚輪口縁			2	1	3		
		複合口縁	2				2		
土師器	底	底	49	1	7	30	87		
		底	748	191	147	149	1235		

表19 石器数量表

		A'99	A'00	B区	C区	不明	合計		
横石器	石斧	両刃石斧	2			2	4		
		單半両刃石斧	1				1		
		石鏃	3	2	1	1		7	
		横石	10			3		13	
		横石	3	4	1	2		10	
		縦	3	1				4	
		銅片石器	石鏃	1類	1	7			8
				2類	3	3	1	1	8
				3類	1	1			2
				3類(安山岩)	2				2
未成器	3			4	3		10		
	スクレーパー	スクレーパー	7			1	8		
		ユーヌドフレーク	6	3		2	11		
		楔形石器	4	8			12		
		打製の刀鏃			1		1		
		銅片	78	604	158	7		867	
	石斧	黒曜石	1				1		
		玉髓	5		1	3	1	9	
		水晶		1	2			3	
		燧石		1	3	2		6	
		碧玉	2					2	
		緑色凝灰岩	1		2			3	
		その他の石材	2			2		4	
		合計	137	662	174	23	1	997	

土製品数量表
土器数量表 (陶磁器)

表20 土製品数量表

土製品	A'09清浄	清2	清3	A区'00	清4	B区	河清2	C区N包	河清3	C区包	馬場清浄	合計
移動式甕	2			1		2					1	6
甕	27	1	1	2		15		5				51
土製支脚	17		1	4		5	1	4			1	33
製土土器	61	2	11	4	7	26	9	135	3		2	260
土鍋	18	5	1	3	1	14	2	10			9	63
平瓦	1					1						3
鍋口	1			1					7			8
甕								1				1
陶器	1											3
増築						1		2				3
合計	126	8	14	15	8	64	12	164	3		13	429

表21 土器数量表 (陶磁器)

陶磁器	白磁	磁	I/V類	A'09清浄	清2	清3	A区'00	清4	B区	河清2	C区N包	河清3	C区包	馬場清浄	合計
陶磁器			I/V類	4			1	11				2			23
			I/V類以外	1	1							2			4
		皿		3		1						4			8
			森田作部	4								5			9
			日本製	1	2										3
			常備	1											1
			上田石類	2								6			12
			上田石類	6					2			5		1	15
			日本製				3								3
		皿									1				1
		磁									1				1
		合子				1									1
	青白磁		磁片	3					2		1				6
			底部	5					1		5			1	12
		磁	底部	5			4		1			1			11
		磁	底部	6			10		1		5			2	24
		小皿					1		1						2
		磁	口縁	12			15		10		1		1	4	43
			陶器類	1					1		2			3	6
			八角鉢	1					2					1	4
			広葉鉢				1		2						3
			陶毛目録								2			3	5
		磁		1										2	3
		磁		1										4	5
		陶磁器付	磁	10			5		5		1	1		7	29
			その他				2		1						3
		磁鉢	在地区	4			8				7		5		24
			*(兼持機物)								5				5
			底部	2					1		6				3
			底部系カ?									1			1
			備前系	6							3		4		7
			在地区	3			1		2	1	2	1	1	1	11
			在地区								2				2
		磁物	前								1				1
		その他の陶器	磁						3		3			7	13
			不明	1			1				3				5
		その他の磁器	不明								4			1	5
		貯蔵具	常滑系								5				3
			底部系	1							1			1	3
			備前系	1							1				2
		瓦葺	備前カ火鉢	1							1	1			3
		増築		4			1		4		7			4	20
		土製品	内産球土製品								5				5
		合計		63	3	3	52	2	40	3	102	7	10	44	345

※表20、21のC区N包はC区N5とC区Nを合わせたもの

表22 中世土師器計測表

No.	写取回数	器種	分類	出土地区	注	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	備考
1		坏	Aa 1	A区包含層	4区西側3層 991025, 4区3層PNo.367 991007	(14.6)	4.9	6.0	
2		坏	Aa 1	A区包含層	3区2層 990728 990730	(14.6)	4.7	5.7	
3		坏	Aa 1	A区包含層	3区3層 PNo.343 990929	(14.6)	4.4	5.8	
4		坏	Aa 1	A区包含層	3区3層 PNo.133 990919	(14.0)	4.5	5.5	
5		坏	Aa 1	A区包含層	5区西側 PNo.53 000413	16.3	5.5	5.9	
6		坏	Aa 1	A区包含層	5区東側3層 PNo.65 000418	14.3	4.3	5.9	
7		坏	Aa 1	A区包含層	5区3層 PNo.65 000418, 000411	14.7	4.6	5.2	
8		坏	Aa 1	C区N包含層	7区N PNo.39 000612	(15.4)	4.8	5.3	
9	66	坏	Aa 1	C区N包含層	7区N PNo.40 000613, 000614	15.7	4.9	5.7	
10	66	坏	Aa 1	C区N包含層	7区N PNo.45 000613, 000614	16.0	4.9	5.9	
11	66	坏	Aa 1	C区N包含層	7区N PNo.45 000614	15.6	4.9	6.3	
12		坏	Aa 1	C区N S包含層	7区N南 包含下層 000828	14.8	5.3	5.5	
13		坏	Aa 1	C区N S包含層	7区N南 包含下層 000731	(15.6)	5.4	5.8	
14		坏	Aa 1	C区N S包含層	7区N南 包含層 000731	(14.6)	3.9	6.1	
15		坏	Aa 1	C区N S包含層	7区N南 包含下層 000821	15.7	5.4	5.7	
16	66	坏	Aa 1	C区N S包含層	7区N南 PNo.73 000731	14.5	4.5	6.4	
17		坏	Aa 1	C区N S包含層	7区N南 包含下層 000824	(14.7)	5.2	6.0	
18		坏	Aa 1	C区N S包含層	7区N南 包含下層 000823	(15.4)	4.9	6.5	
19		坏	Aa 1	溝2	3区 SD01-2 990825, 990826	15.0	4.4	5.8	
20		坏	Aa 1	溝2	3区 SD01-3 PNo.244 990913	15.4	5.3	6.0	
21		坏	Aa 1	(溝2?)	ナ	(15.7)	4.8	6.8	
22		坏	Aa 1	溝2	3区 SD01-3 990909	(14.0)	6.8	6.1	
23		坏	Aa 1	溝2	3区 SD01 PNo.163 990826	(14.8)	4.8	6.1	
24		坏	Aa 1	溝2	3区 SD01-2 990826	(14.4)	5.2	7.0	
25		坏	Aa 1	溝2	3区 SK13 990827	(15.6)	4.8	5.7	内面炭化物付着
26		坏	Aa 1	溝2	3区 SD01-1 PNo.1197 990903, 990907, 990909	15.3	4.4	5.5	
27	66	坏	Aa 1	溝2	3区 SD01-3 PNo.217 990910	14.9	5.1	5.4	
28		坏	Aa 1	溝2	3区 SD01-2 990825, 990827	(14.0)	5.2	5.9	
29		坏	Aa 1	溝2	3区 SD01 PNo.168 990827	(14.4)	6.2	5.5	
30	66	坏	Aa 1	溝2	3区 SD01 PNo.151 990826	15.7	5.1	6.5	
31	66	坏	Aa 1	溝2	3区 SD01 PNo.151 990826	14.8	5.4	6.0	
32		坏	Aa 1	溝2	3区 SD01-1 990908, 990909	(14.8)	4.9	5.6	
33		坏	Aa 1	溝2	3区 SK13 990905, 990909	(14.9)	4.7	5.0	
34		坏	Aa 1	溝2	3区 SD01-3 PNo.240 990513, PNo.250 99097	(14.5)	5.0	6.2	
35		坏	Aa 1	溝3	(1区?) SX03 PNo.26 990611	14.8	4.6	5.6	
36	66	坏	Aa 1	溝3	3区 SK20 PNo.185 + 190 990902, 990831, 990914 + 22	14.9	5.3	5.9	
37		坏	Aa 1	溝3	3区 SK20 PNo.336 990922, 990826	(14.0)	4.8	6.2	
38		坏	Aa 1	溝3	3区 SK20 PNo.292 990927	(14.8)	5.2	5.8	
39		坏	Aa 1	溝3	3区 SK20 PNo.186 990902, 990831	14.0	4.6	5.7	内面炭化物付着
40		坏	Aa 1	溝3	3区 SK20 990914	(16.4)	5.0	6.0	
41		坏	Aa 1	溝3	3区 SK20 PNo.301 990927	(15.0)	4.8	5.7	
42		坏	Aa 1	溝3	3区 SK20 PNo.278 990916	14.4	5.1	6.6	
43		坏	Aa 1	溝3	3区 SK20 PNo.182 990902	(16.4)	5.1	5.7	
44		坏	Aa 1	溝3	3区 SK20 PNo.293 990927, PNo.294 990927	(15.0)	4.7	5.5	内面炭化物付着
45		坏	Aa 1	溝3	3区 SK20 PNo.191 990902, PNo.192 990902	(14.4)	5.0	5.8	
46		坏	Aa 1	溝3	3区 SD04 990927, 991202	(14.4)	5.0	5.8	
47		坏	Aa 1	溝3	3区 SD04 991203 + 04 + 06	(15.0)	4.7	5.7	
48		坏	Aa 1	溝3	3区 SD04 PNo.473 991203	(15.2)	4.3	5.6	
49	66	坏	Aa 1	溝3	1区 SX03 1層 PNo.40 990614	14.7	4.4	5.4	
50		坏	Aa 1	河溝2	7区N南 河2上 000809	(15.1)	4.6	6.7	
51		坏	Aa 1	河溝2	7区N南 河2下 000810 + 11 + 18	(15.6)	5.1	5.5	内面炭化物付着
52		坏	Aa 1	河溝3	7区N南 河1下層 000818 + 21	(14.5)	4.7	5.7	内面炭化物付着
53		坏	Aa 2	溝2	3区 SK13 PNo.93 990604	(14.2)	4.1	5.4	
54		坏	Aa 2	溝3	3区 SK20 PNo.325 990927 + 20, PNo.337 990928	(14.8)	5.2	6.4	
55		坏	Aa 3	溝2	3区 SD01-3 PNo.248 990914	(15.2)	5.1	6.2	
56		坏	Aa 3	溝2	3区 SD01-1 990910	(15.1)	5.0	5.2	
57	66	坏	Aa 3	溝3	3区 SK20 PNo.309 990927, PNo.303 990922	(16.4)	4.3	5.8	
58		坏	Aa 3	溝3	3区 SK20 PNo.309 990927	(14.4)	4.0	5.8	
59		坏	Aa 3	溝3	3区 SK20 PNo.263 990914	(15.0)	4.7	6.1	外周炭化物付着
60		坏	Aa 3	溝3	3区 SK20 PNo.177 990902	(15.0)	4.9	5.9	内面炭化物付着
61	66	坏	Aa 4	A区包含層	5区 SX201 PNo.34 000413	(15.0)	5.5	6.3	

中美土師器計測表

No.	写真位置	器種	分類	出土地区	注 記	口径(cm)	胎高(cm)	底径(cm)	備 考
62	66	坏	Aa 4	A区包舍層	5区 SK201 PNo.33 000413	15.4	5.6	5.8	
63		坏	Aa 4	A区包舍層	5区 SK201 PNo.35 000413	(14.7)	5.1	5.6	
64		坏	Aa 4	A区包舍層	5区 SK201 PNo.34 000413	(16.3)	4.5	5.8	
65		坏	Aa 4	C区N包舍層	7区N PNo.45 000614	(15.0)	5.5	5.6	
66		坏	Aa 4	溝2	3区 SD01-1 PNo.271 990916	14.3	5.0	5.9	
67	66	坏	Aa 4	溝3	1区 SX03 1層 990707, 990708	14.0	5.0	(5.1)	
68		坏	Aa 4	溝3	1区 SX03 1層 PNo.62 990712	15.6	5.0	5.9	
69		坏	Aa 4	溝3	3区 SK20 PNo.309 990927	(15.6)	5.5	5.2	
70		坏	Aa 4	溝3	3区 SD04 PNo.466 991202	14.5	5.2	5.8	
71		坏	Aa 4	溝3	3区 SK20 PNo.293 990927	(14.6)	5.3	6.2	
72		坏	Aa 4	溝3	3区 SD04 PNo.474 991208	(14.4)	5.2	6.7	
73		坏	Aa 4	溝3	3区 SD04 991202	(14.1)	4.5	5.7	
74		坏	Aa 4	溝3	3区 SD04 PNo.475 991209, 991208-10	14.6	4.8	5.5	
75	66	坏	Ab 1	A区包舍層	4区 西側 3層 7, 4区 PNo.402 991025	(14.0)	4.9	5.7	内面灰化物付着
76		坏	Ba 1	A区包舍層	3区 3層 990820	(16.5)	3.9	5.5	
77		坏	Ba 1	C区N包舍層	7区N PNo.39 000512	(15.2)	4.6	5.6	
78		坏	Ba 1	C区N包舍層	7区N PNo.56 000718	(14.4)	5.3	6.0	
79		坏	Ba 1	C区N包舍層	7区N PNo.39 000612	(15.7)	5.3	6.6	
80	66	坏	Ba 1	C区N包舍層	7区N南包舍層 000731	15.6	4.8	5.4	
81		坏	Ba 1	溝2	3区 SD01-1 PNo.213 990909	15.9	5.5	5.5	
82		坏	Ba 1	溝2	3区 SK13 PNo.289 990804	(14.1)	3.4	5.8	
83		坏	Ba 1	溝3	(1区7) SX03 990611	(14.2)	4.0	5.4	
84		坏	Ba 1	溝3	(1区7) SX03 1層 PNo.21 990621	(15.2)	4.5	6.0	
85		坏	Ba 1	溝3	3区 SD04 990928	(14.8)	4.5	5.9	
86		坏	Ba 1	溝3	3区 SD04 PNo.466 991202	(14.5)	5.4	6.4	
87		坏	Ba 1	溝3	3区 SK20 PNo.315 990927	15.6	5.0	5.8	
88	66	坏	Ba 1	河道2	7区N南河2下 000818	(16.0)	5.2	5.8	内面灰化物付着
89		坏	Ba 2	溝2	3区 SX44 PNo.131 990919	(14.1)	4.8	5.2	
1		皿	A 1	A区包舍層	3区 3層 990808, 990812	(8.0)	1.9	4.4	
2	66	皿	A 1	A区包舍層	4区 PNo.374 991022	8.0	2.2	4.3	
3		皿	A 1	A区包舍層	4区 PNo.417 991105	8.3	2.3	4.3	
4	66	皿	A 1	C区包舍層	7区 PNo.18 000517	8.0	2.0	5.1	
5		皿	A 1	C区包舍層	7区 PNo.17 000517	8.8	2.4	4.7	
6		皿	A 1	C区包舍層	7区 PNo.16 000517	(7.9)	2.1	4.9	
7		皿	A 1	C区N包舍層	7区N PNo.39 000612	(8.0)	1.9	4.2	
8		皿	A 1	C区N包舍層	7区N PNo.57 000718	(8.0)	1.9	4.1	
9		皿	A 1	C区N S包舍層	7区N南包舍層 000731	9.0	2.0	4.0	
10		皿	A 1	C区N S包舍層	7区N南 PNo.75 000804	(8.8)	2.0	4.0	
11		皿	A 1	C区N S包舍層	7区N南包舍下層 000728	(8.0)	2.3	4.3	
12	66	皿	A 1	C区N S包舍層	7区N南 PNo.75 000804	9.3	2.1	4.2	
13	66	皿	A 1	C区N S包舍層	7区N南包舍下層 000601	9.4	1.9	4.0	
14		皿	A 1	C区N S包舍層	7区N南包舍下層 000608	(8.8)	1.9	4.0	
15		皿	A 1	C区N S包舍層	7区N南包舍下層 000901	9.7	2.1	(4.2)	
16		皿	A 1	C区N S包舍層	7区N南包舍層 000728	(8.0)	2.0	(4.2)	
17		皿	A 1	溝2	3区 SD01-2 990826	9.0	1.8	3.9	
18		皿	A 1	溝2	3区 SD01 PNo.172 990890	(8.5)	1.9	3.7	
19		皿	A 1	溝2	3区 SD01-3 PNo.231 990913	8.8	2.0	4.1	
20		皿	A 1	溝2	3区 SD01 PNo.151 990826	8.4	1.7	3.9	
21		皿	A 1	溝3	3区 SK20 990914	(8.2)	1.9	4.5	
22		皿	A 1	溝3	3区 SK20 PNo.320 990927	(8.0)	1.7	4.1	
23	66	皿	A 1	溝3	3区 SK20 PNo.256 990914	8.3	2.0	4.5	
24	66	皿	A 1	溝3	3区 SK20 PNo.197 990903	8.5	2.0	3.9	
25		皿	A 1	溝3	3区 SD04 PNo.471 991202	(8.4)	1.9	4.4	
26		皿	A 1	河道2	7区N南河2上, 000811	(8.4)	2.1	4.2	
27		皿	A 1	河道2	7区N南河2上, 000809	(8.5)	1.7	4.3	
28		皿	A 1	河道2	7区N南河2上, 000809	(8.8)	1.4	4.1	
29		皿	A 1	河道2	7区N南河2上, 000909	10.1	2.0	4.2	
30		皿	A 1	河道2	7区N南河2下 000806, 000809	(9.1)	2.0	3.8	
31	66	皿	A 1	河道2	7区N南河2下 000811	(10.1)	1.9	4.1	
32		皿	A 2	A区包舍層	4区 PNo.417 991105	7.7	1.5	4.0	
33		皿	A 2	A区包舍層	4区 西側 3層 991205	(8.8)	2.4	3.7	

No.	写真図版	群種	分類	出土地区	注	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	備 考
34	65	Ⅱ	A2	A区包合層	4区3層PNo.404 991025	8.1	2.0	3.6	
35		Ⅱ	A2	C区包合層	7区加工段包合層 000519	(8.5)	2.1	3.6	
36		Ⅱ	A2	C区包合層	7区加工段包合層 000519	(8.9)	2.1	3.9	
37		Ⅱ	A2	溝2	3区SK13 990826	(8.3)	1.6	3.5	
38	65	Ⅱ	A2	河溝2	7区N南河2下 000808	9.4	2.5	4.4	
39		Ⅱ	A3	A区包合層	4区PNo.417 991105	(7.8)	1.6	3.8	
40	65	Ⅱ	A3	A区包合層	4区PNo.376 991022	9.5	2.3	3.4	
41		Ⅱ	A3	C区N S包合層	7区N南包合層 000802	(9.4)	1.9	3.7	
42		Ⅱ	A3	C区N S包合層	7区N南包合層 000726	(9.0)	2.1	3.6	
43		Ⅱ	A3	溝2	3区SD01-2 PNo.217 990910	(8.8)	2.2	3.8	
44	65	Ⅱ	A3	溝2	3区SD01-3 PNo.216 990910	8.8	2.3	3.8	
45		Ⅱ	A3	河溝2	7区N南河2上 000809	(9.4)	1.7	4.4	
46		Ⅱ	A3	河溝3	7区N南河1下 000816	(8.6)	2.4	3.4	
47		Ⅱ	A類	C区N包合層	7区N PNo.39 000612	(9.6)	1.8	4.2	
48		Ⅱ	A類	C区N包合層	7区N PNo.59 000612	(8.7)	1.8	4.0	
49		Ⅱ	A類	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000821	(9.6)	1.7	(3.8)	
50		Ⅱ	A類	C区N S包合層	7区N南PNo.68 000714	(9.4)	2.0	4.0	
51		Ⅱ	A類	C区N S包合層	7区N南包合層 000726	(8.8)	2.6	4.0	
52		Ⅱ	A類	C区N S包合層	7区N南包合層 000725	(10.0)	4.5	(2.2)	
53		Ⅱ	A類	河溝3	7区N南河 000807	(9.0)	1.8	4.1	
54		Ⅱ	A類	河溝3	7区N南河 000807	(8.8)	1.7	4.0	
55		Ⅱ	A類	河溝3	7区N南河 000807	(9.2)	2.0	3.7	
56		Ⅱ	A類	河溝3	7区N南河 000726	(7.6)	1.8	3.8	口縁面引き出し
57		Ⅱ	B1	A区包合層	4区3層 991023	(8.7)	1.8	4.1	
58		Ⅱ	B1	A区包合層	4区西端3層 991105	(8.2)	2.0	3.9	
59		Ⅱ	B1	A区包合層	4区PNo.424 991109	8.0	1.8	3.6	
60		Ⅱ	B1	A区包合層	4区3層PNo.383 991019	(8.6)	2.2	4.3	
61		Ⅱ	B1	A区包合層	4区3層PNo.383 991019	8.5	1.8	4.5	
62	67	Ⅱ	B1	A区包合層	4区3層PNo.397 991022	8.3	2.2	3.6	
63	67	Ⅱ	B1	A区包合層	4区3層PNo.371 991008	8.9	2.1	4.6	
64		Ⅱ	B1	C区包合層	7区加工段包合層 000517	(7.8)	2.0	4.6	
65		Ⅱ	B1	C区包合層	7区加工段包合層PNo.17 000517	(8.7)	2.2	4.6	
66		Ⅱ	B1	C区N包合層	7区N PNo.59 000718	8.9	2.1	4.3	
67		Ⅱ	B1	C区N包合層	7区N PNo.60 000718	9.4	2.4	4.6	
68		Ⅱ	B1	C区N包合層	7区N PNo.43 000613	(8.3)	2.0	4.8	
69		Ⅱ	B1	C区N包合層	7区N包合層 000613	(9.3)	2.1	4.0	
70		Ⅱ	B1	C区N包合層	7区N包合層 000613	(9.0)	1.5	4.0	
71		Ⅱ	B1	C区N包合層	7区N PNo.43 000613	(9.5)	2.0	4.0	
72		Ⅱ	B1	C区N包合層	7区W 4層 990911	(8.7)	2.0	4.1	
73		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層 000724	(10.0)	2.7	4.3	
74		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層 000725	(9.1)	2.0	4.3	
75		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層 000616	(9.3)	2.2	4.1	
76		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層 000731	(8.8)	2.0	4.1	
77		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層 000802	(8.3)	2.1	4.2	
78		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層 000725	(8.6)	1.9	4.4	
79		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層 000802	(9.3)	1.9	4.0	
80		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南新割 000802	9.0	2.0	4.2	
81		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南サプトレ2包合層下層 000808	(9.3)	2.2	4.1	
82		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南サプトレ2包合層下層 000808	8.8	2.2	3.9	
83	67	Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南3層PNo.81 000818	8.8	1.9	4.1	
84		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南 PNo.72 000728	9.2	2.1	4.2	
85		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000821	(8.6)	2.1	4.1	
86		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000823	(9.0)	1.6	4.0	
87		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000731	9.0	2.1	4.1	
88		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000809	(8.1)	1.9	4.2	
89		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000825	(8.7)	2.2	3.9	
90		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000809	(8.6)	1.9	3.9	
91		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000802	(8.9)	1.9	4.1	
92		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000803	(8.3)	2.0	3.8	
93		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000821	(8.1)	2.0	4.4	
94		Ⅱ	B1	C区N S包合層	7区N南包合層下層 000825	8.8	2.2	4.6	

中世1, 湖跡計測表

No.	写真位置	路線	分 類	出土地区	注 記	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備 考
95		Ⅱ	B1	C区N S包含層	7区NW 包含下層 000824	(9.0)	1.9	4.0	
96		Ⅱ	B1	C区N S包含層	7区N南 包含下層 000726	(8.9)	1.5	4.1	
97		Ⅱ	B1	C区N S包含層	7区N南 包含下層 000821	(9.8)	2.2	4.5	
98		Ⅱ	B1	C区N S包含層	7区N南 包含下層 000802	(8.8)	2.1	4.3	
99		Ⅱ	B1	C区N S包含層	7区N南 包含下層 000901	9.1	2.0	4.1	
100		Ⅱ	B1	C区N S包含層	7区N南 包含下層 000825	(9.4)	2.0	3.8	
101		Ⅱ	B1	C区N S包含層	7区NW 包含下層 000850	8.5	2.2	4.2	
102		Ⅱ	B1	C区N S包含層	7区NW 包含下層 000901	(9.2)	2.0	4.0	
103		Ⅱ	B1	C区N S包含層	7区NW 包含下層 000830	(8.8)	2.0	4.5	
104		Ⅱ	B1	C区N S包含層	7区NW 包含下層 000830	(9.7)	2.3	4.3	
105		Ⅱ	B1	溝2	3区SK13 990806, 990809	(8.0)	1.7	3.5	
106		Ⅱ	B1	溝2	3区SD01-3 PNo.249 990914	8.5	2.3	4.5	
107		Ⅱ	B1	溝2	3区SK13 PNo.147 990825	7.8	2.0	4.3	
108		Ⅱ	B1	溝2	3区SK13 990827	9.0	2.2	4.7	
109		Ⅱ	B1	溝2	3区SD01-1 990825	8.5	1.8	4.1	
110		Ⅱ	B1	溝2	3区SK13 PNo.89 990804	(9.2)	2.2	3.5	
111		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20付込 3層 990831	8.4	2.0	4.5	
112		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 PNo.267 990916付	8.3	1.7	4.4	
113		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 990918	(8.4)	1.7	3.9	
114		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 PNo.291 990927	(8.4)	1.8	5.0	
115		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 PNo.325 990927	8.8	2.0	4.1	
116		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 PNo.178 990902	(8.4)	1.7	5.1	
117		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 PNo.340 990928	(9.0)	1.8	4.5	
118		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 PNo.306 990927	8.8	2.0	4.6	
119		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 990928	(8.6)	1.8	4.1	
120		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 PNo.261 990914	(9.0)	1.8	4.2	
121		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 990903	9.0	2.0	5.0	
122		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 PNo.174 990902	8.0	2.2	4.0	
123		Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 990927	(9.0)	2.0	4.3	
124	67	Ⅱ	B1	溝3	3区SK20 PNo.263 990914	8.3	1.9	4.0	
125		Ⅱ	B1	溝3	3区SD04 9909?	(8.0)	1.8	3.8	
126		Ⅱ	B1	溝3	3区SD04 991208	(8.2)	1.8	3.9	
127		Ⅱ	B1	溝3	3区SD04 991202	8.6	2.1	4.0	
128		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2 包含下層 000818	(9.4)	2.0	4.3	
129		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2 包含下層 000809	(9.9)	2.0	4.1	
130		Ⅱ	B1	河道2	7区N南 サフトレ河2 000803	(9.3)	2.1	4.3	
131		Ⅱ	B1	河道2	7区N南 サフトレ河2 000803	(8.5)	2.1	4.3	
132		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2上 000809	(10.0)	2.1	4.5	
133		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2上 000811	(8.9)	1.7	4.0	
134		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2上 000809	(9.7)	2.5	4.3	
135	67	Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2上 000809	9.1	2.0	4.3	
136		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2上 000810	(9.2)	1.8	3.9	
137		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2上 000811	9.1	2.0	4.1	
138	67	Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000806	9.1	1.8	3.9	
139		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000806	9.4	2.2	4.7	
140	67	Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000811	9.0	2.2	3.8	
141		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000806	9.4	2.5	4.8	
142		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000806	9.6	2.4	4.0	
143		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000806	8.8	2.2	4.5	
144		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000806	(8.3)	1.9	3.6	
145		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000808	(9.4)	2.1	4.2	
146		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000810	(9.1)	1.9	3.8	
147		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000806	(9.4)	2.1	4.4	
148		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000808	(9.1)	1.9	4.0	
149		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000809	(8.6)	1.8	4.0	
150		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000810	(9.1)	1.9	4.3	
151		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000806	(8.4)	1.7	3.9	
152		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000806	(8.8)	2.1	4.5	
153		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000811	(8.9)	1.9	3.9	
154		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000810	(9.4)	2.0	4.1	
155		Ⅱ	B1	河道2	7区N南河2下 000806	(8.8)	1.7	4.1	

No.	厚身回数	器種	分類	出土地区	注	口径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	備考
156		皿	B1	河邊2	7区N南河2下 000811		(8.8)	1.7	4.0
157		皿	B1	河邊2	7区N南河2下 000806		(8.9)	2.2	4.0
158		皿	B1	河邊3	7区N南河 000807		10.0	1.9	4.6
159		皿	B2	A区包含層	4区 PNo.424 991109		8.3	1.9	4.0
160		皿	B2	A区包含層	4区 西端 3層 991110		(8.2)	1.8	3.6
161		皿	B2	A区包含層	3区 2層 990730		(8.2)	2.1	3.8
162		皿	B2	A区包含層	4区 3層 991007		8.3	2.4	3.1
163		皿	B2	A区包含層	4区 3層 PNo.383 991019		8.5	2.2	4.0
164	67	皿	B2	A区包含層	4区 3層 PNo.410 991104		8.8	2.3	3.9
165		皿	B2	C区包含層	7区 N PNo.30 000519		(8.4)	2.2	4.0
166		皿	B2	C区包含層	7区 加工段 包含層 000519		(8.2)	2.1	3.7
167		皿	B2	C区包含層	7区 加工段 包含層 000519		(8.7)	2.3	3.6
168		皿	B2	C区包含層	7区 加工段 包含層 000519		(8.7)	2.1	3.6
169		皿	B2	C区包含層	7区 加工段 包含層 000519		(8.2)	1.8	3.4
170		皿	B2	C区N包含層	7区 N PNo.40 000613		9.0	2.1	4.2
171		皿	B2	C区N包含層	7区 N包含層 000613		(9.7)	2.0	3.5
172		皿	B2	C区N包含層	7区 N PNo.39 000612		(9.0)	2.0	3.8
173		皿	B2	C区N包含層	7区 N 包含層 000613		(9.4)	1.8	4.2
174		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000725		(9.2)	1.9	4.0
175		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000725		(9.0)	2.1	4.3
176		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000731		(10.0)	1.7	3.8
177		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000802		(9.4)	1.5	4.1
178		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000725		(9.0)	1.8	4.2
179		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000731		(9.8)	1.5	5.0
180		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000731		(9.4)	1.8	4.2
181		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000731		(9.6)	1.8	4.2
182		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000731		(10.0)	1.9	4.1
183		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000728		(9.4)	1.3	4.3
184		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層 000802		(8.5)	2.1	4.5
185		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 000809		(8.6)	2.1	3.6
186		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 000824		(9.4)	1.8	4.1
187		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 000823		(9.6)	2.5	3.6
188		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 000731		(9.2)	2.0	3.6
189		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 000809		(9.1)	2.1	4.4
190		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 000901		9.6	2.1	3.9
191		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 000821		(9.6)	1.9	4.3
192		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 000821		9.7	1.9	4.4
193		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 000823		(9.0)	1.8	3.9
194		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 000821, 000830		(9.2)	1.6	4.3
195		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 サトトレ 3 包含層下層 000809		9.0	1.8	3.9
196		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 PNo.75 000804		9.7	2.2	4.2
197		皿	B2	C区N S包含層	7区 N南 包含層下層 PNo.75 000804		(8.9)	2.1	4.2
198		皿	B2	C区N S包含層	7区W 包含層下層 000824		(9.7)	1.9	3.7
199		皿	B2	溝2	3区 SDO1-2 PNo.211 990908		8.5	2.0	3.8
200		皿	B2	溝2	3区 SK13 990804		8.3	2.2	3.8
201		皿	B2	溝2	SK13 7		7.8	1.8	3.8
202		皿	B2	溝2	3区 SK13 PNo.86 990804		(8.2)	1.9	3.8
203		皿	B2	溝2	3区 SDO1-3 PNo.245 990913		(8.2)	2.0	(4.0)
204		皿	B2	溝2	3区 SK13 990809		7.7	1.6	3.7
205		皿	B2	溝2	3区 SK13 890805		(8.5)	2.0	3.6
206		皿	B2	溝2	3区 SK13 990806		(8.6)	1.9	3.6
207		皿	B2	溝3	3区 SK20 PNo.189 990902		(9.0)	1.9	3.8
208		皿	B2	河邊2	7区 N南 サトトレ 河2 000803		(10.1)	2.4	5.0
209		皿	B2	河邊2	7区 N南 サトトレ 河2 包含層下層 000803		(8.9)	1.8	3.9
210		皿	B2	河邊2	7区 N南 河2 下 000809		(9.1)	1.8	4.4
211		皿	B2	河邊2	7区 N南 河2 上 000809		(9.0)	1.9	4.2
212		皿	B2	河邊2	7区 N南 河2 上 000809		(9.0)	1.7	4.4
213		皿	B2	河邊2	7区 N南 河2 下 000810		9.6	2.6	4.1
214		皿	B2	河邊2	7区 N南 河2 下 000811		(9.3)	1.9	4.2
215		皿	B2	河邊2	7区 N南 河2 下 000809		(9.7)	2.1	3.9
216		皿	B2	河邊2	7区 N南 河2 下 000810		(9.6)	2.0	4.1

中世十輪器計測表
石器計測表

No	草書位置	器種	分類	出土地区	注	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	
217	皿	B 2	河溝 2	7区N南河 2下	000808	(9.2)	1.7	3.7		
218	皿	B 2	河溝 2	7区N南河 2下	000818	(9.0)	1.8	4.0		
219	67	皿	B 2	河溝 3	7区N南河 000807	9.8	2.2	4.4		
220	67	皿	B 2	河溝 3	7区N 自然河溝 000626	8.2	2.2	4.5		
221	67	皿	B 2	河溝 3	7区N南河 000802	9.4	1.9	4.2		
222	皿	B 2	河溝 3	7区N南河 000807	9.2	2.2	4.1			
223	皿	B 2	河溝 3	7区N南河 000807	(9.2)	2.3	4.0			
224	皿	B 2	河溝 3	7区N南河 000807	(9.0)	2.1	4.0			
225	皿	B 2	河溝 3	7区N南河 1下	000818	(8.8)	2.0	4.0		
226	皿	B 2	河溝 3	7区N南河 1下	000818	(9.0)	2.1	4.0		
227	皿	B 2	河溝 3	7区N南河 000807	(9.0)	1.8	3.9			
228	皿	B 3	A区包含層	4区東側 3層	991007	(8.0)	2.0	3.5		
229	67	皿	B 3	A区包含層	4区 3層 PNo.378 991006	8.8	2.3	3.6		
230	皿	B 3	A区包含層	4区西端 PNo.428 991110	(8.0)	1.8	3.9			
231	皿	B 3	A区包含層	3区北端 3層	990830	8.8	2.2	3.6		
232	皿	B 3	C区N S包含層	7区N南包含層	000731	(9.0)	1.9	3.6		
233	皿	B 3	C区N S包含層	7区N南包含層	000802	(8.8)	2.2	4.0		
234	皿	B 3	C区N S包含層	7区N南包含層	000824	(8.8)	1.9	4.0		
235	皿	B 3	溝 2	3区SK13	990805	(8.8)	1.8	4.0		
236	皿	B 3	溝 2	3区SK13	990805	(8.7)	1.9	3.7		
237	皿	B 3	溝 2	3区SK13	990805	(8.0)	2.0	3.6		
238	皿	B 3	溝 2	3区SD01-2	990909	(8.4)	1.9	4.1		
239	皿	B 3	溝 2	3区SD01-2	990826	8.4	2.0	3.9		
240	67	皿	B 3	河溝 2	7区N南河 2下	000808	8.9	2.4	3.7	
241	67	皿	B類	溝 2	3区SD01-3 PNo.343 990913	9.2	2.2	5.1		
242	皿	B類	溝 2	3区SD01-3 PNo.228 990913	(9.2)	2.2	3.7			
243	皿	B類	溝 2	3区SD01-1 990908	(8.5)	2.0	3.7			
244	皿	B類	溝 2	3区SD01-3 PNo.246 990913	(10.0)	2.3	5.0			
245	皿	B類	溝 3	3区SK20 PNo.325 990927	(9.0)	2.1	4.2	口縁アフリット		
246	皿	B類	溝 3	3区SK20 PNo.259 990914	(8.2)	2.0	4.1	口縁アフリット		
247	皿	B類	溝 3	3区SD04 990928	(8.5)	2.5	4.4	口縁アフリット		
248	皿	大型	C区包含層	7区 包含層	000613	(11.0)	3.4	4.9		

※口径および底径の()は復元の値

表23 石器計測表

整理番号	地区	出土位置	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
1	A区	溝 2 PNo.143	石皿	19.11	17.66	9.20	3980.00
2	A区	3区 7 包含層	石皿	7.80	7.37	2.67	133.76
3	C区	7 NS区	石鏃	8.76	6.57	2.25	251.68
4	A区	溝 3	磨石	5.92	5.77	3.87	176.41
5	A区	溝 3	磨石	12.01	8.21	5.35	744.90
6	A区	3区包含層	磨石	9.79	6.35	4.43	366.30
7	A区	5区西側包含層	磨石	7.92	6.97	6.20	454.96
8	A区	5区中央包含層	磨石	10.33	9.08	4.18	550.13
9	A区	溝 2	石斧	2.90	3.94	3.01	50.14
10	B区	溝 4	石斧	6.84	2.12	0.95	24.97
11	C区	河溝 2	石斧	3.05	3.79	1.53	25.48
12	A区	5区包含層PNo.4	槌	5.96	6.10	1.75	106.76
13	A区	植物 1 7 (P 3)	砥石	7.56	4.80	1.97	101.46
14	A区	5区中央包含層	砥石	4.38	2.48	0.70	10.34
15	A区	5区中央包含層	砥石	3.06	4.80	1.77	44.89
16	B区	溝 5	砥石	3.91	3.73	0.43	10.54
17	C区	7区包含層	砥石	6.39	6.03	3.03	72.88
18	C区	7 NS区包含層	砥石	4.95	3.12	0.99	15.86

表24 土鐘計測表

経路番号	神田番号	写真返版	地区	注記	分類	長さ(cm)	最大径(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	残存状態
1	第101回1	76	A区	3区包食層990804	磨らみがあり筋線形	4.12	2.10	0.50	16.36	完形
2	第101回2	76	A区	4区西端包食層991108	*	4.91	1.79	0.38	11.81	完形
3	第101回3	76	A区	土鐘990928	*	3.60	1.57	0.50	6.90	完形
4		76	A区	3区包食層990908	*	3.55	1.57	0.40	6.81	完形
5		76	B区	5区W包食層000608	*	4.11	1.82	0.49	11.10	完形
6		76	B区	6区E端包食層000710	*	4.64	1.59	0.46	9.12	完形
7		76	C区	7区NS包食層000825	*	4.91	1.97	0.61	15.84	完形
8		76	C区	7区NS包食層000828	*	4.46	2.16	0.51	18.99	完形
9		76	C区	7区NS包食層000901	*	4.49	1.86	0.50	14.92	完形
10		76	C区	7区NS包食層000724	*	5.52	1.79	0.44	13.41	完形
11		76	A区	雑物18 (P14) 000510	*	5.27	2.09	0.53	18.05	完形
12		76	A区	雑物10 (P4) 991126	*	4.66	1.66	0.49	11.60	完形
13		76	A区	雑物1 (P6) 991013	*	3.35	1.50	0.57	6.18	完形
14		76	A区	3区包食層990819	*	(3.58)	2.06	0.94	11.26	
15		76	A区	4区包食層991014	*	4.39	(1.73)	0.49	9.75	
16		76	A区	4区西端包食層991105	*	(4.19)	1.49	0.40	6.94	
17		76	A区	3区包食層990517	*	(4.04)	(1.50)	(0.32)	5.09	
18		76	A区	5区包食層000411	*	(3.55)	1.45	(0.39)	5.87	
19		76	B区	6区W包食層000608	*	(4.16)	1.77	(0.50)	11.04	
20		76	B区	6区E包食層000710	*	(4.30)	1.80	(0.41)	11.30	
21		76	B区	6区E包食層000717	*	(4.23)	1.60	(0.46)	8.20	
22		76	B区	6区E包食層000717	*	(4.78)	1.66	(0.44)	9.71	
23		76	C区	7区NS包食層000810	*	(3.98)	1.68	(0.51)	9.06	
24		76	C区	7区NS包食層000824	*	(4.98)	(2.03)	(0.43)	16.48	
25	第101回7	76	A区	溝2 990810	僅かな磨らみを持つ	4.69	1.57	0.48	10.38	完形
26	第101回8	76	A区	平安の墓 (流入) 991119	*	4.40	1.57	0.45	6.84	完形
27		76	A区	3区包食層990804	*	4.35	1.87	0.52	12.31	完形
28		76	A区	溝2 990809	*	4.58	1.55	0.50	9.08	完形
29		76	A区	3区包食層990914	*	3.52	1.58	0.43	7.15	完形
30		76	A区	3区包食層990917	*	4.67	1.58	0.46	7.27	完形
31		76	A区	4区包食層PNo.421 991108	*	5.17	1.86	0.50	18.29	完形
32		76	A区	4区西端包食層991029	*	4.44	1.76	0.60	11.73	完形
33		76	A区	4区西端包食層991104	*	5.00	1.67	0.41	12.68	完形
34		76	A区	Phi016 991110	*	4.73	1.69	0.42	10.65	完形
35		76	A区	3区包食層990510	*	3.42	1.30	0.39	5.05	完形
36		76	A区	3区包食層990808	*	(3.07)	1.38	0.41	3.56	
37		76	A区	溝2 990805	*	4.52	(1.90)	0.47	9.99	
38		76	A区	4区西端包食層991028	*	5.44	(1.92)	0.58	14.03	
39		76	A区	平安の墓 (流入) 991119	*	(3.82)	1.73	0.67	8.45	
40		76	A区	5区包食層000411	細長い	4.28	1.44	0.37	7.87	完形
41		76	B区	溝5 000605	*	4.33	1.82	0.54	8.97	完形
42		76	B区	6区W包食層000607	*	3.96	1.37	0.35	6.77	完形
43		76	B区	溝4 000614	*	4.58	0.41	0.33	8.22	完形
44		76	A区	5区包食層000411	*	(3.51)	(1.55)	0.37	8.08	
45		76	B区	6区W包食層000608	*	4.55	(1.35)	0.52	7.54	
46		76	B区	6区E包食層000706	*	(3.84)	(1.44)	0.30	6.00	
47		76	C区	7区NS包食層000731	磨らみ少なく細長い	4.36	(1.37)	0.34	8.81	
48		76	C区	河溝2 000809	*	(4.79)	1.36	(0.30)	7.64	
49	第101回9	76	B区	6区E包食層000711	大型で磨らみを持つ	6.25	2.95	0.94	42.65	完形
50		76	B区	6区E包食層000711	*	6.00	3.02	0.58	45.44	完形
51		76	B区	6区E包食層000711	*	5.28	3.06	0.63	43.32	完形
52		76	B区	6区E包食層000711	*	(5.75)	(3.26)	(0.60)	46.69	
53		76	B区	6区E包食層000711	*	5.89	(3.14)	0.60	35.82	
54		76	C区	河溝2 000822	大型	(4.05)	(3.05)	(0.43)	15.75	
55		76	C区	7区NS包食層000824	*	(3.67)	(3.62)	(1.04)	14.05	
56		76	A区	溝2 990805	*	(4.34)	(2.81)	(0.66)	13.69	
57		76	B区	溝5 000605	*	(2.54)	—	(0.67)	5.29	
58	第101回4	76	A区	溝2 990827	磨らみ少ない、筒状	3.67	1.96	0.67	16.43	完形
59	第101回5	76	A区	1区包食層990701	*	5.40	2.05	0.80	19.72	完形
60	第101回6	76	A区	4区包食層991214	*	5.20	1.56	0.65	15.70	完形
61		76	C区	7区NS包食層000828	*	3.99	1.50	0.54	7.61	完形
62		76	A区	溝3PNo.470 991202	*	3.45	1.69	0.72	6.27	完形
63		76	C区	7区NS包食層000727	形態不明	(3.01)	(1.77)	(0.48)	6.79	

※() 残存の値

表25 鉄滓計測表

No.	出土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
1	A区溝3 990616	6.9	5.7	1.9	103.7
2	A区包含層 990802	8.6	7.5	3.1	332.9
3	A区包含層 990811	6.9	5.0	4.1	151.7
4	A区包含層 990811	3.0	2.0	1.2	15.1
5	A区包含層 990820	4.1	3.5	1.7	45.1
6	A区包含層 990910	7.6	5.2	4.0	169.1
7	A区包含層 990927	3.1	2.2	2.5	21.6
8	A区包含層 990914	8.8	6.7	3.1	269.7
9	A区包含層 990917	6.9	5.3	1.8	108.2
10	A区溝3 990916	2.9	2.7	1.6	28.7
11	A区土壌9 990927	4.1	2.8	1.6	15.8
12	A区溝2 PNo167 990827	9.5	6.6	4.3	338.1
13	A区溝3 991206	4.2	3.2	1.2	16.8
14	A区建物17 (P3) 991130	4.2	4.5	1.1	37.5
15	A区建物17 (P3) 991130	2.4	2.1	0.9	6.7
16	A区建物17 (P3) 991130	4.4	5.1	1.4	78.3
17	A区建物17 (P4) 991201	6.3	6.1	1.5	121.0
18	A区Pit461 990502	4.8	2.8	2.7	31.5
19	C区N S 包含層 000612	7.5	5.3	3.3	192.7
20	C区N S 包含層 000731	5.4	3.5	2.1	42.7
21	C区N S 包含層 000719	8.9	7.9	4.1	254.7
22	C区N S 包含層 000619	8.8	6.3	4.9	245.4
23	C区N S 包含層 000825	6.1	3.5	2.6	40.2
24	C区N S 包含層 000824	4.5	3.9	1.2	18.2
25	C区N S 包含層 000904	3.3	2.5	1.6	15.1
26	C区河道2 000809	8.2	7.8	2.8	128.6
27	C区河道3 000620	5.2	4.9	3.0	68.0
28	C区河道3 000620	7.4	5.6	4.1	134.2
29	C区河道3 000620	7.0	5.8	3.0	142.5
30	C区河道3 000620	6.4	4.9	1.8	68.4
31	C区河道3 000620	7.6	6.4	2.5	149.7
32	C区河道3 000620	3.2	2.7	1.7	12.3
33	C区河道2 000808	6.5	5.2	2.1	59.9
34	C区河道2 000808	8.3	7.1	4.1	230.3
35	C区河道2 000809	6.5	5.8	2.9	81.1

表26 黒曜石計測表

No.	調査区	出土位置	PNO	長(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重(g)	備考	
1	A区 1区	S X 0 2	18.1	10.3	2.8	0.77			
2	A区 1区	溝3	35	53.3	31.9	18.9	30.55		
3	A区 1区	溝3	10.8	5.5	1.3	0.10			
4	A区 1区	S X 0 5	13.0	7.2	2.4	0.21	a	990815	
5	A区 1区	S X 0 5	27.2	18.7	9.8	4.05	b	990622	
6	A区 1区	池内遺跡	29.2	13.0	9.0	3.04	c	990504	
7	A区 1区	池内遺跡	14.7	10.9	2.0	0.5	d	990912	
8	A区 1区	池内遺跡	16.1	12.8	8.5	2.00	e	池内遺跡・990731	
9	A区 1区	池内遺跡	27.6	7.3	3.2	0.47	f	池内遺跡・990715	
10	A区 1区	池内遺跡	27.4	10.0	3.0	0.91	g	990716	
11	A区 1区	池内遺跡	22.0	12.5	3.0	0.83	h	990701	
12	A区 2区	池内遺跡	98.9	20.0	4.2	2.72	a	990726	
13	A区 2区	池内遺跡	29.4	15.5	6.3	1.80	b	990720	
14	A区 2区	溝2	24.2	13.0	6.6	2.05			
15	A区 2区	溝3	32.0	16.5	9.1	5.18			
16	A区 2区	溝2	22.2	10.5	2.3	0.61		990827	
17	A区 2区	溝2	19.2	12.1	3.9	0.77		990917	
18	A区 2区	溝3	32.2	21.4	9.7	6.44		991206	
19	A区 2区	溝3	10.8	7.8	3.3	0.21		991208	
20	A区 2区	池内遺跡	32.6	20.0	5.0	3.50	1	990730	
21	A区 2区	池内遺跡	22.3	11.0	4.0	1.02	2	990730	
22	A区 2区	池内遺跡	15.4	6.6	3.0	0.30	3	990730	
23	A区 2区	池内遺跡	11.7	6.0	1.2	0.10		990730	
24	A区 2区	池内遺跡	30.2	22.2	7.9	4.80	1	990803	
25	A区 2区	池内遺跡	16.9	14.9	3.4	0.74	2	990804	
26	A区 2区	池内遺跡	10.5	3.2	0.9	0.04	3	990805	
27	A区 2区	池内遺跡	21.3	16.2	6.0	2.38	a	990905	
28	A区 2区	池内遺跡	16.2	8.0	2.1	0.16	b	990905	
29	A区 2区	池内遺跡	23.4	17.1	6.3	1.80	c	990912	
30	A区 2区	池内遺跡	11.5	8.5	2.1	0.23	3	990917	
31	A区 2区	池内遺跡	8.1	6.9	1.4	0.09	3	990917	
32	A区 2区	池内遺跡	19.3	10.0	2.7	0.61	3	990908	
33	A区 2区	池内遺跡	15.0	7.5	3.4	0.94	3	990917	
34	A区 2区	池内遺跡	22.6	10.6	2.5	0.54	3	991001	
35	A区 2区	池内遺跡	25.1	15.1	8.5	2.61		990918	
36	A区 2区	池内遺跡	22.4	10.6	6.9	1.47		990917	
37	A区 2区	池内遺跡	13.8	9.3	4.0	0.38	2	990802	
38	A区 2区	池内遺跡	11.5	8.0	1.9	0.19	2	990901	
39	A区 2区	池内遺跡	34.4	22.9	7.5	4.95			
40	A区 4区	溝4 (P3)	12.3	7.0	1.4	0.33			
41	A区 4区	溝4 (P3)	25.5	18.7	2.7	0.52	a		
42	A区 4区	溝4 (P3)	16.3	11.9	2.7	0.48	b		
43	A区 4区	溝5(溝3跡)/P1	16.3	13.7	5.3	0.69			
44	A区 4区	溝5 (P10)	21.4	16.4	5.4	1.02			
45	A区 4区	溝5 (P1)	19.3	11.2	3.6	0.20			
46	A区 4区	溝5 (P1)	22.2	16.4	8.1	2.31	a		
47	A区 4区	溝5 (P1)	15.5	11.8	5.3	0.76	b		
48	A区 4区	溝5 (P1)	16.0	9.7	8.7	0.96	c		
49	A区 4区	溝5 (P9)	8.0	6.1	1.0	0.06			
50	A区 4区	溝5 (P9)	41.1	29.3	18.7	16.17	d	池内遺跡・991108	
51	A区 4区	溝5 (P1)	29.2	24.7	4.2	2.26		池内遺跡・991108	
52	A区 4区	平安代跡の溝	17.5	12.0	7.4	1.20			
53	A区 4区	池内遺跡	26.3	11.7	4.9	1.46	3	991013	
54	A区 4区	池内遺跡	23.1	12.1	5.0	1.41	3	991014	
55	A区 4区	池内遺跡	19.0	17.0	7.1	1.52	3	991028	
56	A区 4区	池内遺跡	29.3	13.4	9.6	2.70	3	991122	
57	A区 4区	池内遺跡	28.6	13.7	7.8	2.80	溝跡1	991030	
58	A区 4区	池内遺跡	24.4	15.8	7.9	2.92	溝跡1	991030	
59	A区 4区	池内遺跡	20.1	11.7	4.5	0.86	溝跡2	991030	
60	A区 4区	池内遺跡	8.7	4.0	1.0	0.05	溝跡2	991030	
61	A区 4区	池内遺跡	9.3	8.0	2.0	0.18	溝跡1	991120	
62	A区 4区	池内遺跡	29.7	20.9	16.0	7.90	溝跡1	991104	
63	A区 4区	池内遺跡	25.9	15.8	5.5	1.98	溝跡1	991104	
64	A区 4区	池内遺跡	18.3	11.4	5.5	0.84	溝跡1	991104	
65	A区 4区	池内遺跡	14.3	10.0	2.5	0.31	溝跡1	991108	
66	A区 4区	池内遺跡	20.7	18.3	4.4	1.80	溝跡1	991108	
67	A区 4区	池内遺跡	26.3	21.2	15.5	6.50	溝跡1	991109	
68	A区 4区	池内遺跡	24.9	13.8	3.0	1.22	溝跡1	991109	
69	A区 4区	池内遺跡	23.7	10.8	9.6	2.57	溝跡1	991110	
70	A区 4区	池内遺跡	24.2	10.9	2.0	0.49	溝跡1	991111	
71	A区 4区	池内遺跡	16.0	8.9	3.7	0.81	溝跡1	991111	
72	A区 4区	池内遺跡	15.6	11.5	4.1	0.90	溝跡1	991111	
73	A区 4区	池内遺跡	24.9	13.6	4.3	1.34	溝跡1	991109	
74	A区 4区	池内遺跡	21.5	9.5	7.0	1.27	溝跡1	991108	
75	A区 4区	池内遺跡	9.6	6.7	2.8	0.15	溝跡2	991108	
76	A区 4区	池内遺跡	18.7	14.4	4.0	1.15	溝跡1	991022	
77	A区 4区	池内遺跡	26.3	15.0	8.9	2.68	溝跡1	991116	
78	A区 4区	池内遺跡	98	16.0	3.0	0.26	3		
79	A区 4区	池内遺跡	99	15.2	10.3	5.0	0.83	3	
80	A区 4区	池内遺跡	100	19.1	11.2	3.5	0.79	3	
81	A区 4区	池内遺跡	101	7.9	6.0	0.8	0.55	3	
82	A区 4区	池内遺跡	103	10.0	8.3	1.5	0.11	3	
83	A区 4区	池内遺跡	104	10.3	9.0	2.0	0.17	3	
84	A区 4区	池内遺跡	105	12.3	8.8	1.6	0.26		
85	A区 4区	溝5 (P1)	106	8.0	5.1	1.1	0.03	3	
86	A区 4区	池内遺跡	107	6.9	6.7	0.9	0.04	3	
87	A区 4区	池内遺跡	108	7.0	4.2	1.3	0.03	3	
88	A区 4区	池内遺跡	109	13.0	9.1	1.4	0.33	3	
89	A区 4区	池内遺跡	110	11.5	6.3	4.0	0.23	3	
90	A区 5区	池内遺跡	111	18.5	7.5	2.4	0.38	3	
91	A区 5区	P1087	112	9.6	6.9	1.0	0.08		
92	A区 5区	池内遺跡	113	15.3	9.8	3.1	0.48	a	
93	A区 5区	池内遺跡	113	5.7	5.0	0.4	0.03	b	
94	A区 5区	池内遺跡	114	7.9	7.5	1.7	0.09	c	東側3区
95	A区 5区	池内遺跡	115	7.4	6.5	0.8	0.05		西側3区
96	A区 5区	池内遺跡	115	10.0	9.4	2.4	0.21		西側3区
97	A区 5区	池内遺跡	117	3.9	3.5	0.8	0.02		
98	A区 5区	池内遺跡	118	6.0	39.9	2.1	0.18		
99	A区 5区	池内遺跡	119	16.2	11.7	3.4	0.48		
100	A区 5区	池内遺跡	120	6.9	5.4	1.0	0.03		溝跡1
101	A区 5区	池内遺跡	122	17.0	13.4	4.0	0.70	3	
102	A区 5区	池内遺跡	123	5.9	5.5	0.4	0.02		溝跡1
103	A区 5区	池内遺跡	125	7.5	7.3	1.3	0.09		溝跡1
104	A区 5区	池内遺跡	126	7.4	7.1	1.0	0.06		溝跡1
105	A区 5区	池内遺跡	127	10.4	7.5	1.3	0.12		溝跡1
106	A区 5区	池内遺跡	128	28.6	16.3	15.2	7.09		
107	A区 5区	池内遺跡	129	16.6	9.0	3.2	0.56		溝跡1
108	A区 5区	池内遺跡	130	15.7	8.0	3.0	0.26		溝跡1
109	A区 5区	池内遺跡	131	14.6	9.0	3.2	0.36		溝跡1
110	A区 5区	池内遺跡	132	10.3	8.8	0.7	0.05		中央
111	A区 5区	池内遺跡	133	10.2	5.3	1.7	0.07		中央
112	A区 5区	池内遺跡	134	8.9	7.9	1.7	0.14		溝跡1
113	A区 5区	池内遺跡	134	10.2	5.3	1.7	0.07		中央
114	A区 5区	池内遺跡	135	6.2	5.9	0.7	0.04		溝跡1
115	A区 5区	池内遺跡	136	8.0	7.7	1.4	0.08		溝跡1
116	A区 5区	池内遺跡	136	5.4	4.4	1.8	0.01		西側b
117	A区 5区	池内遺跡	137	7.8	5.7	1.0	0.04		溝跡1
118	A区 5区	池内遺跡	139	5.0	4.2	1.1	0.02		西側
119	A区 5区	池内遺跡	140	5.1	3.3	0.8	0.02		西側
120	A区 5区	池内遺跡	141	6.1	6.1	1.0	0.06		西側
121	A区 5区	池内遺跡	142	3.3	7.1	1.0	0.01		溝跡1
122	A区 5区	池内遺跡	143	4.4	2.4	0.7	0.01		溝跡1
123	A区 5区	池内遺跡	144	5.0	1.8	0.5	0.01		西側
124	A区 5区	池内遺跡	145	11.0	6.8	1.0	0.07		西側
125	A区 5区	池内遺跡	146	9.5	3.0	1.3	0.01		西側b
126	A区 5区	池内遺跡	146	5.0	2.6	0.5	0.01		西側b
127	A区 5区	池内遺跡	147	5.4	5.0	1.0	0.04		溝跡1
128	A区 5区	池内遺跡	148	7.5	4.1	0.9	0.02		西側
129	A区 5区	池内遺跡	149	5.4	3.0	0.6	0.02		西側
130	A区 5区	池内遺跡	150	5.4	5.0	0.7	0.03		溝跡1
131	A区 5区	池内遺跡	151	8.0	5.5	0.9	0.04		西側
132	A区 5区	池内遺跡	152	6.3	2.0	1.2	0.02		西側
133	A区 5区	池内遺跡	153	7.7	4.8	1.3	0.03		溝跡1
134	A区 5区	池内遺跡	154	7.1	6.0	1.1	0.04		溝跡1
135	A区 5区	池内遺跡	155	4.7	2.3	0.5	0.01		西側
136	A区 5区	池内遺跡	156	4.0	3.5	0.3	0.01		溝跡1
137	A区 5区	池内遺跡	157	6.8	5.8	0.8	0.01		西側
138	A区 5区	池内遺跡	158	7.5	6.5	0.8	0.05		溝跡1
139	A区 5区	池内遺跡	159	5.1	4.0	1.1	0.03		溝跡1
140	A区 5区	池内遺跡	160	5.2	4.5	0.6	0.02		溝跡1
141	A区 5区	池内遺跡	161	3.8	2.6	0.6	0.01		西側b
142	A区 5区	池内遺跡	162	5.7	5.3	0.5	0.01		溝跡1
143	A区 5区	池内遺跡	162	5.7	5.3	0.5	0.02		溝跡1
144	A区 5区	池内遺跡	163	5.0	4.1	1.0	0.03		溝跡1
145	A区 5区	池内遺跡	163	4.3	3.5	0.7	0.02		溝跡1
146	A区 5区	池内遺跡	164	6.2	4.3	0.5	0.02		溝跡1
147	A区 5区	池内遺跡	165	6.1	3.4	1.5	0.03		溝跡1
148	A区 5区	池内遺跡	167	8.2	4.3	0.6	0.02		溝跡1
149	A区 5区	池内遺跡	168	8.0	6.0	0.8	0.04		溝跡1
150	A区 5区								

黑曜石計測表

No.	調査区	出仕位置	PNO	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	備考
185	A区5区	知倉裏	206	6.9	6.7	1.0	0.05	西側
186	A区5区	知倉裏	207	6.4	3.1	0.5	0.02	西側
187	A区5区	知倉裏	208	7.3	4.0	1.2	0.03	西側
188	A区5区	知倉裏	209	3.5	0.3	0.01		
189	A区5区	知倉裏	210	6.5	5.0	1.0	0.03	西側
190	A区5区	知倉裏	211	5.4	4.8	0.5	0.02	西側
191	A区5区	知倉裏	212	5.3	4.5	0.5	0.01	西側
192	A区5区	知倉裏	213	5.3	5.3	0.5	0.03	西側
193	A区5区	知倉裏	214	5.4	3.5	0.9	0.02	西側
194	A区5区	知倉裏	215	8.1	6.4	0.7	0.03	西側
195	A区5区	知倉裏	216	7.5	7.3	1.4	0.07	西側
196	A区5区	知倉裏	217	4.8	4.4	1.0	0.03	西側
197	A区5区	知倉裏	218	11.5	9.6	1.7	0.19	西側 a
198	A区5区	知倉裏	219	6.0	5.8	0.7	0.02	西側 b
199	A区5区	知倉裏	220	2.9	2.6	0.5	0.01	西側 c
200	A区5区	知倉裏	221	4.5	2.0	0.07		
201	A区5区		222	6.8	4.3	0.4	0.02	
202	A区5区		221	9.3	6.7	1.4	0.07	
203	A区5区		222	7.2	3.0	0.5	0.03	
204	A区5区		223	5.8	5.5	0.5	0.02	a
205	A区5区		222	5.4	5.3	1.5	0.03	a
206	A区5区		223	5.0	4.3	1.1	0.01	c
207	A区5区		224	3.9	3.1	0.6	0.01	
208	A区5区		225	8.4	6.9	2.4	0.09	
209	A区5区		226	4.6	4.2	0.3	0.01	
210	A区5区		227	4.4	3.6	0.5	0.01	
211	A区5区		228	8.0	4.5	0.8	0.03	
212	A区5区		229	7.5	7.5	0.5	0.03	
213	A区5区		230	5.0	4.5	1.8	0.04	
214	A区3区		231	7	7	0.7	0.04	
215	A区5区		232	13.0	12.0	2.5	0.16	
216	A区5区		233	9.6	2.7	1.0	0.01	
217	A区5区		234	5.9	4.2	1.4	0.04	
218	A区5区		235	4.9	4.6	0.4	0.01	
219	A区5区		236	21.4	9.5	5.6	0.68	
220	A区5区		237	15.9	14.5	3.7	0.49	
221	A区5区		238	9.6	6.6	1.9	0.10	a
222	A区5区		238	6.0	3.5	0.7	0.02	b
223	A区5区		239	4.2	3.8	0.7	0.01	
224	A区5区		240	4.3	4.2	0.5	0.01	
225	A区5区		241	9.4	3.9	0.7	0.02	
226	A区5区		242	3.1	6.8	2.9	0.16	
227	A区5区		243	14.8	13.0	1.8	0.32	
228	A区5区		244	5.5	4.9	0.4	0.02	
229	A区5区		245	6.0	4.0	0.5	0.02	
230	A区5区		246	7.9	7.0	0.7	0.05	
231	A区5区		247	8.2	3.9	0.6	0.01	
232	A区5区		248	7.9	7.8	1.0	0.06	
233	A区5区		249	4.5	4.0	0.5	0.02	
234	A区5区		250	6.8	3.0	0.9	0.02	
235	A区5区		251	7.3	4.5	0.7	0.02	
236	A区5区		252	4.8	1.9	0.05		
237	A区5区		253	24.0	16.0	9.5	2.12	
238	A区5区		254	3.5	3.1	0.5	0.01	
239	A区5区		255	5.7	4.0	0.6	0.01	
240	A区5区		256	6.9	5.7	0.8	0.04	
241	A区5区		257	8.2	5.2	1.9	0.06	
242	A区5区		258	6.9	5.9	0.2	0.04	
243	A区5区		259	10.1	9.5	1.0	0.10	
244	A区5区		260	4.6	3.7	0.4	0.01	
245	A区5区		261	3.6	2.2	0.7	0.01	
246	A区5区		262	7.3	3.0	0.5	0.01	
247	A区5区		263	3.5	2.1	0.2	0.01	
248	A区5区		264	8.8	4.4	0.9	0.04	a
249	A区5区		264	6.8	6.3	0.7	0.04	b
250	A区5区		264	4.7	4.6	0.5	0.01	c
251	A区5区		265	6.8	5.3	1.2	0.04	
252	A区5区		266	6.9	5.6	1.2	0.04	a
253	A区5区		267	3.8	1.3	0.02	b	
254	A区5区		267	5.7	2.0	0.6	0.01	
255	A区5区		268	3.5	2.3	0.2	0.01	
256	A区5区		269	7.1	7.0	0.8	0.03	
257	A区5区		270	8.9	4.2	0.7	0.05	
258	A区5区		271	5.3	5.1	0.5	0.02	
259	A区5区		272	11.4	6.8	1.7	0.11	
260	A区5区		273	7.5	5.6	1.7	0.07	
261	A区5区		274	6.2	5.6	0.9	0.03	
262	A区5区		275	5.6	5.3	0.6	0.03	
263	A区5区		276	3.5	4.3	0.1	0.02	a
264	A区5区		276	18.3	9.5	2.0	0.31	
265	A区5区		277	3.0	2.9	0.3	0.01	
266	A区5区		278	5.0	4.8	1.0	0.03	
267	A区5区		280	5.9	4.7	1.2	0.05	
268	A区5区		281	3.9	3.4	0.5	0.01	
269	A区5区		282	4.7	1.5	0.4	0.01	
270	A区5区		283	6.3	5.0	1.3	0.02	
271	A区5区		284	6.7	5.4	0.5	0.02	
272	A区5区		286	8.0	5.0	0.8	0.04	
273	A区5区		287	7.0	8.7	1.3	0.05	
274	A区5区		288	6.0	4.8	0.5	0.02	
275	A区5区		289	8.6	3.8	0.8	0.04	
276	A区5区		290	5.4	2.7	0.8	0.02	

No.	調査区	出仕位置	PNO	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	備考
277	A区5区		291	5.5	3.1	0.9	0.02	
278	A区5区		292	9.5	7.3	1.8	0.10	
279	A区5区		293	10.6	10.0	2.8	0.21	
280	A区5区		294	8.0	3.2	0.2	0.02	
281	A区5区		295	4.5	4.0	0.9	0.02	
282	A区5区		296	6.4	1.6	0.7	0.01	
283	A区5区		297	4.4	2.0	0.3	0.01	
284	A区5区		298	4.0	3.4	1.4	0.01	a
285	A区5区		299	5.1	3.1	0.2	0.01	b
286	A区5区		299	10.5	10.0	3.9	0.25	
287	A区5区		300	8.0	4.9	1.0	0.04	
288	A区5区		302	14.3	12.0	1.4	0.22	a
289	A区5区		302	7.1	6.4	0.7	0.04	b
290	A区5区		303	6.5	6.4	1.0	0.03	a
291	A区5区		303	4.5	3.7	0.7	0.02	
292	A区5区		304	7.2	4.5	1.5	0.05	
293	A区5区		305	10.3	8.7	1.3	0.07	
294	A区5区		306	6.0	2.9	0.6	0.02	
295	A区5区		307	9.2	5.3	1.3	0.07	
296	A区5区		308	13.9	6.1	3.1	0.29	
297	A区5区		311	7.2	5.3	3.6	0.11	
298	A区5区		312	5.9	3.9	0.6	0.03	
299	A区5区		315	7.5	4.6	0.7	0.02	
300	A区5区		316	6.7	3.7	0.8	0.02	
301	A区5区		317	5.1	4.2	0.8	0.03	
302	A区5区		318	8.3	2.4	0.9	0.02	
303	A区5区		319	4.2	2.0	0.3	0.01	
304	A区5区		320	5.3	3.9	1.7	0.03	a
305	A区5区		320	4.4	3.6	0.5	0.02	b
306	A区5区		321	20.4	10.6	8.3	0.20	
307	A区5区		322	5.3	5.1	0.6	0.02	
308	A区5区		323	7.0	6.4	1.0	0.04	
309	A区5区		324	5.0	3.8	0.6	0.02	
310	A区5区		325	5.3	3.6	0.6	0.03	
311	A区5区		326	6.8	4.7	0.8	0.03	
312	A区5区		327	5.8	3.4	0.5	0.02	
313	A区5区		328	5.4	5.2	0.5	0.02	
314	A区5区		329	9.7	6.0	2.5	0.18	
315	A区5区		330	8.1	7.7	1.3	0.09	
316	A区5区		331	10.5	4.0	1.8	0.06	
317	A区5区		332	9.3	5.6	8.9	0.20	
318	A区5区		333	11.6	7.1	0.16		
319	A区5区		334	10.0	9.0	2.4	0.19	
320	A区5区		335	5.7	4.5	1.0	0.03	
321	A区5区		336	6.3	4.3	0.6	0.02	
322	A区5区		337	8.6	7.9	1.5	0.09	a
323	A区5区		337	8.3	6.8	0.8	0.03	b
324	A区5区		337	7.3	5.0	1.5	0.06	c
325	A区5区		338	12.0	7.7	0.8	0.09	
326	A区5区		338	5.0	3.2	0.9	0.01	
327	A区5区		340	8.2	5.2	1.9	0.09	
328	A区5区		341	7.8	0.9	0.2	0.02	
329	A区5区		342	4.6	3.8	0.9	0.02	
330	A区5区		343	8.0	6.2	3.5	0.12	
331	A区5区		344	7.0	5.6	0.9	0.06	
332	A区5区		345	7.4	4.1	0.4	0.02	
333	A区5区		346	7.7	6.8	1.1	0.07	
334	A区5区		347	6.5	5.9	1.9	0.05	
335	A区5区		348	5.7	6.6	2.6	0.00	
336	A区5区		349	5.8	4.8	0.6	0.02	
337	A区5区		350	3.5	3.3	0.3	0.01	
338	A区5区		351	13.3	8.5	2.8	0.30	
339	A区5区		352	7.3	5.8	4.0	0.13	
340	A区5区		353	7.4	4.3	4.4	0.09	
341	A区5区		354	22.1	11.0	9.3	1.60	
342	A区5区		355	7.2	4.4	0.7	0.03	
343	A区5区		356	11.7	5.6	5.8	0.31	
344	A区5区		357	9.3	5.2	0.2	0.01	
345	A区5区		358	6.6	4.4	1.0	0.04	
346	A区5区		359	16.7	6.7	3.5	0.32	
347	A区5区		360	6.2	4.4	0.6	0.02	
348	A区5区		361	16.9	8.0	5.2	0.51	
349	A区5区		362	7.2	5.3	1.0	0.04	
350	A区5区		363	6.1	4.5	0.3	0.02	
351	A区5区		364	4.9	3.8	1.3	0.03	
352	A区5区		365	6.6	4.6	1.9	0.10	
353	A区5区		366	3.2	2.1	1.2	0.01	
354	A区5区		367	6.0	3.6	4.6	0.07	
355	A区5区		368	10.9	4.5	1.0		

No.	調査区	出土位置	PNO	厚さ(mm)	幅(mm)	長さ(mm)	重量(g)	備考
369	A区	5区	364	6.3	4.0	0.5	0.01	
370	A区	5区	365	4.5	4.3	0.5	0.01	
371	A区	5区	366	11.4	5.9	1.5	0.10	
372	A区	5区	367	7.8	5.2	1.0	0.05	
373	A区	5区	368	6.0	4.5	0.5	0.02	
374	A区	5区	369	13.0	7.8	0.9	0.12	
375	A区	5区	390	3.8	3.3	0.6	0.01	b
376	A区	5区	391	4.8	2.1	0.2	0.01	b
377	A区	5区	391	4.3	4.2	0.7	0.01	
378	A区	5区	394	6.4	4.7	0.3	0.01	
379	A区	5区	395	4.3	4.2	0.2	0.01	
380	A区	5区	399	18.2	18.0	3.7	0.72	
381	A区	5区	396	7.8	5.9	0.8	0.05	
382	A区	5区	398	12.0	11.3	3.5	0.23	
383	A区	5区	399	5.9	3.0	0.5	0.01	
384	A区	5区	400	6.7	4.0	1.0	0.03	
385	A区	5区	401	5.7	4.4	0.4	0.01	
386	A区	5区	404	5.5	4.9	0.5	0.02	
387	A区	5区	405	6.0	5.6	1.7	0.04	
388	A区	5区	406	5.6	1.9	0.5	0.01	
389	A区	5区	407	7.2	6.5	1.0	0.07	
390	A区	5区	408	6.4	5.0	1.1	0.04	a
391	A区	5区	408	3.7	2.3	0.2	0.01	b
392	A区	5区	409	6.7	4.8	0.7	0.02	
393	A区	5区	410	5.0	3.4	0.9	0.02	
394	A区	5区	411	7.3	3.5	0.8	0.02	
395	A区	5区	412	12.3	7.7	2.3	0.19	
396	A区	5区	413	5.8	3.9	0.7	0.02	
397	A区	5区	414	7.4	4.6	1.4	0.11	
398	A区	5区	415	11.3	4.9	2.9	0.16	
399	A区	5区	416	11.0	8.5	0.9	0.06	
400	A区	5区	417	7.0	4.7	0.8	0.03	
401	A区	5区	418	8.5	6.5	0.9	0.06	
402	A区	5区	419	11.9	8.2	2.3	0.15	
403	A区	5区	420	11.6	8.4	3.4	0.15	
404	A区	5区	421	5.9	4.4	1.7	0.04	
405	A区	5区	423	4.6	4.5	0.6	0.01	
406	A区	5区	424	6.4	3.7	0.7	0.02	
407	A区	5区	425	7.5	5.4	0.6	0.04	
408	A区	5区	426	5.3	1.7	0.3	0.01	
409	A区	5区	427	6.7	4.1	0.8	0.02	
410	A区	5区	428	6.2	3.0	0.7	0.01	
411	A区	5区	428	6.2	4.0	0.5	0.02	
412	A区	5区	431	5.6	5.4	1.8	0.06	
413	A区	5区	432	5.7	6.0	1.0	0.01	
414	A区	5区	433	7.2	6.3	1.8	0.06	
415	A区	5区	434	4.2	3.0	0.7	0.02	
416	A区	5区	435	18.5	13.6	4.0	0.81	
417	A区	5区	436	6.4	4.4	0.9	0.02	
418	A区	5区	437	5.0	4.0	0.5	0.01	
419	A区	5区	439	12.0	5.5	3.2	0.20	
420	A区	5区	439	10.3	6.0	2.3	0.12	
421	A区	5区	440	5.3	4.8	0.6	0.02	
422	A区	5区	441	3.2	2.0	0.2	0.01	
423	A区	5区	443	11.5	8.3	2.5	0.19	
424	A区	5区	444	6.5	4.5	0.8	0.05	
425	A区	5区	445	3.4	3.3	0.9	0.01	
426	A区	5区	447	9.0	4.5	1.5	0.06	
427	A区	5区	448	10.0	8.8	1.9	0.14	
428	A区	5区	449	23.7	17.5	9.8	3.31	
429	A区	5区	450	6.8	4.8	1.2	0.04	
430	A区	5区	452	9.5	4.3	1.2	0.04	
431	A区	5区	453	10.2	3.0	1.3	0.04	
432	A区	5区	454	25.8	7.3	3.2	0.46	
433	A区	5区	455	7.4	4.9	1.0	0.04	
434	A区	5区	456	9.5	8.4	1.0	0.06	
435	A区	5区	457	5.7	5.1	0.9	0.02	
436	A区	5区	458	6.5	4.5	1.2	0.03	
437	A区	5区	459	9.6	7.7	2.5	0.11	
438	A区	5区	468	11.3	7.5	2.4	0.20	
439	A区	5区	469	8.0	5.2	1.0	0.05	
440	A区	5区	473	4.9	3.8	0.8	0.02	
441	A区	5区	471	10.4	5.4	1.0	0.06	
442	A区	5区	472	8.2	3.4	1.4	0.04	
443	A区	5区	473	5.5	3.5	0.3	0.01	
444	A区	5区	474	5.1	5.0	1.0	0.03	
445	A区	5区	475	9.1	6.2	2.9	0.19	
446	A区	5区	476	4.8	4.1	0.8	0.02	
447	A区	5区	476	3.4	2.7	0.3	0.01	b
448	A区	5区	477	7.1	4.1	1.8	0.05	
449	A区	5区	478	6.3	3.9	1.0	0.02	
450	A区	5区	479	5.8	4.6	0.5	0.02	
451	A区	5区	480	10.0	7.4	1.8	0.13	
452	A区	5区	482	8.3	5.8	1.3	0.09	
453	A区	5区	483	6.2	4.5	1.8	0.05	
454	A区	5区	484	6.4	4.9	0.6	0.02	
455	A区	5区	485	8.5	5.7	1.1	0.06	
456	A区	5区	485	4.1	3.7	0.3	0.01	
457	A区	5区	486	8.5	6.1	0.9	0.06	
458	A区	5区	491	12.0	7.1	3.5	0.24	
459	A区	5区	492	9.6	8.0	2.4	0.14	
460	A区	5区	493	6.6	4.3	1.7	0.06	
461	A区	5区	494	7.7	6.0	0.6	0.03	
462	A区	5区	496	12.7	8.0	4.0	0.67	
463	A区	5区	499	5.1	4.0	0.7	0.02	
464	A区	5区	500	13.3	10.7	2.0	0.29	
465	A区	5区	501	6.2	3.0	0.8	0.03	
466	A区	5区	503	8.5	6.9	0.8	0.06	a
467	A区	5区	503	4.7	4.5	1.0	0.02	
468	A区	5区	504	7.8	4.9	0.6	0.03	a
469	A区	5区	504	4.7	1.7	0.4	0.01	a
470	A区	5区	505	5.9	4.6	0.7	0.03	
471	A区	5区	506	5.6	3.2	0.8	0.01	
472	A区	5区	507	4.6	4.3	1.6	0.03	
473	A区	5区	508	3.7	4.3	0.5	0.01	
474	A区	5区	509	5.5	4.6	0.8	0.02	
475	A区	5区	570	6.6	5.3	2.0	0.07	
476	A区	5区	571	10.0	6.2	1.5	0.10	
477	A区	5区	572	6.0	4.7	0.7	0.03	
478	A区	5区	573	4.8	3.5	0.4	0.01	
479	A区	5区	574	8.2	5.0	0.5	0.03	
480	A区	5区	575	6.9	2.8	0.5	0.02	
481	A区	5区	576	8.0	4.1	1.7	0.04	
482	A区	5区	577	4.6	3.2	0.5	0.01	
483	A区	5区	578	8.0	5.7	1.9	0.06	
484	A区	5区	579	10.2	5.9	1.6	0.06	
485	A区	5区	580	7.1	4.9	0.7	0.03	
486	A区	5区	581	4.3	3.0	0.5	0.01	
487	A区	5区	582	7.5	5.4	1.5	0.06	
488	A区	5区	583	5.5	4.6	1.0	0.03	
489	A区	5区	583	4.3	5.8	0.7	0.02	
490	A区	5区	585	5.0	4.0	0.5	0.01	
491	A区	5区	587	4.1	2.5	0.6	0.01	
492	A区	5区	588	22.7	15.6	10.4	2.73	
493	A区	5区	589	14.9	11.3	1.5	0.20	
494	A区	5区	590	8.3	3.9	1.9	0.05	
495	A区	5区	591	7.5	5.4	0.8	0.04	
496	A区	5区	592	4.3	3.7	0.5	0.02	
497	A区	5区	593	5.0	3.7	0.8	0.02	
498	A区	5区	594	8.9	4.8	1.9	0.07	
499	A区	5区	595	13.2	8.2	4.0	0.41	
500	A区	5区	596	5.7	4.3	0.8	0.01	
501	A区	5区	596	4.3	3.6	0.8	0.02	b
502	A区	5区	597	6.6	5.1	0.8	0.04	
503	A区	5区	598	16.2	12.2	5.9	0.65	
504	A区	5区	599	5.9	4.3	0.3	0.02	
505	A区	5区	600	7.3	6.1	1.0	0.02	
506	A区	5区	601	13.0	7.6	3.0	0.24	
507	A区	5区	602	7.8	4.9	1.5	0.05	
508	A区	5区	603	17.2	9.8	2.2	0.38	
509	A区	5区	604	3.9	3.0	0.8	0.02	
510	A区	5区	605	4.3	3.5	0.4	0.01	
511	A区	5区	606	3.7	1.5	0.6	0.01	
512	A区	5区	607	6.4	4.3	0.7	0.03	
513	A区	5区	608	8.3	4.2	1.8	0.05	
514	A区	5区	609	4.8	3.4	0.2	0.01	
515	A区	5区	610	12.0	7.2	4.3	0.33	
516	A区	5区	611	8.6	5.0	2.9	0.13	
517	A区	5区	612	8.3	5.0	1.0	0.03	
518	A区	5区	614	11.8	9.4	1.5	0.17	
519	A区	5区	615	5.8	3.6	0.8	0.02	
520	A区	5区	616	5.5	5.3	0.5	0.02	
521	A区	5区	617	12.0	11.8	2.8	0.26	
522	A区	5区	618	20.9	16.4	8.1	2.41	
523	A区	5区	619	7.4	5.7	1.3	0.06	
524	A区	5区	620	16.0	10.0	8.1	1.36	
525	A区	5区	621	9.3	7.8	1.7	0.10	
526	A区	5区	622	7.2	6.0	1.0	0.05	
527	A区	5区	623	4.3	4.8	1.0	0.02	a
528	A区	5区	623	5.8	4.8	1.6	0.04	b
529	A区	5区	624	12.5	7.3	2.9	0.24	
530	A区	5区	626	10.0	6.3	2.3	0.13	
531	A区	5区	627	6.5	3.6	1.0	0.03	
532	A区	5区	628	8.4	6.7	1.3	0.08	
533	A区	5区	629	5.5	3.7	0.5	0.02	
534	A区	5区	630	5.5	4.5	1.0	0.04	考?
535	A区	5区	631	14.1	8.8	2.8	0.26	
536	A区	5区	632	4.1	2.9	0.4	0.01	
537	A区	5区	633	5.4	4.9	1.1	0.01	
538	A区	5区	635	10.5	5.8	2.5	0.15	
539	A区	5区	636	6.4	3.4	1.3	0.02	
540	A区	5区	637	9.1	5.2	1.8	0.06	
541	A区	5区	638	6.3	4.5	0.9	0.04	
542	A区	5区	639	4.6	4.8	0.6	0.02	

黑曜石計測表

No.	調査区	出土位置	PNO	長さ (mm)	幅 (mm)	重量 (g)	備考
553	A区	5区	654	6.7	3.9	0.9	0.04
554	A区	5区	655	3.0	2.3	0.2	0.01
557	A区	5区	656	7.1	3.6	0.9	0.03
556	A区	5区	657	8.3	6.3	2.4	0.05
557	A区	5区	658	5.8	2.6	0.1	0.01
558	A区	5区	660	6.3	5.5	0.9	0.04
559	A区	5区	661	4.5	3.0	0.3	0.01
560	A区	5区	662	9.9	6.7	2.0	0.16
561	A区	5区	663	13.4	11.2	3.8	0.51
562	A区	5区	664	6.9	4.7	1.1	0.04
563	A区	5区	665	8.7	6.6	2.0	0.10
564	A区	5区	666	9.3	6.7	1.7	0.14
565	A区	5区	666	4.8	3.4	1.1	0.02
566	A区	5区	667	3.5	2.5	0.3	0.01
567	A区	5区	669	5.8	3.0	0.2	0.01
568	A区	5区	670	9.1	5.5	0.8	0.06
569	A区	5区	671	6.6	5.4	1.9	0.05
570	A区	5区	672	5.8	1.5	0.6	0.01
571	A区	5区	674	9.0	7.8	4.1	0.22
572	A区	5区	674	7.0	4.0	0.9	0.10
573	A区	5区	675	10.5	6.0	0.6	0.06
574	A区	5区	676	12.6	8.4	1.4	0.18
575	A区	5区	677	8.5	4.0	1.0	0.04
576	A区	5区	677	7.9	4.9	0.4	0.03
577	A区	5区	679	9.6	5.6	2.7	0.08
578	A区	5区	680	6.7	6.5	1.0	0.07
579	A区	5区	681	11.8	4.2	1.0	0.07
580	A区	5区	682	7.4	5.8	1.4	0.06
581	A区	5区	683	9.4	3.7	0.8	0.09
582	A区	5区	684	11.4	9.2	1.5	0.14
583	A区	5区	685	5.2	3.7	0.5	0.02
584	A区	5区	686	5.0	3.6	0.9	0.01
585	A区	5区	687	9.2	5.7	0.9	0.05
586	A区	5区	688	7.6	6.4	1.3	0.06
587	A区	5区	688	6.8	4.4	1.3	0.04
588	A区	5区	690	4.0	3.3	0.1	0.01
589	A区	5区	691	6.0	6.0	0.9	0.04
590	A区	5区	692	4.3	3.1	0.3	0.01
591	A区	5区	693	8.0	6.9	1.0	0.07
592	A区	5区	694	11.0	5.7	2.0	0.15
593	A区	5区	695	11.8	7.9	2.5	0.20
594	A区	5区	696	6.8	3.8	1.0	0.02
595	A区	5区	697	8.4	4.0	1.1	0.05
596	A区	5区	699	14.0	10.8	2.5	0.46
597	A区	5区	699	10.3	7.5	3.5	0.34
598	A区	5区	700	9.0	8.1	1.1	0.03
599	A区	5区	701	7.0	6.0	1.3	0.09
600	A区	5区	702	9.3	5.8	1.5	0.07
601	A区	5区	703	8.9	5.3	1.4	0.05
602	A区	5区	704	14.1	4.0	2.0	0.13
603	A区	5区	704	9.1	6.3	0.5	0.03
604	A区	5区	707	6.9	5.4	1.3	0.04
605	A区	5区	708	9.3	7.3	1.4	0.10
606	A区	5区	709	4.8	4.3	0.9	0.03
607	A区	5区	710	9.7	7.5	1.8	0.13
608	A区	5区	711	6.8	3.0	0.3	0.02
609	A区	5区	712	13.3	8.0	2.2	0.23
610	A区	5区	713	9.0	6.4	1.0	0.07
611	A区	5区	714	5.3	4.3	0.4	0.01
612	A区	5区	715	8.3	4.9	0.9	0.04
613	A区	5区	716	14.3	10.3	3.5	0.34
614	A区	5区	717	14.1	12.8	3.5	0.45
615	A区	5区	718	7.1	4.2	0.4	0.02
616	A区	5区	719	8.2	4.2	0.9	0.02
617	A区	5区	720	8.5	7.9	1.9	0.07
618	A区	5区	721	8.0	5.7	1.6	0.06
619	A区	5区	722	6.0	4.2	0.6	0.02
620	A区	5区	723	6.7	4.2	0.4	0.02
621	A区	5区	724	8.1	6.7	2.0	0.10
622	A区	5区	725	5.8	4.5	1.0	0.03
623	A区	5区	726	20.5	15.4	5.3	1.40
624	A区	5区	727	8.8	6.0	3.3	1.10
625	A区	5区	728	13.7	12.5	5.5	0.49
626	A区	5区	734	22.0	11.9	3.6	0.92
627	A区	5区	735	22.4	19.3	4.0	1.20
628	A区	5区	736	6.0	4.0	1.4	0.04
629	A区	5区	737	7.0	3.9	0.8	0.02
630	A区	5区	737	4.4	3.0	0.7	0.01
631	A区	5区	738	11.9	4.6	1.9	0.11
632	A区	5区	739	13.4	4.0	3.0	0.22
633	A区	5区	740	12.5	11.9	2.7	0.37
634	A区	5区	740	12.5	4.9	2.7	0.37
635	A区	5区		16	16	4	0.00684
636	A区	5区		6.8	6.8	0.8	0.06
637	A区	5区		4.5	4.5	0.5	0.02026
638	A区	5区		4.8	3.0	1.4	0.0026
639	A区	5区		4.1	1.7	0.2	0.01
640	A区	5区		3.0	1.4	0.3	0.0026
641	A区	5区		13.3	8.0	2.7	0.21
642	A区	5区		10.3	5.1	1.2	0.06
643	A区	5区		10.5	6.4	1.4	0.11
644	A区	5区		5.1	3.6	0.2	0.02

No.	調査区	出土位置	PNO	長さ (mm)	幅 (mm)	重量 (g)	備考
645	A区	5区	9.1	8.9	1.9	0.14	G-6
646	A区	5区	4.8	1.4	1.0	0.06	L-6
647	A区	5区	7.1	6.4	1.1	0.11	11-6
648	A区	5区	8.8	5.3	0.7	0.04	O-12
649	A区	5区	15.9	8.9	2.6	0.34	O-14
650	A区	5区	8.8	5.0	1.3	0.07	O-14
651	A区	5区	12.1	7.5	1.0	0.11	000417
652	A区	5区	19.8	10.9	2.3	0.36	1.3.6 a 000590
653	A区	5区	12.8	9.7	1.7	0.22	1.3.6 b 000590
654	A区	5区	12.4	7.8	2.3	0.28	1.3.6 c 000590
655	A区	5区	20.5	18.0	4.3	1.15	1.3.6 d 000590
656	A区	5区	9.5	5.0	2.3	0.10	1.3.6 e 000590
657	A区	5区	27.8	16.7	5.0	2.78	000516
658	A区	5区	5.9	9.5	0.6	0.02	000594
659	A区	5区	16.6	12.9	3.5	0.54	000594
660	A区	5区	8.7	6.0	0.8	0.06	000594
661	A区	5区	6.6	6.1	4.7	1.13	000594
662	A区	5区	4.7	3.7	0.7	0.02	000594
663	A区	5区	10.9	5.6	2.0	0.11	000594
664	A区	5区	8.3	4.1	2.1	0.05	000594
665	A区	5区	6.6	4.7	1.2	0.05	000594
666	A区	5区	10.0	6.4	2.8	0.16	000594
667	A区	5区	9.6	8.9	2.7	0.19	000594
668	A区	5区	11.0	5.6	1.1	0.08	000594
669	A区	5区	8.0	3.8	1.6	0.07	000594
670	A区	5区	8.0	6.3	1.2	0.06	000449
671	A区	5区	9.0	8.9	2.5	0.37	000599
672	A区	5区	20.7	9.2	4.6	0.89	000540
673	A区	5区	10.9	8.8	2.9	0.17	000512
674	A区	5区	9.3	6.9	0.6	0.05	000517
675	A区	5区	8.2	5.7	1.1	0.07	
676	A区	5区	14.4	11.1	4.0	0.57	
677	A区	5区	16.2	12.9	3.0	0.45	
678	A区	5区	17.8	16.4	4.7	0.77	000418
679	A区	5区	15.0	11.6	3.0	0.61	000418
680	A区	5区	19.8	14.5	8.3	1.78	000425
681	A区	5区	23.5	15.8	5.3	1.50	000425
682	A区	5区	20.8	14.8	3.5	1.00	000427
683	A区	5区	14.9	12.7	1.5	0.29	000424
684	A区	5区	13.8	9.0	2.0	0.32	000424
685	A区	5区	39.2	26.9	9.8	2.69	000517
686	A区	5区	24.3	12.0	4.8	1.29	000411
687	A区	5区	19.7	14.5	6.3	1.51	000526
688	A区	5区	14.0	8.1	2.2	0.25	a
689	A区	5区	16.6	8.0	1.9	0.20	b
690	A区	5区	9.8	5.0	1.6	0.15	
691	A区	5区	8.7	5.0	0.9	0.06	
692	A区	5区	7.4	5.8	1.3	0.06	a
693	A区	5区	6.4	4.0	0.7	0.03	b
694	A区	5区	6.5	4.8	0.4	0.02	
695	A区	5区	20.7	12.1	2.5	0.62	a
696	A区	5区	11.5	6.3	1.9	0.17	b
697	A区	5区	10.8	9.3	1.5	0.12	
698	A区	5区	30.7	19.3	13.5	5.07	a
699	A区	5区	24.8	12.8	2.4	0.60	b
700	A区	5区	5.5	5.4	1.0	0.03	
701	A区	5区	4.4	3.9	1.2	0.05	
702	A区	5区	12.2	8.2	5.5	0.45	
703	B区	6区	371	14.3	13.5	4.3	0.65
704	B区	6区	362	14.4	8.3	2.3	0.28
705	B区	6区	363	10.0	6.3	1.0	0.10
706	B区	6区	403	5.1	6.3	2.1	0.11
707	B区	6区	430	20.3	10.0	2.2	0.36
708	B区	6区	460	9.5	5.8	2.9	0.10
709	B区	6区	461	5.8	5.7	0.5	0.02
710	B区	6区	462	10.9	6.1	1.4	0.09
711	B区	6区	463	7.8	4.6	1.5	0.06
712	B区	6区	464	8.5	6.2	1.0	0.11
713	B区	6区	465	5.2	3.4	1.2	0.02
714	B区	6区	466	10.6	5.7	1.4	0.08
715	B区	6区	467	20.5	11.0	2.7	0.60
716	B区	6区	468	14.1	4.0	2.2	0.12
717	B区	6区	468	4.3	2.6	0.5	0.03
718	B区	6区	467	5.5	5.1	0.5	0.03
719	B区	6区	465	21.7	9.8	6.8	1.43
720	B区	6区	466	4.4	4.8	0.8	0.03
721	B区	6区	497	5.5	3.5	0.3	0.02
722	B区	6区	498	8.0	3.5	0.6	0.04
723	B区	6区	499	10.0	9.2	3.5	0.18
724	B区	6区	500	18.6	13.6	5.1	1.06
725	B区	6区	503	17.3	13.2	3.7	0.83
726	B区	6区	505	13.0	3.2	3.1	0.34
727	B区	6区	506	9.7	6.9	1.9	0.13
728	B区	6区	508	9.3	4.0	1.3	0.05
729	B区	6区	509	5.8	2.8	0.6	0.02
730	B区	6区	510	8.0	6.5	1.2	0.07
731	B区	6区	512	13.7</			

No.	調査区	出土位置	PNO	長さ(mm)	幅(mm)	重(g)	備考
729	B区 5区	包含層	524	7.1	3.4	1.0	0.03 W
730	B区 5区	包含層	525	22	11.6	5.4	0.28 W
741	B区 6区	遺4	508	15.8	11.0	5.5	0.78 W
742	B区 6区	W SX222	527	5.8	4.9	1.8	0.05
743	B区 6区	遺4	528	11.0	3.2	0.6	0.03 W
744	B区 6区	遺4	529	12.3	6.4	1.5	0.16 W
745	B区 6区	W SX222	530	9.0	8.0	1.1	0.07
746	B区 6区	遺4	531	15.8	13.3	7.7	0.57 W
747	B区 6区	遺4	533	6.1	5.2	1.2	0.03 W
748	B区 6区	遺4	534	12.3	5.4	4.4	0.25 W
749	B区 6区	遺4	535	5.9	3.3	1.7	0.03 W
750	B区 6区	遺4	536	15.3	7.4	4.1	0.40 W
751	B区 6区	遺4	538	19.8	12.8	2.9	0.32 W
752	B区 6区	遺4	539	16.0	11.9	4.0	0.53 W
753	B区 6区	遺4	540	8.4	4.4	0.8	0.03 W
754	B区 6区	包含層	543	21.3	11.3	3.5	0.73 W
755	B区 6区	遺4	544	10.6	6.9	1.3	0.11 W
756	B区 6区	遺4	545	4.5	4.0	0.8	0.03 W
757	B区 6区	遺4	546	8.0	0.5	1.5	0.06 W
758	B区 6区	包含層	547	8.5	3.3	1.4	0.04 W
759	B区 6区	包含層	548	16.8	14.8	2.5	0.59 W
760	B区 6区	包含層	550	8.1	7.3	2.8	0.17 W
761	B区 6区	包含層	552	8.0	6.2	0.8	0.06 W
762	B区 6区	包含層	554	8.9	3.7	0.9	0.07 W
763	B区 6区	包含層	555	19.6	17.4	6.1	1.66 W
764	B区 6区	包含層	556	9.0	6.5	2.0	0.10 W
765	B区 6区	包含層	557	10.3	6.1	2.6	0.14 W
766	B区 6区	包含層	743	7.2	4.8	2.0	0.09 E
767	B区 6区	遺4	748	12.5	7.4	3.9	0.32 W
768	B区 6区	包含層	754	4.9	3.2	0.4	0.01 E 4層a
769	B区 6区	包含層	754	3.7	2.4	0.3	0.01 E 4層b
770	B区 6区	包含層	785	12.0	3.0	3.5	0.27 E 4層
771	B区 6区	包含層	781	10.5	5.5	2.5	0.14 E 4層
772	B区 6区	包含層	787	7.8	4.8	1.2	0.05 E 4層
773	B区 6区	包含層	788	16.4	13.0	3.0	0.49 W 4層
774	B区 6区	包含層	775	4.5	3.0	0.5	0.01 E 4層
775	B区 6区	包含層	776	29.9	20.5	7.3	2.91 E 4層
776	B区 6区	包含層	778	15.4	7.4	2.4	0.30 E 4層
777	B区 6区	包含層	779	29.0	11.1	9.2	1.74 E 4層
778	B区 6区	包含層	783	4.4	3.2	0.3	0.01 E 4層
779	B区 6区	包含層	784	12.3	8.3	1.6	0.15 E 4層
780	B区 6区	包含層	786	27.5	13.8	7.7	2.61 E 4層
781	B区 6区	包含層	788	26.4	17.7	4.7	2.07 E 4層
782	B区 6区	包含層	792	14.7	5.7	1.9	0.11 E 4層
783	B区 6区	包含層	794	4.4	4.3	0.7	0.03 E 4層
784	B区 6区	包含層	796	17.7	13.1	5.0	0.84 E 4層
785	B区 6区	包含層	797	18.3	10.0	6.1	0.82 E 4層
786	B区 6区	包含層	798	26.0	15.9	4.3	1.33 E 4層
787	B区 6区	包含層	799	47.5	12.3	11.5	4.60 E 4層
788	B区 6区	包含層	800	9.2	6.7	2.3	0.16 E 4層
789	B区 6区	包含層	803	28.0	10.8	5.0	1.21 E 4層
790	B区 6区	包含層	804	5.7	2.7	2.2	0.05 E 4層
791	B区 6区	包含層	805	8.2	5.1	1.0	0.05 E 4層
792	B区 6区	包含層	807	8.7	3.3	2.4	0.07 E 4層
793	B区 6区	包含層	810	18.3	12.8	11.9	2.60 E 4層
794	B区 6区	包含層	813	26.5	14.6	13.6	4.28 E 4層
795	B区 6区	包含層	814	12.3	7.2	1.8	0.19 E 4層
796	B区 6区	包含層	817	15.3	12.9	4.2	0.66 E 4層
797	B区 6区	包含層	818	19.3	10.3	2.4	0.41 E 4層
798	B区 6区	W Ph 642		9.3	5.9	1.9	0.08
799	B区 6区	W SX 221		5.7	3.2	1.3	0.01
800	B区 6区	遺4		21.9	9.7	7.4	1.46 W a
801	B区 6区	遺4		13.9	12.4	4.7	0.68 W b
802	B区 6区	遺4		8.2	5.2	0.7	0.04 W c
803	B区 6区	遺4		7.8	4.9	0.8	0.05 W d
804	B区 6区	遺4		26.0	13.5	5.7	2.02 W 000620
805	B区 6区	遺4		22.8	13.9	5.0	1.81 W 000620
806	B区 6区	遺4		9.0	5.0	1.4	0.07 W 000620
807	B区 6区	遺4		6.4	3.9	0.8	0.02 W 000620
808	B区 6区	遺4		6.8	5.0	0.9	0.02 W 000619
809	B区 6区	遺4		18.4	14.8	2.9	0.62 W 000616
810	B区 6区	遺4		7.3	4.5	2.5	0.10 W 000616
811	B区 6区	遺4		16.9	11.3	1.3	0.39
812	B区 6区	遺4		17.3	11.2	5.5	0.80 E
813	B区 6区	遺4		6.8	4.8	1.2	0.04 E
814	B区 6区	W SK64付近		4.8	2.4	1.2	0.02
815	B区 6区	遺4 付近		6.0	5.2	1.1	0.03 W 3層
816	B区 6区	包含層		10.7	3.7	2.9	0.24 W 3層
817	B区 6区	包含層		25.7	12.9	6.5	1.62 W 3層a
818	B区 6区	包含層		19.8	15.0	2.9	0.87 W 3層b
819	B区 6区	包含層		18.5	12.0	2.9	0.67 W 3層c
820	B区 6区	包含層		10.6	5.9	1.6	0.12 W 3層d
821	B区 6区	包含層		7.3	5.2	2.1	0.07 W 3層e
822	B区 6区	包含層		11.0	11.0	2.0	0.41 W 3層
823	B区 6区	包含層		11.5	9.0	2.0	0.21 W 3層a
824	B区 6区	包含層		7.0	6.3	1.0	0.05 W 3層b
825	B区 6区	包含層		12.5	6.9	1.3	0.16 W 3層
826	B区 6区	包含層		11.0	5.1	2.0	0.12 W 3層a
827	B区 6区	包含層		6.5	7.4	1.0	0.06 W 3層b
828	B区 6区	包含層		7.2	4.9	0.7	0.04 W 3層c
829	B区 6区	包含層		14.9	9.4	4.3	0.36 W 3層a
830	B区 6区	包含層		9.5	6.8	1.2	0.09 W 3層b

No.	調査区	出土位置	PNO	長さ(mm)	幅(mm)	重(g)	備考
831	B区 6区	包含層		6.1	4.3	0.9	0.04 W 3層c
832	B区 6区	包含層		4.3	3.0	0.4	0.01 W 3層
833	B区 6区	包含層		12.7	9.5	2.2	0.34 W 3層
834	B区 6区	包含層		30.5	22.3	5.9	4.41 W 遺編
835	B区 6区	包含層		15.1	9.6	2.6	0.34 W
836	B区 6区	包含層		12.3	8.1	7.6	0.53
837	B区 6区	包含層		15.3	5.5	4.1	0.32 E 3層
838	B区 6区	包含層		17.4	11.0	1.9	0.44 E 北朝3層a
839	B区 6区	包含層		11.8	7.3	3.0	0.29 E 北朝3層b
840	B区 6区	包含層		19.7	9.9	3.5	0.60 E 北朝3層
841	B区 6区	包含層		15.1	11.8	2.9	0.41 E 北朝4層
842	B区 6区	包含層		15.0	11.5	3.5	0.62 E 南朝3層
843	B区 6区	包含層		12.0	8.9	3.0	0.27 E 南朝3層a
844	B区 6区	包含層		11.8	9.2	2.0	0.27 E 南朝3層c
845	B区 6区	包含層		16.9	12.0	2.5	0.43 E 南朝3層
846	B区 6区	包含層		4.6	3.3	0.6	0.01 E 南朝3層
847	B区 6区	包含層		14.0	8.6	3.4	0.41 E 南朝3層
848	B区 6区	包含層		21.0	10.8	3.8	0.64 E 南朝3層a
849	B区 6区	包含層		10.0	9.2	2.2	0.22 E 南朝3層b
850	B区 6区	包含層		7.1	5.0	1.6	0.05 E 南朝4層
851	B区 6区	包含層		16.9	15.0	1.8	0.52 W 3層 000525
852	B区 6区	包含層		20.6	17.3	8.2	2.59 W 3層 000525
853	B区 6区	包含層		8.8	7.4	2.0	0.11 W 3層 000589
854	B区 6区	包含層		14.0	9.5	2.7	0.30 W 3層 000601
855	B区 6区	包含層		19.0	14.7	8.7	1.99 W 3層 000611
856	B区 6区	包含層		15.2	13.0	8.2	1.16 W 3層 000619
857	B区 6区	包含層		37.1	10.8	12.3	5.44 E 3層 000704
858	B区 6区	包含層		37.7	16.9	20.5	11.06 E 南朝3層a
859	B区 6区	包含層		6.2	5.6	2.5	0.06 E 鎌倉3層a
860	B区 6区	遺4	501	7.8	3.7	2.6	0.06 W 5006-1000015
861	C区 7区	7区 N 包含層		29.4	15.6	6.3	2.53
862	C区 7区	7区 N 包含層	136	33.0	18.1	9.2	4.69 4層
863	C区 7区	7区 N 包含層		31.9	29.0	10.1	6.26 5層
864	C区 7区	7区 N 5 包含層		20.3	14.8	3.4	0.85 3層
865	C区 7区	7区 N 5 包含層		26.8	20.4	12.8	5.89 2層
866	C区 7区	7区 N 5 包含層		19.0	15.9	3.7	0.74 809
867	C区 7区	7区 N 5 包含層		6.5	5.7	0.7	0.03 810

※No. 4 調査25-27回に一致

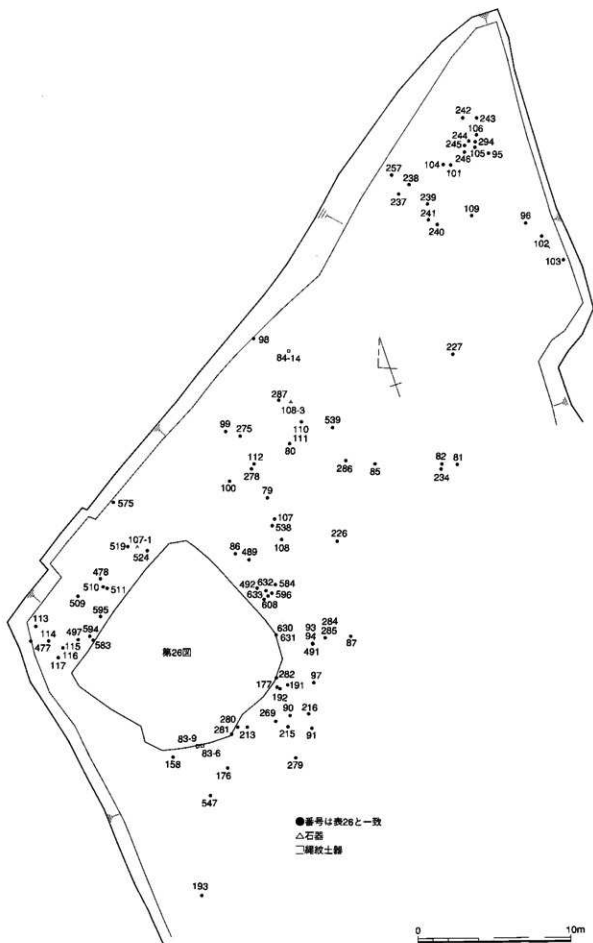
その他石材計測表
炭化物付着土器数量表

表27 その他石材計測表

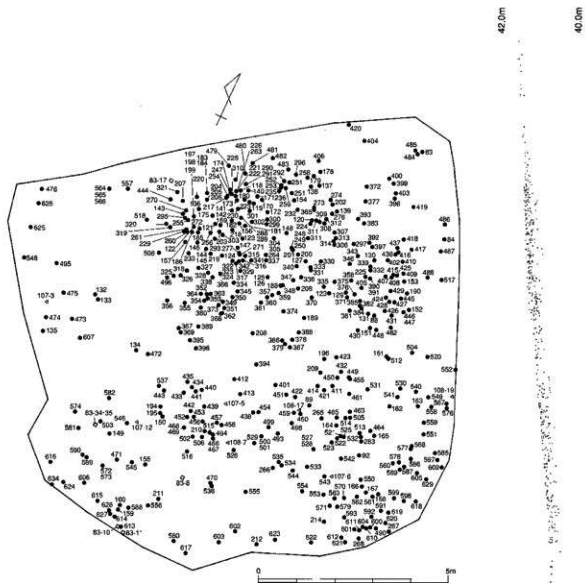
No.	地区	出土位置	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
1	A区	3区包含層	石英	24.2	15.5	12.3	5.70	
2	B区	6区西側P1656	瑪瑙	7.1	4.7	0.8	0.03	
3	B区	6区西側包含層	石英	29.2	20.3	10.0	5.05	
4	B区	6区東側包含層	水晶	18.1	8.5	7.4	1.33	
5	B区	6区東側包含層	瑪瑙	33.4	24.3	12.6	9.96	
6	C区	河溝2	瑪瑙	12.7	9.3	4.5	0.53	小
7	C区	河溝2	瑪瑙	16.7	14.9	15.5	2.33	大
8	B区	6区東側包含層	水晶	20.3	14.6	11.5	4.08	
9	A区	4区東側包含層	綠色凝灰岩	26.5	25.0	7.6	3.48	
10	A区	4区	玉髓	11.0	9.3	2.7	0.20	96-4の中
11	A区	建物36(P1)	碧玉?	16.2	13.5	9.5	1.65	
12	B区	溝4	碧玉	33.3	22.4	7.7	6.25	
13	B区	6区東側包含層	綠色凝灰岩	39.6	30.7	11.1	12.21	
14	B区	6区東側包含層	綠色凝灰岩	38.9	30.5	16.8	17.34	
15	C区	7区包含層	玉髓	40.2	30.5	16.6	19.82	
16	A区	3区包含層	玉髓	33.6	24.3	5.8	4.44	
17	A区	4区西側包含層	玉髓	32.0	27.5	10.3	6.48	
18	?	?	玉髓	30.1	19.4	13.0	6.57	出土位置不明
19	A区	5区PNo.252	水晶	6.0	3.2	3.4	0.08	
20	A区	5区包含層	瑪瑙	24.3	22.5	13.2	5.78	
21	B区	溝4	瑪瑙	17.3	11.9	4.1	0.69	
22	A区	溝2	赤色の鉱物	15.7	12.9	11.0	2.22	鉄石?
23	A区	3区包含層	玉髓?	24.7	12.6	13.7	2.85	
24	A区	4区P1004	玉髓?	23.4	17.2	14.8	5.21	
25	A区	4区西側包含層	赤色の鉱物	25.5	14.0	8.1	2.82	鉄石?
26	C区	7NS区包含層	玉髓?	22.1	13.5	7.9	1.73	
27	C区	7NS区包含層	玉髓?	19.5	15.6	9.8	3.13	
28	C区	7NS区包含層	赤色の鉱物	29.7	25.5	13.9	9.23	鉄石?
29	C区	7N区包含層	赤色の鉱物	29.6	16.9	9.3	7.00	鉄石?

表28 炭化物付着土器数量表

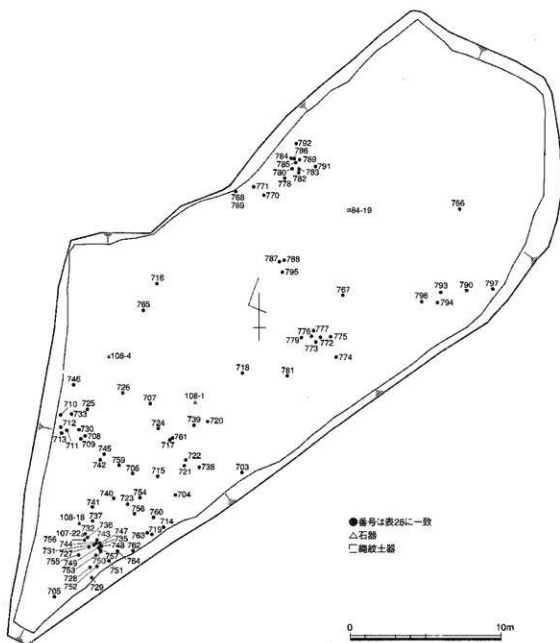
		A99'	溝2	溝3	溝4	河溝2	C区NS包	河溝3	C区包	合計
中世土器(坏)	外面炭化物付着		1	7	13		7			28
	内面炭化物付着	1	3	3	1	10	6	1		25
	内外炭化物付着					3		1	1	5
平安の土器(坏)	外面炭化物付着	1								1
	内面炭化物付着						1			1
	内外炭化物付着						4			4
中世土器(皿)	外面炭化物付着					1				1
	内面炭化物付着					3	1			4
	内外炭化物付着							1		1
(大型の皿)	内面炭化物付着						1			1
	内外炭化物付着									
		2	4	10	14	17	20	2	2	71



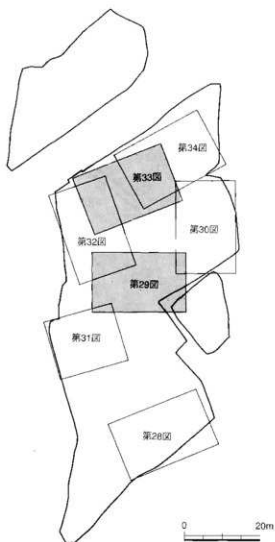
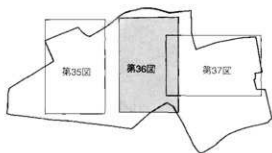
第25図 A区 石器・黒曜石・縄紋土器出土状況(1) (S=1/250)

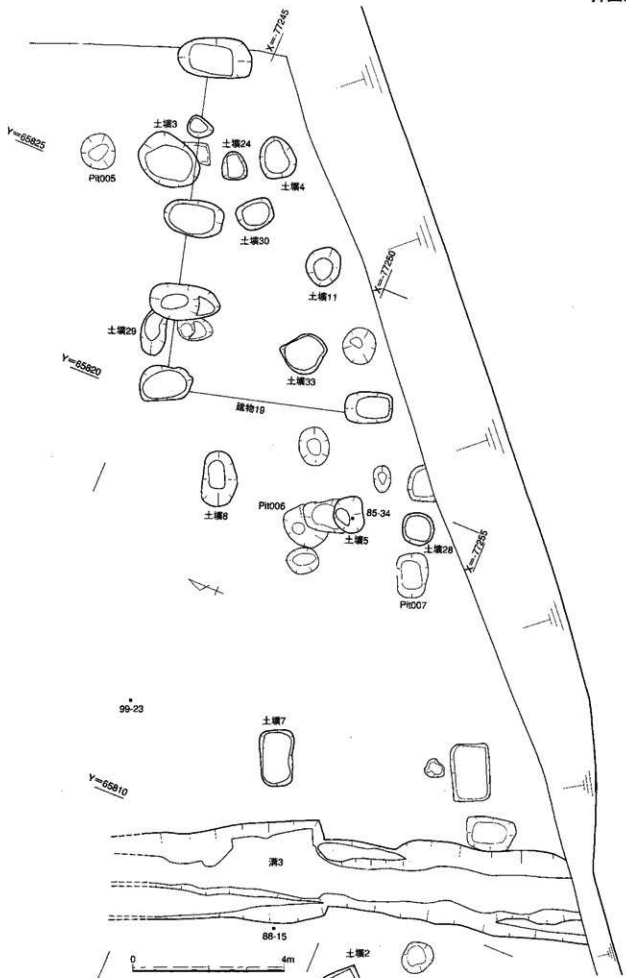


第26図 A区 石器・黒曜石・縄紋土器出土状況(2) (S=1/100)

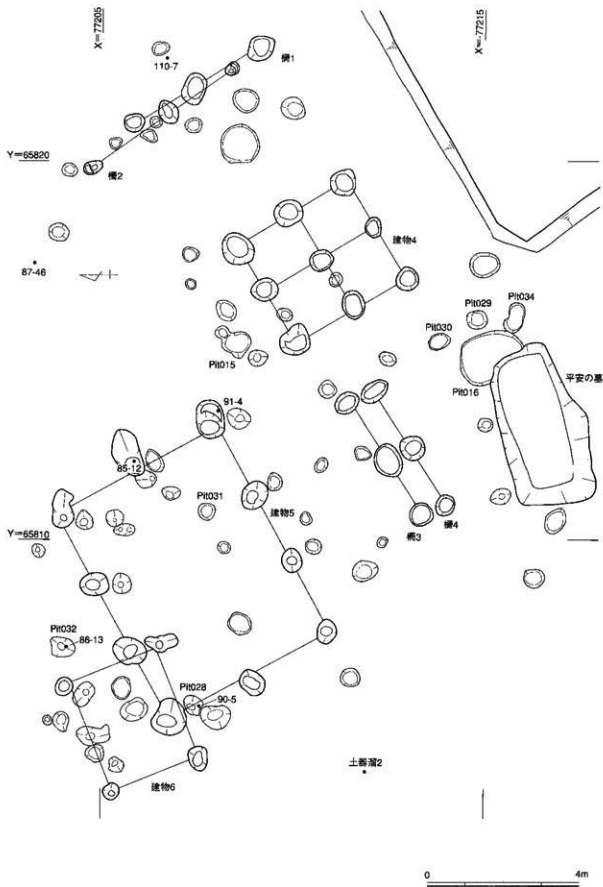


第27図 B区 石器・黒曜石・縄紋土器出土状況 (S=1/250)

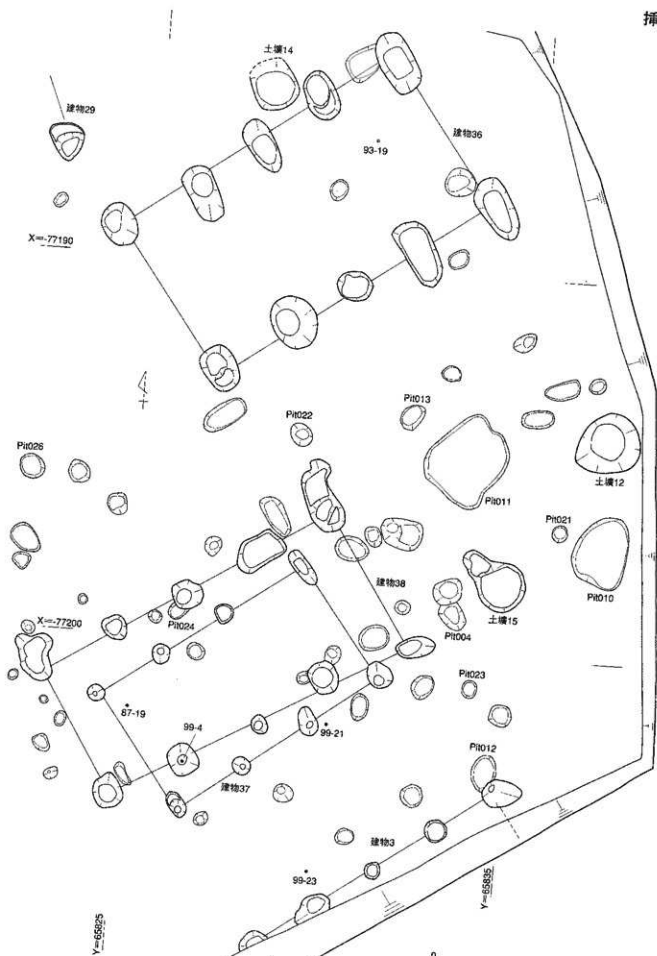




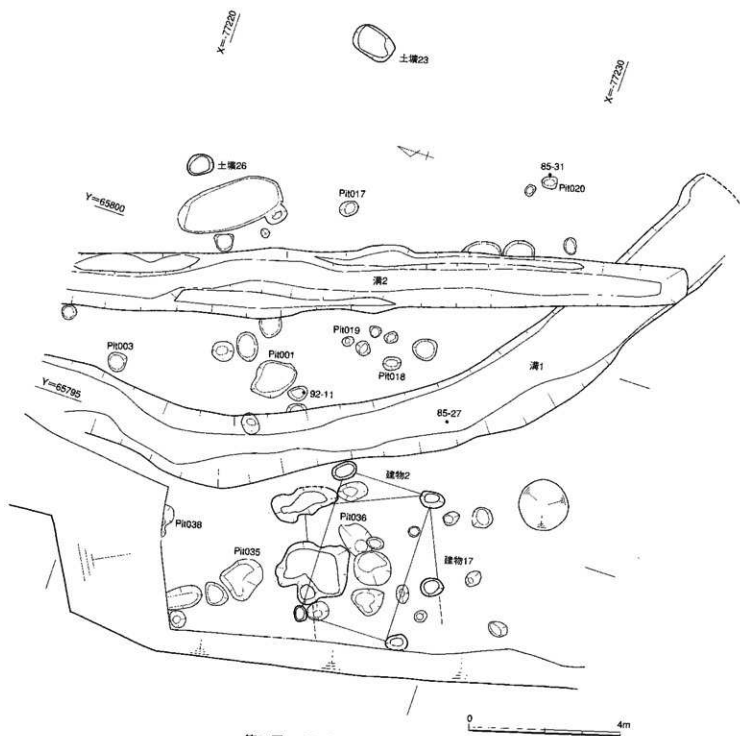
第28図 A区 全体図(1) (S=1/100)



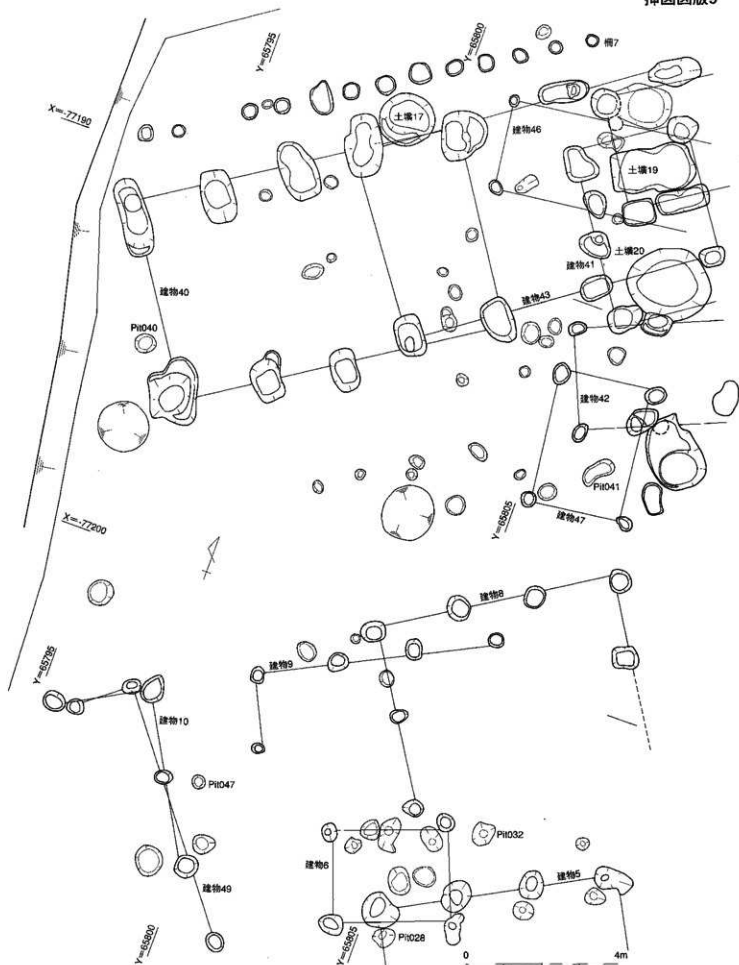
第29図 A区 全体図(2) (S=1/100)



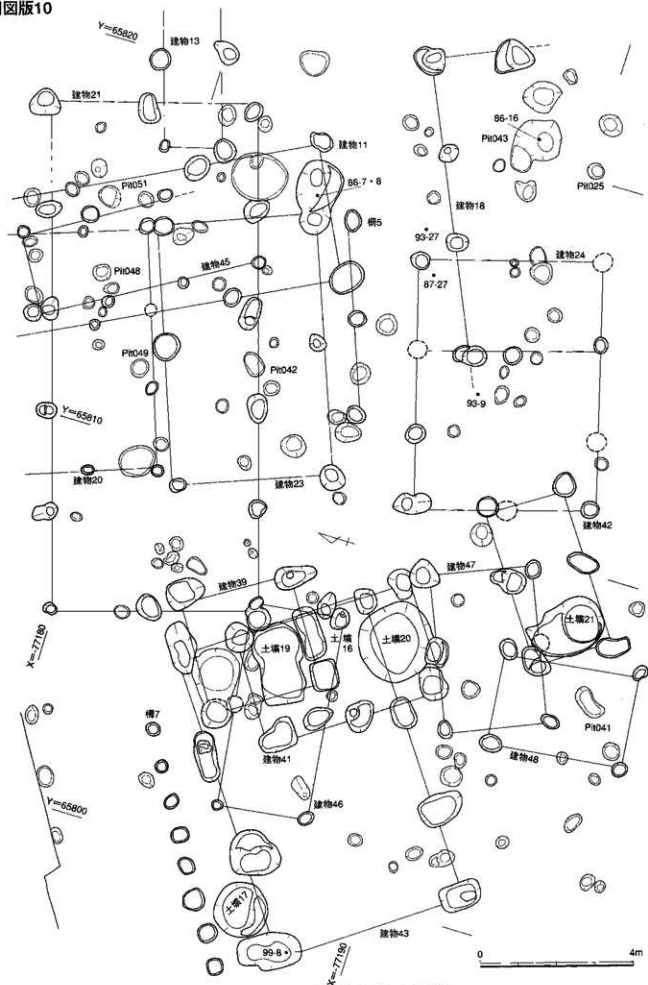
第30図 A区 全体図(3) (S=1/100)



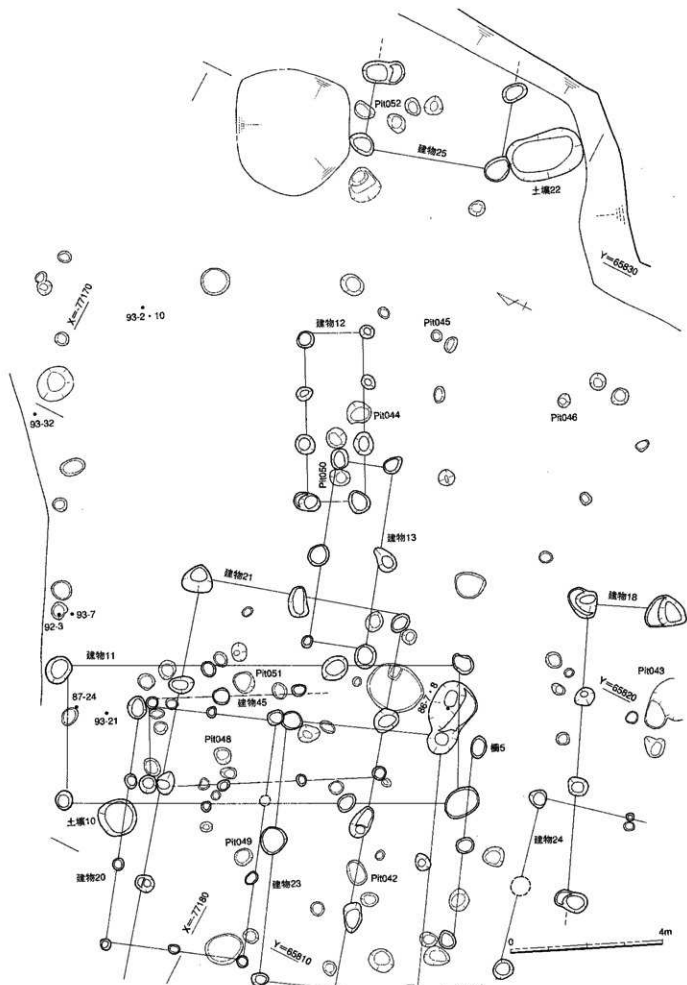
第31図 A区 全体図(4) (S=1/100)



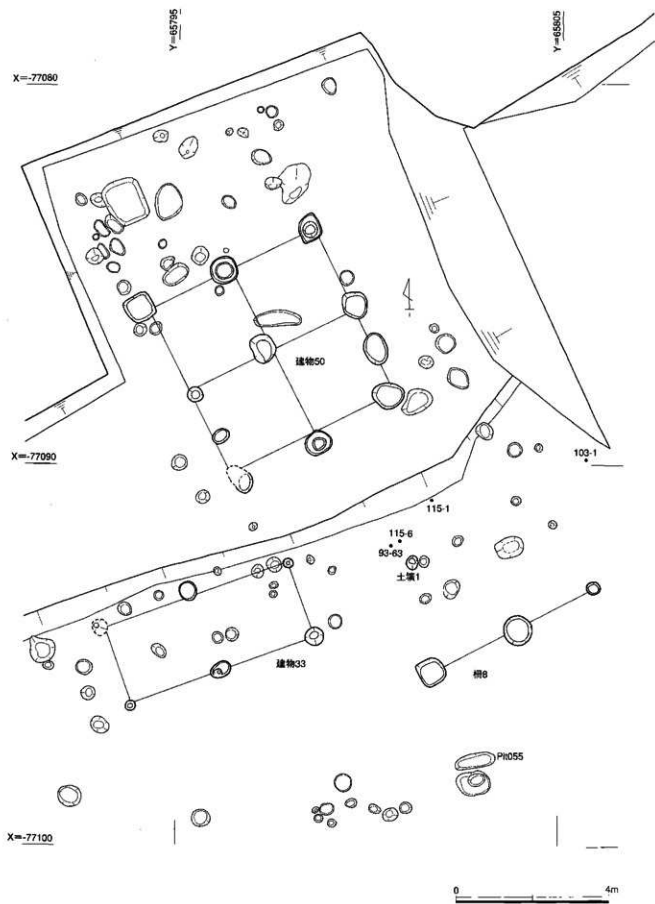
第32図 A区 全体図(5) (S=1/100)



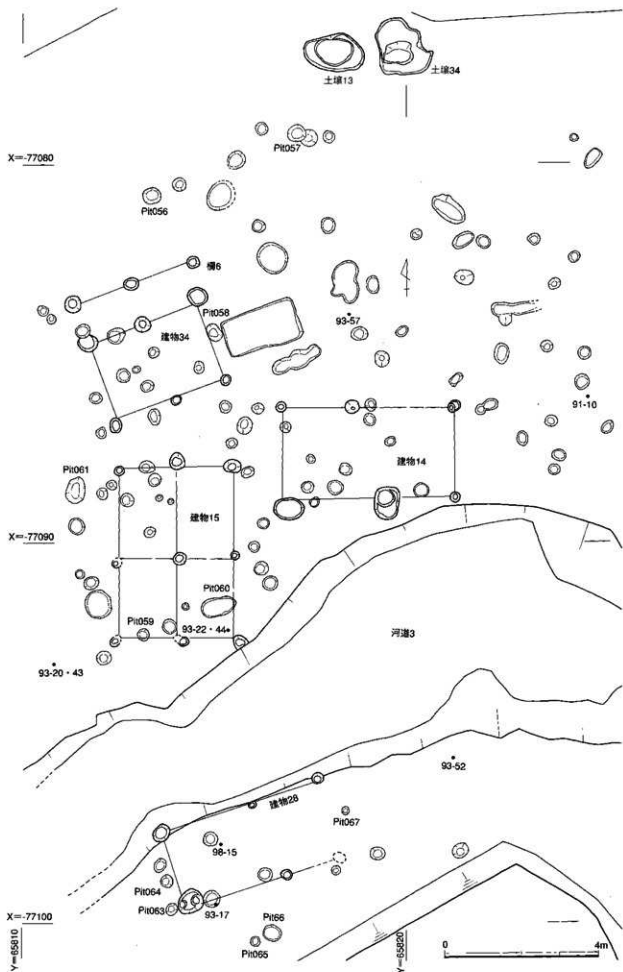
第33図 A区 全体図(6) (S=1/100)



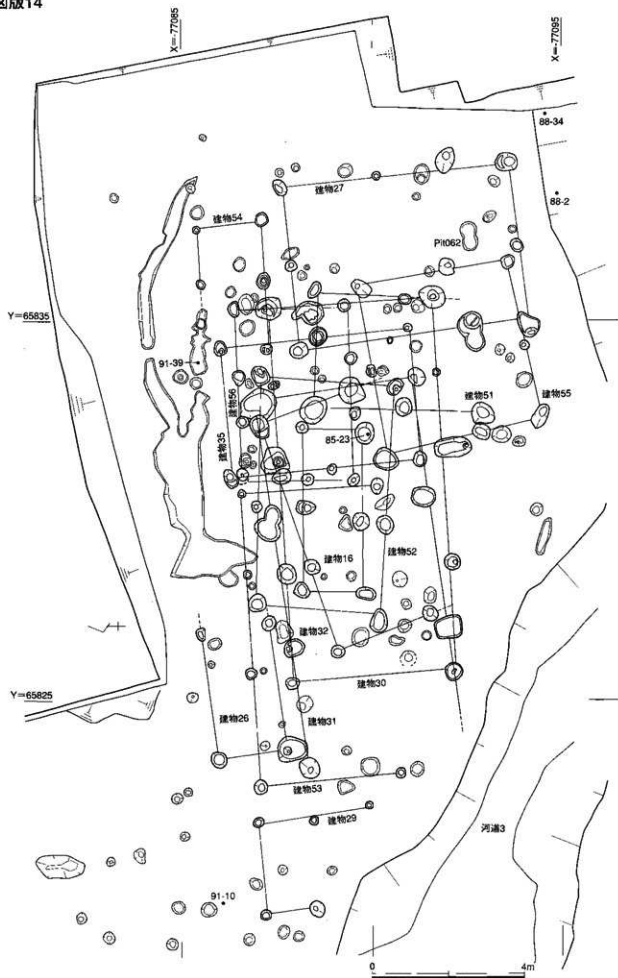
第34图 A区 全体图(7) (S=1/100)



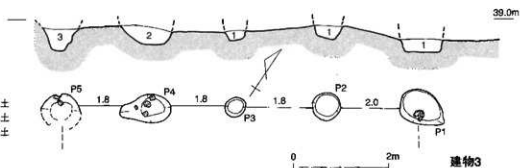
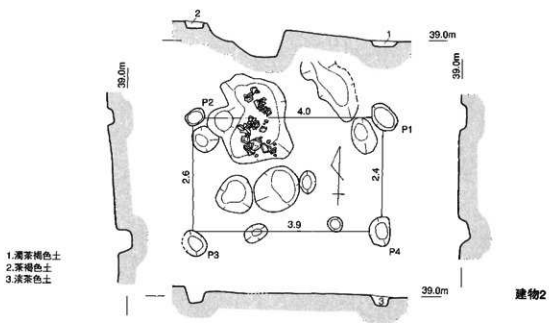
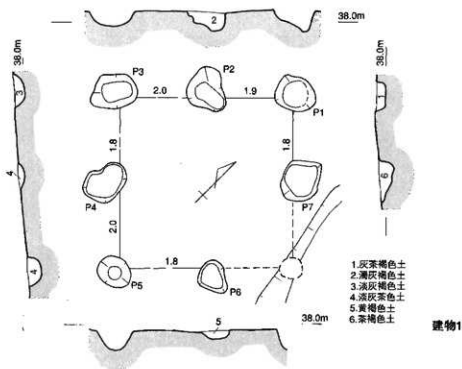
第35図 C区 全体図(1) (S=1/100)



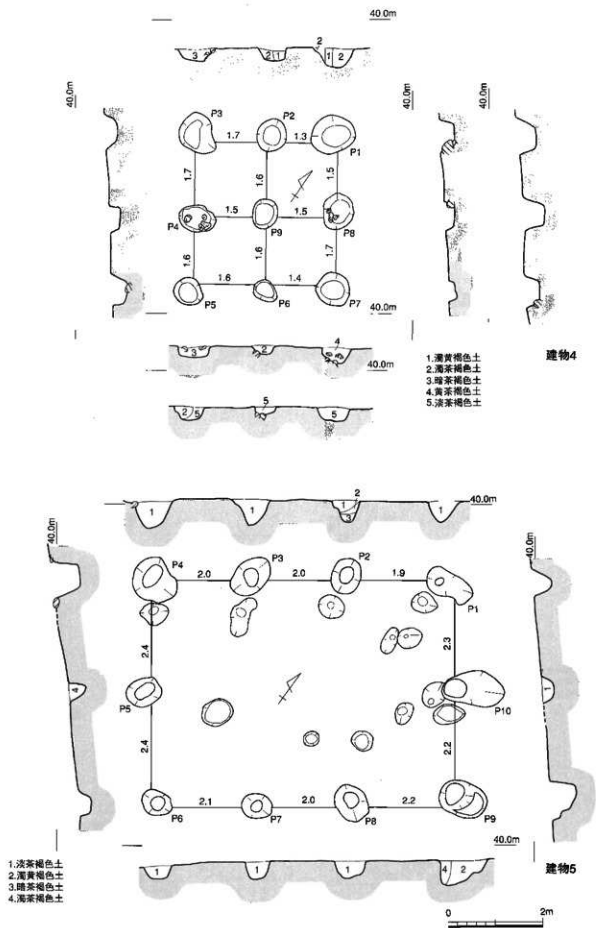
第36図 C区 全体図(2) (S=1/100)



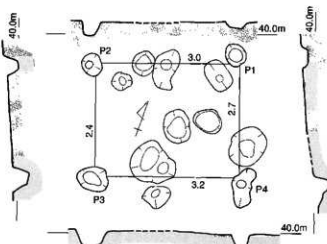
第37図 C区 全体図(3) (S=1/100)



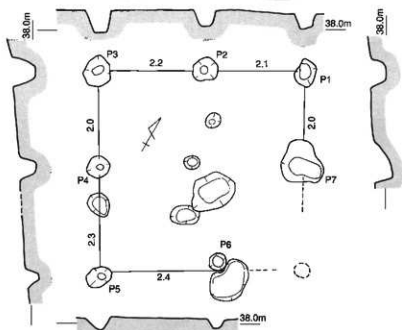
第38図 飛鳥時代の建物 (S=1/80)



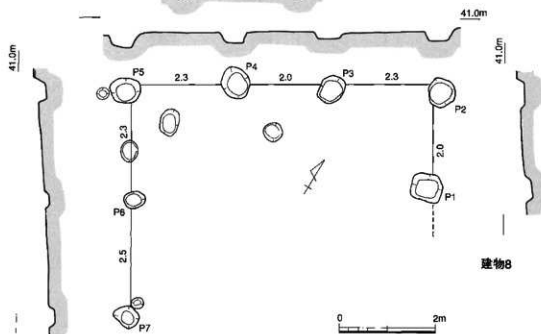
第39図 奈良～平安時代の建物(1) (S=1/80)



建物6

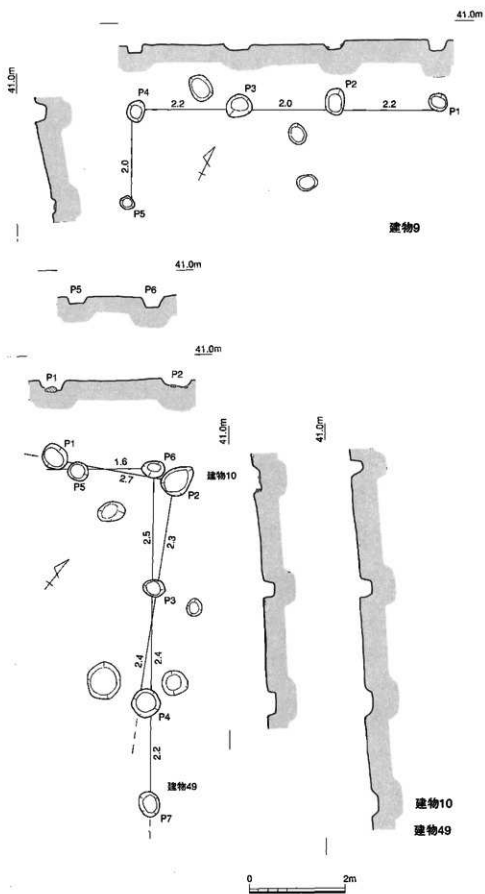


建物7

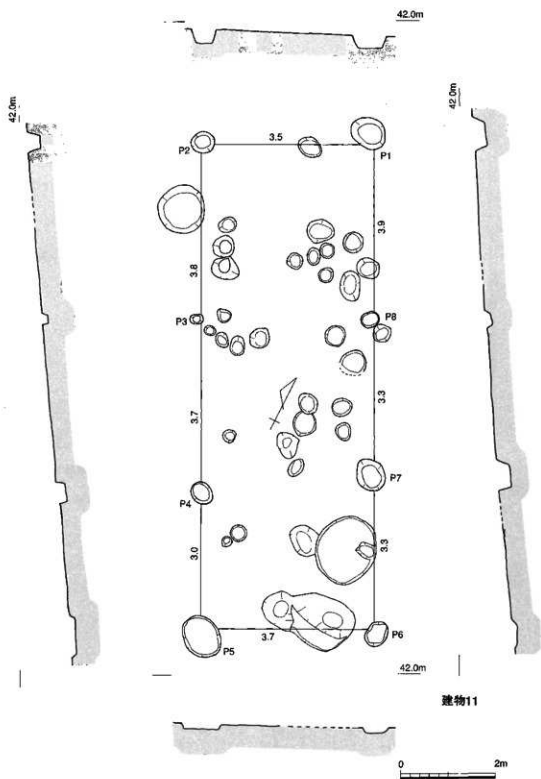


建物8

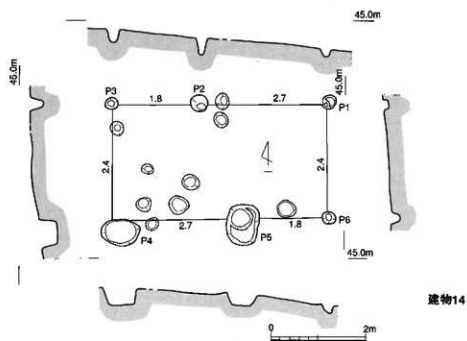
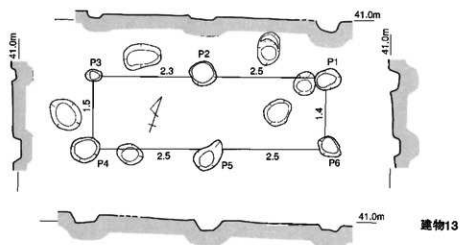
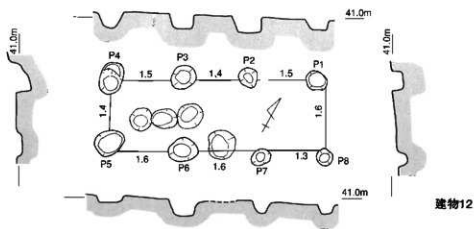
第40図 奈良～平安時代の建物(2) (S=1/80)



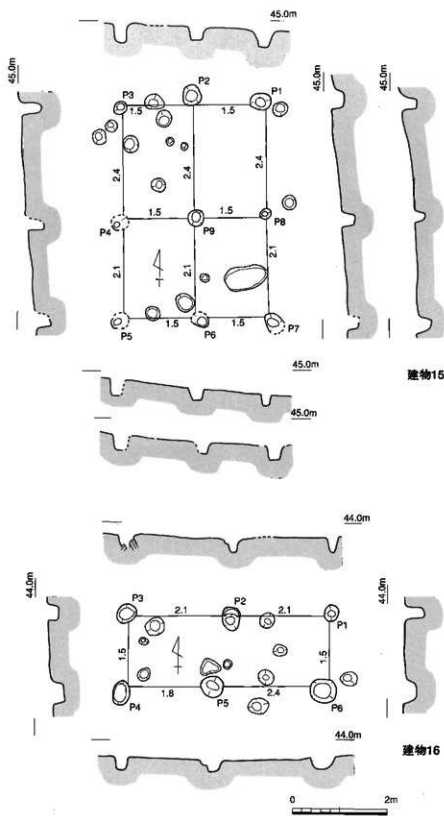
第41図 奈良～平安時代の建物(3) (S=1/80)



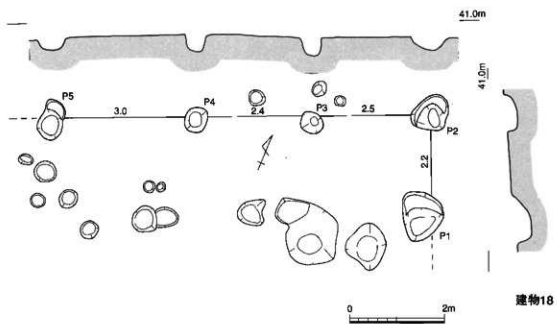
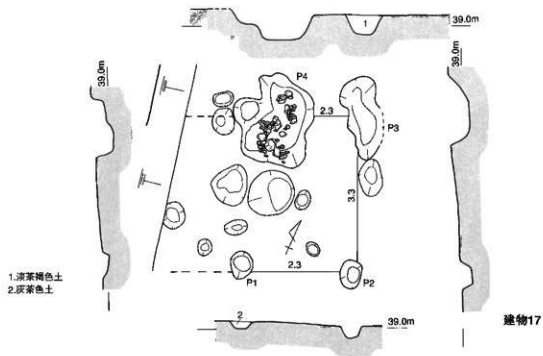
第42図 奈良～平安時代の建物(4) (S=1/80)



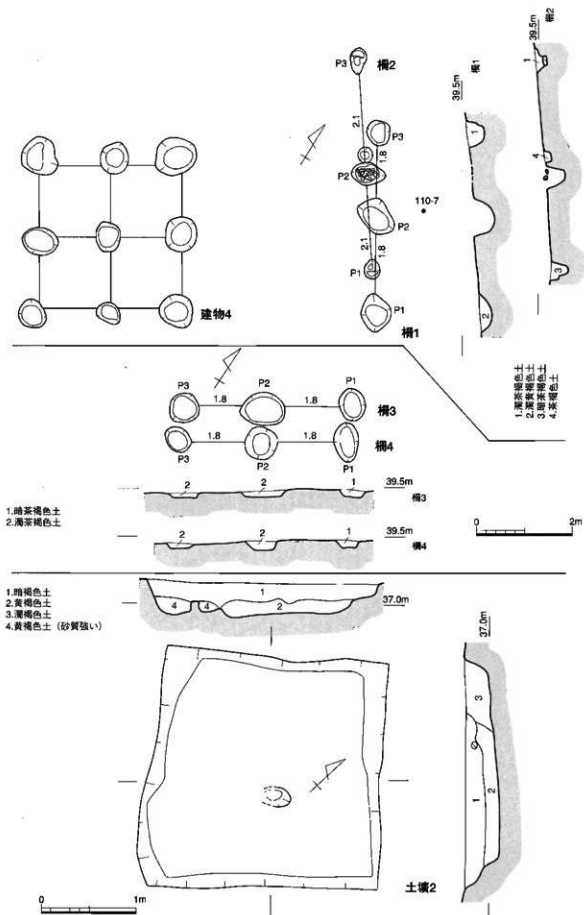
第43図 奈良～平安時代の建物(5) (S=1/80)



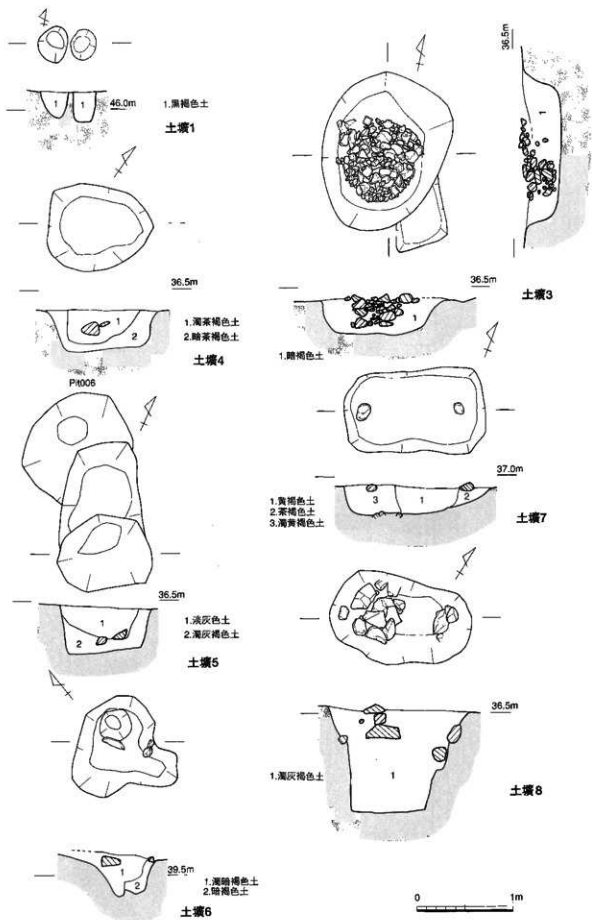
第44図 奈良～平安時代の建物(6) (S=1/80)



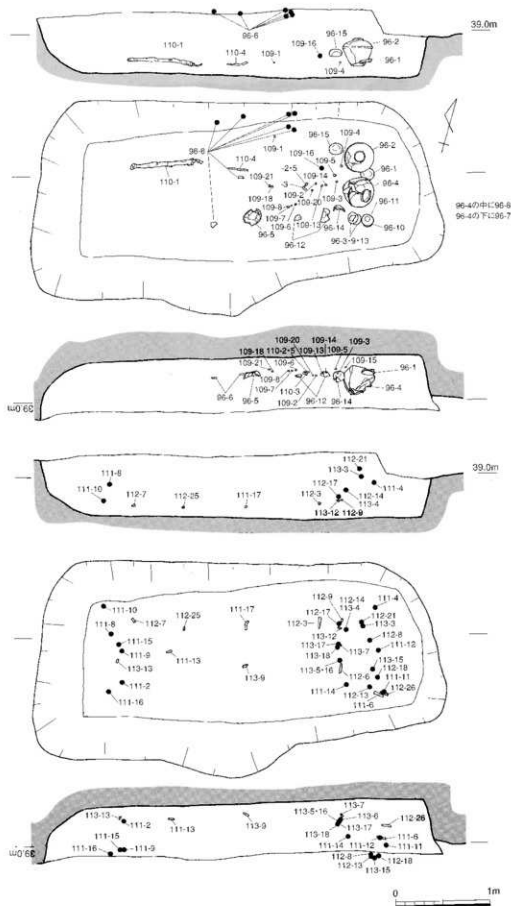
第45図 平安～平安時代末の建物 (S=1/80)



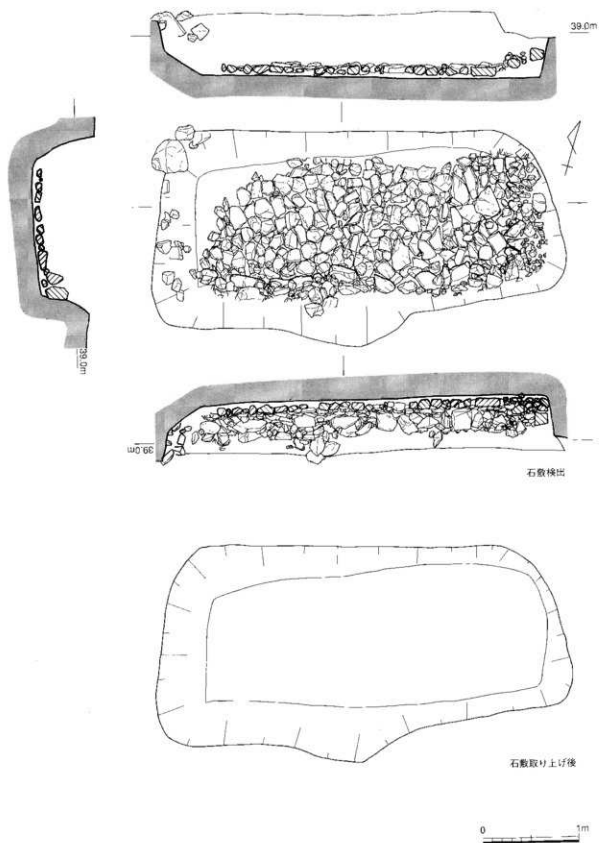
第46図 奈良～平安時代の溝・土壇(1) 溝(S=1/80) 土壇(S=1/40)



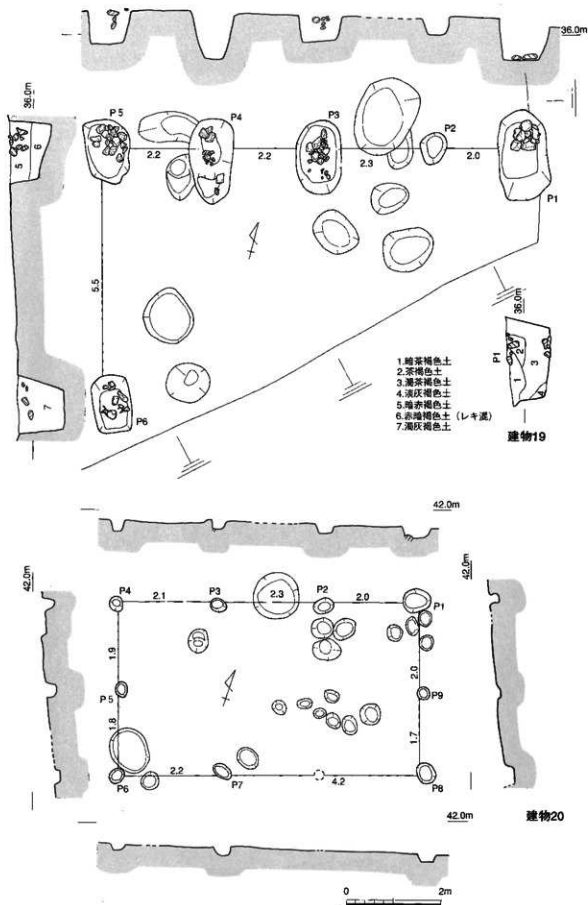
第47図 奈良～平安時代の土壌(2) (S=1/40)



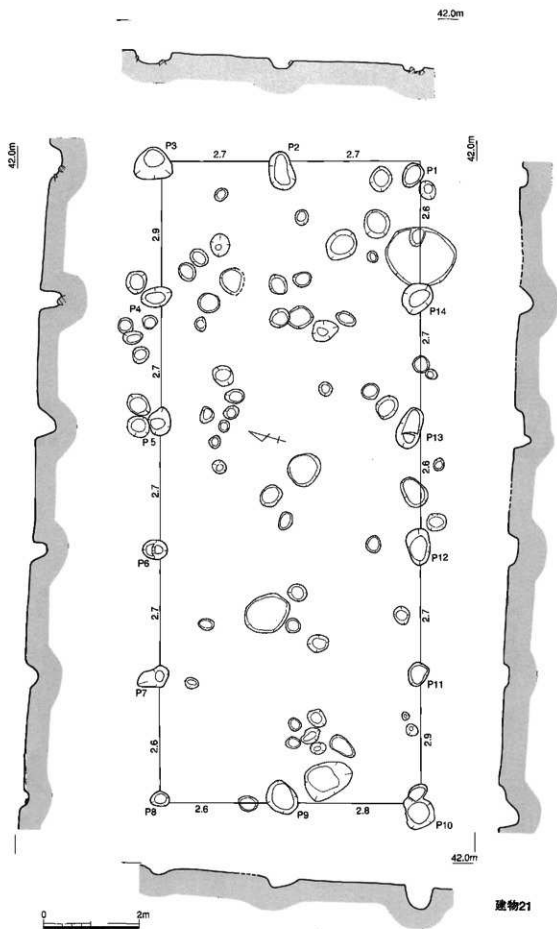
第48図 平安時代の墓(1) (S=1/40)



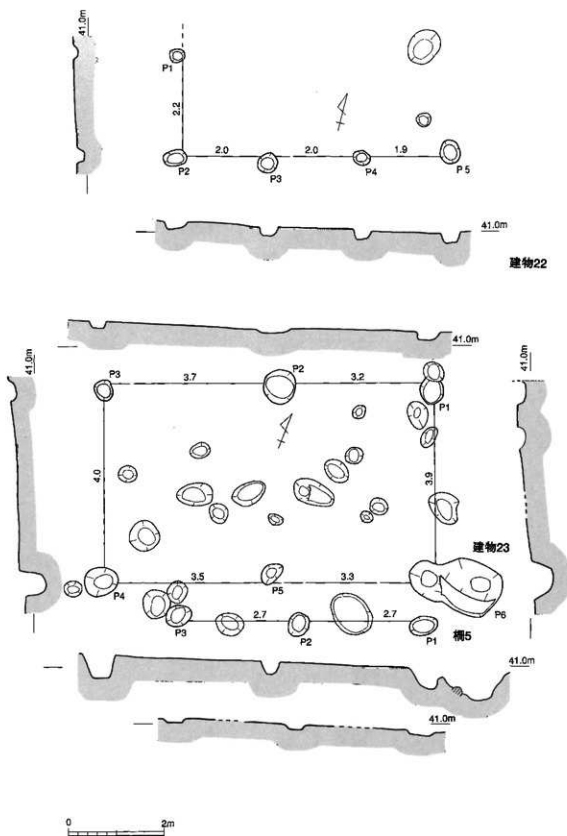
第49図 平安時代の墓(2) (S=1/40)



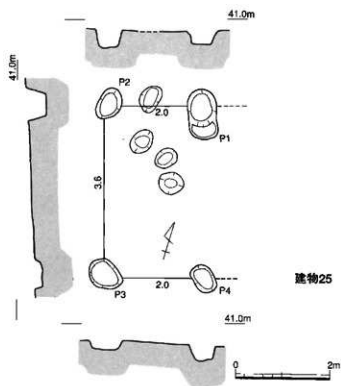
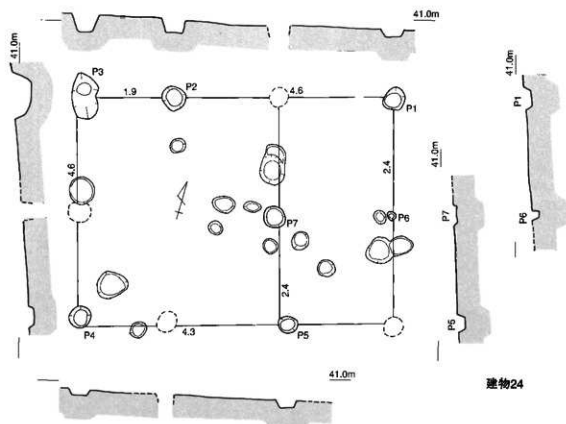
第50図 平安時代末の建物(1) (S=1/80)



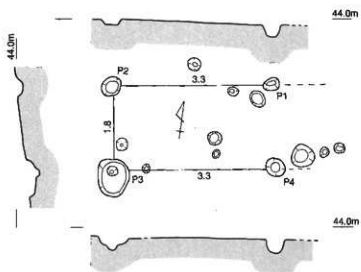
第51図 平安時代末の建物(2) (S=1/80)



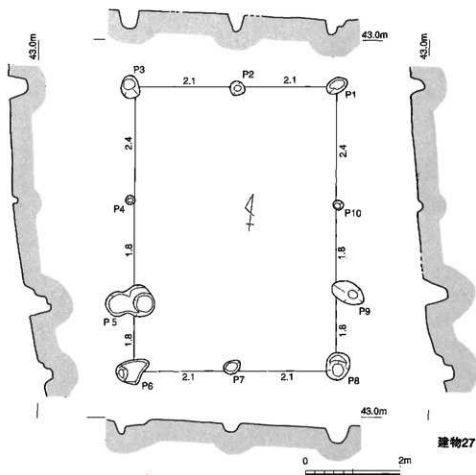
第52図 平安時代末の建物(3) (S=1/80)



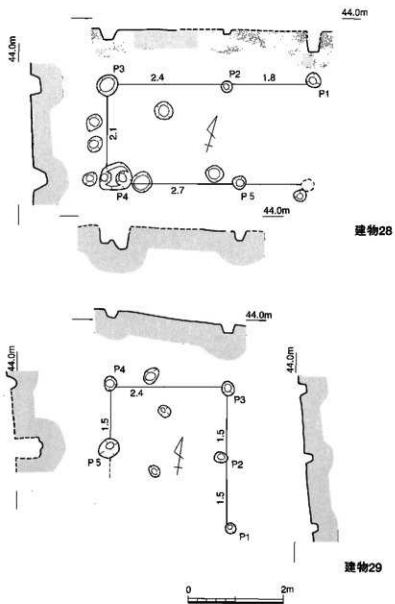
第53図 平安時代末の建物(4) (S=1/80)



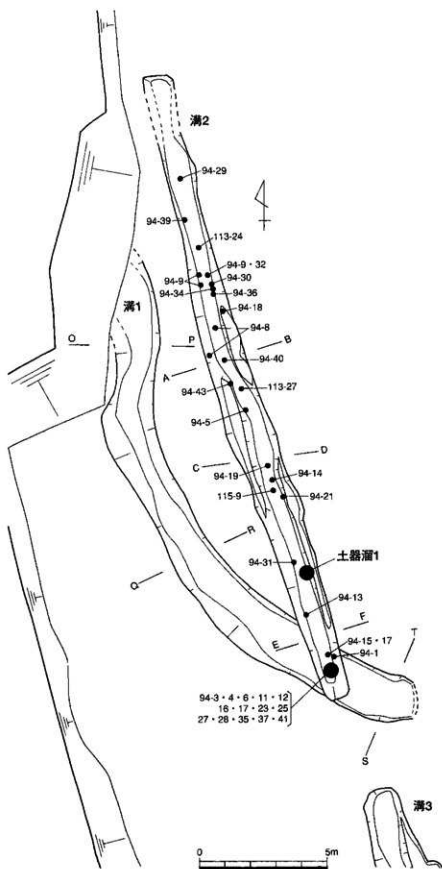
建物26



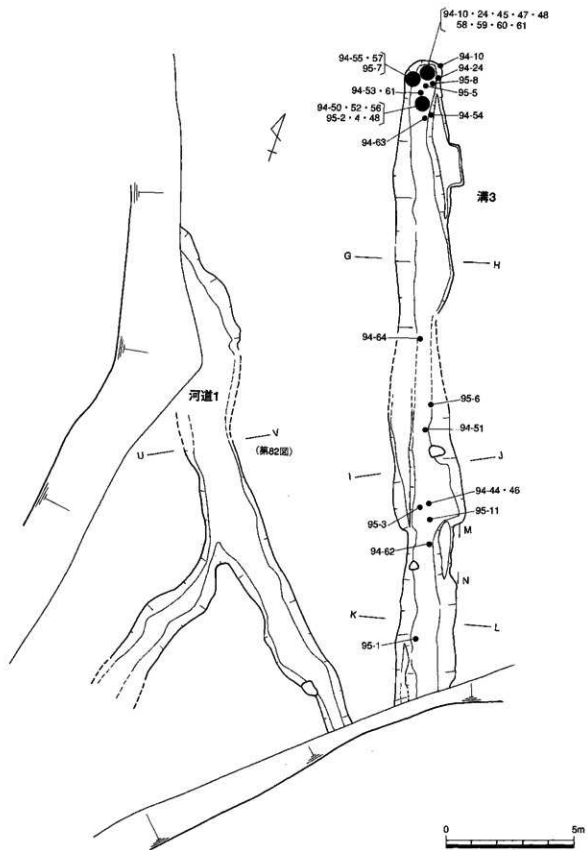
建物27



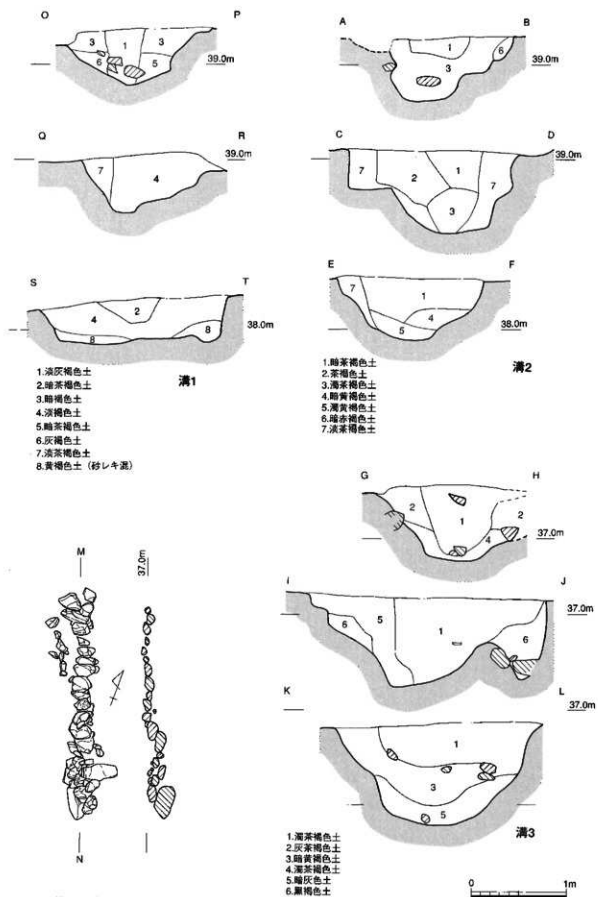
第55図 平安時代末の建物(6) (S=1/80)



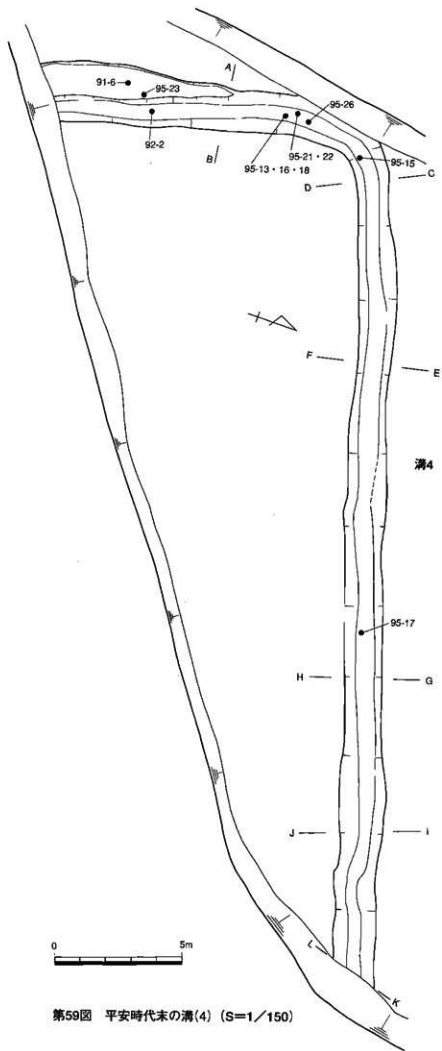
第56図 平安時代末の溝(1) (S=1/150)



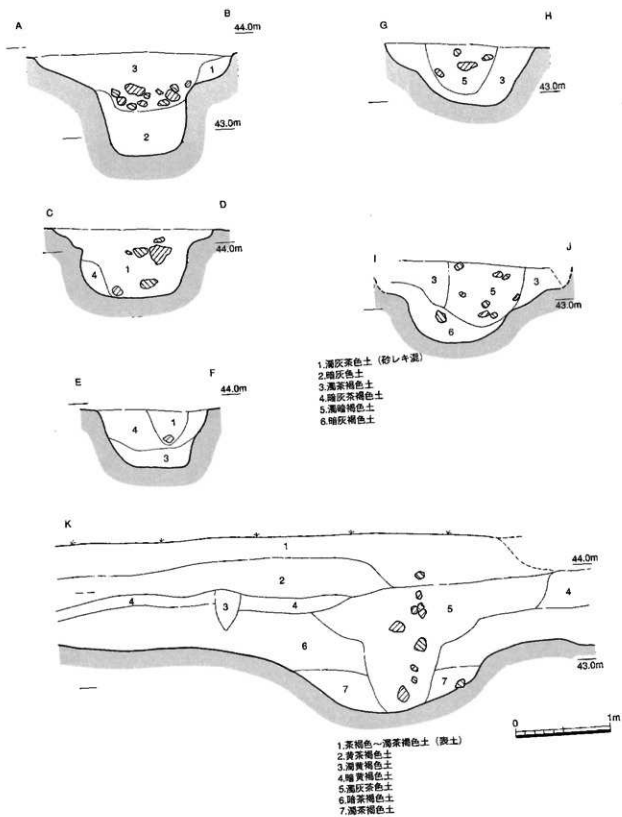
第57図 平安時代末の溝(2) (S=1/150)



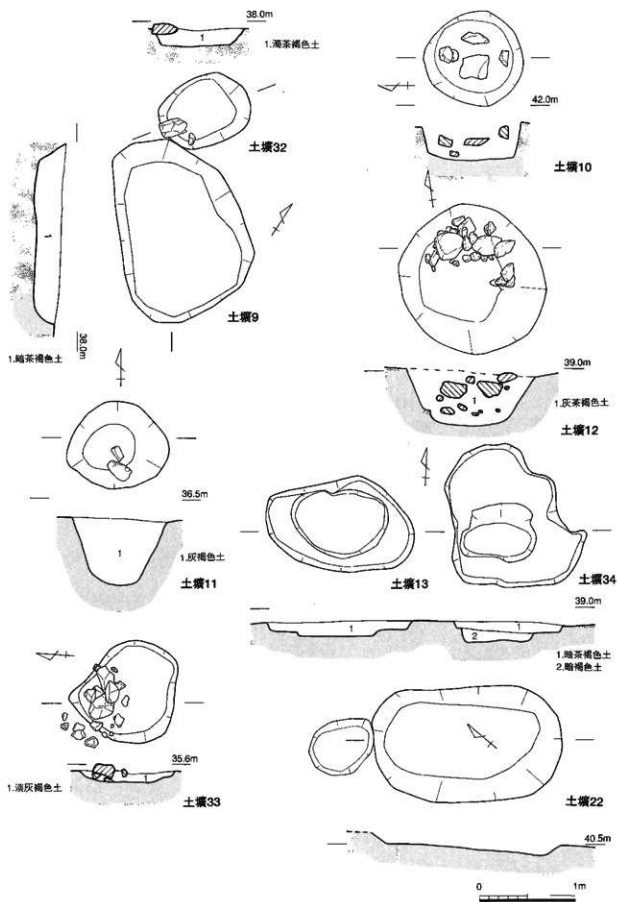
第58図 平安時代末の溝(3) (S=1/40)



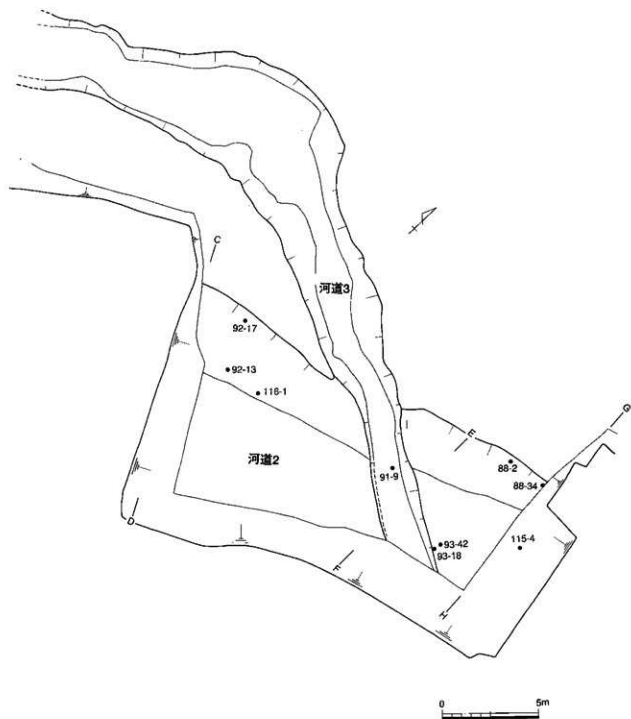
第59図 平安時代末の溝(4) (S=1/150)



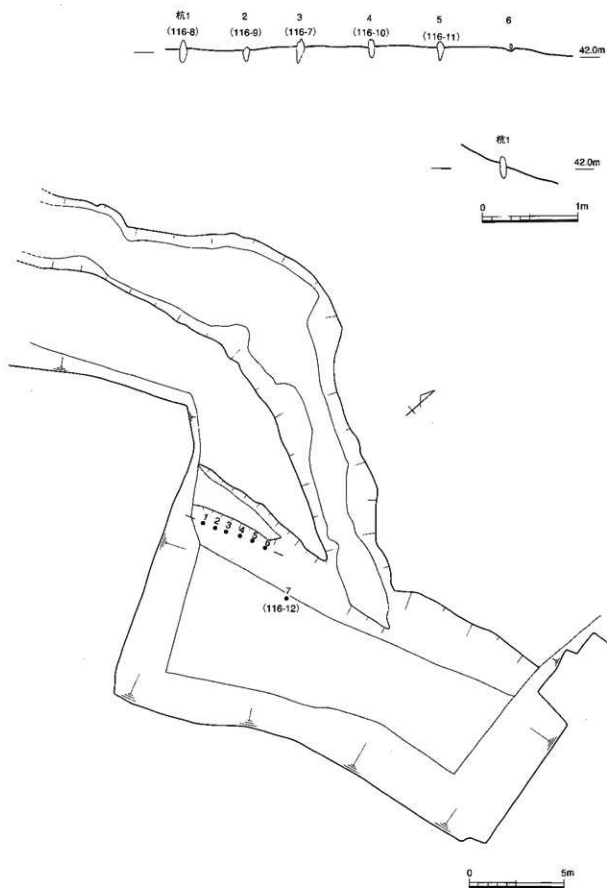
第60図 平安時代末の溝(5) (S=1/40)



第61図 土坑9~13、22、32~34 (S=1/40)

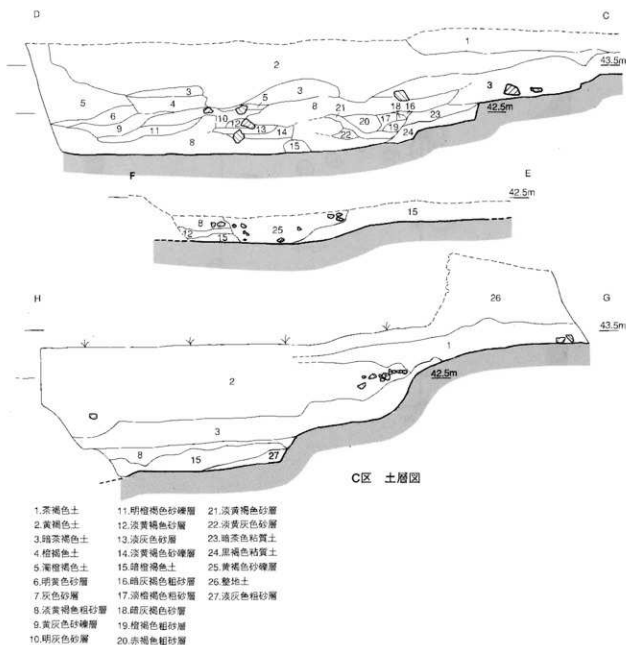
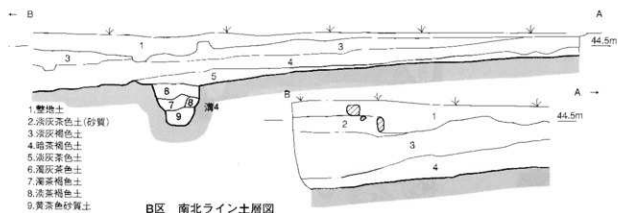


第62図 河道2・3 (S=1/200)

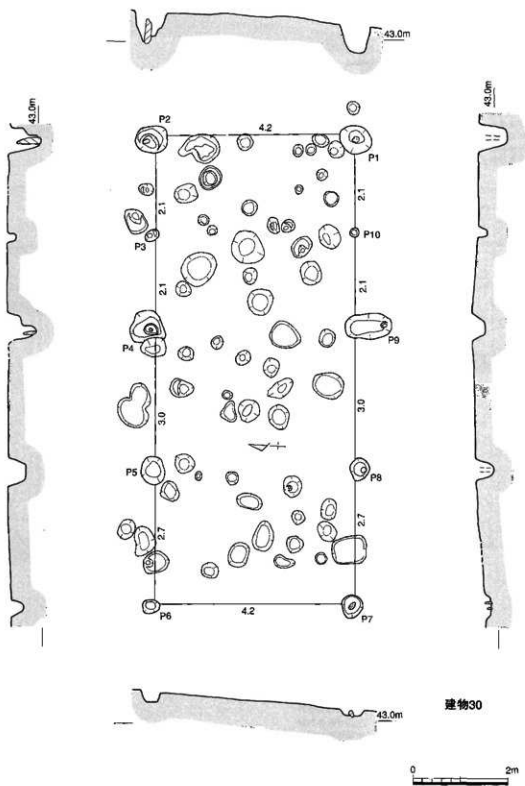


※()は実測図に一致

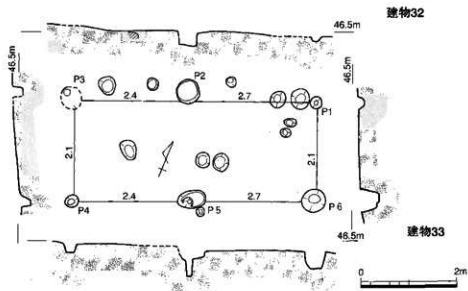
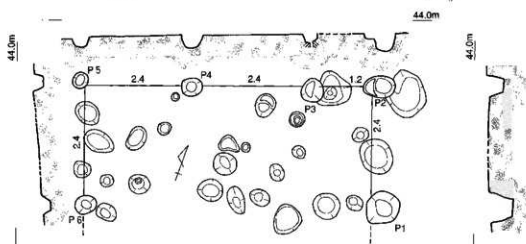
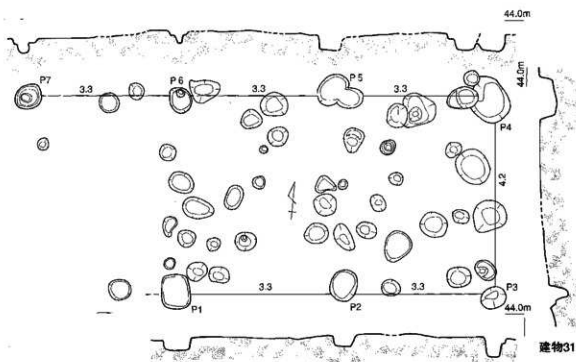
第63図 C区南侧完掘 (S=1/200)・杭列 (S=1/40)



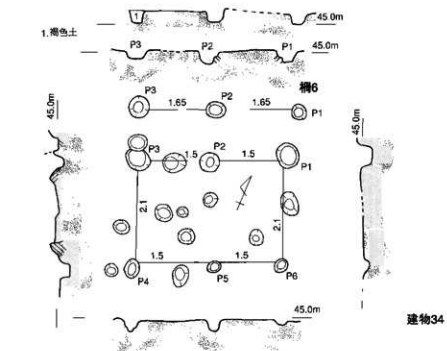
第64図 B区・C区 土層図 (S=1/80)



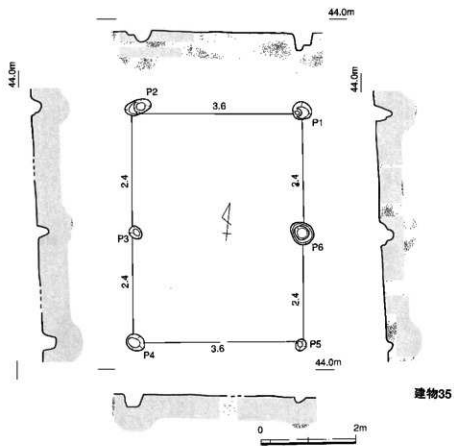
第65図 鎌倉時代の建物(1) (S=1/80)



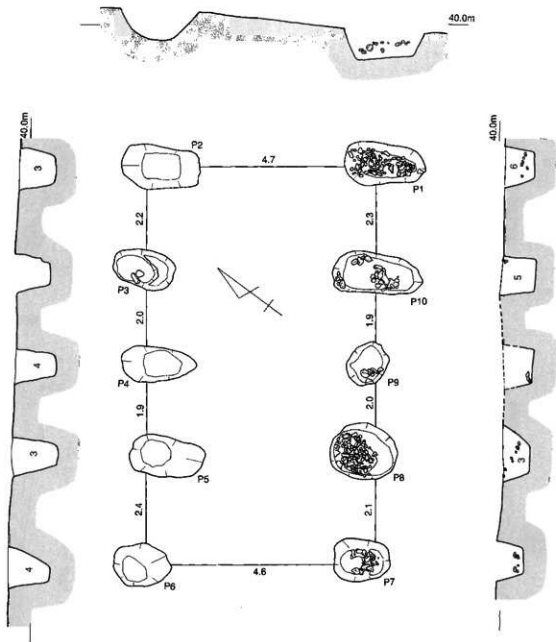
第66図 鎌倉・室町時代の建物(1) (S=1/80)



建物34



建物35



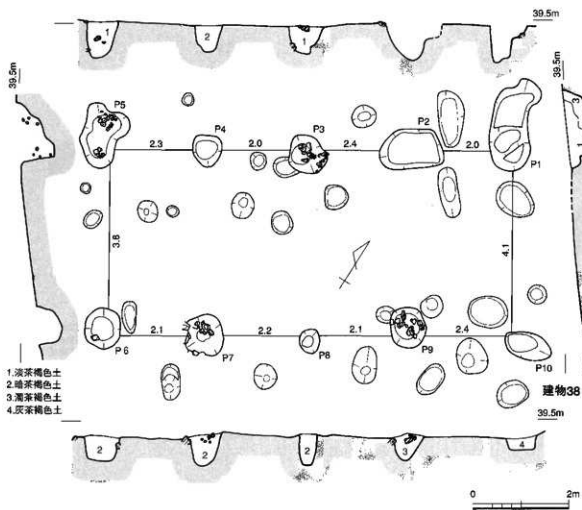
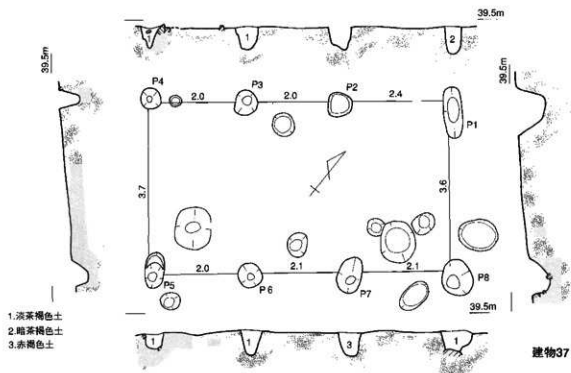
建物36

- 1.暗灰褐色土
- 2.涼茶褐色土
- 3.暗茶褐色土
- 4.海赤褐色土
- 5.赤褐色土
- 6.潮灰褐色土

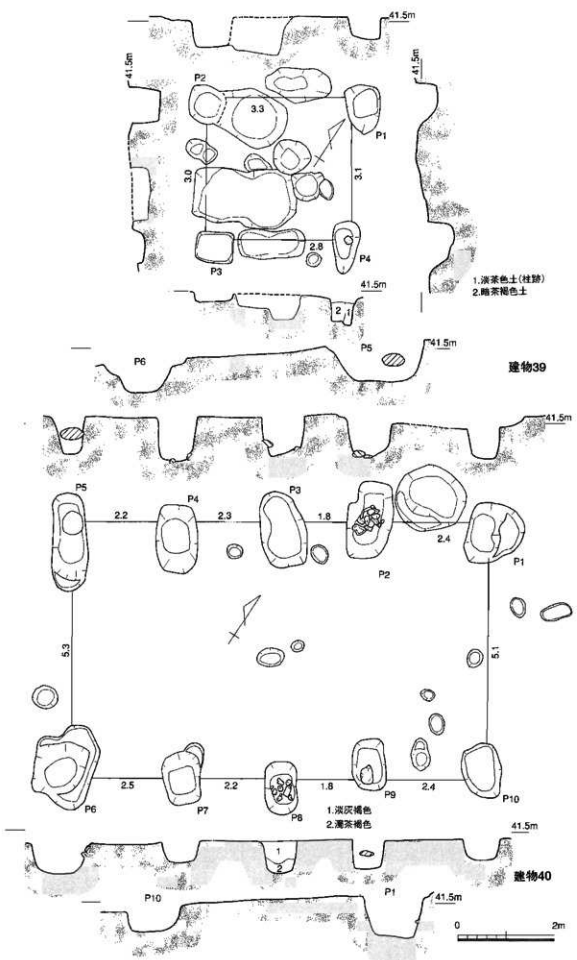
40.0m

0 2m

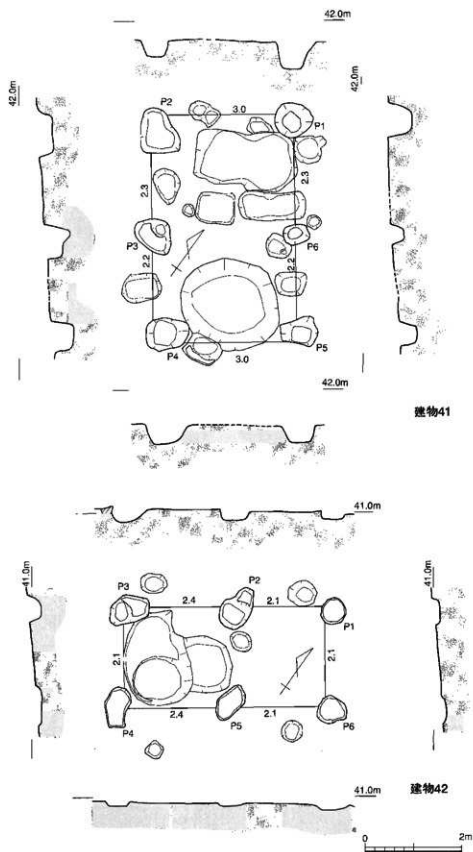
第68図 江戸時代の建物(1) (S=1/80)



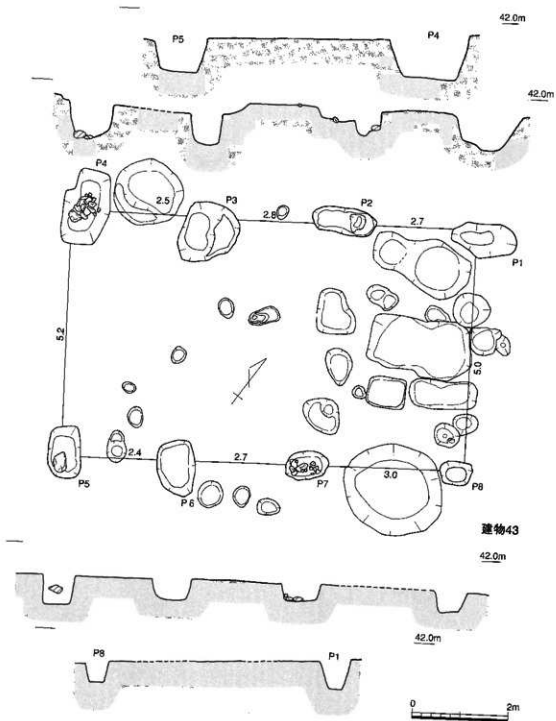
第69図 江戸時代の建物(2) (S=1/80)



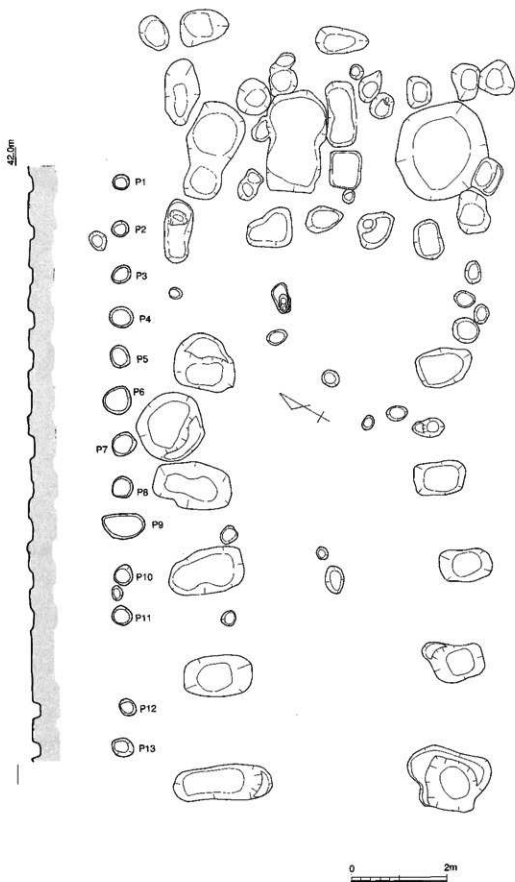
第70図 江戸時代の建物(3) (S=1/80)



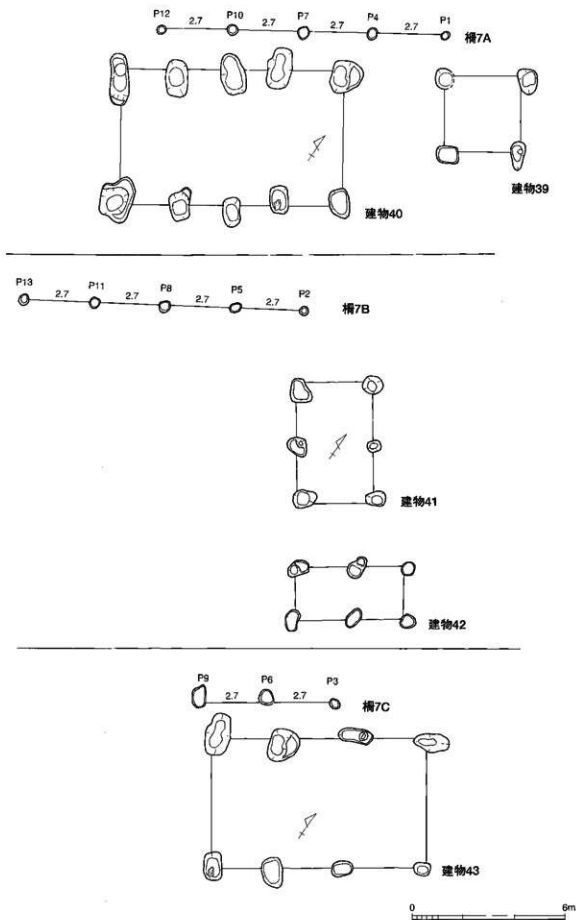
第71図 江戸時代の建物(4) (S=1/80)



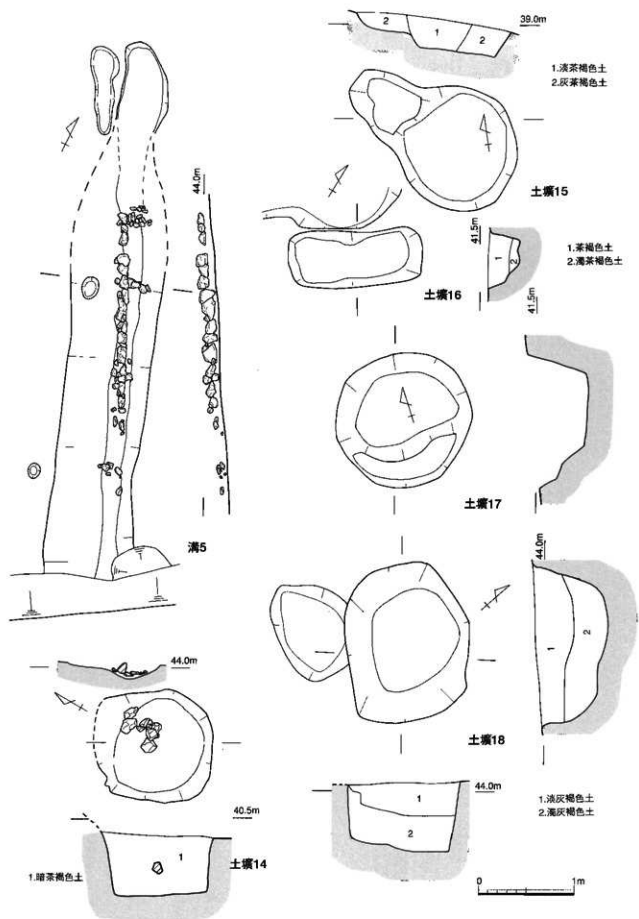
第72図 江戸時代の建物(5) (S=1/80)



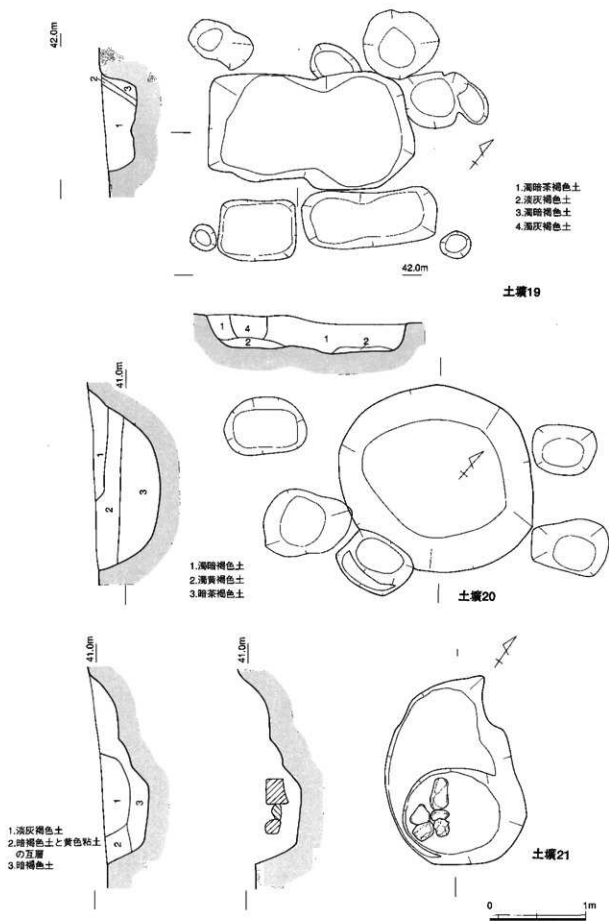
第73図 江戸時代の掘 (S=1/80)



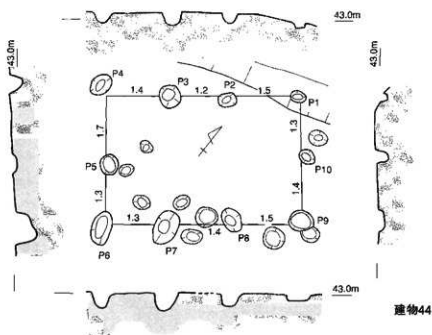
第74図 江戸時代の橋復元案 (S=1/150)



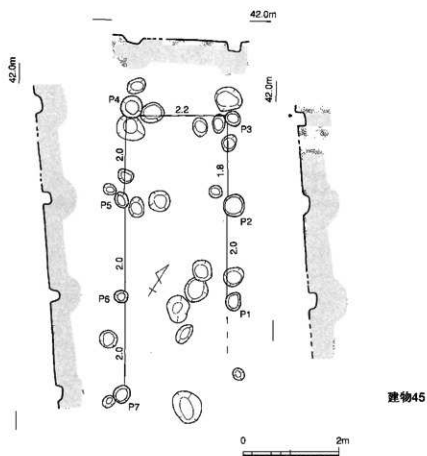
第75図 江戸時代の溝・土壌(1) (S=1/40)



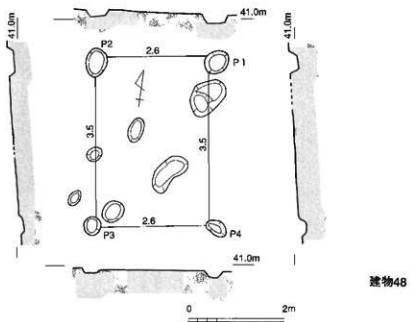
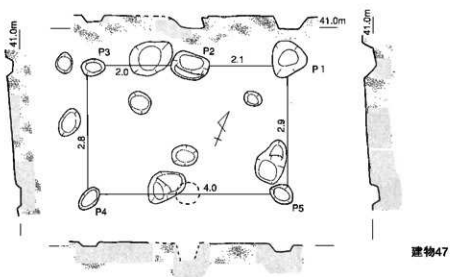
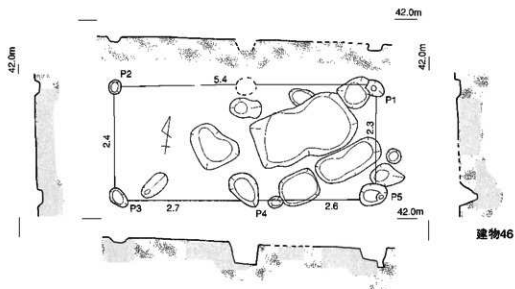
第76図 江戸時代の土壌(2) (S=1/40)



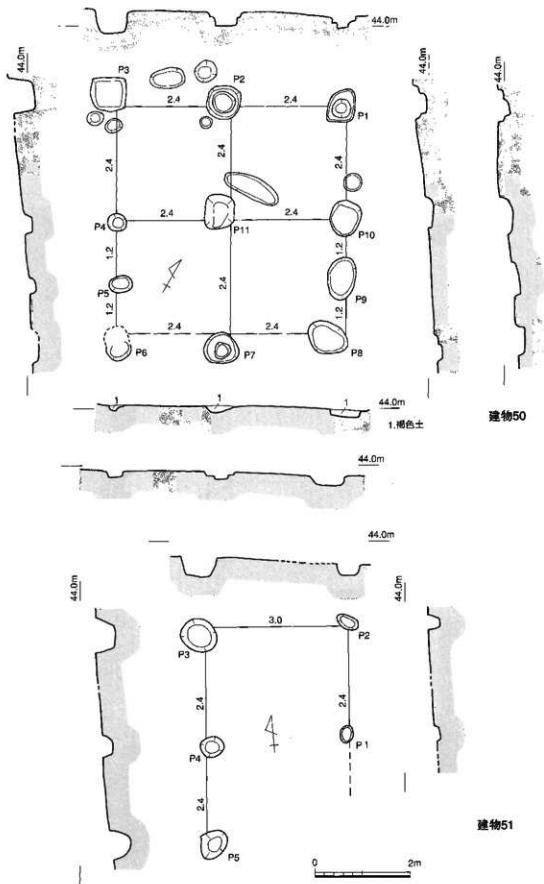
建物44



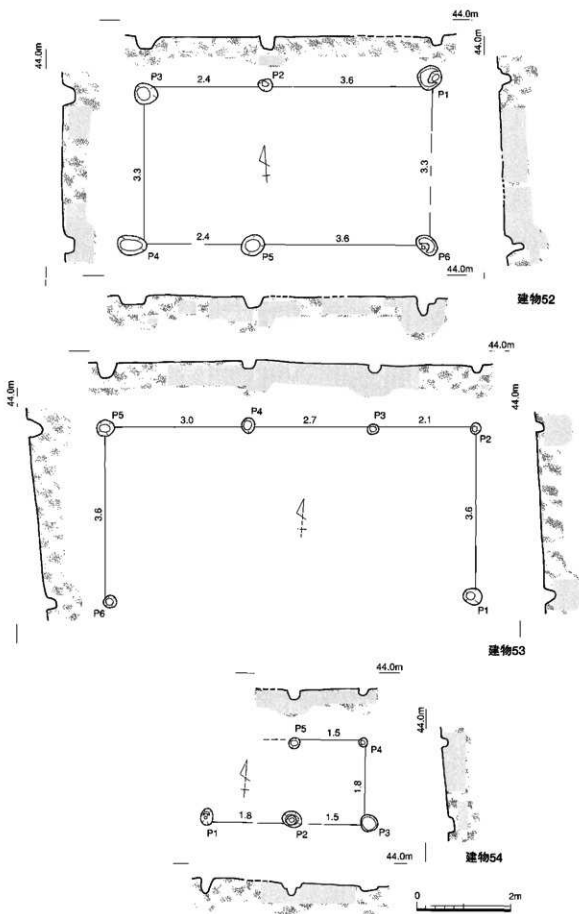
建物45



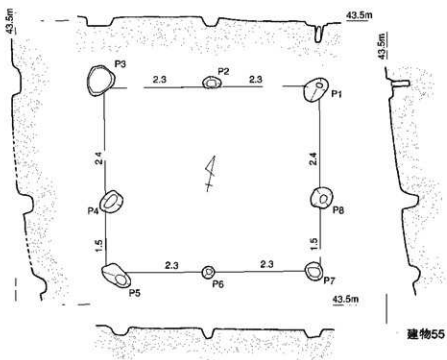
第78図 時期不明の建物(2) (S=1/80)



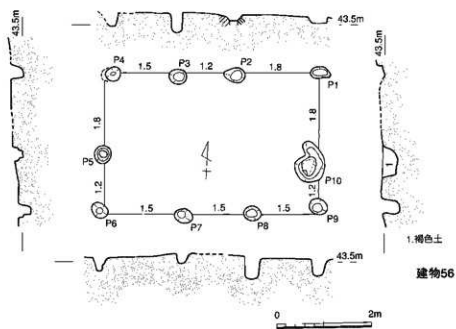
第79図 時期不明の建物(3) (S=1/80)



第80図 時期不明の建物(4) (S=1/80)



建物55



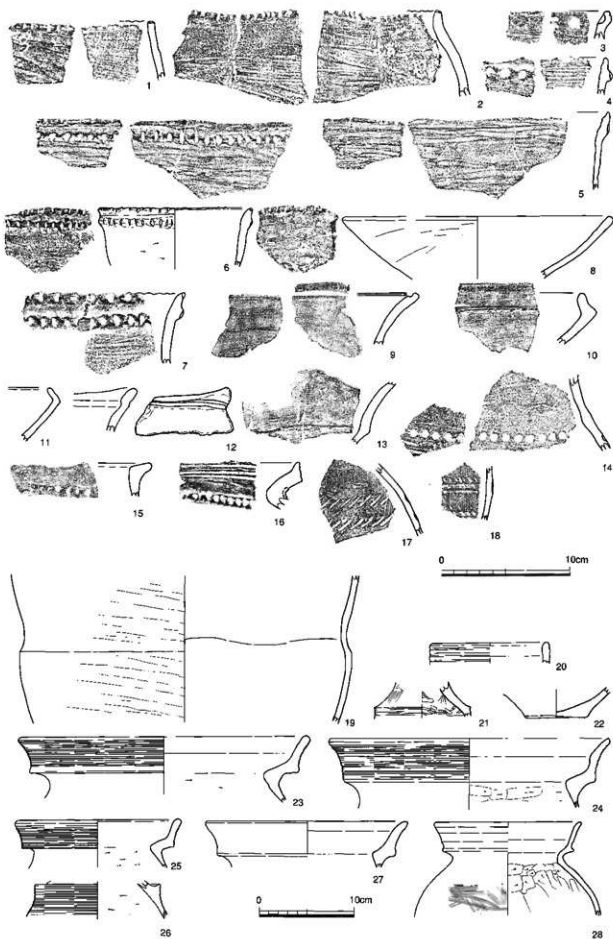
建物56



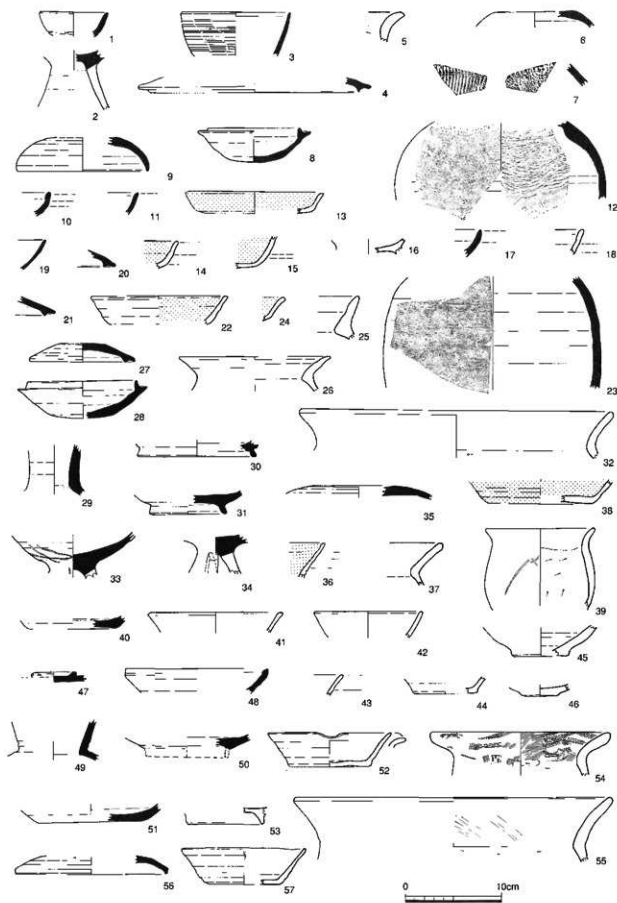
第82図 時期不明の棚・土壌 (S=1/40)



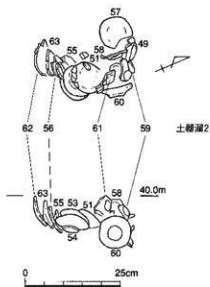
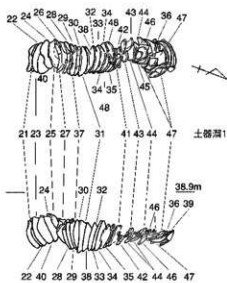
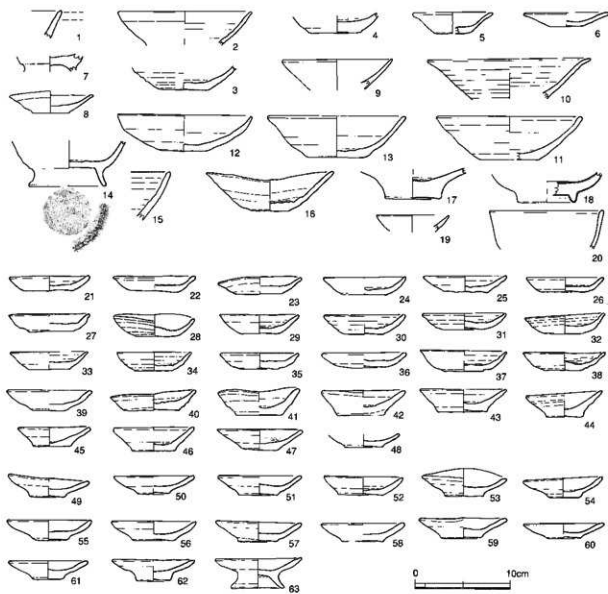
第83図 遺構に伴わない遺物 縄紋土器(1) (S=1/3)



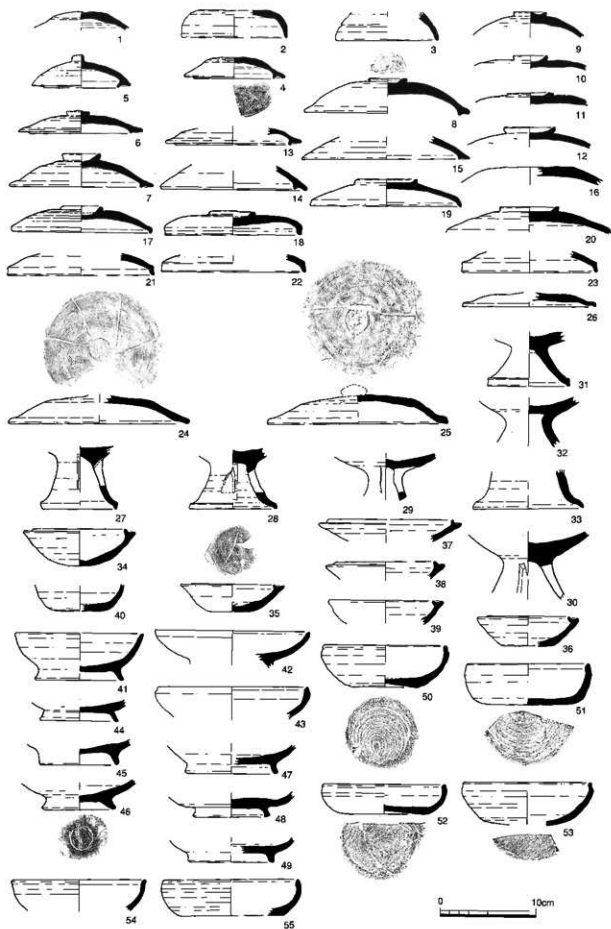
第64図 縄紋土器(2)・弥生土器・古墳時代の土師器 (1~18 : S=1/3, 19~26 : S=1/4)



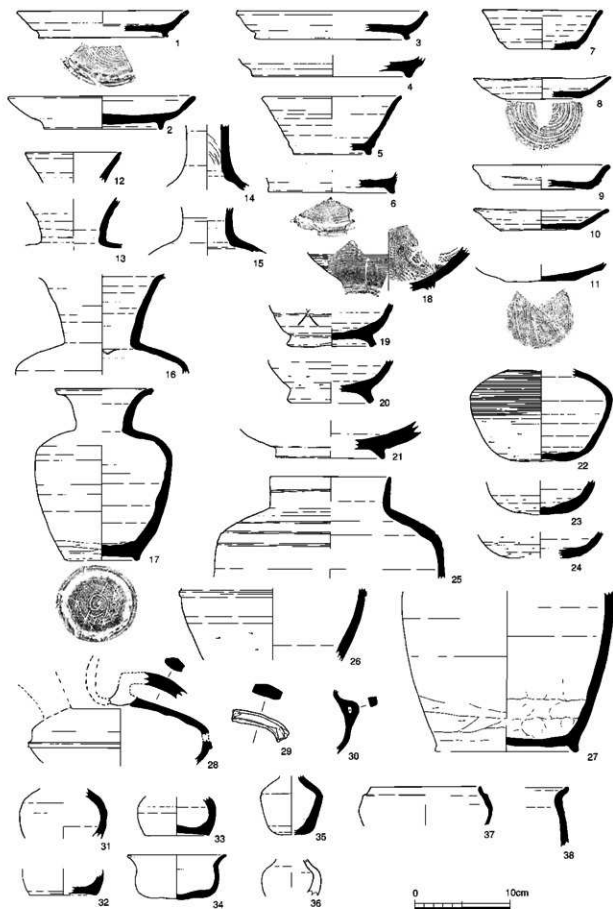
第85図 遺構出土土器(1) (S=1/4)



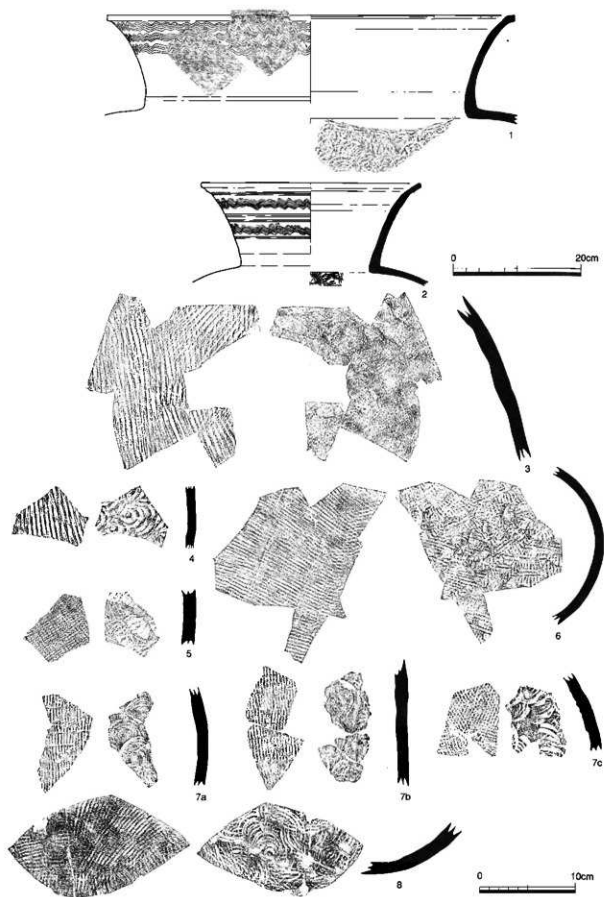
第86図 遺構出土土器(2) (S=1/4・1/10)



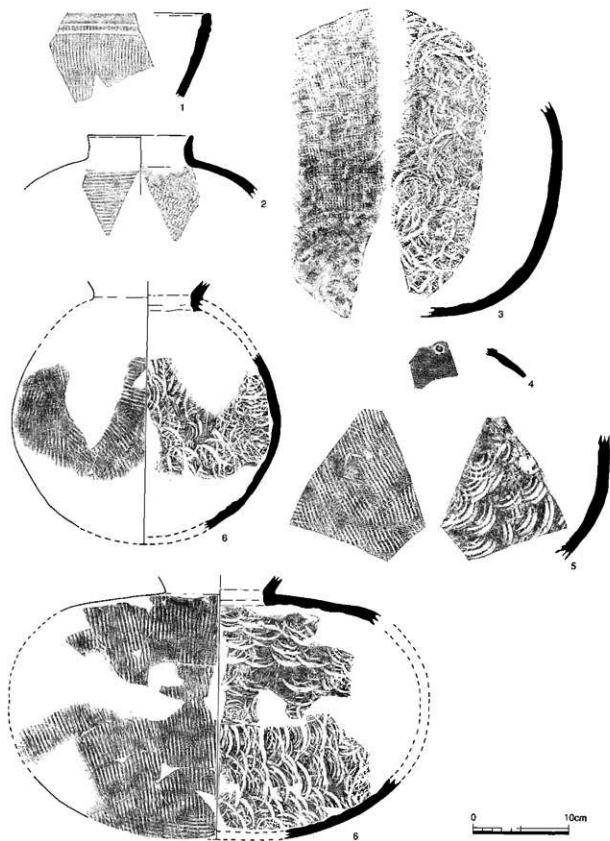
第87図 古墳時代末～平安時代の須恵器(1) (S=1/4)



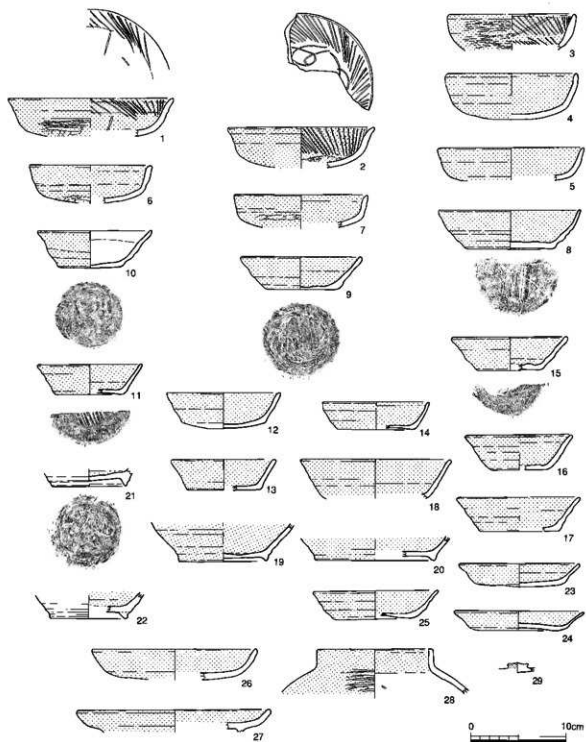
第88図 古墳時代末～平安時代の須恵器(2) (S=1/4)



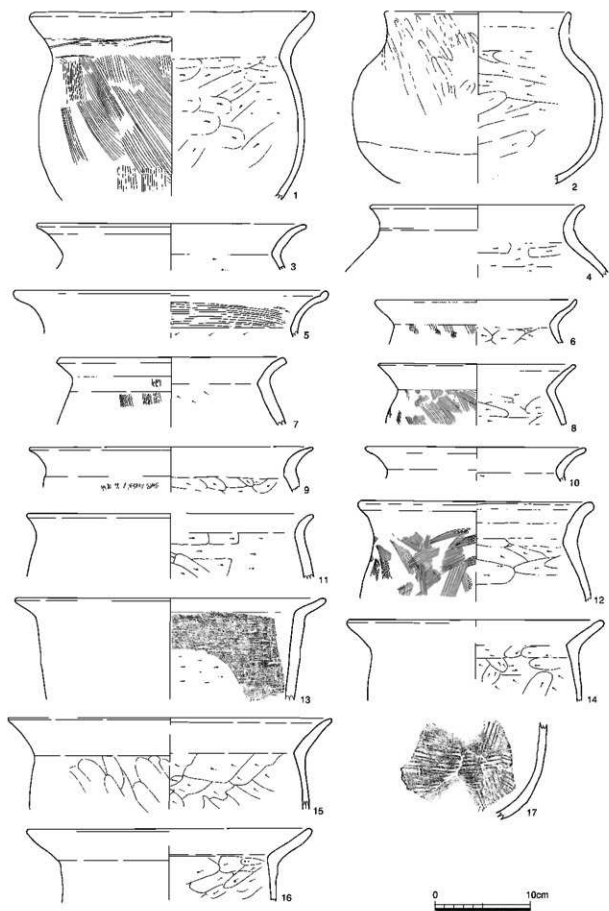
第89図 古墳時代末～平安時代の須恵器(3) (1・2はS=1/6、その他はS=1/4)



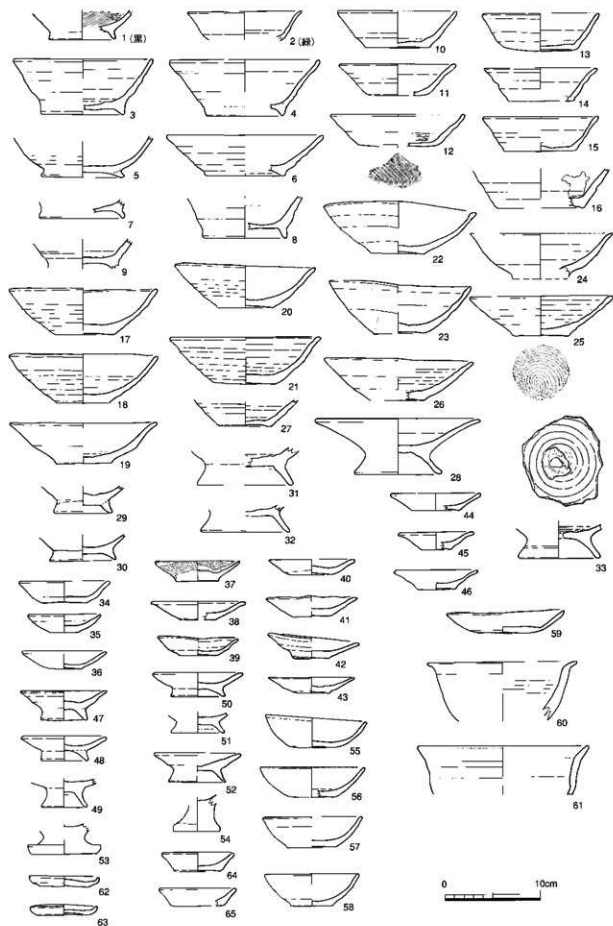
第90図 古墳時代末～平安時代の須恵器(4) (S=1/4)



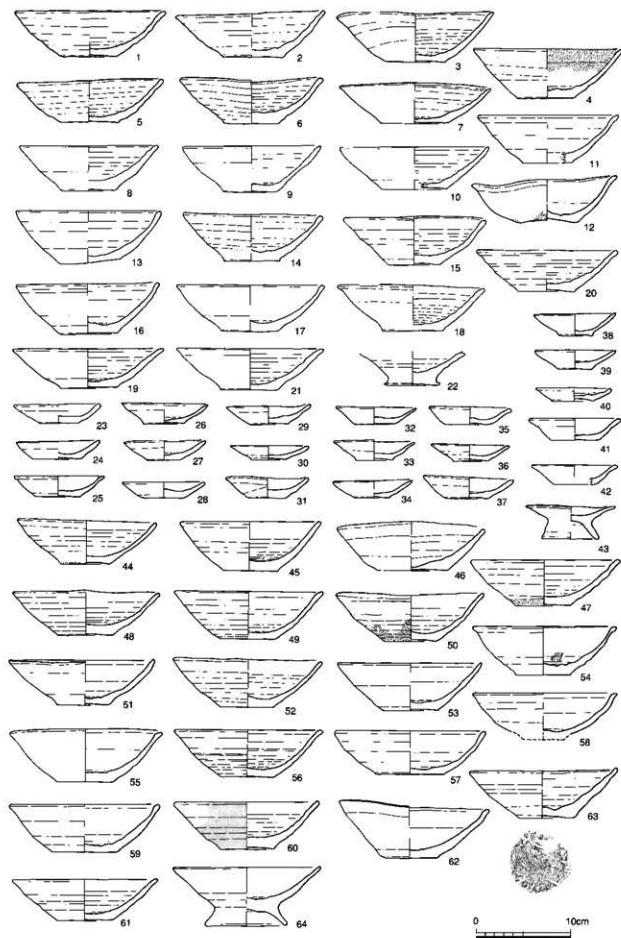
第91図 奈良～平安時代の土師器（赤彩土師器）（S=1/4）



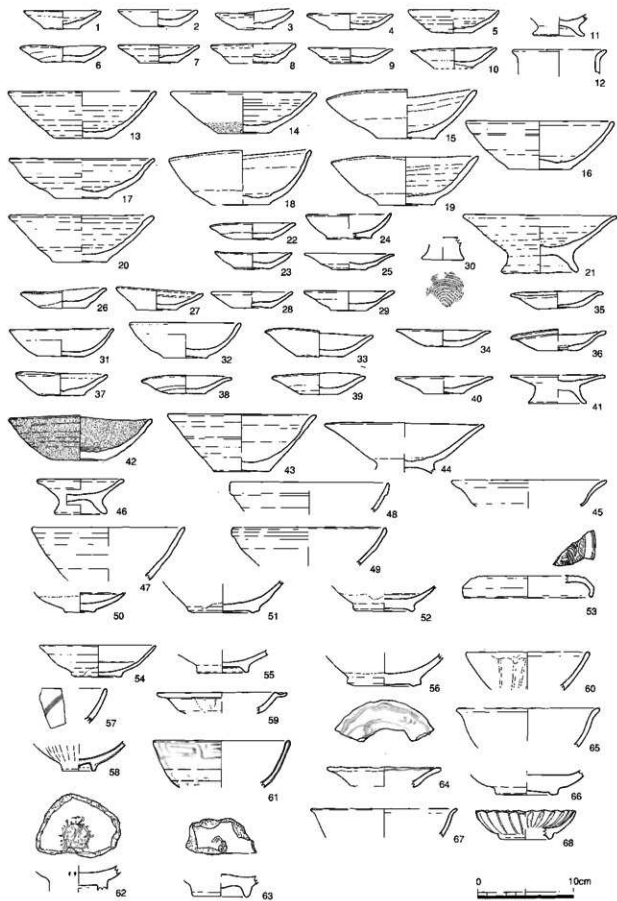
第92図 奈良～平安時代の土師器(甕) (S=1/4)



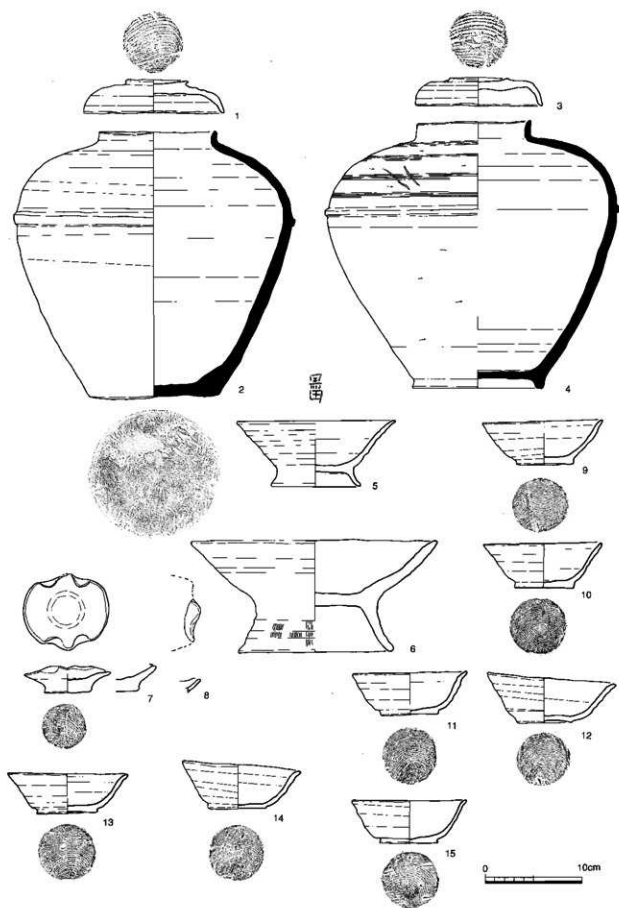
第93図 平安時代～平安時代末の黒色土器・緑釉陶器・中世土師器 (S=1/4)



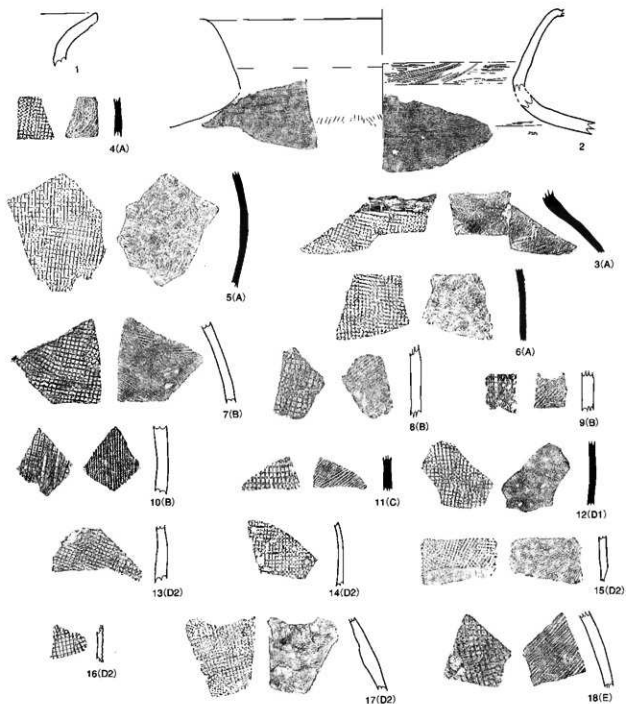
第94図 平安時代末の中世土師器 (溝2・溝3) (S=1/4)



第95図 平安時代末の中世土師器 (溝4、河道2・3) (S=1/4)
 中世の磁器 (白磁・青白磁・青磁)



第96図 平安時代の墓出土土器 (S=1/4)

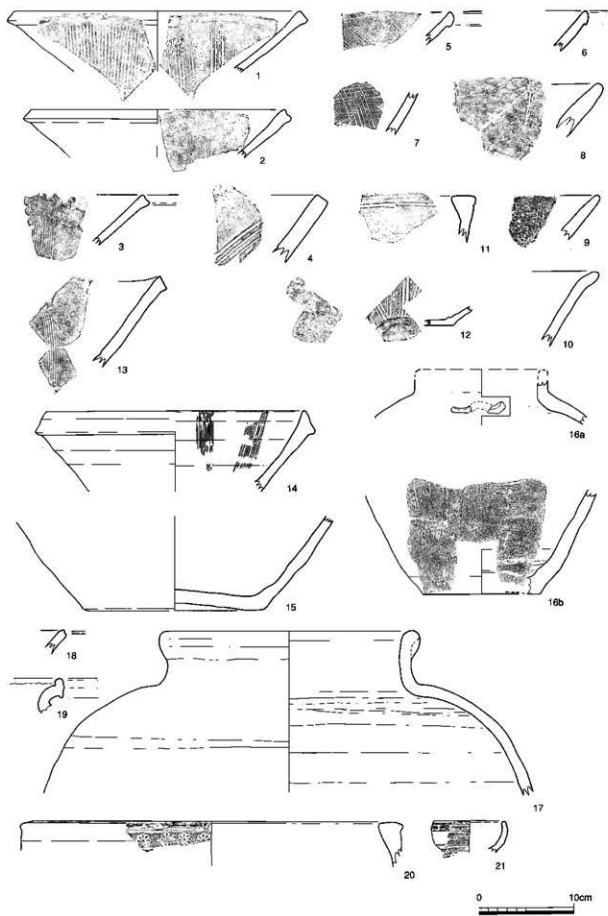


第97図 古代末～中世の須恵質の甕 (S=1/4)

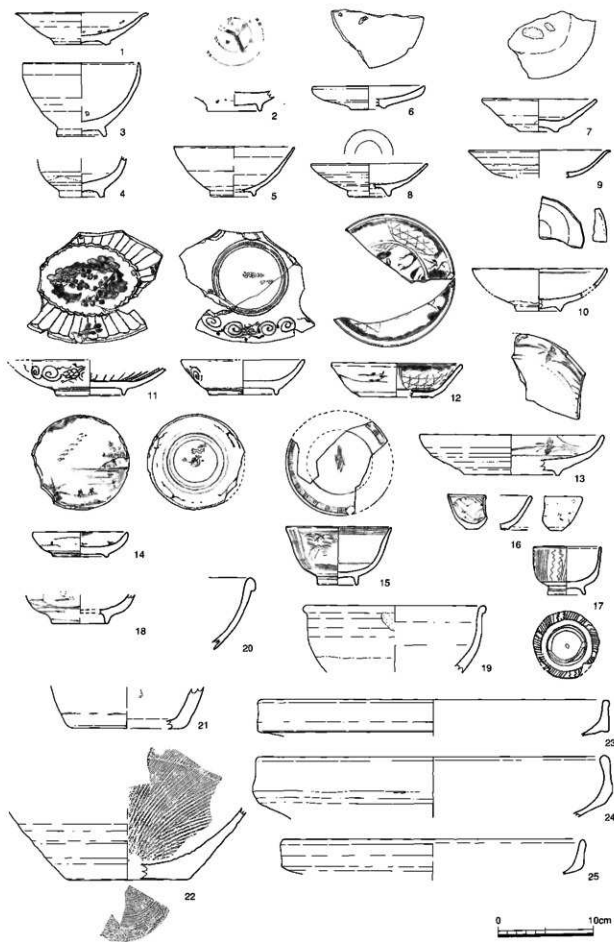
型	タタキ幅	タタキ深さ	内面	焼成	A99'	B区	河道2	C区NS	河道3	C区N	C区包	合計
A	大きい	やや浅い	当て具ナデ消し	良好			1	1	3	1		6
				軟質			1	1	1	1	1	4
B	大きい	やや浅い	細かいハケ	極めて軟質	1			11	4	7		23
C	細かい	やや深い	粗いハケ	良好						1	1	2
D1	細かく正方形	やや浅い	ナデ	良好	3		1	2		2	1	9
D2	細かく正方形	やや浅い	ナデ	軟質	1	2	1	5	3	2	9	23
E	不明瞭	ごく浅い	ハケ	軟質				3	1	3		7
F1	平行タタキ	深い	ナデ	良好	1		1				1	4
F2	平行タタキ	深い	当て具(ナデ消し)	軟質			1	3		1		5
					6	2	5	26	12	19	13	83

表29 須恵質の甕分類表

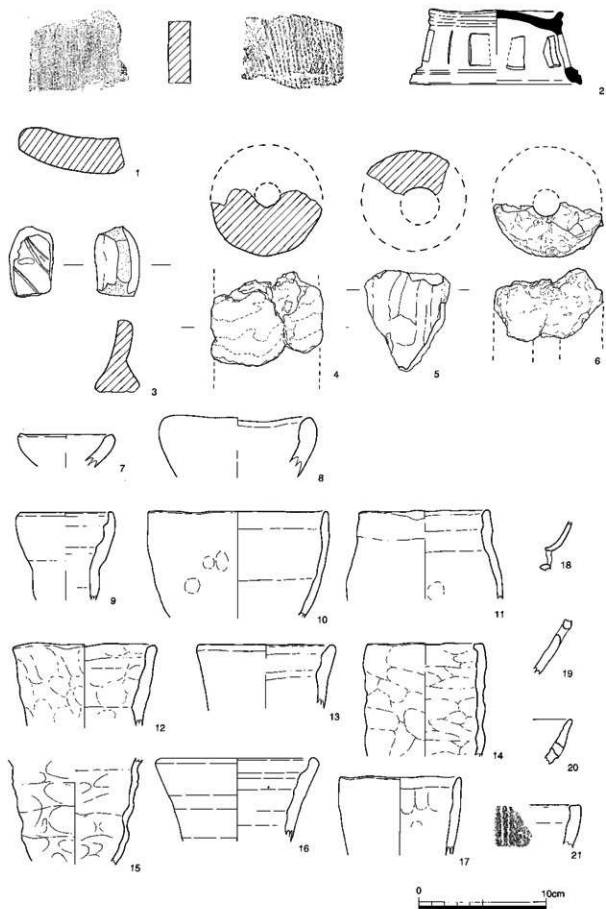
(破片点数)



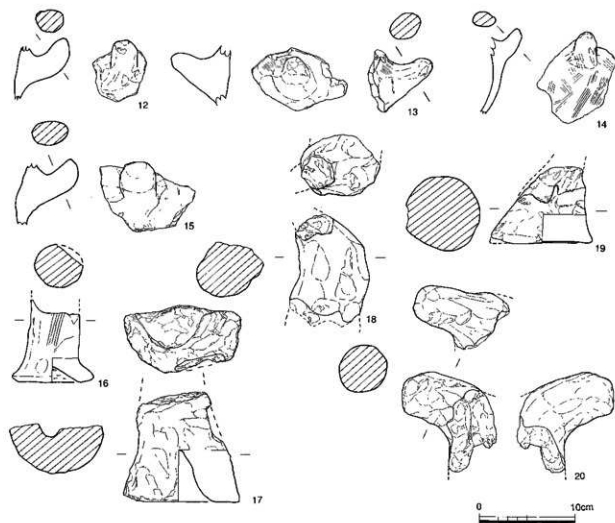
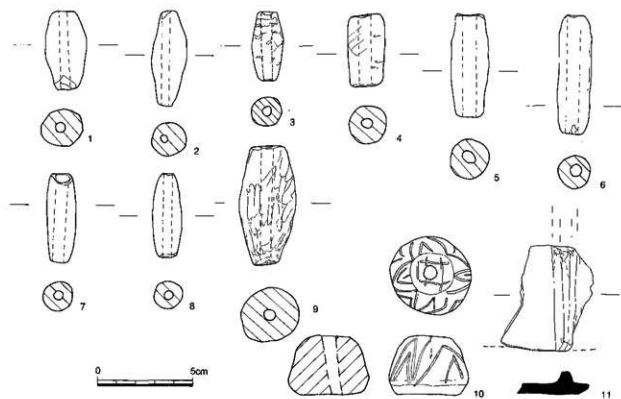
第98図 中世の陶器（撞鉢・こね鉢）（S=1/4）



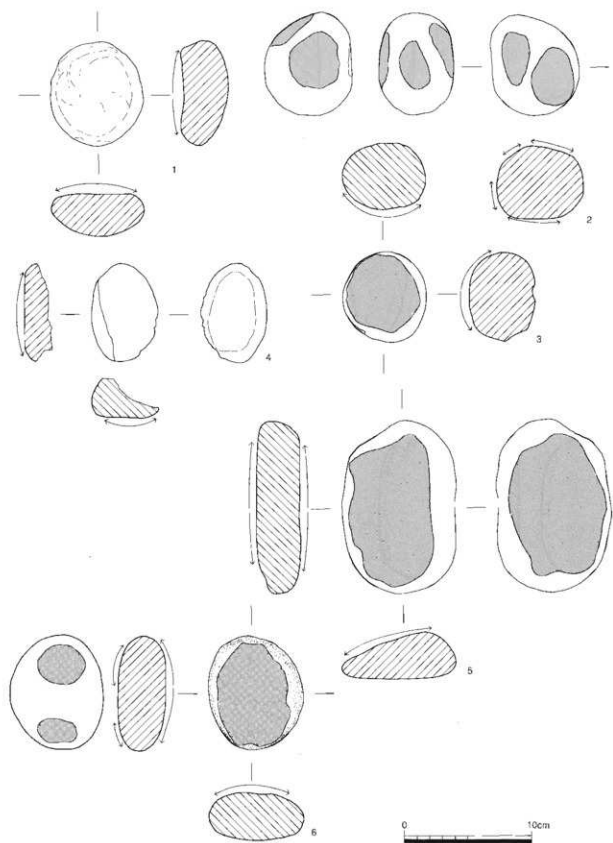
第99図 近世の陶磁器 (S=1/4)



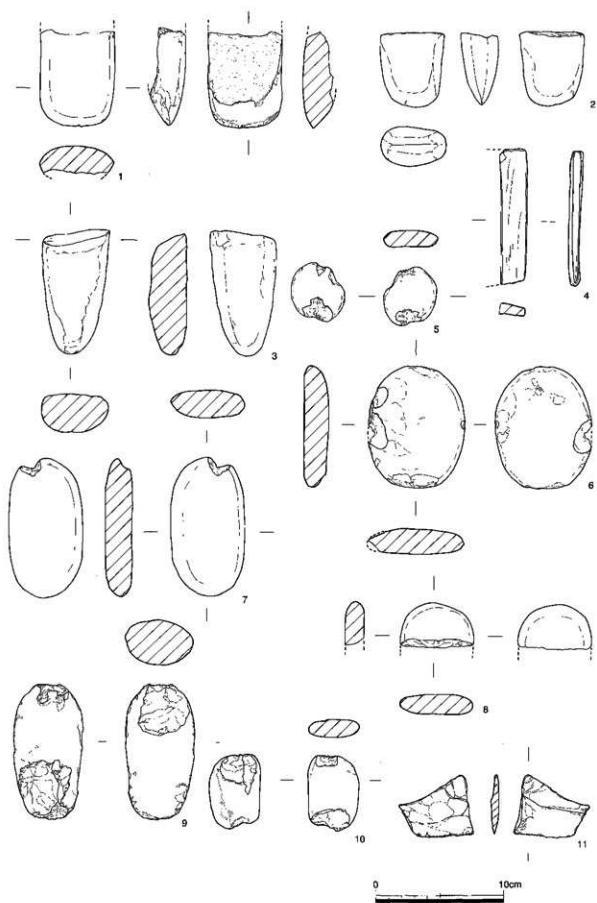
第100図 土製品・製塩土器 (S=1/3)



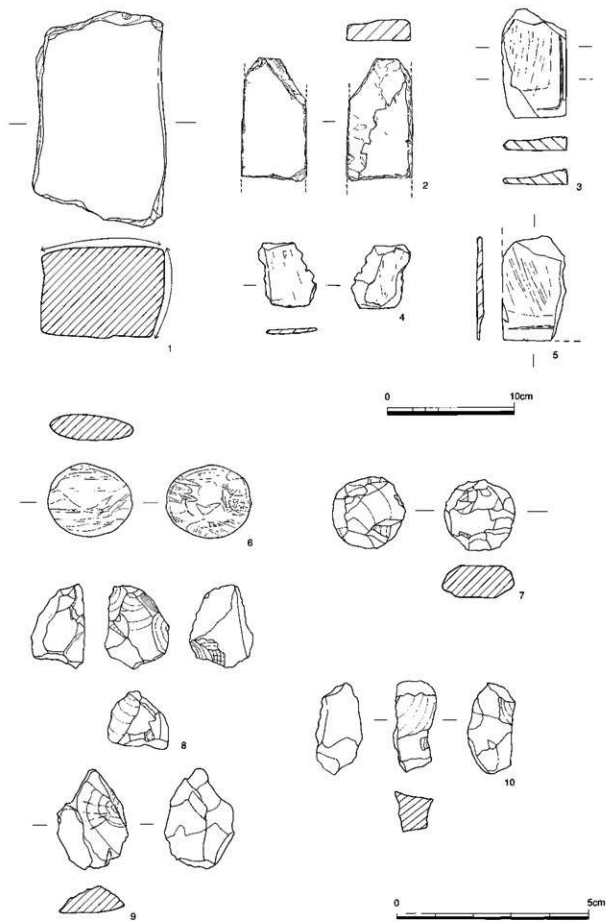
第101図 土製品 (S=1/2・1/4)



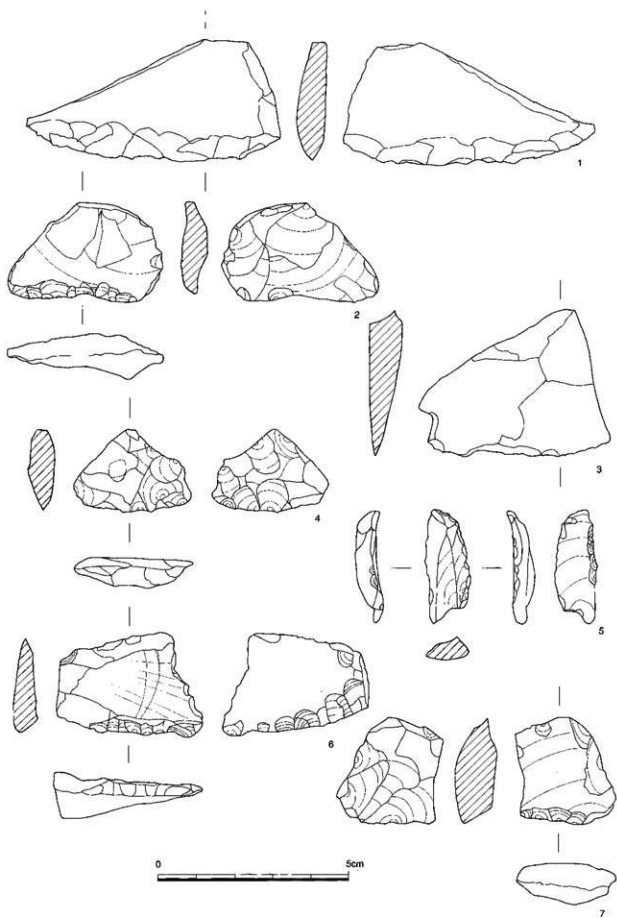
第102图 石器(1) (磨石) (S=1/3)



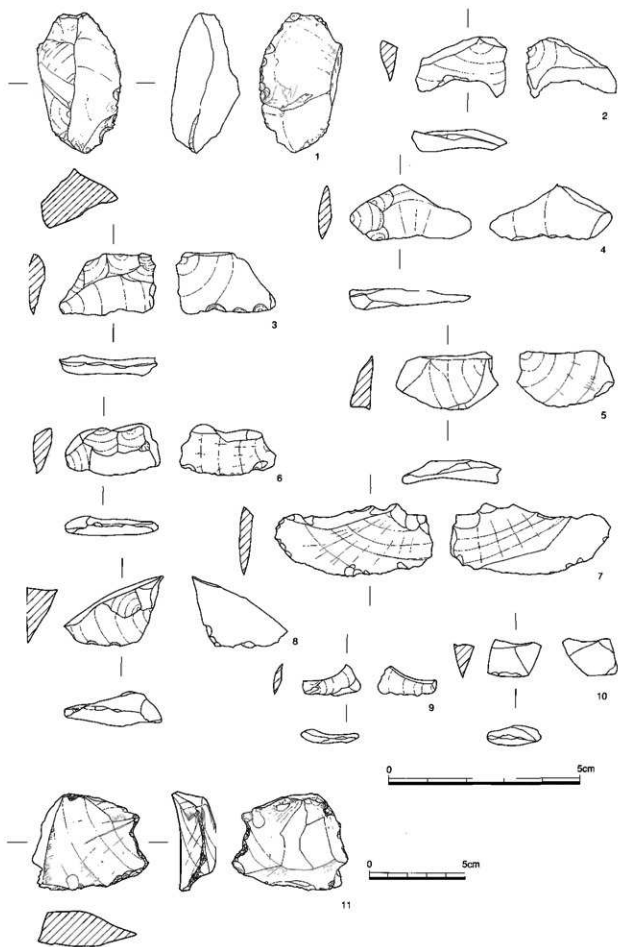
第103図 石器(2) (石斧・石鐮) (S=1/3)



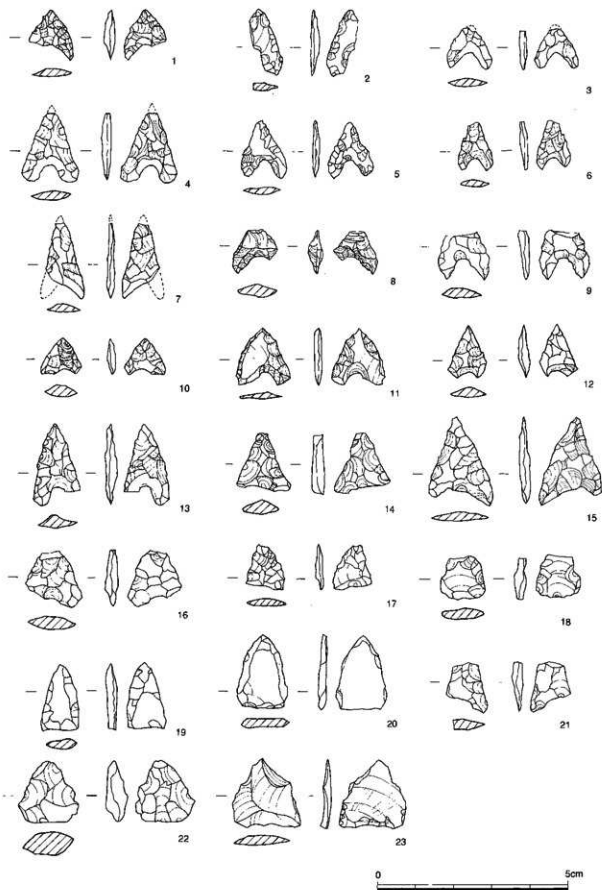
第104図 石器(3) (砥石・硯・玉未成品) (S=1/3・1/1)



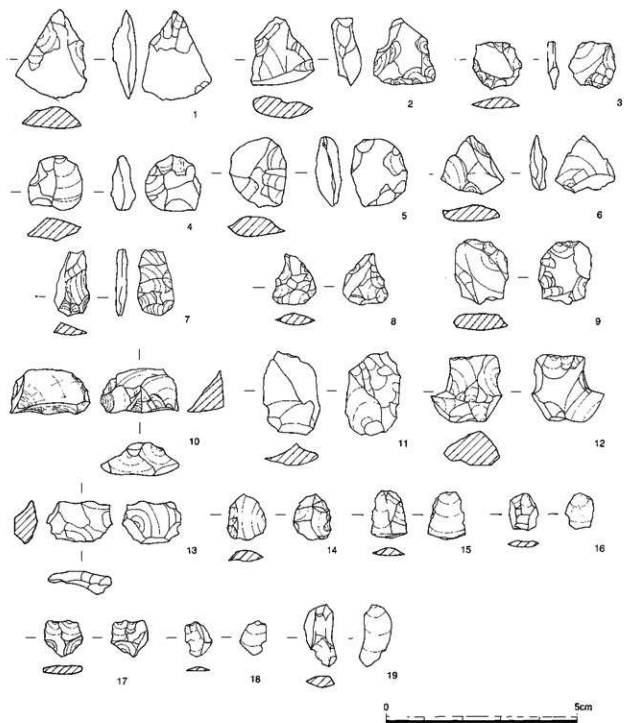
第105図 石器(4) (スクレーパー) (S=1/1)



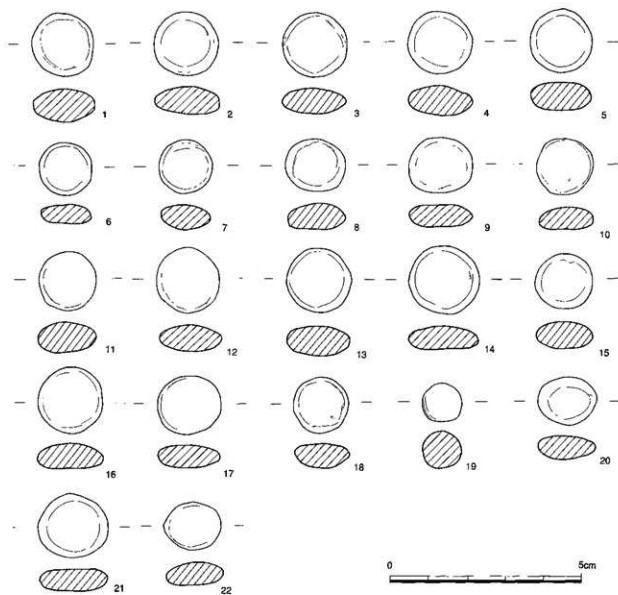
第106図 石器(5) (ユーズドフレーク) (S=1/1・11のみS=1/2)



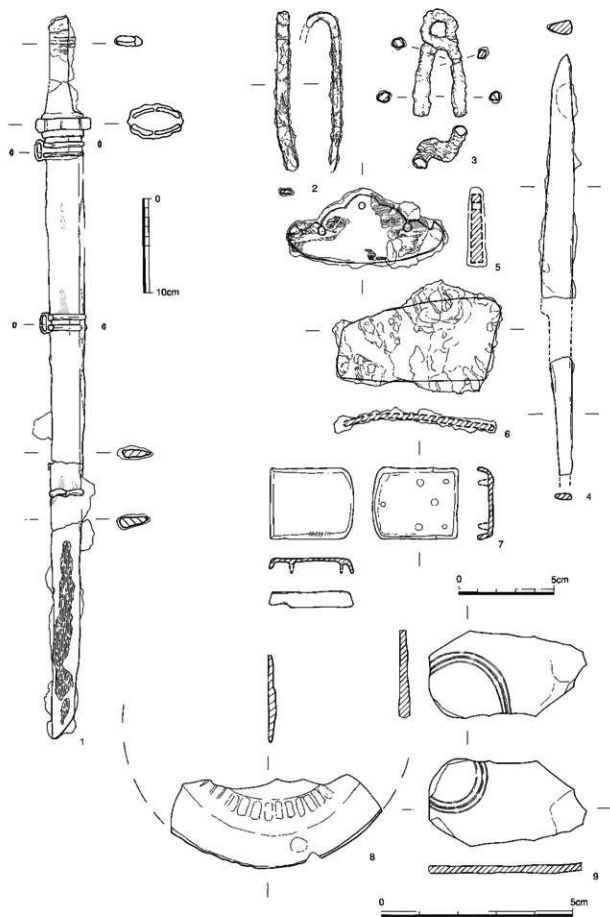
第107図 石器(6) (石鏃) (S=1/1)



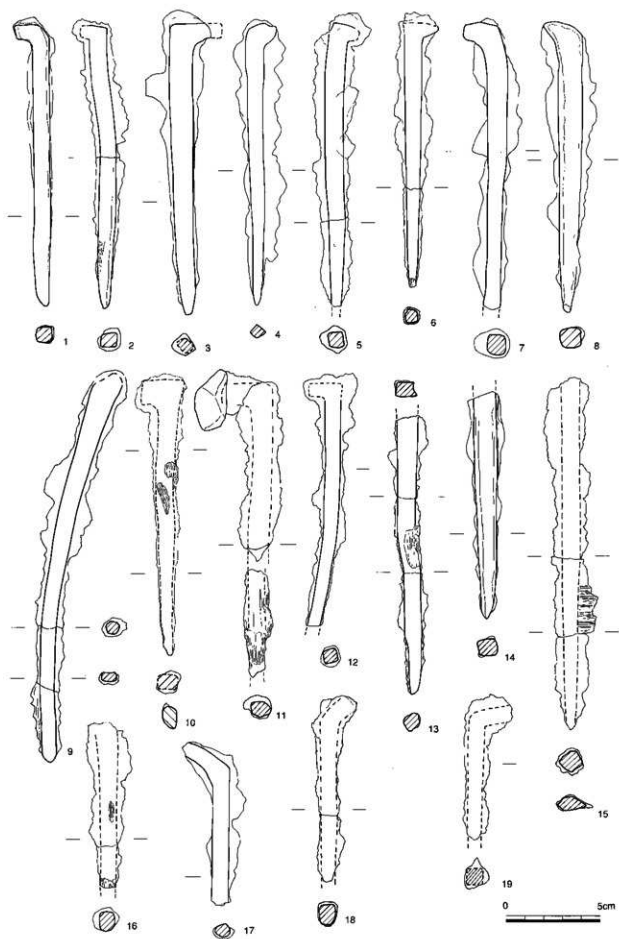
第108图 石器(7) (石铖未成品·楔形石器) (S=1/1)



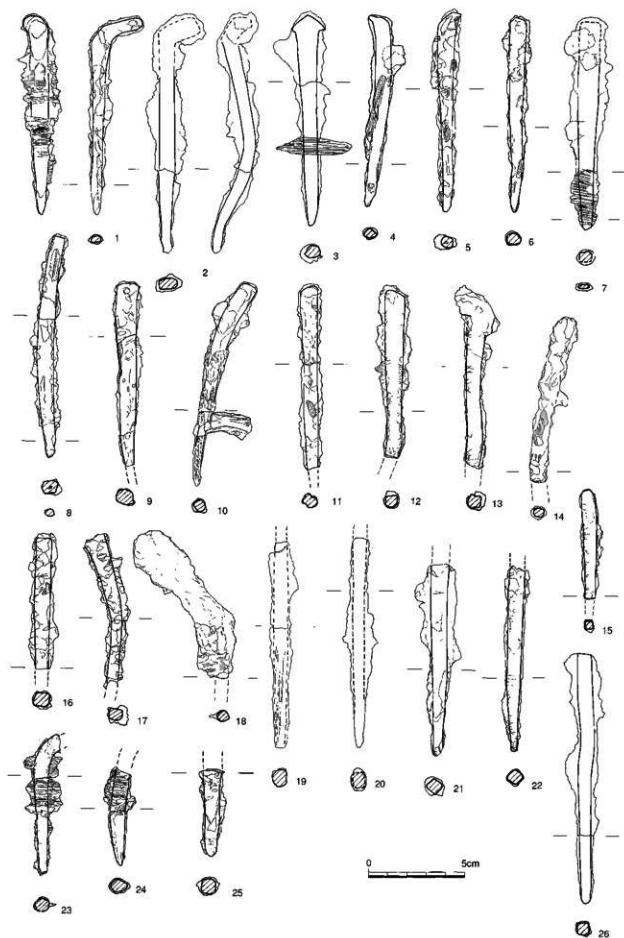
第109図 平安時代の墓出土玉類 (S=1/1)



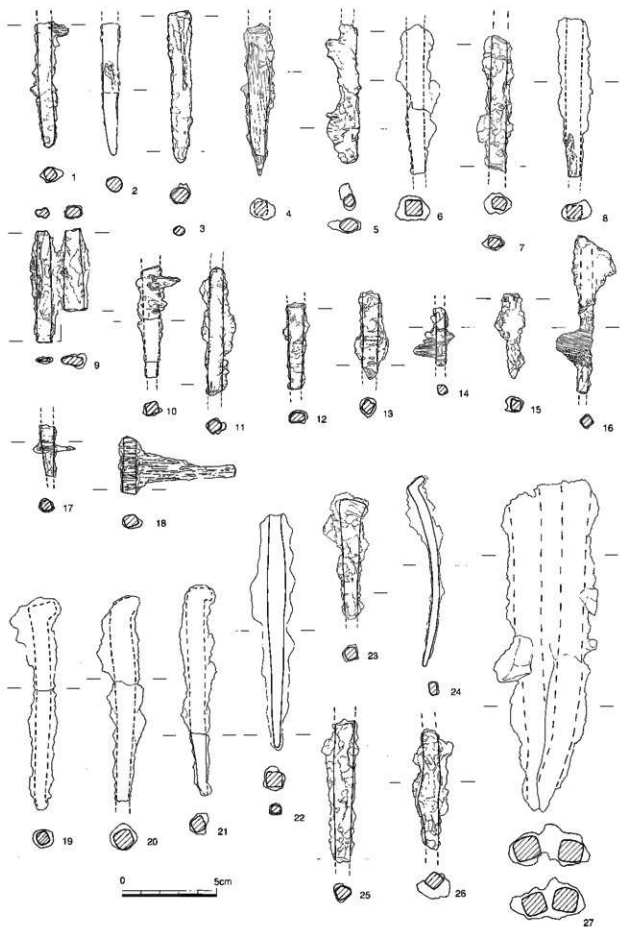
第110図 平安時代の墓出土鉄器・A区出土金属器（青銅製品・鉄器）
 (1: S=1/4, 2~7: S=1/2, 8・9: S=1/1)



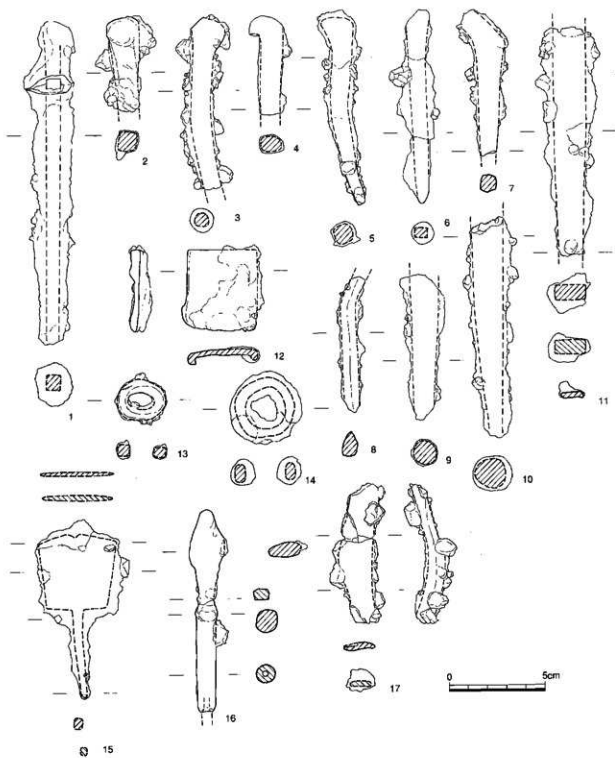
第111図 平安時代の墓出土釘(1) (S=1/2)



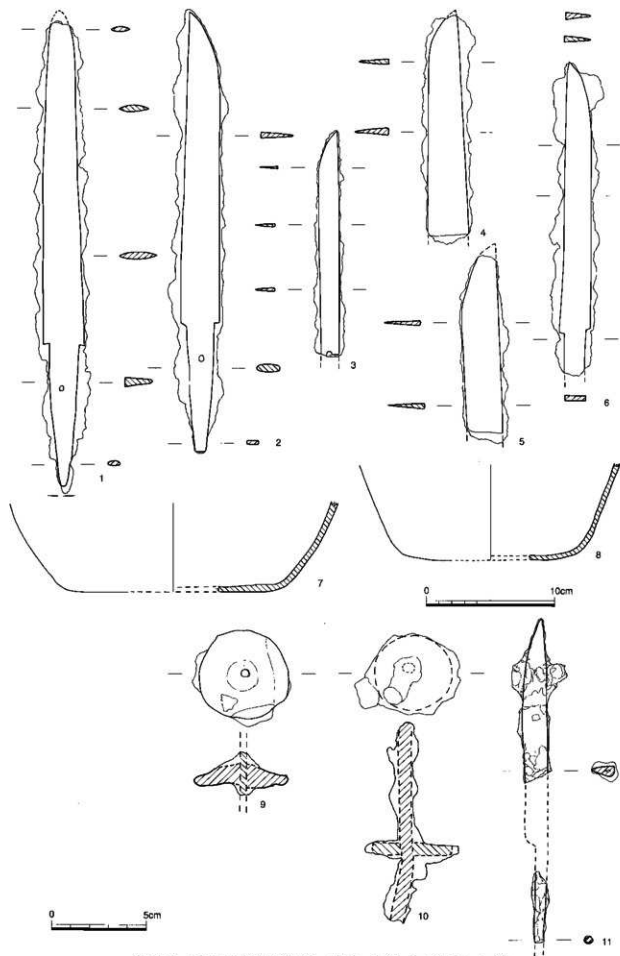
第112図 平安時代の基出土釘(2) (S=1/2)



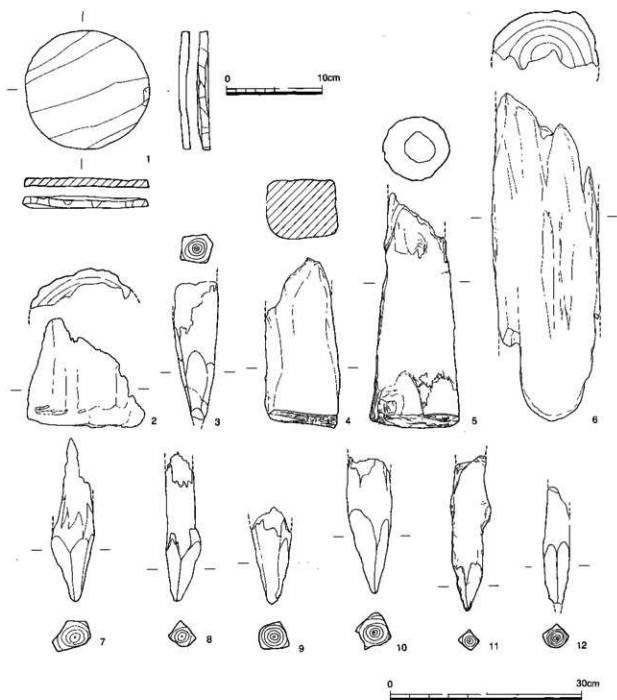
第113図 平安時代の墓出土釘(3) 及びA区出土鉄釘 (S=1/2)



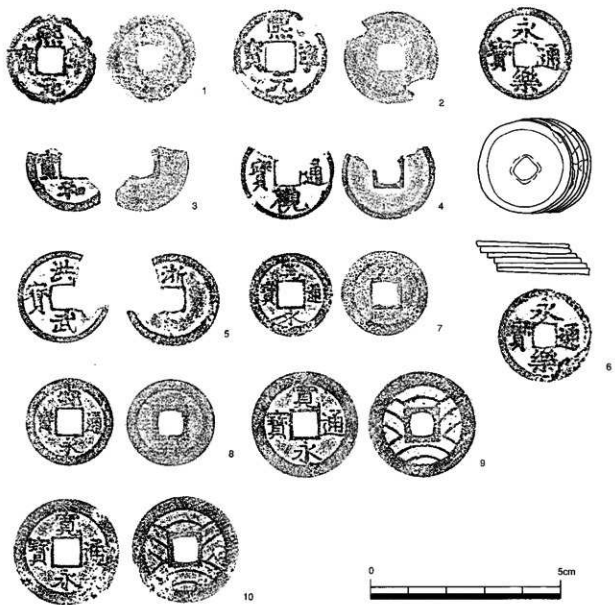
第114図 C区出土鉄製品(1) (S=1/2)



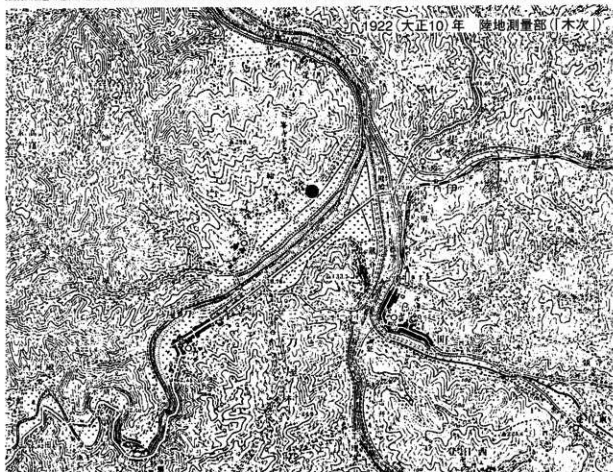
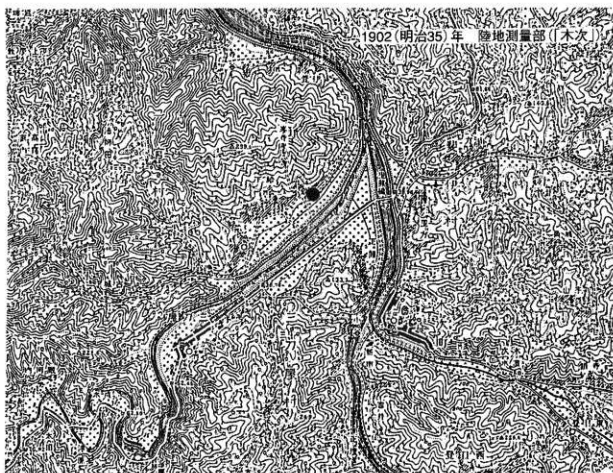
第115图 C区出土铁制品(2) (1~8:S=1/3、9~11:S=1/2)



第116図 木製品・柱根・杭 (S=1/6、1のみS=1/4)



第117圖 古銭 (S=1/1)



第118図 明治・大正時代の馬場遺跡 (S=1/50,000)



第119図 馬場遺跡遺構配置図 (S=1/1,500)

写 真 图 版



1. 馬場遺跡A区北側（南から）



2. 馬場遺跡遠景（西から）



1. A区北側空撮



2. C区北東側空撮



1. 調査前遠景（南から）（1999年4月14日）



2. 調査前近景（南から）（1999年4月30日）



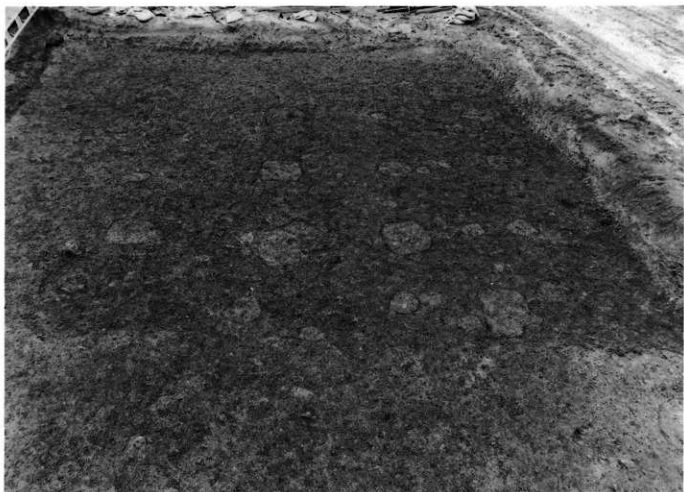
1. C区調査前（北から）（2000年4月5日）



2. 河道1（南から）



1. 建物1 (東から)



2. 建物2検出 (北から)



1. 建物2完掘（北から）



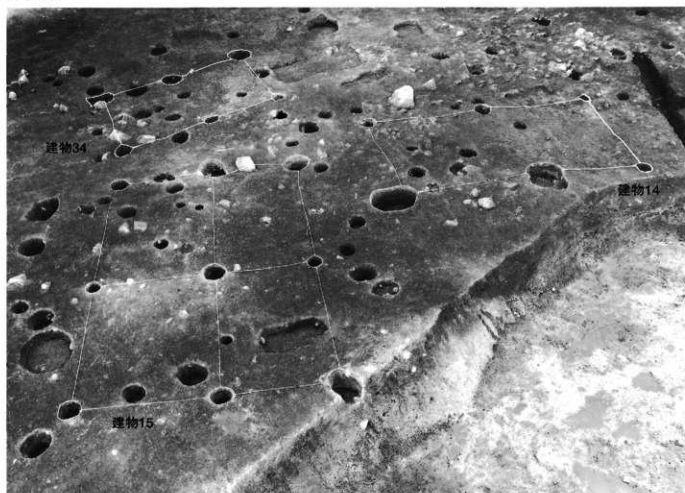
2. 建物5（南から）



1. 建物9 (東から)



2. 建物12 (北から)



1. 建物14. 15. 34 (南から)



2. 土坑2 (南東から)



1. 土塚3 (南から)



2. 土塚4検出 (西から)



3. 土塚8 (西から)



1. 溝1 (南から)



2. 溝1 (北から)



3. 溝1土層 (第58図QR)



4. 溝1土層 (第58図ST)



1. 平安時代の墓検出（西から）



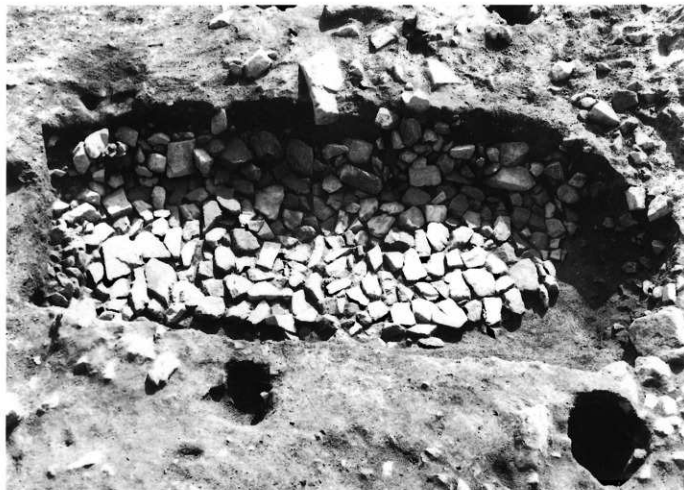
2. 遺物出土（西から）



1. 遺物出土（北西から）



2. 石敷（西から）



1. 平安時代の墓完掘



2. 斜面の石敷（北から）



1. 石敷（北西から）



2. 石敷（北東から）



1. 西端（東から）



2. 東端（西から）